宅八郎

イカす！おたく天国

宅八郎

イカす！おたく天国

げギョーザを作ろう
そしたら、そのギョ
味とかがウリで、シソ
。そんなギョーザ、食
べものに関しては、
考え方を通してほし
のないセロリなん

うよ。アタシは、
缶切りになりそうなアゴが好き！

コレ全部
かけるんです

まるでよっ

宅八郎!!

週刊実話

① おまえ一人つぶすのなんか簡単だ

「週刊プレイボーイ」編集者のスゴ

評論家を脅

「プレイボーイは日本最低の雑誌だ！」

1月23日放送の「EXテレビ」（日テレ）で、おたく評論家・宅八郎氏は「週刊プレイボーイ」（集英社）をやぶり捨てた。しかもこの番組での対談相手であった同誌編集

オタク族評論家・宅八郎氏（左）と週刊プレイボー

つろいてい
氏が『お前に話がある』と言
って入ってきた」（宅氏）
話とは宅氏が『週刊スパ！』
で連載している『イカす！
おたく天国』のなかで書いた、
月刊プレイボーイ誌に対する
「告発記事」のこと。宅氏の
話によれば、小峰氏は次のよ
うな「脅迫」をかけてきたと
いう。
「おまえ、何考えてんだよ。
あの記事は、最低の記事だな。
ほかにやることないのか？」
「（居合わせたスパの担当
集者に対して）チェック
よ。あんた何考えて編集
んだ。説明してみろよ」
「おまえ一人つぶすのなんか

（宅八郎／オタク評

DEFENDANT:

h
re
on
vol
a C
otak
tweel
to. A
Ameri
who c
pocket
vanished
ingly sma
Unfortun
about 9
Japanese p
some clarifi

ACHIRO

than Taku Hachiro, Japan's self-
otaku millions? Decidedly creepy-l
s a certified authority on video ga
all the other lonely hobbies Japa
surprising portion of which make
outgoing. Taku's weekly column e
, according to his editor, ''best lef
rose to fame on Jan. 23 of this y
py of *Shukan Playboy* on live TV,
st magazine in the whole world'' (bo
favorite cellophane-wrapped periodi
nd warped... and you'll love him! Co
y of a theater near you.

Hosei University, sociology.
e: Author of ''Ikasu! Otaku'' in *Spa!* magazine.
ny: Otaku.

宅八郎
イカす！ おたく天国

太田出版

CONTENTS

目次

目次

(旧) イカす

目次

DOCUMENT

OGUE

DIAL

COLUMN

宅八郎の「おたく」宣言!!!!!!!!!!

探査ミサイルおた天がゆく！

おたたたたたっっ！

今、まさに「おたく」の時代がやって来た!!

ついにこうして、「イカす！おたく天国」単行本が刊行されてしまったのである。

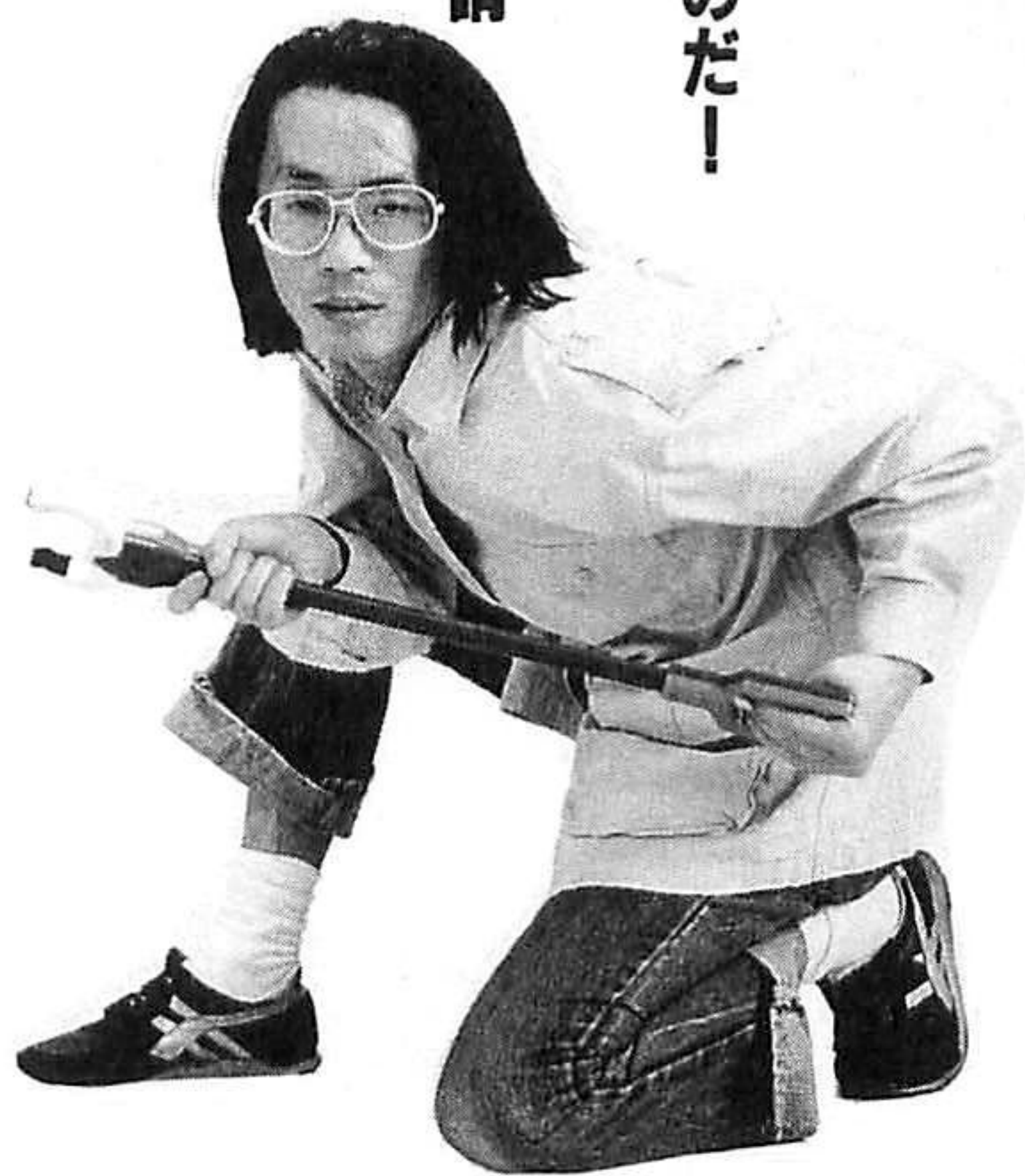
1989年後半、連続幼女殺人事件によって急浮上したマイナスのキーワード「おたく」。このコトバ

時代の

は、'90↓
変えた。
ール

年代に入ってから、その意味を
ハイパー情報を支え、コントロ
するエリートとして。
気がつくと「おたく」は時代そのものに
突き刺さっていたのだ。
その最もわかりやすい例は、湾岸戦争の分析
に大活躍した「軍事評論家」という名の「戦争おたく」
の登場である。
高度情報化社会の申し子「おたく」はあらゆる分野に増
殖していたのだ。
そして今や「おたく」が日本を動かす、世紀末をむかえた！
キューッ！9！急！究！仇！吸！灸！咎！
糾！柩！宮！救！Q！キュ――ッ!!
この不思議な時代はいわば〝ウルトラQ〟である。
ああ、世界が奇怪なアンバラン
ゾーンに落ちてゆく
見えないッ、聞こ
いッ、

ス・
ツー！
えな
語れないッ。もう'80年代のキーワ

ード「トレンド」や「ナウ」じゃ、時代は斬れない。
「おたく」というキーワードこそが時代を語れるのだ！
この異常事態、緊急事態に、こうして「何とか、おた天の単行本を出してくれッ」という時代の要請を受けたのである。
「Q」の時代。そしてウルトラQの回転する墨絵のタイトルバックから、真ッ赤な画面が割れるように飛び出し、ついに一冊の〝ウルトラマン〟がやって来た！
『ウルトラマン』の主題歌「パン、パパパ、パーン」にのって、この本が生まれてしまったのだ！
ポストナウのごきげんな世界、おたく天国。しかし「おた天」はたんに、おたくアイテムを紹介する本ではない。あらゆるものを、おたく的見地で斬っていく、おたく感性の書なのだ！
おたくのホームグラウンドとして楽しんでほしい。ちなみにホームは訳せば「宅」だ。
おたくフィルターを通して世界が見える。おたくの、おたくによる、時代の探査ミサイル。それが「おた天」なのである。
メディアの宅（核）兵器と呼んでくれッ！　最終兵器「おた天」

は時に、〈戦略宅〉も〈戦術宅〉も行使する。おた天は宅武装された
たパトリオット・ミサイルとして出撃刊行されたのだ。
フォースゲート・オープン、フォースゲート・オープン。今まさに、本書はおたく基地から発進する！　アムロ行きま〜す。
3、2、1、ゴゴゴゴオオォォォ――――！
おたく君、全員大集合！　バラ色の未来は、おたくのために！
おたく天国に未来をたくせ!!

おたく評論家

宅 八郎

ドカす！おたく天国

ハーイ、みなさん。ボク、宅八郎で〜す！いよいよ、おた天が始まるよ〜ん♡

コラムあり、対談あり、ケンカあり。何でもあり、の宅八郎ワールド。最後まで読んでね！

勝新する世界——盲目のマッサージ師・勝新太郎はメディアをマッサージしつづける!!

「ジャパニーズ、ベリィ、フェイマス、アクター……、シンタロウ・カツ、イズ——ザ・ト・ウ・イ・チッ!」

金髪の外人ニュースキャスターが早口でまくしたてる。そのバックには、映画『座頭市』の立ち廻(まわ)り場面がビデオ合成されていた!

ハワイから、衛星を通じて流れる、ゆらぎをはらんだ現地のニュース映像。この奇妙な感じはどうだろう?

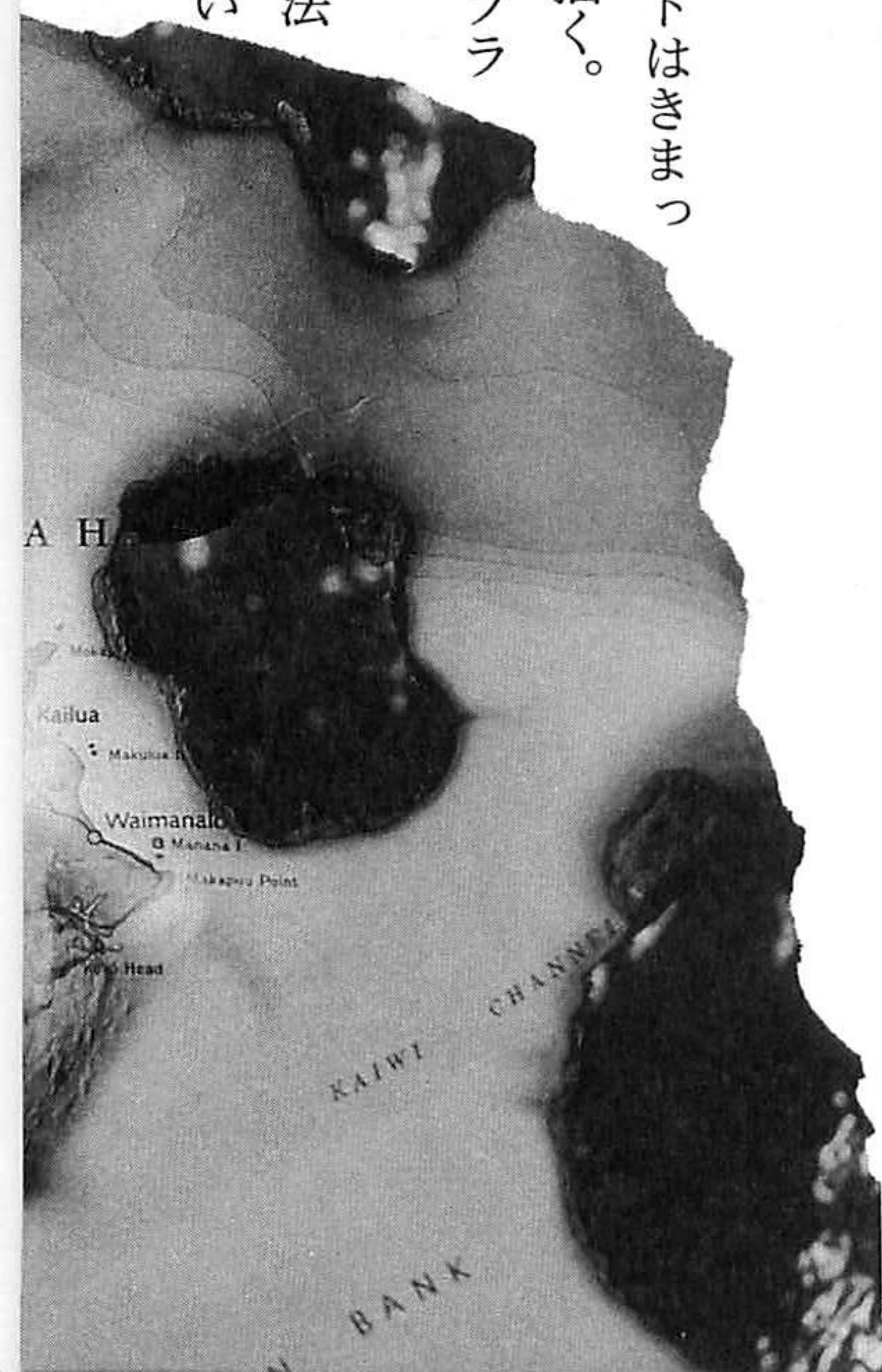
サムライでも、ニンジャでもない〝按摩(あんま)〟座頭市の姿は外人の眼にどう映ったのか。

「強力わかもと」としか言えないリアルがそこにあった。

勝新太郎は〝ブレードランナー〟である!!

『ブレードランナー』『エイリアン』の鬼才リドリー・スコットはきまって、われわれ人類=正常人をおびやかす、異生物=〈怪物〉を描く。

勝新は、エイリアンであり、レプリカントであり、そして『ブラック・レイン』に登場した故・松田優作なのだ。

その劇中で、義理と人情に生きる老ヤクザ・若山富三郎が無法者・松田優作に抱いた感情は、すなわち実弟・勝新に寄せる思い

に近いものではなかったか。
たった1人で5億円のCM(キリンビール・つかこうへい演出作)を壊滅させた男は、やはり怪物である。
『ブレードランナー』の原作者はフィリップ・K・ディックだ。レプリカント＝〝人間そっくり〟のニセモノ。ホンモノよりニセモノが生々しかったり、虚構と現実がいつの間にか入れ替わってしまったり。勝新はそんなディック世界の住人である。
ニセモノであるハズの演技上の刀が真剣になってしまったために、ニセの立ち廻りがホントに人を殺してしまった事件があった。虚構のリアリティを追求しているハズの映画で、勝新は現実と虚構を交錯させ、カタストロフを呼び込む。
そう、勝新はいつでも越境してしまう男だ。現実と虚構とかも、ホンモノとニセモノとかも、そしてドラッグさえも。しかも勝新の場合、越境の仕方さえ逆転するのだ。
日本へ麻薬を持ち込むなら、ありふれた事件である。彼は日本からハワイへドラッグを持ち込んだ。人の裏をかくような、あの逆転の仕方!

ハワイで記者会見する勝新。「パンツはもうはかないッ!」と、メディアをマッサージした

そして彼は〈向こう側〉に越境し、知らぬ間に奇妙な世界へ入り込んでいくのだ。

1979年。「黒澤さんも早く大人になってほしいなあ」そう言って勝新は『影武者』を降板した。〈影武者〉というもの自体がシミュラークルで、しかもレプリカントだ。ところが勝新の降板は奇妙な事態を引き起こした。代役になった仲代達矢は、影武者の役を演る者の、影武者になったワケだ。

しかしわれわれは、仲代の『影武者』を観るときにつねに、ありえなかった勝新の『影武者』を想起してしまう。「勝新だったらどうだったんだろう」と。現実の映画を見れば見るほど、この世に不在の映画が輝くのだ。

〝何かのニセモノの、さらにニセモノが、ニセモノを輝かせる〟という、ものすごく奇妙なシミュラークルの迷宮。勝新は、いつもいつも、そんな迷宮にとりつかれてしまう

ワーナー・ホーム・ビデオ提供

映画『ブレードランナー』から。レプリカント、それは「人間そっくり」の哀しい怪物だ！

勝新メディア・マッサージ（指圧）歴　一覧表

時期	事件	指圧の名言
'78. 5. 26	アヘン所持で書類送検	「芸能人は法なんか知らなくていい」「アヘンはイランの貴族から土産としてもらった」「持ってるだけで悪いとは知らなかった」
'79. 7. 21	『影武者』降板事件	「黒澤さんも大人になってほしい」
'81. 9. 26	12億円の負債で勝プロ倒産	「今は犯罪者が捕まってホッとしたような気持ち」「12億円は……キャバレー回りして返す」
'81. 10. 9	勝プロ家賃滞納で訴えられる	特になし
'82. 4. 8	長女、長男が大麻で逮捕	「子供たちを白い目で見ないで」
'83. 8. 13	「借金の5000万円返せ」と訴えられる	「わけがわからない」
'84. 6. 7	長男、再び大麻で逮捕	「今度のことは息子にはいい経験になった」
'87. 2. 13	暴力団との黒い交際が発覚	「俺だけじゃなく、芸能界の問題なんだ」
'88. 10. 26	『座頭市』ロケ中に殺陣師が死亡	「事故は自分の責任だと思う」

彼は一生、盲目の按摩・座頭市の呪縛から逃れられない。メデタイことだ

カラー作品
座頭市果し状

異次元の男である。
ディックの『地図にない町』（ハヤカワNV）は異世界からの来訪者の出現に始まる、まるで勝新な小説だ。あるはずのない駅に、電車が止まる。駅の前に広がるのは地図にない町。そこに迷い込んだ人間は最後には、その町の住人になってしまうのだった……。
誰もが頭の中にもっているハズの社会常識＝地図。〝地図のない男〟それが〈勝新〉である。
そして安部公房の『燃えつきた地図』。これは、勅使河原（てしがわら）宏監督によって映画化されている（'68年大映）。主演はズバリ、勝新太郎！
何を考えて勝プロはこんな映画を作ったんだ!? 『砂の女』などの安部・勅使河原コンビの文芸作にナゼ勝新が出ているんだ!? そのキャスティングの不思議さ、不可解さは、逆に作品のネライにピッタリなのである。ズレてるという意味において。
それが、まさしく〈勝新〉なのだ。
武満徹の狂ったような現代音楽のなかで、勝新はどんどん不条理に迷い込んでいく。そして最後には、街の中をワケわかんなくなった、頭ラリラリの勝新がブラブラ歩いている。そこにはオーバーラップした地図が燃えていた……。
それはあまりにも、今の勝新の状態だ。〝地図のない男〟はいま〝地図

映画『燃えつきた地図』。この頃から、勝新の演技はセリフさえ聞き取れない、ワケのワカラナイものになっていった

'90.1.16

麻薬密輸入の疑いで、ホノルル税関に逮捕された

「なんで薬を持ってたのか、わからない」「どうしてもオレを悪者にしたければ、すればいい」「もうパンツははかない」「アイ・ライク・ハワイ！」

にないハワイ〟をさまよっている。もはやハワイは、この世のどこにもない場所なのだ。異次元の〈彼方〉、「常夏の楽園」に彼は幽閉された。

勝新はもはやわれわれの前には帰ってこないんじゃないだろうか。

カフカの『審判』のように、彼は永遠に裁判を受けつづけるのだ。裁判(サイパー)パンクス！

現実と虚構の境界、そして法の壁を〈越境〉して迷宮へ突き進む、不条理の男・勝新太郎。しかし、そんな勝新の巻き起こす騒動によってメディアは硬直を解きほぐされている、とはいえないだろうか。

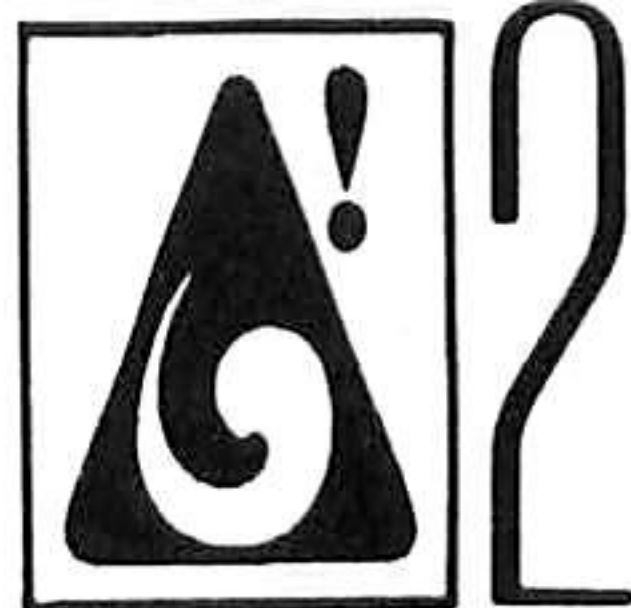
思えば勝新は座頭市のイメージに支配されていた。盲目の按摩(あんま)の役を演じつづける彼が、常識なり法律なり社会なりといった〈地図〉に対して、あまりにも盲目的でありすぎることは偶然ではない。

盲目のマッサージ師・勝新太郎はメディアをマッサージしつづける!!

●新生おたく天国は、この第0回「勝新する世界」から始まった。ボクのデビュー原稿だ。第0回、としたのは、まずこんな原稿で新連載開始はまずいんじゃないか、というボクの不安な気持ち。そしてこの原稿そのものを、虚構の彼方に幽閉することが望ましいのではないか、と考えたことが原因である。

そして連載を1年続けても、まだ勝新太郎はハワイから帰って来なかった。彼は永遠に判決を待ち続けるのか？　そうボクは思っていた。

ところが、おた天が「週刊SPA！」から消えた直後、何と勝新は帰って来ることになった。この、世にも奇妙な符合！　おた天は妖怪〈勝新〉を封じ込める魔法陣だったのか。それとも、おたく天国そのものが、次元のはざまに起きた亀裂のようなものだったのか。ボクはとても数奇な運命を〈勝新〉に感じている。

2

さらば桑田真澄、こんにちは桑田二郎 26年ぶりに、ついに『8(エイト)マン』が終わった!!

宅八郎は本当は8人いる。宅一郎から宅七郎まで専門分野別に執筆しているのだ。宅八郎は、そのどれにも入らない8番目の男。この秘密を知るのは、宅八郎ただ1人……。今回は宅八郎が東八郎=8マンに迫りたい!

世間が『さらば桑田真澄　さらばプロ野球』で揺れている今、同じリム出版によって、おたく界に〝歴史的な大事件〟が起きていた……。それは永久に出るハズのなかった『8マン』完全復刻版の発行である。

人気絶頂期、桑田二郎の逮捕によって終了させられた『8マン』。最終回はアシスタントらが代筆した。桑田は描いていないのだ。

この幻の16ページの存在が〝8マンは終わっていない〟と語り継がれてきた、おたく伝説だ。

しかも、これまでの単行本は不完全版。新たな出版も作者二人は拒否し続けていた。原作の平井和正は、

立花ハジメ。歩くテクノ氏。ミュージシャン、ビデオアーチストをへて、CGディレクター。ダンス養成ギブス装着の姿

エネルギー補給のためにタバコを吸って、元気を出す東八郎。彼の正体はスーパーロボット・8マンなのだ！

〝8マンへの鎮魂歌(レクイエム)〟として最終回の原作や同テーマの小説(サイボーグ・ブルース)も発表した。

終わることなく8マンは走り続ける運命だったのだ、永遠に。ところが、だ。数奇な運命をたどった『8マン』が26年ぶりについに終わった!

この快挙。おたく界のベルリンの壁を壊したのがリム出版編集長の宮崎満教だ。少年のころ『8マン』の大ファンだった彼は出版にあたり3回ダメだと思ったという。

まず平井の拒絶。第二に桑田が絶筆状態だったこと。彼は2人を説得し、桑田の住む茨城へ往復7時間かけて通いつめ、最終回を描かせたのだ。

しかし2人をオトした彼も、昔の原稿を見て、もうダメだと思ったという。紙はボロボロ、しかも全ページそろっていない。それでも彼はくじけず、当時の『少年マ

『少年マガジン』で大人気連載された「8マン」('63年20号〜'65年13号)。アニメ版は最高視聴率40%近くを記録、アトムを抜いた('63年11月7日〜'64年12月24日放映)。脚本は平井和正をはじめ、豊田有恒、半村良といった豪華SF作家メンバー。終了翌週の大晦日には追悼特別番組『さよならエイトマン』も放映された(小松左京、糸川英夫らが出席)。

ガジン』を複写。それを1ページ当たり3時間かけて修復したのだ！
何という執念。これこそが不可能（ムリ）を可能（リム）にする、おたクリエイティブなのであった。
彼を訪ねた日、たまたま世間でもウワサの中牧昭二も同席。ボクの横で『8マン』を読みふけっていた。
それにしても何てカッコイイんだろう、8マンは。アメコミに対抗しうる日本初の超人なのだ。スーパーロボットの刑事、という基本コンセプト。その先進性は、その後の『ロボット刑事』『ロボコップ』にも明らかだ。しかし決定版は、何てったって8マンだと思う。今でも立派に通用する早すぎた大傑作なのだ。NASAで作られた鋼鉄の男。彼はスマートで、トレンチコートの似合う、オシャレな「大人」だった。そして彼の立つ街もどこか都会的に感じられた。
だいたい当時も今も、マンガの主人公はみんな少年だ。喫煙派のヒーローなんていなかったのだ。手塚系作品とは違うバットマン的な大人感覚。
それがタバコに象徴されていたと思う。
日本たばこ産業株式会社に告ぐ。今すぐ8マンを広告キャラクターにせよ！　そして一つ一つのSF性あふれるアイデア。

'88年公開映画『ロボコップ』。海を越えた"8マン"だ！

RCAコロンビアビデオ提供

超小型原子炉で動く彼の、タバコは放射性強化剤だった。特殊強化軽合金(ハイマンガン・スチール)の体。加速装置によって弾(タマ)よりも速く走り、予備電子頭脳(サブ・システム)を端末に、取り外した腕をコントロール。最後は超速振動で透明になり、触れるものすべての分子結合を破壊。チリにしてしまう。

それらをみごとにビジュアル化した、桑田の冷たく無機質な描線。まるでマネキン人形のような、感情を排した登場人物の美しさ。8マンはまさしく元祖テクノポップだ！

'80年代のテクノブームの時も、近未来感覚が復古された時も、ナゼか8マンは忘れられていたのだ。これほどのスーパーモダニズムを!!

テクノポップ＝ON⟺OFF、明⟺暗の機械的リズムに支配された硬質な美意識。オシャレな理性。高度技術と合体した無機質なポップ世界。

ボクは現実の人間で東八郎を演ずるならば、立花ハジメしかいないと思う。彼の『FIGHT―EIGHT』というハード・テクノラップが聴きたーいッ。

元祖テクノ、8マンが加速して走る、究極の美は特に印象的だった。

ボクは、思想界の超人バロム1、ドゥルーズ＝ガタリの言葉、「速くあれ、たとえその場は動かぬ時でも」を8マンに捧(ささ)げたい！

'73年TV放映された『ロボット刑事』。原作は石ノ森章太郎。やはりマガジンに連載された

3 今、「おたく」が裁かれる時⁉ 宮崎勤公判、東京地裁へ行く‼

'90年4月25日。「ぼくの車とビデオを返してください」が、流行(はや)り言葉になった第2回公判。とにかく、行ってみようと思った。この眼で見てみようと思った。

公判そのものよりも地裁前の様子に関心があった。「おたくらしいヤツらがいる」とか「宮崎をはげます少女が来ている」といった初回公判での報道は本当なのか？「報道関係のバイトばっかりだ」というウワサはどうか？

それらを確かめてみたかった。成果はなくてもイイと思った。現場をできるだけ、そのまま報告したいと考えて行ってみた。

午前11時すぎ、東京地裁前に着く。ものものしいフンイキ。「国家公務員」に不審がられ、事情を聞かれる。右翼の行動隊もいて、ボクはなぐられそうだった。

急いで、アンケート用紙を110枚無作為に配布した。できる限り回収して、直接インタビューしてみた。約1000人が並んでいた。バイトが5000円の謝礼を受け取ってるのも見た。

作為はまったく加えていない……。

おた天リサーチ

全回答者数59人（男43、女15）

①どうしてここに来たのですか？

●自主的に／21人
●バイトで／36人（TBSのバイトが最多の19人）
●取材で（記者）／2人

②あなたは「おたく」を知っていますか？

●知っている／男38人　女7人

③自分を「おたく」だと思いますか？

●思う／男9人　女1人

④宮崎くんを「おたく」だと思いますか？

●思う／男30人　女6人

⑤あなたの所有ビデオ機台数は？

●0台／20人（男15人　女5人）
●1台／33人（男23人　女10人）
●2台／3人（男のみ）
●3台以上／2人（男のみ）

⑥あなたの所有ビデオ本数は？

●何と総数４７６９本（男４５２６本、女２４３本）（ただし、ひとりで４０００本を所有する男性がいたため、この数になった）
●次いで１０８本（男・ビデオ機台数は未記入）
●80本（女）、60本（女）、50本（男2人、女１人）……

⑦昔好きだったアニメ、特撮テレビ番組は何ですか？

ウルトラセブン（5票）、悪魔くん、タイガーマスク、ヤマト、どろろ、ウルトラQ、ブーフーウー、仮面ライダー、サンダーバード、ドカベン、ルパン三世（2票）、未来少年コナン（2票）、ゲッターロボ、デビルマン（2票）、レインボー戦隊ロビン、あしたのジョー（2票）、ウルトラマン（2票）、銀河鉄道９９９、ド根性ガエル、ナウシカ、ガッパ、ラピュタ、ウルトラシリーズ（3票）、破裏拳ポリマー、ギャートルズ、タイムボカン、アルプスの少女ハイジ（5票）、ガンダム（2票）、好き！すき!!魔女先生、マジンガーZ（5票）、キューティハニー（2票）、キャシャーン、おじゃまんが山田くん、赤き血のイレブン、マグマ大使、ベルばら、バビル2世（2票）、魔法使いサリー、キャンディキャンディ（3票）、ジャングル大帝、フランダースの犬、ひょっこりひょうたん島、プリンプリン物語、赤毛のアン、妖怪人間ベム、ガッチャマン、みなしごハッチ、ミンキーモモ（票数のないものは1票）

⑧あなたのコレクションは何ですか？

ビデオ（エッチ、スポーツ、ロリコンなど）、カルト雑誌、鹿のフン、カゼ薬、ＣＤ、落合信彦の本、テレカ、リフト券、怪獣大図鑑、アクセサリー、ＳＭＡＰグッズ、自分の全裸写真、愛……など

⑨この裁判に何か意見があれば？

「社会現象だ」「宮崎本人だけの問題にしてほしくない」「たくさんの人が傍聴できるといい」「大衆のリンチだ」「並ぶ人の数が減らないといいと思う」「やじうまが多すぎる（私もだが）」「騒ぎすぎだよ」「弁護団の話は作り話だ」「ミヤザキ地獄へ落ちろ」「ミヤザキを死刑にするな」「ミヤザキがんばれ」……など

①大学で心理学を専攻している。宮崎の精神分析をしてみたいと思ったから　②おたくは一種の病気だ！　③思わない　④思う。宮崎の仲間(おたく)らしき男がうろうろしていた　⑤持ってない　⑥０本　⑦ウルトラ・シリーズ。昔、ウルトラマンのように強くなりたかった　⑧特にない　⑨これだけ注目を集めているのだから、公開裁判にしてほしい。それにしてもバイトと思われる人が多すぎる。ほとんど！

古橋正之さん(22)
学生・東京都

①宮崎という人物に非常に興味があったため　②ネクラな人というイメージ。家に閉じこもってビデオやＴＶ、音楽などを楽しむ、とにかく家で何かやってる人。友達とかあまりいなくて、一人で自分の世界にこもって没頭する人　③思いません。だって外向的だし、外出するのが好きだもの　④ビデオ6000本、マンガの山の部屋を見ると、そう思う　⑤下宿だから持ってないが、実家に２台　⑥10本くらい　⑦『さるとびエッちゃん』『ドンキーチャック』『マジンガーＺ』『小さなバイキング・ビッケ』『アンデルセン物語』　⑧帽子。昔は切手、切符、グリコのおまけ　⑨ココに来ている人が全員、本当に興味をもって来た人は何人いるかが知りたい

橋本美千子さん(22)
学生・東京都

あなたは誰？(25)
東京都港区広尾

①勤クンの薫りにひかれて　②よーく知っています　③はい　④宮崎はおたくとして、まだまだ甘いと思います　⑤VHS、β、８ミリと３台　⑥4000本　⑦リミットちゃん、チャッピーちゃん、魔女っ子メグちゃん、魔法のマコちゃん、ララベル、クリーミィマミ、とんがり帽子のメモル　⑧リカちゃん人形、セル画、『アニメージュ』のバックナンバー　⑨勤クンガンバレ！

ご連絡下さい。
謝礼いたします

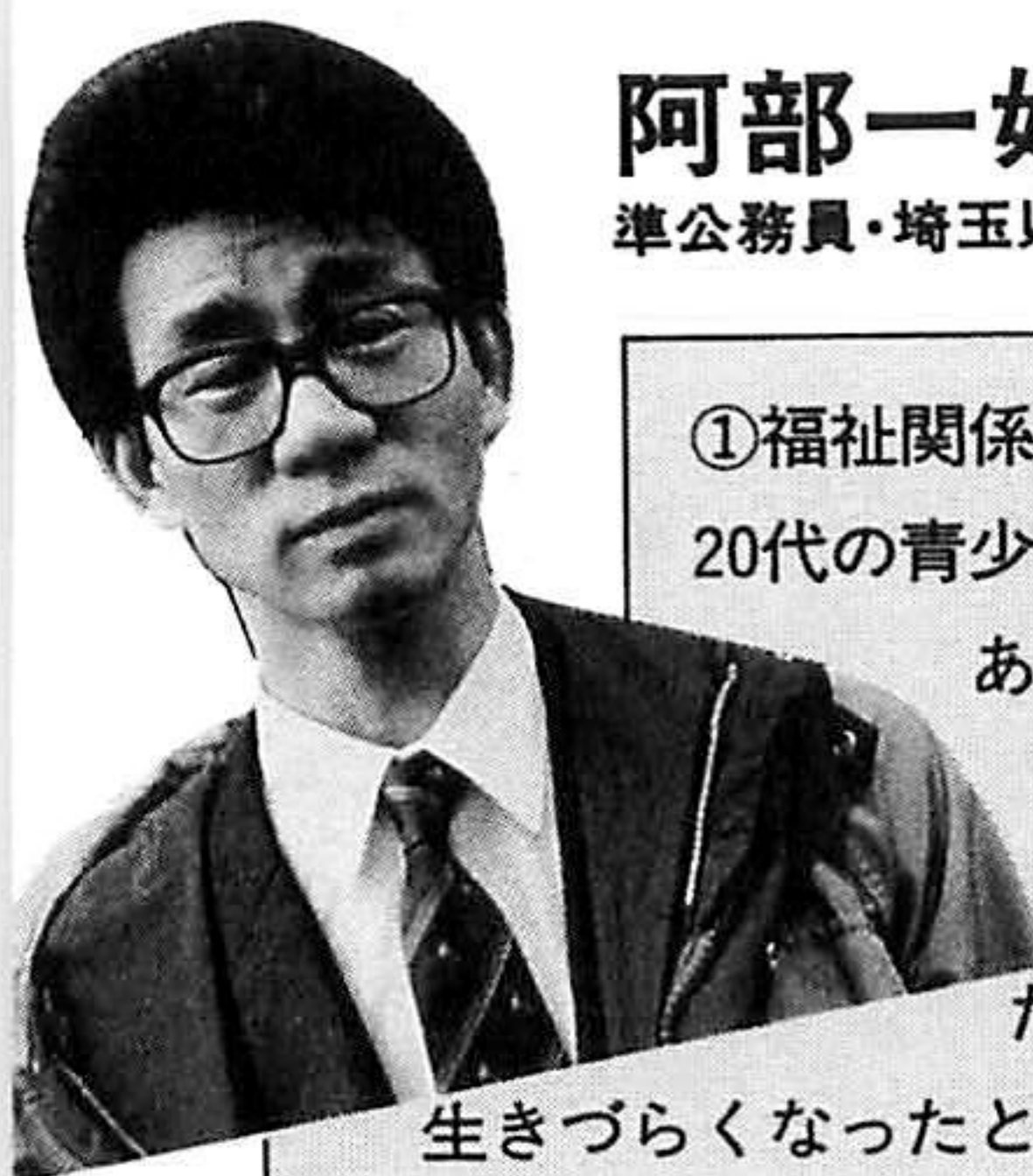
名田吉孝さん(19)

学生・大阪府

①メディアを通してでなく、この眼で見たかった。それで前回も今回も大阪から来た　②知っているが、定義はアイマイだ　③たぶん僕はおたくだ　④たぶん宮崎もおたくだ　⑤1台　⑥20〜30本　⑦戦闘メカ・ザブングル　⑧路上の飛び出し危険カンバンの写真（とりみきさんのファンです）　⑨裁判よりもメディア報道のあり方はあまりにもイイカゲンだ。さんざん非難した後で大塚英志氏が登場すると、今度は擁護に回る。姿勢を貫けよな！

小林洋さん(17)

学生・埼玉県

①授業（春日部高校）を早退して来ました。世界史の先生は明大中野高出身、つまり宮崎勤の後輩です。この事件に関心の深い先生に影響されて来た。社会勉強のためと、先生も早退を黙認してくれたんです　②知りません　③違う！　④そう思う。もっと広い視野を持てば良かったのに……　⑤ない　⑥0本　⑦特にないが、ガンダムのプラモは小学生の頃つくった　⑧貯金（6万円）。ガソリンスタンドでバイト中

阿部一好さん(29)

準公務員・埼玉県

①福祉関係の仕事で、20代の青少年に関心があった。毎回来るつもりだ　②「おたく」の人は生きづらくなったと思う　③思わない　④思わない　⑤1台　⑥5本くらい　⑦『悪魔くん』　⑧特にない　⑨教育とか社会とかの責任や対策を考えたい

小原和弘さん(22)

学生・東京都

①宮崎勤に強い関心があり、前回も来た　②知ってはいる　③思わない　④やはり、そうだと思う　⑤1台　⑥不明　⑦『ガンバの冒険』は泣けた！　⑧プロレスビデオや雑誌。そういえば僕もプロレスおたくかもしれない　⑨ハズレ、何とか傍聴したかった

4 今いちばんオタッキーなTV番組 美少女仮面ポワトリンに会った!!

キャーーーッていいたい！　ポワトリンに会えたんだもーん♡

このインパクトありすぎるコスチュームで、日曜の朝っぱらから放映中。しかも今や〃ねるとん〃並の高視聴率を誇るポワトリンのロケを見た。

キャーキャー、キャー！

なぜ、おたく人気が高いのかは、番組そしてこのコスチュームを一目見てもらえば、わかると思う。仮面、そしてミニスカという2大要素。

そのルーツは『好き！すき!!魔女先生』のアンドロ仮面だと思う。石ノ森章太郎原作の仮面少女ものの系譜(アンドロ仮面⇩モモレンジャー⇩ポワトリン)である。

女王サマッ！

まるで女王様なこの姿で彼女は「御近所」の平和と安全を守っているのだ。

実際の住宅街でのロケ。現場ではこの姿が、まさしく御近所に強い衝撃を与えていた。

通りがかりの人はビックリ仰天。

花島優子ちゃんは衝撃を与えすぎないように急いでカメラ前にすっとんでいく。ダッシュで。

「このコスチュームを初めて見た時は大ショック。恥ずかしくって。でも、やるしかない、と思ったんです」

エライ。もともと乙女塾3期生の彼女。オーディション後すぐに、この姿で『パラダイスGOGO』に出た時は、番組中大ウケだった。それを見ていた高校時代の友人もビックリしたという。まさに、きのうの友人は今日のポワトリン(?)なのだ。

走りながら「コスモマジック・メタモルフォーゼ!」。変身シーンの撮影だ。優子ちゃんが、りりしい。ポーズもセリフも決まっている。キャーっていいたい。

「オープニング・タイトルの飛行シーンの撮影ではスタジオで一日中ピアノ線につられた

'90年1月7日〜12月30日
フジテレビ系日曜日午前9時
(関東地方)放映
右はポワトリン・プティット

ロケ中の花島優子ちゃん。'72年9月17日茨城県生まれ
キャー、りりしいッ！

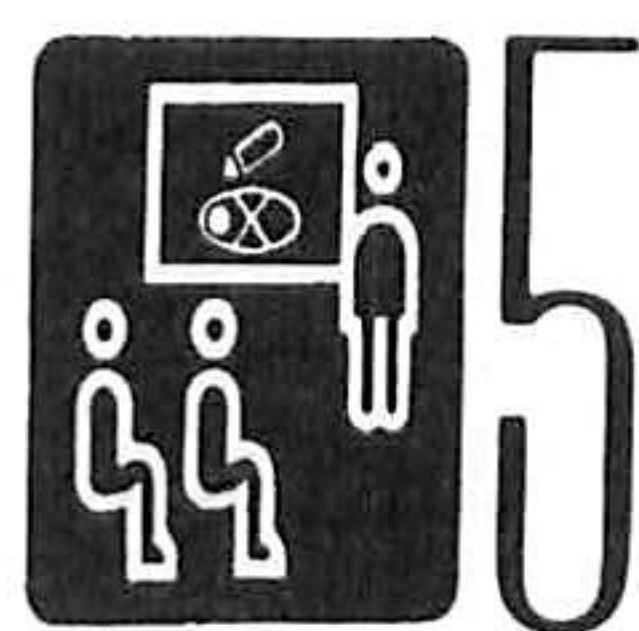
り、ロケで高い木に登ったり……」
ポワトリンになってから、何だか強くなった気がする、という優子ちゃんも、のけぞったのは番組イベントの時だったという。「子供が来るんだろー、と思ってたら、集まってるのがオトナなんですよ。先頭には熱心なファンが……私と同じポワトリンのカッコしているんです。マスクしてベルサーベルを振ってるんですよ。マネしないでよー（笑い）」
なるほど……。
「愛あるかぎり戦いましょう、命燃えつきるまで」はボクらの合言葉。「ねえ優子ちゃん、ポワトリンのしゃべり方って黒木香さんに似てないかなあ？」
「黒木香？　紀子さんのノリなんです。お上品にって演出で。だから、ちょっと強気なキコさんです」
そうか……。
ロケ現場では出演する子役たちが「ショーコーショーコー」と、オウム真理教の彰晃ソングを歌っていた。優子ちゃんは子役たちとも大の仲良しだ。
「わたし4人兄弟の長女だからかな」と彼女は笑う。妹役のモモコちゃもカワイかった（美幼女仮面？）。そして弟役の名はタクト君。
〝タク〟といえばうれしかったのは彼女が「おたく」を知っていたことだ。

「私もマンガ家になろうと思ってたんです。アニメも大好き。堀江美都子さん(アニメ歌手・声優)と姫野美智さん(アニメーター)のファンです。中3の終わり頃には『聖闘士星矢』のパロディ同人誌をつくって、友だちがコミケで売ったんです。今でもマンガは1日1ページ描いてます。『TYO』では4コマギャグも発表したんですよ」

やった——! まさに、時代そしてポワトリンは、おたくと共にあり、とボクは実感した。

では、最後にもう一度だけ。

キャー、キャー——、キャー————!!

'71年10月3日～'72年3月26日放映。アンドロ仮面はやはり“仮面にミニスカ”だった。主演は故・菊容子さん。合掌。

5 ついに「美幼女仮面」が登場！ポワトリンは新しい〈仮面番組〉に昇華した!!

「コスモマジック・メタモルフォーゼ」!!

紅い胸のリングが輝いて、ボクらの美少女仮面がやってくる。

アイドルおたくなら、たぶん見ていただろうと思われる、あのＴＢＳ『東京イエローページ』で、千堂あきほとは対照的にちょっとボケた味を出していた女のコ。乙女塾３期生としてデビューした花島優子ちゃん、その人が美少女仮面ポワトリンの正体だ。

子供から大人、おたくまで。異常人気がいっこうに衰えない、ボクらの『美少女仮面ポワトリン』。

仮面ってやっぱりイイ。仮面は不滅なのだ。そして、何といってもやっぱりミニスカ！東京ミニスカパラダイス。ミニ・スカパラだ。仮面にミニスカという2大要素がそろって、テレビの視聴率はグングンうなぎ上りしたのである。

さてポワトリンの原作は御存知、巨匠・石ノ森章太郎先生。石ノ森・仮面ミニスカ少女ものの系譜(ＴＶ実写化されたもの)のルーツは、昭和46年のアンドロ仮面。

「ムーンライト・パワ〰〰〰！」

堀江美都子・ミッチの唄った名曲「かぐや姫先生のうた」「月光(つきひかる)の子守唄」も懐かしい。

『好き!・すき!!魔女先生』の第14話から登場した、あのアンドロ仮面である。
アンドロ仮面は視聴率不振のため2クールめから〝仮面を出せ〟という要請で生まれたのだ、と思う。しかし番組そのものが2クール26本で終了しているコトから考えて、人気はイマイチだったのだろう。
そのうえ主演した故・菊容子さんはきわめて不幸な亡くなり方をしている。悲しい。悲しいけれども、このハヤすぎたアンドロ仮面こそが、美少女仮面ポワトリンを生み出したのである。
ボクは花島優子ちゃんと、お寿司を食べたことがある。
優子ちゃんはなかなか、おたくだ。マンガ家になろうと思ってた彼女は中3の終わり頃『聖闘士星矢』のアニ・パロ同人誌(氷河とシュンがお気に入り)を創っている。アニメも大好きな優子ちゃんは堀江ミッチの大ファンでもある。
奇遇だなあ、とその時思ったケド、彼女はさすがにアンドロ仮面や宇宙鉄人キョーダインは知らなかった。
ところで、アンドロ仮面からポワトリンに至る〝美少女仮面〟の系譜に、重要な〈仮面〉を忘れてはいけない。そう、モモレンジャーである。
原作マンガ『秘密戦隊ゴレンジャー』が少年サンデーに連載されていた頃、突然ボクらを驚かせた事件があった。

東映大泉撮影所

シリアスなSFアクションものとして始まったこのマンガが急に3等身のギャグマンガに〝変身〟してしまったのだ。それはまるで幼稚園の〝秘密戦隊ごっこ〟に見えた。
そして今。ポワトリンの妹、モモちゃんが2人めのポワトリンとなって登場した時、ボクは業の深さにのけぞったのである。
幼女と遊びた――い！　そんなボクらの夢をかなえてくれた〝美幼女仮面モモちゃん〟。2人めの、美幼女仮面の登場はただ単に、誰でも変身できる「ポワトリンなりきりセット」を売るスポンサーのマーケティング戦略だったのかもしれない。
しかし結果としてポワトリンは〈ごっこ〉をも内包した、新しい仮面番組としてメタ子供ドラマに昇華したのであった。
ところでボクは、モモちゃんにも会ったことがある。〝ご町内と宇宙の平和と安全を守る〟ポワトリン。その〝ご町内〟とは実は練馬区東大泉から石神井台にかけての一帯、だ。
その〝ご町内〟にモモちゃんが現実に住んでいるコトをボクは知っている。
だから大泉学園にある、東映撮影所にモモちゃんはロケのある度にチャリンコに乗ってやって来るのだ。
現実の彼女は、そのまま番組に

登場するモモちゃんそのものだ。おしゃまな女のコ。ヘンに業界ズレしたところがカワイイ、女のコだ。

「おはようございまちゅ――」とギョーカイあいさつで撮影所に現れ「今日のモモコの出番はまだでちゅか――」とナマイキに監督にたずねる。

そして、

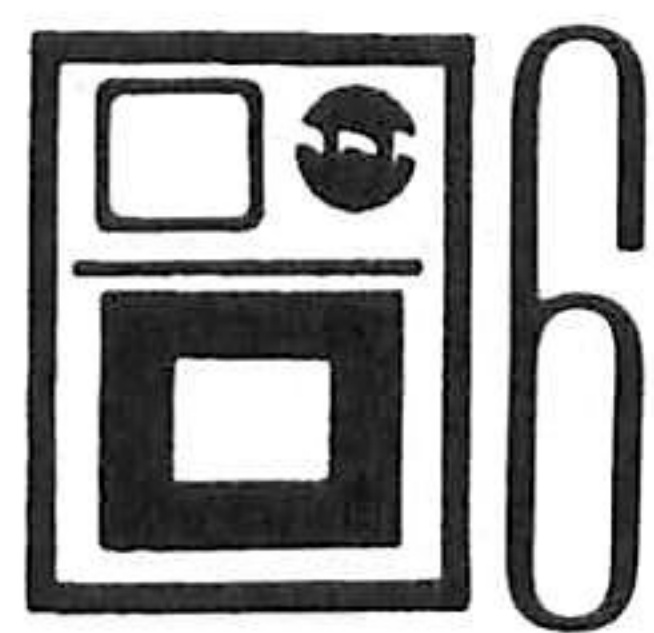
「モモコの撮りはもう終わりでちゅね――」

「みなしゃん、おちゅかれさまあ――」

とスタッフ一同に仁義をきって、モモちゃんはコロ付き自転車で撮影所を去っていく。

なんてカワイイんだッ！　遊びた――い。ボクは思うのだ。愛あるかぎり遊びましょう、命燃えつきるまで、と!!

そして今週もまた日曜日、朝9時から2人の〝美少女仮面〟の大活躍は始まる。

（初出『合点だい！』ソニー・マガジンズ）

6 旧作『ルパン三世』の大隅正秋作品はアニメのヌーベル・ヴァーグだ!!

'71年『ルパン三世』の旧作TVシリーズは大傑作だ！

かの宮崎駿、高畑勲が演出していた名作中の名作として名高い、旧ルパン。

この元祖ルパンは再放送で大人気を博し、新作シリーズや映画を生んだ。

しかし本放送時の視聴率はサイテーで打ち切りになった作品なのだ。まるでドラマ『傷だらけの天使』のように。

ところで宮崎、高畑コンビが演出したのは、子ども向きに路線変更された後半からだ。『傷だらけ——』にも似た、死のニオイをふりまいていたのは前半ルパンである。

あまりにも過激(?)な演出で、前半でオロされた演出家が大隅正秋だ。

〝追われた男〟という印象がボクには、あった。まるで、川上哲治の影に「魔送球の伝説」を残して消えた星一徹のような男なのだ。

彼に会ってみたいと思った。もちろん宮崎ルパンはイイ。

『ルパン三世』(原作モンキーパンチ)
'71年10月24日～'72年3月26日、よみうりテレビ系放映(全23話)

しかしボクは大隅ルパンにこだわりがあった。大隅は、ルパン全体のトーンをはじめに確立した男でもある。

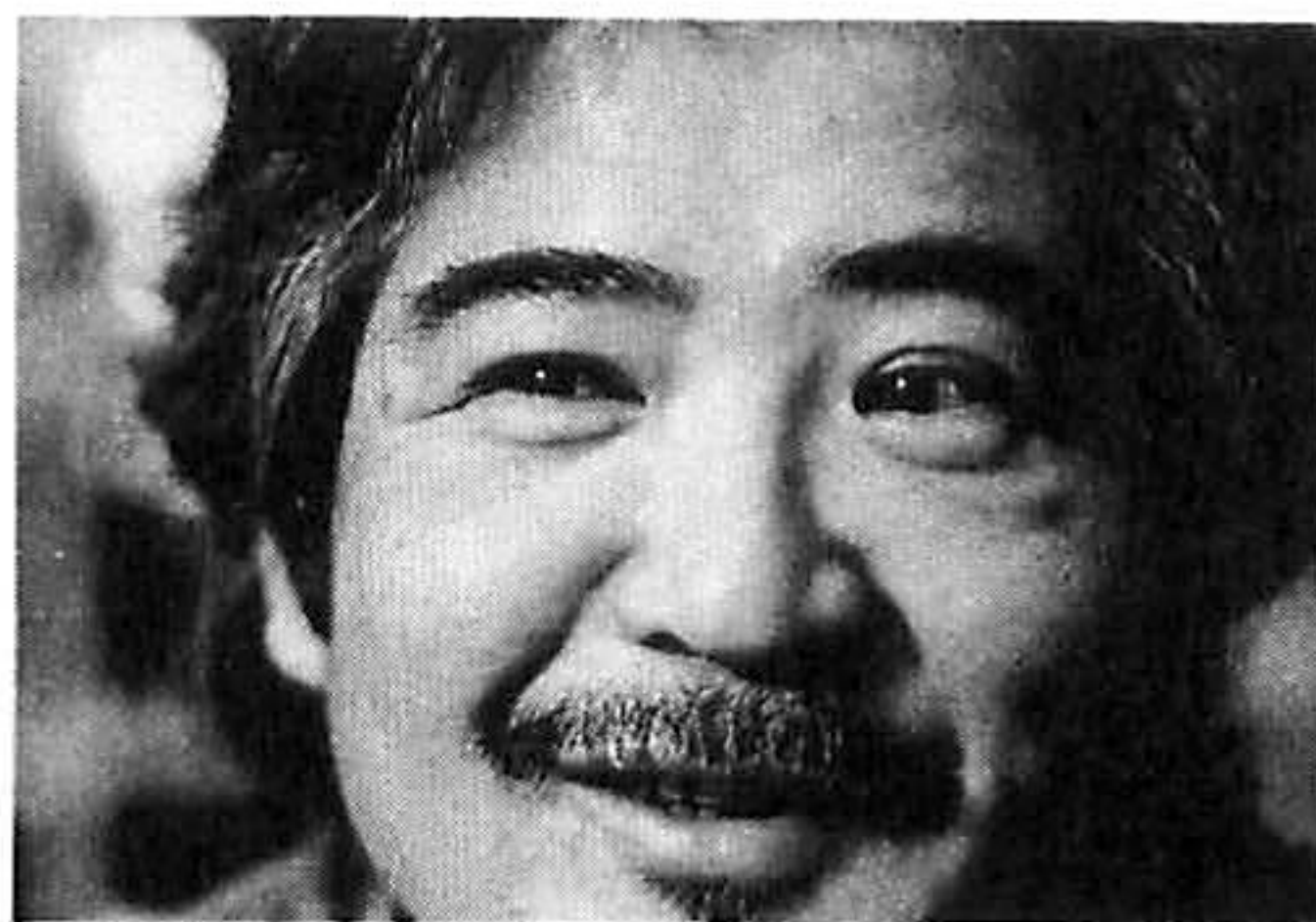
前後半を通して作画監督を担当した大塚康夫にコンタクトを取る。大塚は、大隅についてはあまり話したがらないようだった。やっぱり……。

しかし、何とか彼から大隅の古い連絡先を知る。そして今ではほとんどアニメの仕事をしていない彼に会うことができた。その証言を交え、大隅ルパンの魅力に迫りたい。

ギャグタッチで一流の「漫画映画」になっている後半に対して、シリアスな前半の「大人性」。すべてがハードで映画的だった。まるでスパイ、ギャング映画のようなシーンは「光と影」を感じさせる。

大隅「僕が完全に仕上げたのは第1話から第3話。脚本チェックまでやったのは15本かな。アニメ関係者よりも映画人に評価されたんだ。作画以外のスタッフは全員アニメ初体験だったし、ボク自身が演劇の〝挫折派〟(笑い)だしね……。そう、スタッフも僕が決めたの」

ボクは第2話「魔術師と呼ばれた男」第3話「さらば愛しき魔女」が好きだ。あの虚無感は何だったんだろう。登場する殺し屋たちも、次元や五ヱ門も、そして陽気なはずのルパンさえもが〈殺気〉を放った。

クリント・イーストウッドとジェームズ・コバーンとチャールズ・ブロンソン(それぞれ

大隅正秋。『ビッグX』『オバケのQ太郎』からアニメの演出を手がける。『パーマン』『怪物くん』『ムーミン』などのほか、『ミュンヘンへの道』の実写部分や御存知『ケンちゃんシリーズ』も演出している。

の声優が、旧シリーズでのルパン、次元、五ヱ門役)が共演してもルパン世界にはかなわない!

大隈 「キャスティング? それも全部僕だよ。望月三起也? そうか、宅さんに言われて思い出したけど、彼には脚本を頼もうと思ってたんだ!」

笑っていても「道化」のように見えたルパン。そういえば『気狂いピエロ』や『勝手にしやがれ』のJ・P・ベルモンド(やはり声は、山田康雄)にも見えた。山下毅雄作曲の、ラテンを基調にした名BGMにボクはリタ・ミツコ(仏ニューウェーブ)を感じた。

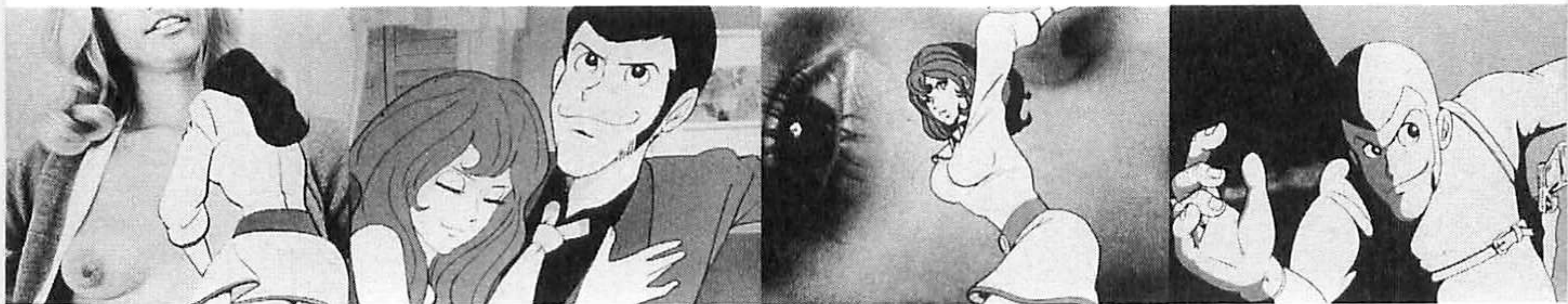
そして峰不二子の「女」はとてもアニメでは考えられない、エロ(ス)に満ちていた。ボクは不二子の小悪魔的魅力にクラクラきていた少年だったのだ。

大隈 「革ジャンを裸身にまとい、ハーレーに乗った不二子のシーンは、仏映画『あの胸にもう一度』のパクリ(笑い)なんだ。不二子のシャワーシーンとか、ヌードにも苦労したよ。その当時は、作画の参考にハダカの絵を探してもなくってね」

『あの胸――』の主役マリアンヌ・フェイスフルはヒップ。ミック・ジャガーのかつての愛人である。ロック史、ドラッグ史に名を残す女優+歌手だ。

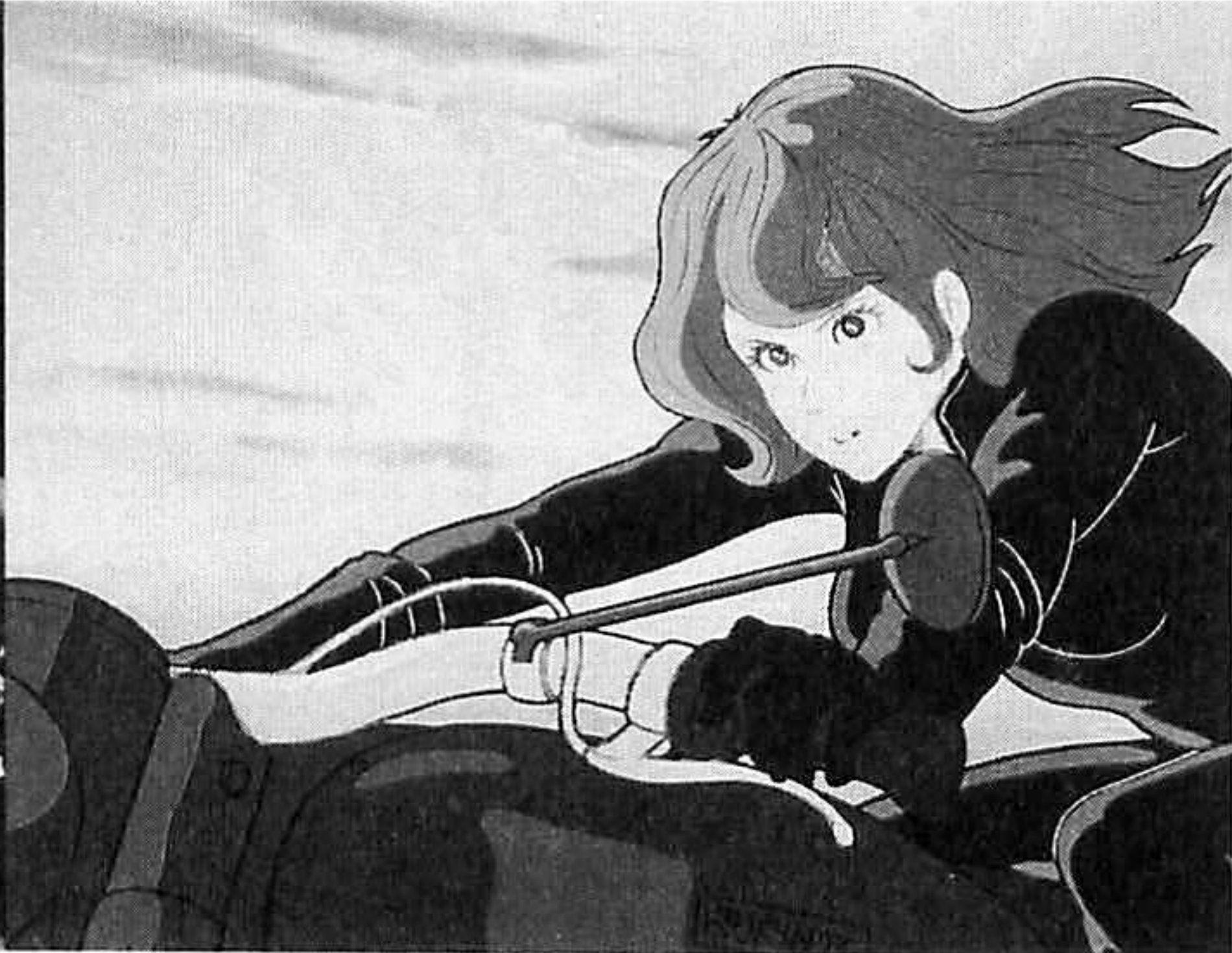
不二子はゴーゴーを踊り、その背景にはツェッペリンやポップな写真がフラッシュバックされた。'70年代。まるでレナウン・イエイエな画面。

やはり時代性を強く感じさせるのは、大隈ルパンなのだ。

大隈 「その頃、青山に住んでてね。スナックが出来はじめた頃かな。そう、サイケがナウだった。ゴーゴーを踊れるヤツ呼んできて、一度実写でライブ撮影してるんだ。それをア

メニ描き直したりしたんだよね。ノリを出したくて」

大人路線のルパン、死臭に満ちた、スピード感あふれる大隅感覚は失敗の原因とされた……。視聴率に、大隅は敗れたのだ。彼は演出を降ろされることになった。

大隈「僕はね、後半は見てないんだ。見るに耐えなかったから……。でもね、再放送が驚異的な高視聴率を記録して大人気の頃、TV局が人気の秘密を分析してた。それを僕は偶然見たんだよね。その理由というのが僕のオロされたダメな理由と、まったく一緒だった(笑い)。それで何かね、あの時の徒労感も多少は報われたような気がしたな。ザマアミロ、と思ったね」

旧作『ルパン三世』大隅作品はアニメのヌーベル・ヴァーグだったと思う。まるでゴダールが監督して、脚本は(『傷だらけの天使』の)市川森一、リタ・ミツコが音楽、そんな感覚なのだ(ムチャクチャついでに主演はモックンか?・)。

(右)峰不二子のルーツは、(左)マリアンヌ・フェイスフルだった。写真はフランス映画『あの胸にもう一度』

DOCUMENT——❶

オウム真理教おたく訪問!

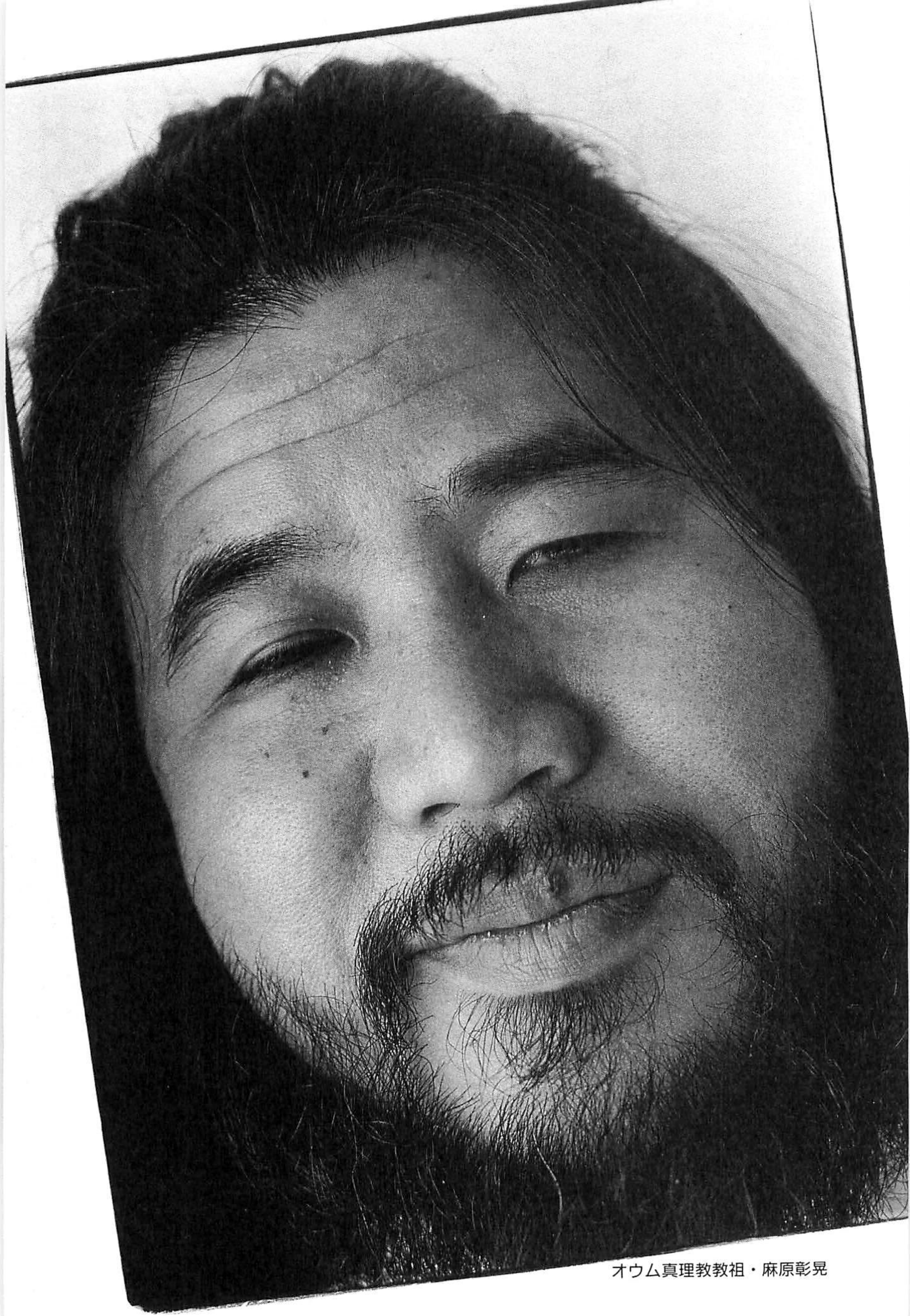
麻原彰晃・会見記!!

オウム真理教の麻原彰晃は秋吉久美子や、あべ静江にシビレていた!!
「暗い」「ブキミ」「反社会的」「狂気」と、お騒がせの超能力宗教・オウムの秘密とは?
そして、あこがれのオウム少女隊の魅力も爆発! キャ——ッ♡
「おたく」で行われた〝狂気〟の会見のすべてッ!

それは、'90年1月のことだった。オウム被害者の会・顧問弁護士一家の失踪がオウムのしわざとほのめかされ、マスコミがこぞって大騒ぎしていた、あのころ。また総選挙に麻原が出馬しようとしていた、その渦中のことである。

ボクは当時も今も、東京都杉並区に住んでいる。杉並区といえばオウムの本拠地であった。まだオウムがそれほど話題になる前から、麻原彰晃(ショーコー)のポスターが家の前にベタベタと貼られ、ポストにはパンフレットが毎日のように入れられ、まわりをフル・ボリュームのオウム街宣カーが走り回っていたのだ。そして駅前では信者たちが風船やビラを配り、奇妙なパフォーマンスを見せていた。

喜んでいるのは子どもばかり。〝オウム真理教〟というと「ウェ——!!」と顔をしかめ、「頭おかしいんじゃないの、アノ宗教!」「暗ーい!!」と思う人々が多かったように思う。

しかしボクはそんな環境にウンザリするどころか、楽しませてもらっていたのだ。不思議なことに、親しみ(?)のような感情さえ感じていた。

オウム真理教教祖・麻原彰晃

それは、あの麻原彰晃という人の奇妙な魅力としかいいようがない。まるでマンガだ。山上たつひこや、小林よしのりが描くキャラクター。

「暗い」どころか、明るいじゃないか。

そのPR戦略も愉快だ。いきなり彰晃ソングを作ってみたり(しかも自分で自分の名前を連呼して唄うのだからスゴイ)、ゾウの帽子(ガネーシャ)を信者たちにかぶらせてみたり、しまいには自分のレプリカント・麻原彰晃人形(マスク)を大量に作って街角にショーコーを増殖させてみたり。

そのオチャメぶりが楽しかった。

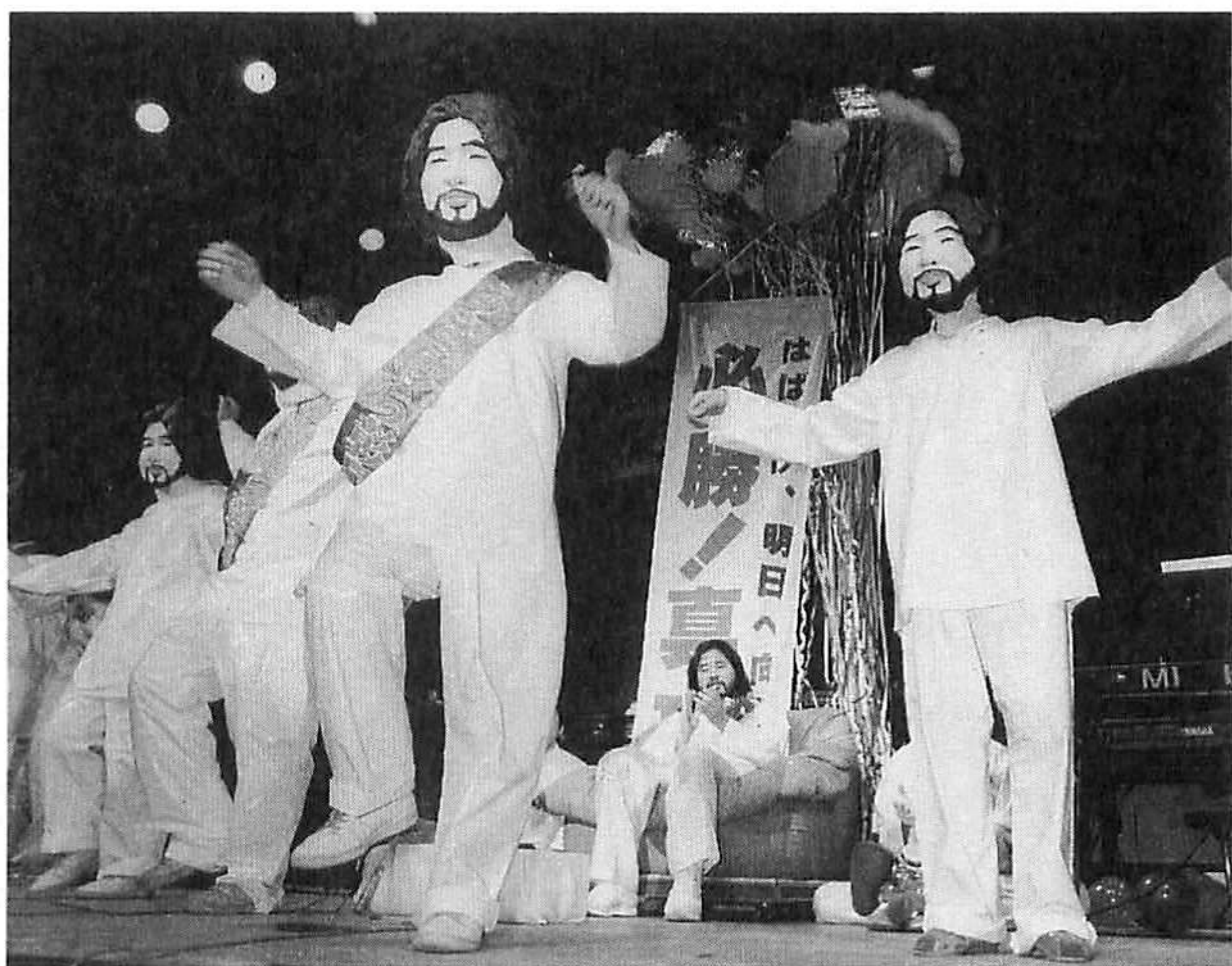
そんななかで、ボクの心を強力にとらえたのは路上で見かけた美少女たち、であった。街頭宣伝する「オウム少女隊」(命名・宅八郎)。

ひとめぼれ、にも近かった。

ナゼ、こんなにかわいいコが？　それは「暗くブキミ」といわれているオウムのイメージに合わないものだったのだ。調べてみると、彼女たちは本当の4姉妹だという。

ボクは麻原彰晃と美少女たちに、どうしても会いたいと思った。そして念願は、かなった。少女雑誌のインタビュアーとして。

最初はディスコ「マハラジャ」のお立ち台で麻原が空中浮遊し、ボディコン美少女たちが踊り狂う、という企画を考えたが実現できなくて、残念。

会見場所はオウム側にまかせることになった

何て世紀末な光景なんだ！まるでDEVO!!彰晃ソングが鳴りひびき、マスクで増殖した麻原人形が踊り狂った。後ろに座っているのが本物のショーコー。選挙戦出馬の際に行われた真理党の演説会にて

のだった……。

●そして麻原彰晃は座禅を組んだまま、ボクの前に現れた!

その日。オウム真理教東京本部に着くとすぐ、ボクはオウムのワゴン車に乗せられた。麻原の待つ「都内某所」へ連れていく、のだという。弁護士失踪事件の渦中。

ふとボクは、このままどこかへ誘拐拉致(らち)されちゃったりして、という気分に襲われた。不安。しかし……ワゴン車は無事に会見場所に到着。

なぜこんなに手間のかかることをするのか。できるだけ麻原の居場所を知らせないようにしているのだろう。まるでスパイ映画のような体験だった。

会見場所にはもちろん表札など出ていない。信者でも全員は知らないはずだ。具体的な場所はここには書けないが、そこはどうも麻原彰晃の「おたく」のようであった。

失礼のないようにボクはスーツを着ていった。ネクタイをしめて。部屋に通され、しばらく待つ。オウムの幹部たちがものものしい雰囲気をつくっている。ヘタな質問をしたら生きて帰してもらえないのかも……。

少女たちが現れた。そして麻原が座禅したまま、大きなふとんのようなイスの乗せられ、幹部たちにみこしをかつがれるように現れたのだ。

手伝おうとすると「やめてください!」と強い語気で幹部に怒られる。どうもこの「イス」はさわってはいけない神聖なものらしい。

麻原彰晃。この怪人がいまボクの目の前にいる。むにゃむにゃとまるで眠っているようにも見えた。やはり本人の圧倒的な存在感は大迫力だ。

ボクは息を飲んだ。

オウムが問題になっているのは、若い信者の家出に親たちが大騒ぎして、被害者の会を結成したからだ。目の前にいる4姉妹もやはり家出して、内弟子(シッシャ)として合宿生活している。どういうキッカケで? 入信するのに悩まなかったのか?

三女(15)が言った。「母が最初に入信したんで

す。その次が私。母の話に圧倒され、もっと知りたい！　という感情がわいてきて。それで進んでオウムに入ったんです」
長女(19)。「その次が私。入信前から、道場へは行ってたんですけど。悩みを聞いてくれた大師(指導者)が、すごく好きになって……」
つづいて次女(18)、四女(13)と入信したという。母の影響、そして正しいなと思える優しいオウムに納得して入ったのだそうだ。オウム入信後、それまで絶えなかったケンカもなくなり、当初反対していた父もついに入信したようだ。
少女たちは屈託なく、朗らかに、明るく話す。この一家にはマスコミで騒がれているような家族間のモンダイはないようだった。
ボクの質問に応え、麻原は何を信者に説いているのかを語りだした。
「自分の自立性、心の強さを磨かなくてはならない、という当たり前のことです。そのためにオウムでは、その人の本質を〝神秘体験〟によって気づかせるんです。そしてすべての情報から解放さ

左から、四女タントラアバヤー、三女タントラナンダー、次女セーラー、長女ソーマー。オウム少女隊がかぶっているゾウの帽子は「ガネーシャ」といって神聖なものだ。

せる。それを仏教では〝最終解脱(げだつ)〟といってるわけです」
教祖・麻原彰晃が紹介してくれた教義は次のようなものだ。
①生き物をいつくしみ、殺してはならない
②盗みを働いてはならない
③愛のないSEXをしてはならない
④ウソをついてはならない
⑤不必要なことばを話してはならない
⑥悪口を言ってはならない
⑦仲たがいをさせることはいわない
⑧むさぼらない
⑨ものはありのままに見る訓練をしなさい
あまりにもそれらは「正しい」。だからこそ、奇妙な感覚にボクは陥った。それなら、なぜオウムが「反社会的な宗教」と〝弾圧〟されてしまうのか、と。
目の前にいる、この怪人物ははたして「神か、悪魔か」。

●教祖は「愛のあるセックスをしてほしい」とボクに言った

そして社会性。少女たちは、学校や友人との間はどうなってるんだろう?
「いじめはないです。ただ考え方や、やることが違うから学校には行きづらいです」と小さな四女はいう。そして三女は「初めは、親友に反対された。宗教なんてって。でも、入信した後は話を聞いてくれるように変わりました」と話す。
そして4姉妹は口をそろえて言った。
「オウムやってて、友だちをなくしたりはしてません!」
この美少女たちに恋愛観についても話をきいた。今は4人とも好きな人はいない、という。強いてあげれば〝尊師〟と答えた。4人が愛してるのは、このショーコーだというのか!?
ボクはちょっとくやしい気がした。
また、恋愛といえばSEXをイメージする低次元のボクは、麻原彰晃にSEXについての意見を

きいてみた。麻原はにんまり笑ったように思う。
「愛のあるSEXをしてほしい！　今の若いコはSEXの情報に流されてるように思いますね。感覚ってのは心の状態によって違ってくる。相手を愛していないと、たんなる〝粘膜と粘膜の接触〟になってしまう。人間は基本的に快楽を求めてるから、対象が〝恋愛〟でなく〝感覚〟になっちゃう。感覚の奴隷になってしまうと思うんですね」
宗教家にSEXのことは聞きにくいイメージがある。キリスト教の牧師にはとても聞けない。しかし、麻原彰晃はどんどん答えていくのだった。
「宗教がSEXに目をつむって抑制してしまったら、それはストレスになって精神にゆがみをきたします。オウムは違う。ただ信者には『SEXしてもいいけど子どもだけはつくるなよ』と言っているんです。人生狂わしてしまうから」
何だか、ものわかりのいい教師という感じだった。TVドラマの中の、そう金八先生のような。
それにしても麻原彰晃の「粘膜」という言葉にボクは強い迫力を感じていた。

●麻原彰晃は、秋吉久美子やあべ静江にシビレていた！

緊張しながらも、うちとけた雰囲気になっていった。なごやかに会見は進んだ。ボクは麻原の高校時代についても気さくに話をきく。最初に驚くようなことを言った。
「精神分裂病ですね(笑い)……」
エッ。ボクは少し硬直する。
「一種の。確固たる精神の安定を求めて、スポーツや勉強、あるいは恋愛にガムシャラに向かっていった。あの没頭ぶりはいま思えば、精神分裂病。〝魔境〟でしたね」
この人はドキッとさせるのがうまいようだ。
若い頃のあこがれの人、についても質問する。
麻原氏。「私が本当の意味で人を尊敬したのはダライ・ラマなんですが……、じつは石原慎太郎はカッコイイと思ってましたね。まず知的なところ。そしてスマートであること。こういう人が日本のトップに立ったら、面白いなと思ったんです」

その場にいた者すべてが笑った。この人は東京4区(杉並を含む)で慎太郎の息子・石原伸晃と選挙戦を戦おうとしているのだ。

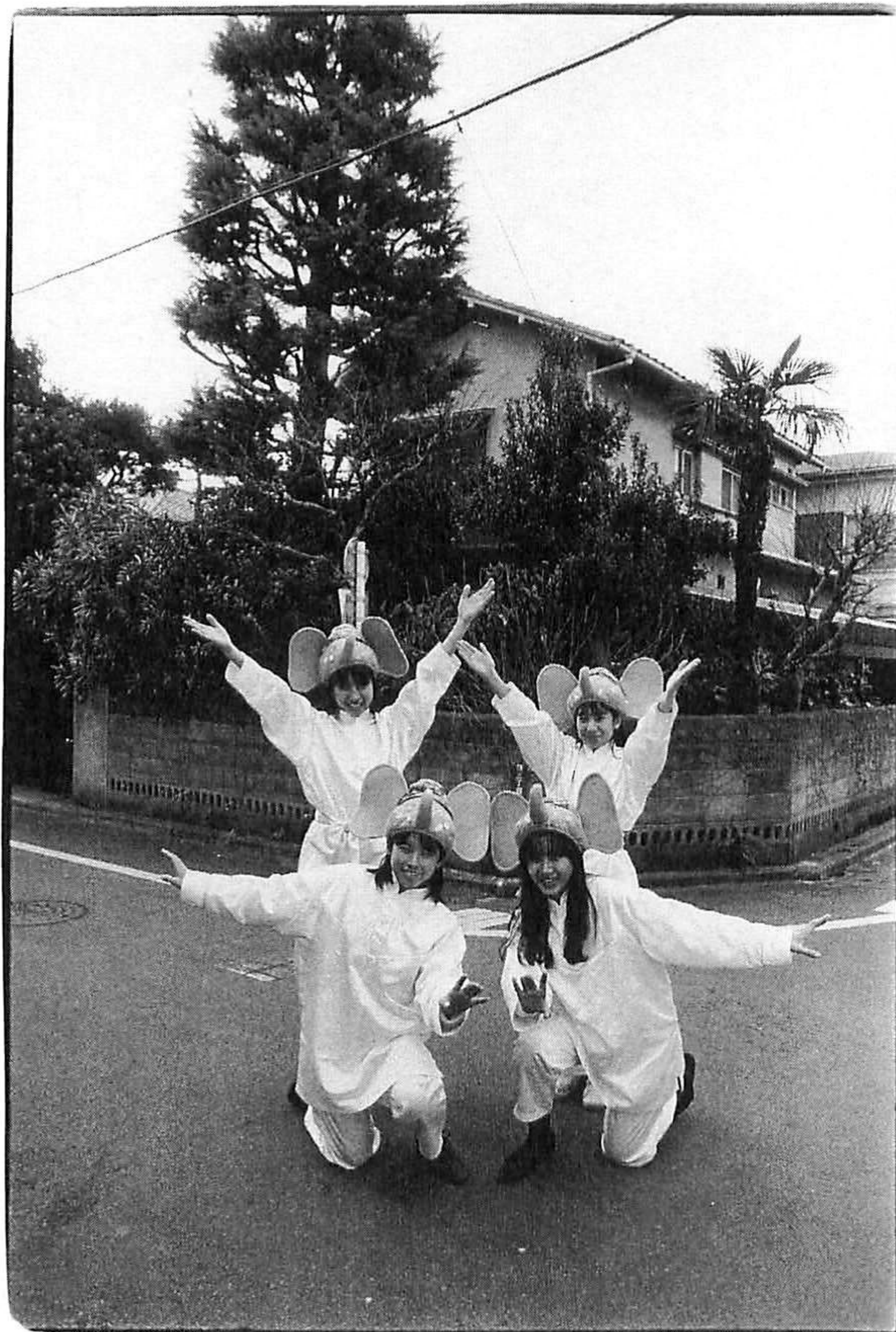
「今はそうは思っていませんけど。石原慎太郎は政治家の中ではカッコイイんじゃないですかね(笑い)。あと、毛沢東については興味を持っていましたね。だから、石原は右で毛沢東は左と、私の言ってることは、まるでわからないということになる(笑い)」

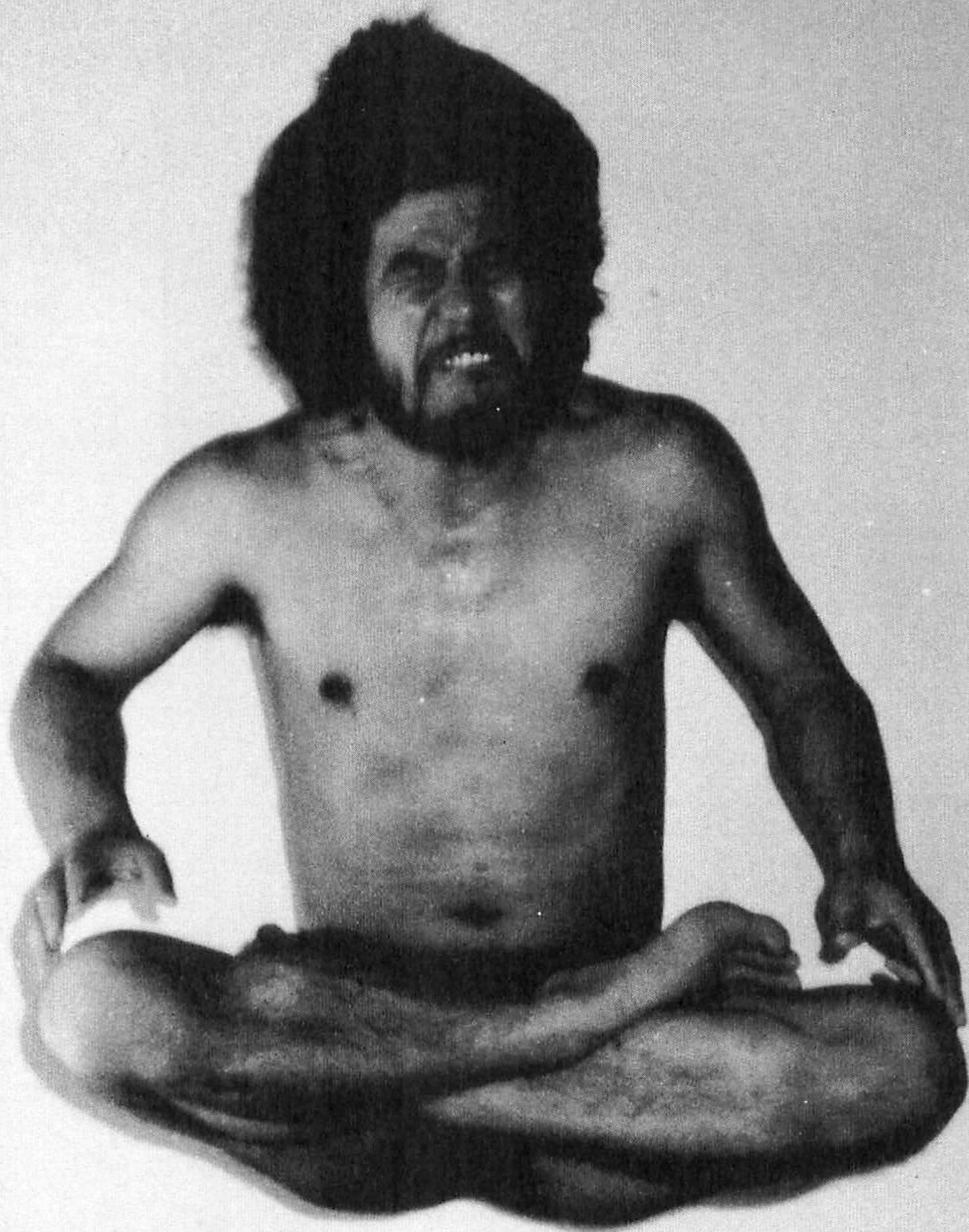
じゃあ、あこがれのアイドルなんかはどうだったんですか、ときく。

「秋吉久美子さんや、あべ静江さんにシビレてましたね！」

場内大爆笑だった。以前にもまして、場の空気がとたんにユルんだ。

この麻原彰晃という人の不思議さをかいま見るような会見だった。この教祖は〝凡人〟そのものの気弱な声で、とぼけたギャグを交えてしゃべる。

カリスマ性をムリに演出するのではない。〝狂気〟といわれるオウムにあって、この人の〝凡庸さ〟に

原宿ホコテンでも大人気(?)のガネーシャ体操

さらなる不思議を感じるのだ。
オウムが〝狂気〟とされるその理由には修行中の睡眠時間が3、4時間で食事は菜食一日一食で

あることなどがある。それはこの美少女たちも同じ。18時間くらい座りつづけて瞑想する、といった激しい修行をしているのだそうだ。

空中浮遊する彰晃。オウムでは、解脱とともに超能力が身につくという

そんなオウム少女隊たちが、今いちばん楽しい時、充実感のある時はいつなんだろう？　長女はいった。「やっぱり、きびしい修行をやり終えた時かな(笑い)。ああ、やった——って感じ！」

次女。「尊師とお話ししてる時(笑い)。パフォーマンスもサイコー！」

三女。「イベントでも、みんなで一つの目標に向かっていくことが楽しいんです！」

少女たちはつぶらな瞳を輝かせて話した。信じられないくらいの、純真な笑顔で。

横に教祖が同席してのインタビュー。何だか優等生的に答えてない？　ボクがそう少女たちに笑いかけると、横から麻原彰晃は言った。

「みんな優等生です(笑い)。ケガレを経験しないでここに来た。それだけ魂がキレイなんですね。だからみんな美人なんじゃないかと思うんですね、私は」

またも、その「おたく」は大爆笑につつまれた。

●このボーダーレスな世紀末に、麻原彰晃は語る

この会見が行われたころ、街ではタイマーズの『デイドリーム・ビリーバー』が流れていた。モンキーズのヒット曲をカヴァーする、あの曲だ。そして『モンキーズのテーマ』もカヴァーしていた。

♪〰〰こんなデタラメな街を〜、さよならしたいよ〰〰♪

オウム少女隊と同世代の女のコには、学校やめちゃうコや生まれ変わりを信じて自殺しちゃうコもいる。ヒニンに失敗して中絶しなきゃいけなかったり、親とうまくいかなくて家庭崩壊してるコもいる。

世界情勢にしてもベルリンの壁が消え、中国天安門で悲惨な事件が起きたりと、国境も国家も、学校も家族もあいまいな時代。すべてのワク組みは崩壊した。

あらゆる拠りどころのない、たよりない世の中。そんな「基準」のない時代を、〝狂気〟の麻原彰晃教祖はどう考えているのか。きいてみた。

「地球全体が〝物質社会〟になってしまった。その限界がいま来てると思うんですね。モノ、モノ、

モノ。そういう社会が崩壊しつつある。次に来るのは〝精神社会〟です！　現在吹き出してる問題を、ホンモノの宗教なら完璧にフォローできる。心の問題は心によって解決するしかないからです。たとえばラーメンを食べたい人に、いくらジュースを持っていっても満足しません。つまり心を安定させたい人にいくらモノをあげても答えは出ないわけです。オウムは心へのアプローチ。信者に、そしてこの世の中にオウムは大いなる解答を与えていると思いますよ！」

ラーメンのたとえには思わず爆笑しそうだった。これがショーコーの味なのだ。

こうしてオウム真理教「おたく」訪問は終わった。〝狂気の集団〟といわれるような「危険性」は、ほとんど感じなかった。

ただ怖いといえば、教祖である麻原にではなく、むしろ彼をとりまく側近。幹部たちのほうにこそ、何らかの「怖さ」があるようにボクは感じた。

この訪問の何週かあと、総選挙が行われた。杉並区を含む東京4区に、真理党から出馬した麻原彰晃はあえなく落選（石原伸晃は当選）。

また何カ月か後になって、ボクの訪問に立ち会った、あの時の幹部の一人が大金を持って失踪してしまったのには仰天した。

そして今もまだオウム真理教にまつわるゴタゴタは続いている。

人が何かを真剣に信じようとする時、それは〝狂気〟と呼ばれるのかもしれない。あの時の少女たちは宗教＝狂気にとりつかれた「白昼夢の信者」（デイドリーム・ビリーバー）だったのか？

ボクは今もオウム少女隊のあの純粋な笑顔を忘れられないのだ……。

（『ポップティーン』'90年3月号に発表したものをもとに、修正改稿した）

ショーコーの瞑想室に特別に入れてもらって撮影した記念写真！

旧 イカす！おたく天国

「イカす！おたく天国」旧シリーズは『週刊SPA！』'89年12月6日号から、'90年4月18日号まで連載された。当初は同誌の読者欄「スパボイス」内でのミニコラムという扱いだった。なお、宅八郎の署名で書かれたのは末期になってからである。

署名記事として尊重されていたわけでもなく、スペース的にも小さく不満を持ちながら、毎回トラブルを起こしながらの連載だった。連載とは言いながらも休まされたこともある。その頃はまさか、こうして単行本が刊行されるとは夢にも思わなかった。

これまでのナツカシといえば、決まって月光仮面だのウルトラマンの話題。ふ、古すぎる、もうウンザリだ。新入社員に笑われるゼ！　そこで当おた天は新しい懐古に取り組んだ!!　このコーナーをガイドに同僚、部下をうならせてほしい!!

これは旧おた天が連載開始された時のコピー。当初に考えていたコンセプトが読める。その後、連載が進むにつれて内容はいわゆる、おたくジャンルの〝懐古〟におさまらないものになっていった。

単行本収録にあたっては、紙数の関係などから大幅に加筆したものになっている。

（本書掲載の旧シリーズは50ページ「ガッチャマン」から84ページ「御徒町大陥没事故」まで）

〈スパ！ボイス 企画案〉 ①

イカす！おたく天国①

「タイトル（作品名）」

Photo

〈あらすじ〉

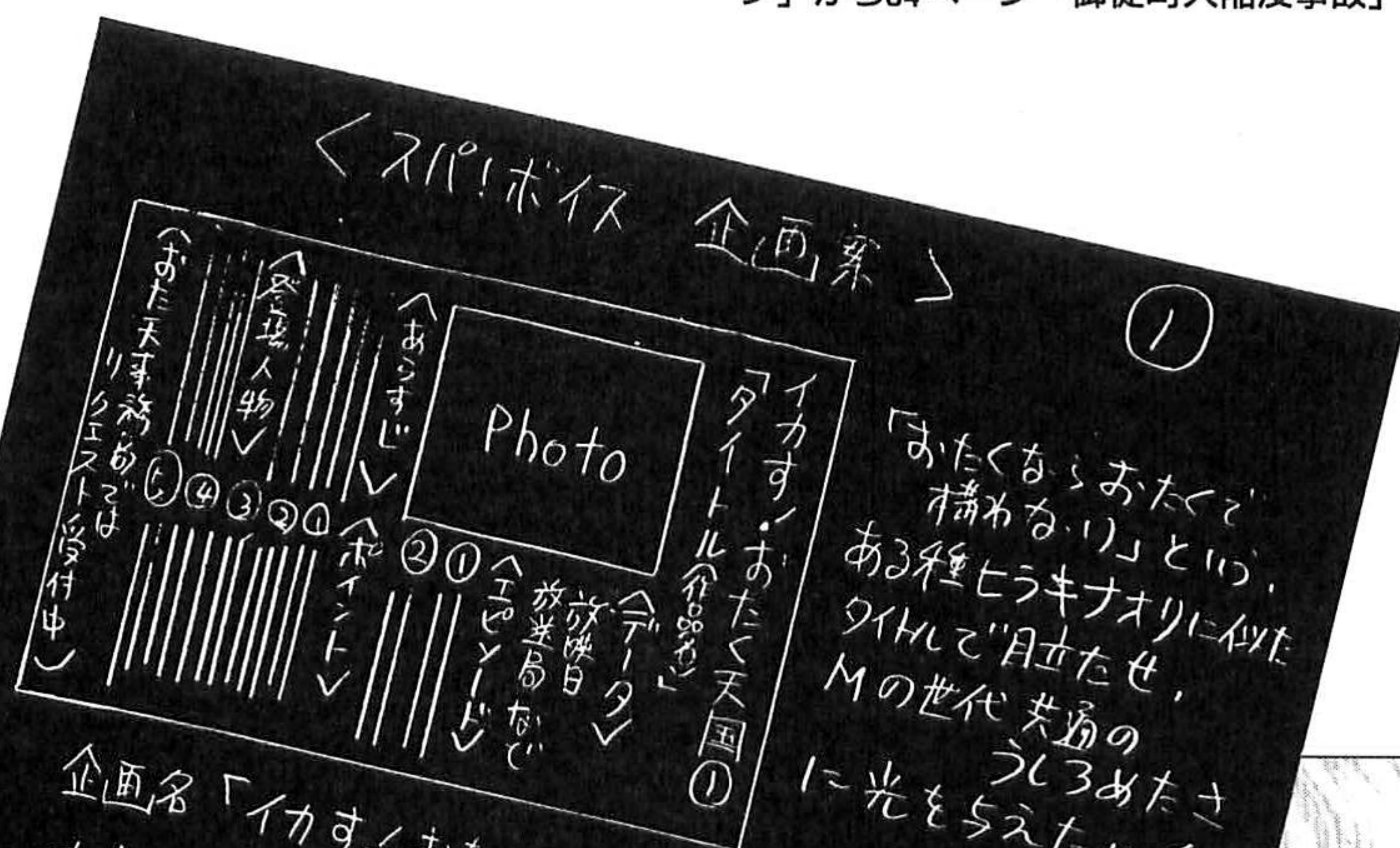
〈データ〉 放映日 放送局など

〈ポイント〉 ① ②

〈エピソード〉

〈登場人物〉 ① ② ③ ④ ⑤

〈おた天事務所ではリクエスト受付中〉

「おたくならおたくで構わない」という、ある種ヒラキナオリに似たタイトルで目立たせ、Mの世代共通のうしろめたさに光を与えたい！

企画名「イカす！おたく天国」（通称おた天）

内容● アニメ・特撮など子供番組中心の懐古ネタは特集など

7 ♪やめろといわれても♪どうにもとまらない！ガッチャマンでGO GO GO!!

♪誰だ、誰だ、誰だ！　空の彼方に踊る影、白い翼のガッチャマ〜ン！　のっけから科学＋(プラス)忍者だとか、ガッチャ＋(プラス)マンだとか、インパクトのありすぎる造語感覚でボクらは圧倒された。いま考えてみてもガッチャ＋マンのネーミングはスゴイと思う。

だけど、ひとくちにガッチャマンと言っても続編が作られて、1、2、F（ファイター）の3作品あるので注意したい。そう、昭和47年放映の第1作、昭和53年放映の続編第2作、そして昭和54年続いて放映された『ガッチャマンF(ファイター)』である。

毎回、敵の巨大メカとガッチャマンのゴッドフェニックス（巨大戦闘機）の空中戦が見ものだった。メカニック・デザインの魅力と、優れて動的なアニメートが斬新(ざんしん)だったのだ。特にあの〈爆発シーン〉の動画（タツノコ独特！）は官

『科学忍者隊ガッチャマン』（第１作）'72年10月１日〜'74年9月29日フジテレビ系放映。私服姿でくつろぐ（？）彼ら

能的ですらあった。
　さてさて、この作品のポイントとしては、そのファッション感覚のスゴさにあったと思う。当時のアップ・トゥ・デートなモードを作品に取り入れ、1では登場人物全員の私服が、な、何とベルボトム(ラッパだよーん)・ズボンになっている！　カッコイイ!!
　そのコーディネートは、♪やめろといわれても〜、の頃の西城秀樹に近かった(紅一点ジュンは、♪どうにもとまらない〜、の頃の山本リンダに似ている、また5人そろうとまるでフィンガー5である、♪ハロー、ダーリン♡
　ところが続編の2およびFでは、みごとに全員がスリムパンツにはき替えて登場！(昭和44年同じくタツノコプロ製作の『紅三四郎』はモッズ風)
　タツノコ・アニメはオシャレなのだ。マチガイなく。ボクはやはり、第1作のベルボトム・ズボンがたまらなく好きだ。
　また、制服(?)の鳥型ヘルメットは15年後、世界の三宅一生がパクって(?)ダイエーホークスの選手を泣かせたというシロモノだ。球界のガッチャマンとして、ゼヒがんばってほしい。

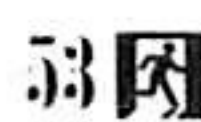
先取り、という点では敵役ベルクカッツェの存在がハヤい。彼はバイオ技術によって作られた(!)半陰半陽人間という設定。「ファッハッハッハ!」あのキモ悪い声がたまらない魅力だった。いったい性器がどうなっているのか気にしたガキは、まさかいないと思うが、口紅真っ赤っかで確かにニューハーフのハシリといえるだろう。

科学という割りには、科学忍法・火の鳥が、ただ燃えながら体当たりするモノであったりと、どこかオカシイ。

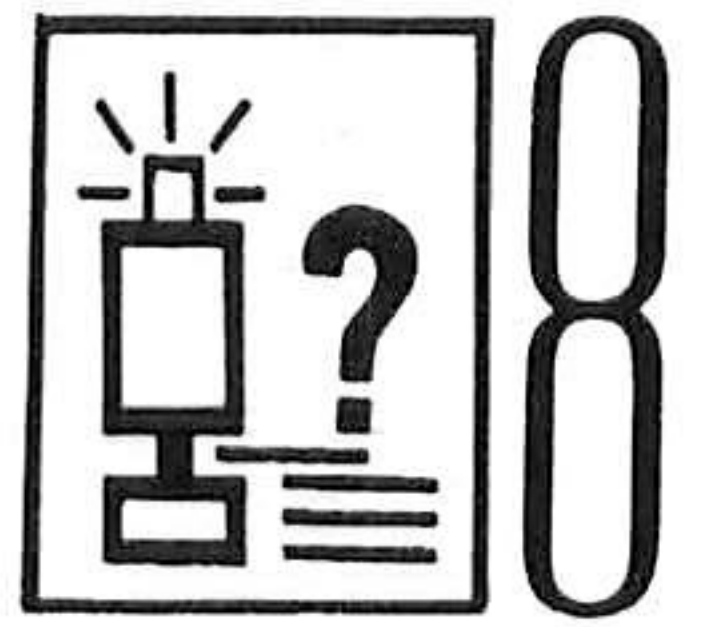
それにしてもコンドルのジョーは、どこか故・松田優作を思わせる男だ。後半は難病を抱えたジョー中心のストーリーになり、死によって番組は終了したのだった。これも哀しい〈先取り〉

山本リンダ
'72年『どうにもとまらない』

であったのか……ああ合掌。

RCA
JRT-1292
唄 西城秀樹
情熱の嵐
出来事
定価 ¥500

西城秀樹
73年『情熱の嵐』

ガッチャマン図版提供・ポリドール

8

〈仮面ヒーロー〉ヒット商品学
ゴレンジャーでバンバラバンバンバン!!

バラバラバババンバン、ババンババ、バンバンバンバンバン、ババンバーンといえば鋼鉄ジーグ。バンバン、バンバン、ババババ、エンバンバババンバンバンといえば、円盤戦争バンキッド。そして、バンバラバンバンバン、バンバラバンバンバン、バンバラバンバンバン、バンバラバンバン、バンバラバンバンバンといえば、秘密戦隊ゴレンジャーだ！

当たり前でしょッ!!（ちなみにバラバンバはイナズマン、バーンババーンの番場蛮は侍ジャイアンツ、ババンバ、バンバンバンは8時だよ！全員集合、ボバンババンボンブンボバンババババ、ボバンババンボンボンブンバボンは狼少年ケン、ただのバンバンといえばもちろん、いちご白書をもう一度）

さて本題。ゴレンジャーは大ヒット商品である。しかもロングセラー。2年以上にも渡って放映された、画期的な名作なのだ。

ヒーローが複数バンバン出てきて（5人）、悪と戦うパターンを創り出した。基本的には単独ヒーローものの、仮面ライダーを〈複数形〉に発展させたわけだけど。

最初の仮面ライダーは2年間続いたが、1号、2号合わせて変化をつけてのことだから、ゴレンジャーのロングセラーぶりは並の大ヒットではない。

『秘密戦隊ゴレンジャー』
'75年1月5日〜'77年3月26日
赤、青、黄、桃、緑。5人そろってゴレンジャー！

このゴレンジャーこそが東映戦隊シリーズを生み出したのだ！

さらには、宇宙刑事ものへつながってゆく。【ヒーロー界のジャニーズ事務所（？）＝東映仮面ものの系譜　ライダー⇩ゴレンジャー⇩戦隊シリーズ⇩宇宙刑事】。つまり仮面ライダーの次にエライ作品だ。

しかもゴレンジャーがエライのはギャグ入りだったコト。ライダーにはあからさまなギャグはないでしょ。「正義の味方ゴッコ」に興ずる、お子様たちはヒーローにも〈お笑い〉を求めていたのだ。

ゴレンジャーではたとえば、スケート仮面（何だそりゃ）と戦えば5人そろってスケートしちゃう。

そんな具合に、敵の怪人もありとあらゆるトンデモナイものだった。ストーブ仮面、蛇口仮面、テレビ仮面、牛靴仮面、日輪仮面、軍艦仮面……。

さらにエライのはトレンディだったコト。ギャグにも時代性がおりこまれててスゴイ。野球仮面（頭がボール）は長嶋茂雄引退時に企画され、最後に「私は永遠に不滅です！」と言って死んじゃうし、SL廃止時の機関車仮面もただひたすら走り続けた後、「オレの時代は終わった！」と言って自爆しちゃう始末だ。

こうして、世界征服をたくらむ、悪の秘密組織・黒十字軍（秘密基地にはしっかり表札が出ていて大笑いだった）が毎週送り込むキョーイの仮面怪人VS

ゴレンジャーの決死の
戦いが繰り広げられた
のだった。
ゴレンジャーの大ヒットをトレンドビジネス風に整理すると
①「商品を群で売る発想」
②「消費者のニーズに対応」
③「時代に敏感なソフトづくり」という具合にマーケティングされるってワケだ。

♪バンバラバンバンバン、
バンバラバンバンバン、
バンバラバンバンバン、
バンバラバンバンバン、
バンバラバンバンバン、
バンバラバンバンバン！
はぁ〜、ビバ ノンノン!!

ストーブ仮面
第75話に登場。
灯油式かな？

野球仮面
第53話に登場。
どうだ1本足
打法だぞ！

スケート仮面
第79話に登場。
巨大なスケートに変身したっけ

9 世紀末アイドル伝説！オウム少女隊が怪獣アサハラを呼ぶ!!

街でその美少女たちは微笑んでいた。真理党のビラを配る少女たちは、声をそろえて言った。「オウム真理教の麻原彰晃をよろしくお願いいたします！」

——話題のオウム真理教に、ついにアイドルが誕生した!!——

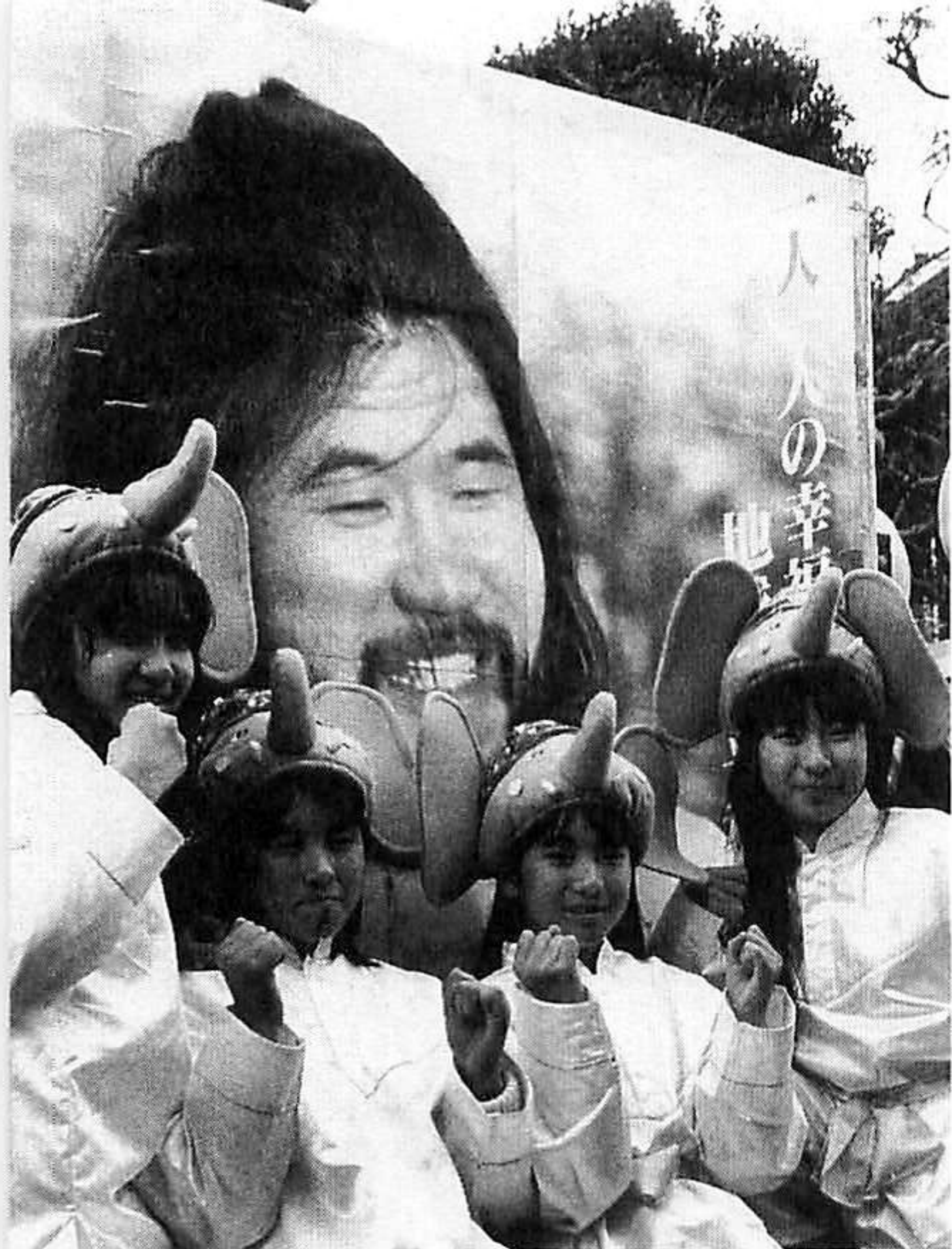
去年の('89年)紅白歌合戦で、ピンク・レディとウインクが共演したあたりに、時代の流れを感じた人も多いと思う。

「歌は世につれ、世は歌につれ——玉置宏」(笑い)。

そう、アイドルは時代を象徴し、司る巫女(みこ)だ。

ザ・ピーナッツは50年代、'60年代を！

ピンク・レディは'70年代を！

ウインクは'80年代を！

左から、次女セーラー(18)、三女タントラナンダー(15)、四女タントラアバヤー(13)、長女ソーマー(19)。名前はすべてホーリーネーム（聖なる名前）。

そう、あの紅白歌合戦は、'80年代最後の年に実現した、'70年代と'80年代の華麗なる共演だったのだ。そして'90年代のアイドルは、オウム少女隊!?

さて、ザ・ピーナッツといえば想い出す・・・そう、モスラだッ!!

あの双子の小美人が、まさしく巫女（みこ）として怪獣モスラを守っていたんだっけ。

そしてまた、オウム少女隊も〝モスラ〟を守る小美人ピーナッツなのだ。♪モスラ〜や、モスラ〜、という懐かしい、あのエクゾチックなメロディと同様に♪ショ〜コ〜ショ〜コォ〜、と「神秘」のメロディを口ずさむウワサの彼女たち。

麻原彰晃は怪獣だ。神秘の存在モスラなんだ。

ここでいう怪獣は醜い（みにくい）モンスターなんかじゃない。キングコングをみてもわかるように、聖性のシンボルだ（中沢新一は『雪片曲線論』の中で、天使性と怪物性について論考し、ゴジラを聖獣だとしている）。

かつて現代文明にとって南海の孤島が神秘であったように、新しい「神秘」を守る美少女たち、それがオウム少女隊なのだ。

そう、神秘の入口には必ず巫女（ピーナッツ）が存在する！

〈怪獣〉はいつでも現代科学でははかり知れない存在であり、社会通念と戦い、そしてどこかカワイイ狂気に満ちていた。

世紀末！

時代の節目節目には、人間を超える巨大なものを招き寄せる、聖なる巫女（みこ）がこの世に現れるのだ!!

10

ジュワッ♥おたクリエイティブの極致 アパマンCMに、ウルトラセブン登場!!

あまりにも異様なこの表紙。衝撃と同時にうれしさがこみ上げてくる。だが、よく見れば見るほど怪しい。

この、セブンと部屋の微妙な大きさの比率はいったい何なんだ！　頭が天井に着き、いかにもセマそうだ。

そして、この『アパマン』表紙をよ～く見ると、とてもコレは写真合成とは思えない。だけど、セットかといえばセットにも見えないのだ。

セブンの右肩奥の棚に置

セブンが初登場した、記念すべき『週刊アパマン』新創刊号。TVCMもオンエアし、大々的にセブン・キャンペーンが展開された

かれた段ボールや、インテリアのウォーホルの絵、そして手前左下のビデオテープやラック内のヤングマガジンは、ミニチュアで作ってるとも思えないからだ。あまりにも緻密すぎるのだ。

じゃあ、いったいどうやって撮影したんだ?

だいたい、なぜセブンなのか? CMならウルトラマンでもいいハズだ。コレもうれしいポイントなんだけれど。

それに、このシッポの切れたエレキング!! これは、まるでアイスラッガーで切り落としたとしか思えない。そうさ、セブン第3話『湖のひみつ』でエレキングはそんな死に方をしたんだっけ。そのコトをこのCMの制作者は知っているのか!?

コレは、ただ単にウルトラセブンを使ってみました、というレベルではありえない。以前ちょっとしたブームとなった一連のウルトラマンCM(富士銀行や明星ラーメン)とは一線を画するものなのだ。かなりの通にしかできない緻密な作業である。

いったい、どこの誰が、どうやって創ったのか!?

ボクは、あわててアパマン本社にTELした。表紙、TVCMともに制作元が電通であるコトを知り、電通へTEL。そして、広告担当の電通営業マン小田さんにきいた。

「ああアレですか。じつはアレは電通きっての怪獣名物男・クリエイティブ局の斎藤のしわざなんです!!」

斎藤さん。彼は、な、何とポピーの超合金を500体コレクションしている、という人物であった。と・も・だ・ち————! マチガイなく、おたくだ!!

その男、斎藤和典ディレクターにインタビュー。ボクの謎を解明してもらった。

「部屋に巨人がいたらセマいよね、が企画意図(笑い)。セブンを使ったのは、やっぱり彼がウルトラシリーズ最大のヒーローだから。一番イカしてたと思うんです!!(思い入れタップリに)」

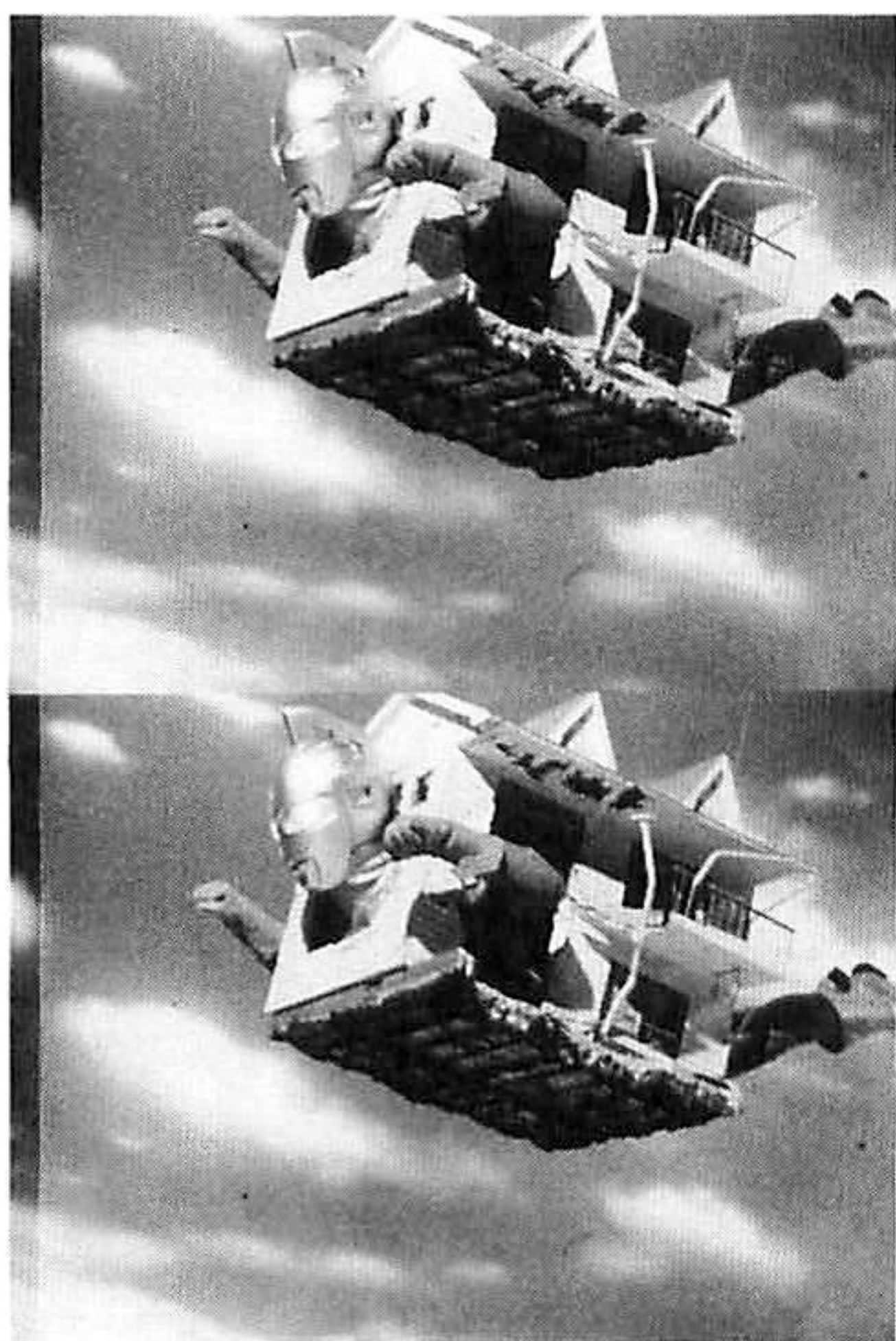
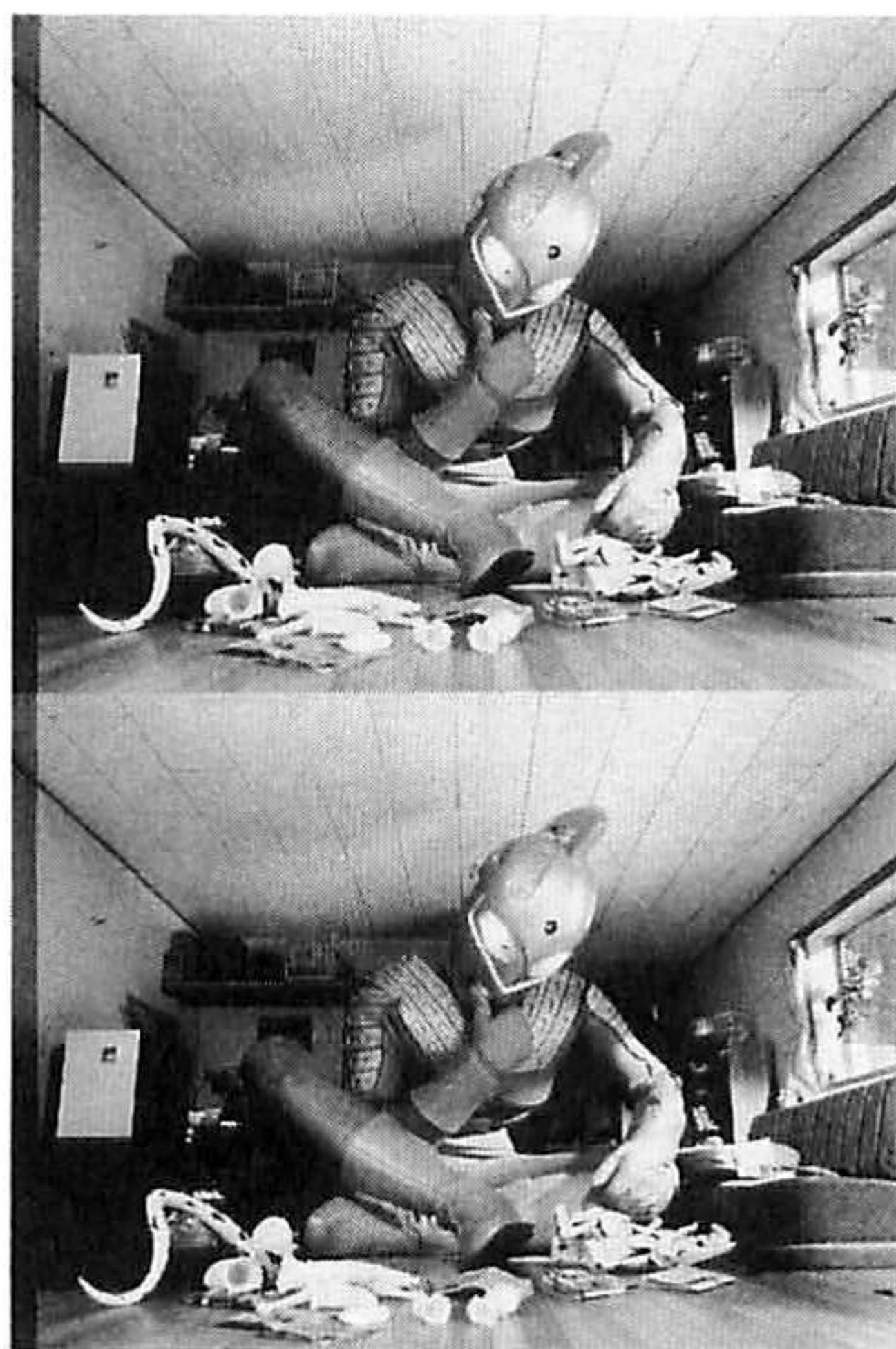
たしかにウルトラマンはシリーズの代名詞、スーパーマンでありビートルズといえる。対してセブンはバットマンやストーンズのようにイカしてる!!

「泉昌之さんのウルトラ漫画はもちろん知ってます。ただ今回考えたのはアレほど貧乏でもなければ、高級マンションでもない、ぼくらの一番リアリティある部屋の設定。そのために実はすべて精巧なミニチュアなんです。ヤンマガや新聞は5㎝大のものを特注したんです!」

部屋がセマいという、ただそれだけの理由でセブンを登場させてしまった斎藤さん。まさに〈おたく〉的な発想。あくまでこだわり続けるその姿勢。コレは、おたクリエイティブといってもいいだろう。

斎藤さんには「おたクリエイター」の称号を与えたい(その後、彼は超合金でセマくなった自分の〈お宅〉から、もっと広い部屋へ引っ越したそうである)。

アパマンのテレビCM

11

『ヘドラ対ビオランテ』2大怪獣ゲルゲロ相対比較論!!

いよいよ期待の'90年正月映画『ゴジラ対ビオランチ』が12月16日に公開される。今回はタダの映画紹介でなく、おた天ならではの2大怪獣・相対比較論なのだ！

さて、ビオランテのグロテスクさは、あのヘドラ以来だと感じた人も多いハズ。ゲル状、ゲロ状、捉えどころのない不定型イメージだ。

でもヘドラが、ネガティブな死の世界を感じさせる〈奇形〉なのに対して、ビオランテは〈異形〉＝エイリアンなのだ。

そう、ひずみによって得られた造形ではない。触手、粘液、よだれ、糸引く感じはエイリアン通過後の悪夢感覚なワケ。

まさしくギーガー以降の怪獣に対して、クラシックな怪獣ゴジラはどう立ち向かうのか(!?)というあたりが、今度の新作ゴジラの見どころだ。

それではヘドラとビオランテの共通点である。

ヘドラはヘドロから生まれた突然変異生物、ビオランテはゴジラ細胞から遺伝

『ゴジラ対ヘドラ』
'70年7月24日公開
監督・坂野義光
特技監督・中野昭慶

子工学によって生まれたバイオ生物だ。こんなにもトレンディな怪獣は、モスラ、ラドン、キングギドラ……と怪獣界を見回してみても、ちょっといない。

公害問題やバイオ・テクノロジーの話題といった「時代性」の逆説がこの2匹だ。もっとも、核実験のあと登場したゴジラそのものも、時代の子供なわけだけど。

そして、この2作品は、作品そのものも時代性を高く感じさせる。

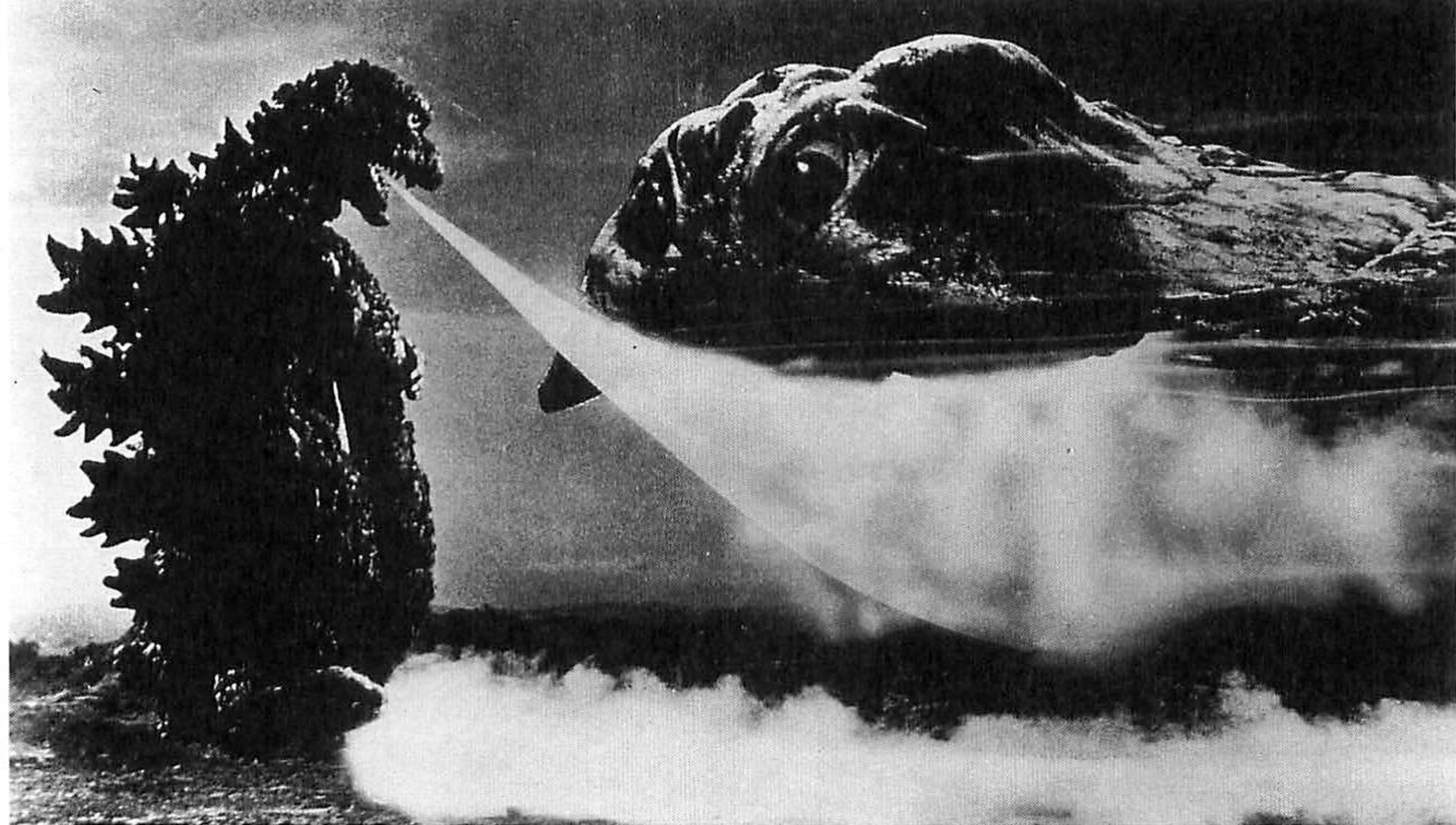
'70年のヘドラでは、ゴーゴークラブの壁面に映ったサイケ模様のイエイエ映像をバックに、ボディ・ペインティングしたヒッピー女が公害ソングを歌っちゃう！

♪水銀、コバルト、カドミウム、鉛(なまり)、硫酸、オキシダント〜、シアン、マンガン、パラジウム、クロム、カリウム、ストロンチウム〜〜〜♪(今考えるとラップにも近い歌だ)

う〜んハプニング。'70年代を知り爆笑したければビデオ屋へ走ってほしい。

そして'90年正月映画ビオランテは、登場人物の誰もがオシャレにキメ、自衛隊の司令室もCG画面＋レバー操作攻撃とシミュレーション・ゲーム感覚！自衛隊ドラマとしても楽しめる怪獣映画なのだ(協力・防衛庁)。

『ゴジラ対ビオランテ』
'89年12月16日公開
監督・大森一樹
特技監督・川北紘一

写真提供はすべて東宝ビデオ

出てくるワードも「筑波の研究所」とか「M I T（マサチューセッツ）」とか、それっぽい。

また、超常科学の話題も盛り込まれ、ゴジラの出現を予知した超能力少年たちがいっせいにゴジラのクレヨン画を描きあげるシーンのインパクトはもの凄い。

こうなったら、ゴジラ対アキラを実現してほしいぜ。

ゴジラ本来の原始性を〈プレモダン〉だとすれば、化学によって生まれたヘドラは〈モダン〉。ビオランテはポストモダン科学（遺伝子工学）によるまったく新しいモンスターといえるだろう。

そう『ゴジラ対ビオランテ』それはプレモダン対ポストモダンの戦いなのだ!!

12 涙なくしては見られない、不幸ポップアニメ『さすらいの太陽』にボクは泣いた!!

コレは一言でいってアニメ版の大映テレビだ。しかも、いい時の大映。なにしろ、コレでもかコレでもか、の負性(ヴァルネラビリティ)のオンパレードなのだ!!

不幸を背負ってアイドルをめざす。この〝スター誕生〟アニメの設定を紹介する。

①同じ日、同じ病院で生まれた2人の女の子が悪意を持った看護婦によって、すり替えられ、②1人は山の手の社長令嬢、1人は下町のおでん屋の娘として育てられる(どちらが主人公か、もうおわかりですね)。

③17年後、2人は共にアイドルを目指すライバルに。④(令嬢のハズの)主人公は父を亡くし、盲目の母と幼い弟妹を支えて、ギターの流しをしながら自作曲「心の歌」を歌い歌手を目指す。⑤それに対して、何不自由なく育てられた(ビのハズの)ライバルは財力と権力によって歌手を志す。

う〜ん、アリガチ! どうです、まるで絵(アニメ)に描いたようなストーリー、負性の嵐でしょう。お見事な「天国と地獄」の構図。

実際、後に大映で『乳姉妹』という、すりかえ運命モノ(ライバル役・伊藤かずえが好演)が始まった時には、ボクはこの『さすらいの太陽』を思い出していた。

『さすらいの太陽』
'71年4月8日〜9月30日フジテレビ系放映

そのうえ、お互いに兄妹だとまだ知らない、幻の兄ファニー(スゴイ名前)が、ボクサーとして現れたり、主人公のぞみを応援する寅さんのような性格の下町の親分・熊五郎も登場して、ドラマに華(はな)をそえたのだった。原作は『宇宙皇子(うつのみこ)』で今をときめく藤川桂介(当時、少女コミックに連載された)。旧虫プロの問題作である。

山口百恵、豊川誕など、不幸を背負ったアイドルが活躍した'70年代。モモエは貧乏な家庭に生まれた少女のサクセス・ストーリーだったし(♪いい日旅立ち〜)、豊川は何と、みなしごだった(♪かわいそうな、星めぐり〜)。

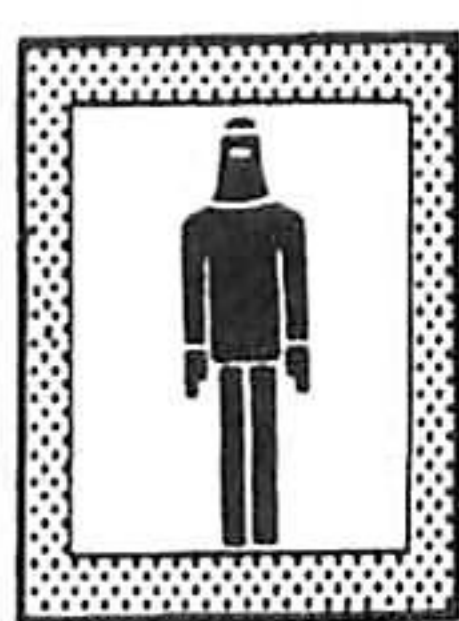
貧しくっても不幸でも、希望を持って生きていこうよ('70年には岸洋子『希望』という曲もあった)。'70年代の、そんな時代性を「さすらい」+「太陽」というワードが象徴していたように思う。

しかし。この、みごとなくらいの負性の嵐は「暗〜い」とか「くさ〜い」を通り越して、もはやポップですらある。

そう、ボクはヘンなドラマを見て単にバカにしたり、笑ったりしたいのではない(そういう馬鹿は多い)。本当に感動も

ライバル香田美紀(左)とヒロイン峰のぞみ(右)。すりかえられた運命を持つ2人は、共に高校2年生、17歳という設定だった

したいのだ。涙もろいボクは基本的に、ヴァルネラブル（攻撃誘発性）なポップが大好きさ。
アニメには珍しい芸能モノだけど主題歌「さすらいの太陽」、そして副主題歌にもなった「心の歌」も、ともに名曲（いずみたく作曲）なので探してゼヒ聴いてほしい。
さて、何年か前から、ＴＶアニメ界にも復古ブームが訪れた。
『おそ松くん』『がきデカ』『ひみつのアッコちゃん』『魔法使いサリー』『ムーミン』などのリメイクや、ある意味で復古調といえる『ちびまる子ちゃん』。
そんなレトロもよいが、この『さすらいの太陽』のような（テーマ的な）レトロの復活も期待したい。
しかも、実写ではなくアニメで子供たちに見せてほしいのだ。

13

ひゃ〜〜〜〜！政界もビックリ。土井たか子のコスプレ「おばットマン」見参‼

おばさんのバットマン、それが、おばットマンだ！

初めて見る者をギョッとクギづけにする、この出で立ち。コリャ、もうジョーカー以上の悪夢だ！　バットマンというよりはロビンに近く、ロビンよりもＳＭプレイの仮面に近いと思った。

何しろ社会党委員長がコスチューム・プレイをするという、前代未聞の暴挙に出たコトは単純にスゲエと思った。ココはコミケじゃないんだ！

コミケこと、コミック・マーケット名物のコスプレ。単なる仮装大会を超える、そのパワーをアナタは知っておるか？

アニメや怪獣もののコスチュームを着て盛り上がる、あのコスチューム・プレイのことだ。

そう、土井たか子扮（ふん）するおばットマンは、コミケット出身のマンガ家・一本木蛮（ばん）扮するラムちゃんと同じ記号なのだ！

だけどボクは、おばットマンを見て救われたような気がした。それは、まかり間違って土井委員長のラムちゃん姿を見なくてすんだ、というだけではない。

'90年１月26日、千葉県四街道市文化センターにさっそうと現れた我らが“おばットマン”。「私はバットマンだ！　悪人(自民党？) をこらしめてやる」と大声をあげて登場！　土井たか子社会党委員長の、あまりにも突然なパフォーマンスぶりに、会場に集まった1300人は大笑い！　大喜び！　(東京新聞'90年１月28日朝刊)

今の日本の政局を考えて心配してたことが解決したからだ。
今回の選挙結果はあっけなく自民圧勝。でも政権交代、保守逆転の可能性を感じてた人も多かったよね。その昔、長嶋

茂雄が「社会党政権になったら野球ができなくなる」と発言して失笑を買ったでしょ。
同じように、もしも日本が社会党政権になったら、おたくは排除されるんじゃないかって心配してたワケ。
今は〈自由主義〉だからアニメに狂ってても、おたくやってても、よかったケド、〈社会主義〉になったとたんに、「おたくってのは社会性ない！」とか言われたりしたらどーしよう、なーんてね。
でも、コレでもう大丈夫!!
なんてったって、党首自らコスプレだもん！　日本の女性パワーを代表する、カリスマがコスプレだもーん。
それにしても何考えてんだ、と思って調査してみると、千葉2区から当選した小川国彦衆議院議員の企画(しわざ)だった。この「おばッットマン」スーツは、彼の後援団体の主婦(おばさん)たちが土井サイズを見込んで作ったもの、という。
まさに、おばさんの中のおばさん、その名もおばッットマン！
選挙をショー化するという素敵な戦略、オウム真理党方式に打って出た社会党。こうなったら次回も土井たか子はコスプレで激サイティングしてほしい！
でも、土井ラムちゃんだけはカンベンだ。

14 おたく界史上最低の井戸端会議！宅&トミーの『ウルトラQ』よもやま話!!

24年前にタイムトリップし、よみがえった『ウルトラQ』！今回は、おたく界のおすぎとピーコと呼ばれる、宅八郎と友人トミーが対談形式で紹介しよう！

宅　というワケで、どーかしら？
トミー　監督がアノ実相寺昭雄でしょ、それに脚本が佐々木守なのよ。
宅　ウルトラマン、セブンで築いた黄金コンビの復活ね。でも私はシルバー仮面を思い出すわ、主役が柴俊夫だし。
トミー　万城目役ね。しかし中山仁の一ノ谷博士は若すぎるわよ。それに由利子役の荻野目慶子はドジで困っちゃう～～～。
宅　まったくもう、女にはキビシイんだからァ。私は宿屋のオカミ役・加賀恵子がよかったわ。
トミー　実相寺さんのお気に入り！
宅　そうよ、AV女優の。すご～い存在感なの。さすがに実生活で手首を何回も切ったこ

とある人ね。それに万城目の同僚役・堀内正美もいいわ。今は亡き故・岸田森の後継者はこの人かも！

トミー　ブキミでQ世界にお似合い。あと、脇役がスゴイ。小林昭二(キャップ！)、毒蝮三太夫(アラシ！フルハシ!!)、黒部進(ハヤタ！)、西城康彦(元祖一平！)と昔ナツカシイの。

宅　あまりにもウルトラな面々(笑い)だわあ。スタッフもそうだしね。

トミー　これは制作側の同窓会なのよ。でもウルトラQとしてみると、ちょっとつらい映画だわ。

宅　サイキックドラマ、オカルトなんだもーん。あまりにも神秘。でも、あの回転する(ギーバッタンギューー)タイトルはやってほしかったわ、ヤッパリ！

トミー　実相寺さんの前作は『帝都物語』ですもの、サイキックだわ。
宅　前世を信じる人、歴史読本やムー読んでる人にはオススメよ！　キーワードとしては自然破壊、古代史、浦島太郎伝説、かぐや姫、柳田民族学、暗黒舞踏、みそぎ、遮光機土偶（しゃこうきどぐう）、ノアの方舟！
トミー　すっご〜い（笑い）。あと、実相寺ファンにもオススメ！
宅　あの構図、ズーム、移動撮影がたまらないッ！「実相寺アングル」ね！
トミー　造形にかんしては古代神獣ナギラは今ひとつ。だけどミラーメタル・ワダツジン（宇宙の菩薩（ぼさつ））は美しいわ。
宅　それに特撮、とくに光学合成はすご〜くキレイ。土偶型ワダツ

'90年4月14日公開
『ウルトラQザ・ムービー／星の伝説』
監督・実相寺昭雄　特技監督・大木淳吉
キャスト／柴俊夫（万城目淳）、荻野目慶子（江戸川由利子）、風見慎吾（戸川一平）
高樹澪（星野真弓）ほか

ジンの超速海水弾も大迫力のコワさ！　ワクワクしちゃったあ。
トミー　そのへんの楽しさはあるケド、環境破壊で怪獣出現ってのはネェ？
宅　そうね、たしかに古すぎるのよ。でも、今回は同窓会として許しちゃう！
トミー　うん。みんな観に行ってくれると、今度こそ'90年代型ウルトラQが連作で見られるかもしれないしね！
宅　それを、楽しみに待とうよ!!

●しかし結果、興行成績はいま一つのようだった。ボクはこの映画の新聞広告コメントも書いたのだが……。
そのうえ、公開後「Wケイコの悲劇」が訪れることになる。すなわち、荻野目慶子の愛人自殺事件と、加賀恵子のアダルトビデオに関する職安法、児童福祉法違反容疑による逮捕である。
これも「ウルトラQのたたり」だったのか？
事件後、荻野目慶子はQと同じ松竹映画『陽炎』で奇跡的なカムバック。また加賀恵子は55日間拘留された。その間に、実相寺監督は接見し、いろいろと面倒をみたようだ。そして'90年11月29日に出された判決は懲役2年、執行猶予3年というものだった。
ところで、その後『ウルトラQ』の続編が製作されるという話は未だきいていない………。

DOCUMENT—②

御徒町大陥没事故 透明怪獣(ゴジラ)、東京に現る!!

「現実」と「虚構」が路上でクロスした奇妙な事故。模型報道の謎を追え! おたくノンフィクション・コラム『断面』を大泉実成が特別寄稿した!

'90年1月22日に発生した御徒町(おかちまち)大陥没事故。翌'1月23日の新聞朝刊は1面トップ記事でこの事故を報道した。

「22日午後3時ごろ、東京都台東区上野5丁目、JR御徒町駅北口ガード下の春日通りで、大きな爆発音とともに土砂が噴出、道路が長さ12・8メートル、幅9・6メートル、深さ5~15メートルにわたって陥没し、乗用車とオートバイなど車両4台が穴に転落した。この事故で車の運転手や通行人ら計10人が負傷した。JRは山手線と京浜東北線を約1時間ストップした。」(朝日新聞)

「現場の真下では、東北・上越新幹線の東京駅乗り入れのためのトンネル工事が行われており、警視庁では「シールド工法」に使われていた与圧空気が噴出、その勢いで土砂を吹き飛ばしたものと断定、工事関係者らから事情を聞いている。」(読売新聞)

ギャオオーン! 透明怪獣、東京に現る!!
御徒町大陥没事故の謎が今、明らかに!?

「ドカーン」突然大音響とともに、20メートルの高さに土砂が噴き上げ、ベンツやオートバイが大地に吸い込まれていった。それは、まるで怪獣映画の世界だった。

そして、事故の起きたその日の夜23時すぎ。ボクはもうひとつの〈怪獣映画〉を見た。

一連のニュースの後、『筑紫哲也NEWS23』(TBS系)にチャンネルを合わせたボクはアゼンとした。事故発生からたった8時間あまり。それなのに現場がソックリそのまま、精巧な模型になっていたのだ！　しかも事故には直接、関係のない街並までもが!!

隣に立って解説する筑紫哲也は、まるで怪獣だった。ウルトラQ「1/8計画」、8分の1に縮小された街に、現実の人間が迷い込んだ悪夢の擬似現実映像を思い出す！

目を疑った。コレ、いったい何考えてんだ、と思った。模型の存在に、必然性がまるでなかった。どうして街並まで作ってるんだ。そこがたまらなくうれしかった。

現実の「陥没」そのものが透明大怪獣が歩いた足跡のようだ。ボクはガイガーカウンターを近づけ、踏みつぶされた三葉虫を探したかった(ゴジラ第1作のように)！

対して模型は完全に特撮の世界だったのだ。

何よりのショックは、断面が模型化されていたコトだ。「御徒町の断面」、そんなものはプラモデルとして成立しない！　飛行機事故ニュースでよく登場するDC8模型とはワケがちがう!!

地下断面を現実に見る

新幹線トンネル工事原因
与圧空気が噴出

道路 大陥没
読売新聞
YOMIURI SHIMBUN
1990年(平成2年)1月23日 火曜日
さわやかな世界をつくる 新菱冷熱 SHINRYO CORPORATION

新幹線工事 真上で陥没 上野
通行人
朝日新聞
1990年(平成2年)1月23日 火曜日

ことは絶対にできない。どうやって復元したのだろうか!?

調べてみると、何とそのプロトタイプ模型は18時30分の『ニュースコープ』にすでに出現していたという。すると、事故発生からたった3時間!?

そんなタイムリミットのなかで、いったいどうやって造ったというんだ!?

この時間制限を書き記すコトのできる人間はほかにいない。ボクは、著書『説得』でエホバの証人輸血拒否死事件という、極限状況を鋭く描いた男に緊急連絡。まるで万城目と一平のように、ボクはその男、盟友・大泉をともなってTBSに急行した!!

事故当日に放送された『筑紫哲也ニュース23』。事故からたった8時間後に、この断面模型を見た宅八郎は戦慄におののいた!まるで特撮映画の世界に迷いこんだようだった!!

講談社ノンフィクション賞を20代で初めて受賞した新鋭・大泉実成が『説得』に続いて放つ、衝撃の問題作『断面』!〝時間〟という怪獣と戦った男たちの緊迫の8時間とは!?

特別寄稿

「断面」

大泉実成

騒然としている。

ずらりと並んだ各局のモニターには、長さ12・8m、幅9・6mの巨大な穴が映し出されていた。

15:04事故発生。ここ報道センターへ、上空へ

りから事故の映像が送られてきたのだ。
いくつものニュース番組セクションがひしめくTBS報道局。まるで巨大な蟻塚(ありづか)か迷路のようだ。少し外に出れば、穏やかな冬の午後の日射しが楽しめるというのに、まるで時空がねじれてしまったようなせわしさである。
「作りますか?」
『NEWS23』の柳沢が杉崎デスクに尋ねた。杉崎は「そうだな、一応用意しておいてくれ」と答えた。
15:40頃、『ニュースコープ』の千葉が全く同じ提案をしていた。
「でもON AIRまで2時間半しか……」
「やってみろよ」
太田社会部デスクの一言に、千葉は美術部へ電話を入れた。
美術部はその日社員旅行で箱根へ旅行に行っており、製作課には二人しか残っていなかった。その一人、上野はモニターに映る巨大な穴を眺めていた。噴き上がる砂柱の映像がはさまれる。『ウルトラマンを作った男たち』美術担当だった彼は「まるで特撮やってるみたいだな」と思った。
「出そうですね」一緒に見ていたデザイン課の山田が言う。その言葉に被せるように「今電話がかかってきました」という飯田デスクの声が響いた。
上野は即座に業者控室に電話を入れた。控室には光子館の岩本と、富士オートメーション営業の佐藤がいた。岩本は即興で大道具を作るベテランである。佐藤には東急ハンズに買い物に行って貰(もら)った。
「バイクと、ベンツを探してきてくれ、ベンツだぞ」
16:00。報道センターで合流した柳沢と千葉が資料を持って美術部に現れた。千葉が模型の構想を話しだす。
「春日通りとJR山手線の交差地点ということで、現場を上から説明したいんです。そしてもちろん、地下のトンネル部も判るようにしたい。ですから、地上部と地下部の二つの部分からできているものが欲しいんです。できれば、地上部はガ

ードが取り外せ、穴が見えるようにしたい。そして地下部は穴の部分を境目にタテに土台部分がパカッと分かれ、トンネル工事の構造が判るようにしたいんですよ」

千葉は手振りを交えながら必死で説明する。が、うまく伝わらない。それを見ていた柳沢が、スラスラとイラストを描きはじめた。

「そんなの2時間じゃ無理ですよ」渋い声で美術部の飯田が言った。

「それに、スコープ用に簡素なものを作ると、23用に作り直しができない……」

議論は平行線をたどった。時間がじりじりと過ぎていく。

――なんとか作業を始めさせなければ。

柳沢は

「23はないものと考えて、とにかく作ってみてください」

と言った。この一言で飯田が折れた。簡素化するため、地下部を絵にするという点では千葉が妥協。作業は事故発生から約1時間半後にようやく開始された。

岩本が設計図もなしにスチレンボードを切りはじめる。

資料は航空写真と住宅地図だけ。製作の総指揮は上野がとった。各局のモニターから

TBS美術部が極限状態の中で完成させた断面モデル2号。後ろでハシャぐは大泉と宅。ゴジラはたまたま(!)美術部にあったものである

情報を入手する。
見えない地下の断面図を絵にしなければならなかった。だがトンネルがいったいどこまで通っているのかわからない。そのため、図案が二転三転する。
16・40、上野が決定を下し図案室へ依頼をした。
岩本は独特のカンでみるみるうちに模型基部を作り上げていく。17時過ぎ、ハンズから車、バイク、列車、線路等のミニチュアを抱えて佐藤が戻ってきた。
デザイン課の山田、根本、竹内はドアの外から恐る恐る様子を伺っていた。
「こりゃ手伝わないわけにはいかんな」
現場周辺のビルを作るため、次々に小さな箱を組み上げていく。狭い室内にひしめき合いながらの共同作業である。その時、穴の位置がガードの反対側にあると報じた局もあったため、上野は一瞬「まさか」と動揺した。
箱はできたものの、ビルにするためには窓などの細かい加工が必要だった。だがそんな暇はない。
どうすればいいのか……。
「ビル写真のコピーを巻けばいいじゃないですか」と叫んだのは根本だった。試してみると味のあるビルが出来上がった。
ニュースコープ放映時間の18・30が静かに近づいてくる。最低でも18・20までにはスタジオに入れなければならない。図案室から断面図が上がってきた。だが、ニクロム線で穴を作り、全体に着色する作業が残っている。
18時過ぎ、待ちきれなくなった報道センターから催促の電話がかかってきた。

15・04、事故発生。タイムリミットまで僅か2時間となった16時半過ぎ、模型製作が始まる。そして『ニュースコープ』放映の18時30分が近づいてくる……。模型は本当に完成するのか？

どよめきが起こった。
ここは箱根「TBS千石原寮」。TBS美術部の

社員旅行先である。陥没事故を知ったスタッフは、モニターの前で息を詰めて待っていた。「僅かな居残り組だけで、どう対処したのだろう」。
ところが、周囲のビルまで盛り込まれたリアルな模型が出来上がっていたのだ。製作開始から2時間。事故発生から考えても3時間余しかたっていない。他局はフリップで説明するのがやっとである。ニュースの重なる時間帯だけに、その比較は痛快だった。
一行を率いてきた三原美術部長は、居残り組のチーフ・上野に即座に電話を入れた。激励(げきれい)とねぎらい、そして、他のニュース番組にも模型を流用させるように、という指示である。
上野が動く前に『ニュースコープ』を見た『モーニングEYE』のディレクターが飛んで来た。
同じ頃、『NEWS23』の柳沢は西落合の「ホビーセンターカトー」にいた。Zゲージから5インチまで、世界の鉄道模型を集めた模型専門店である。柳沢はマニアたちに交じって、精巧なミニチュアを選んでいた。一応完成した模型を、さらにレベルアップしようというのである。
渋谷の地図センターで手に入れた住宅地図には、ビルの階数まで入っている。穴のすぐ手前の雑居ビルは8F、駅を隔ててやはり8Fの吉池本館ビルがある。柳沢はその地図を横目で睨(にら)みながら同じ階数のビルを探し、スケールを考えながら線路を選んだ。
7時過ぎ、『ニュースコープ』の出演を終えた陥没模型が業者控室に運び込まれた。模型を発注したニュースコープの千葉から感謝の電話が入る。
「二度と出来ないよ」上野は苦笑まじりに答えた。
今回の事故は、圧縮空気で加圧して掘り進む「シールド工法」が原因になっている。この工法の詳細な資料がJRの記者クラブから送られてきた。
模型作りのベテラン・光子館の岩本は、トンネル部の地下断面図を立体模型にするため、自社工場へと戻った。
穴の上を渡るガードの上には、4本のレールが取り付けられている。上野にはそれが気に触った。
調べたところ、現実の御徒町駅ガードの上には、

皇居側から京浜東北線大宮方面行き、山手線内回り、山手線外回り、京浜東北線東京方面行き、上野—東京間引込み線、未使用線、上野—秋葉原間引込み線、の順で7本の線路が並んでいる。

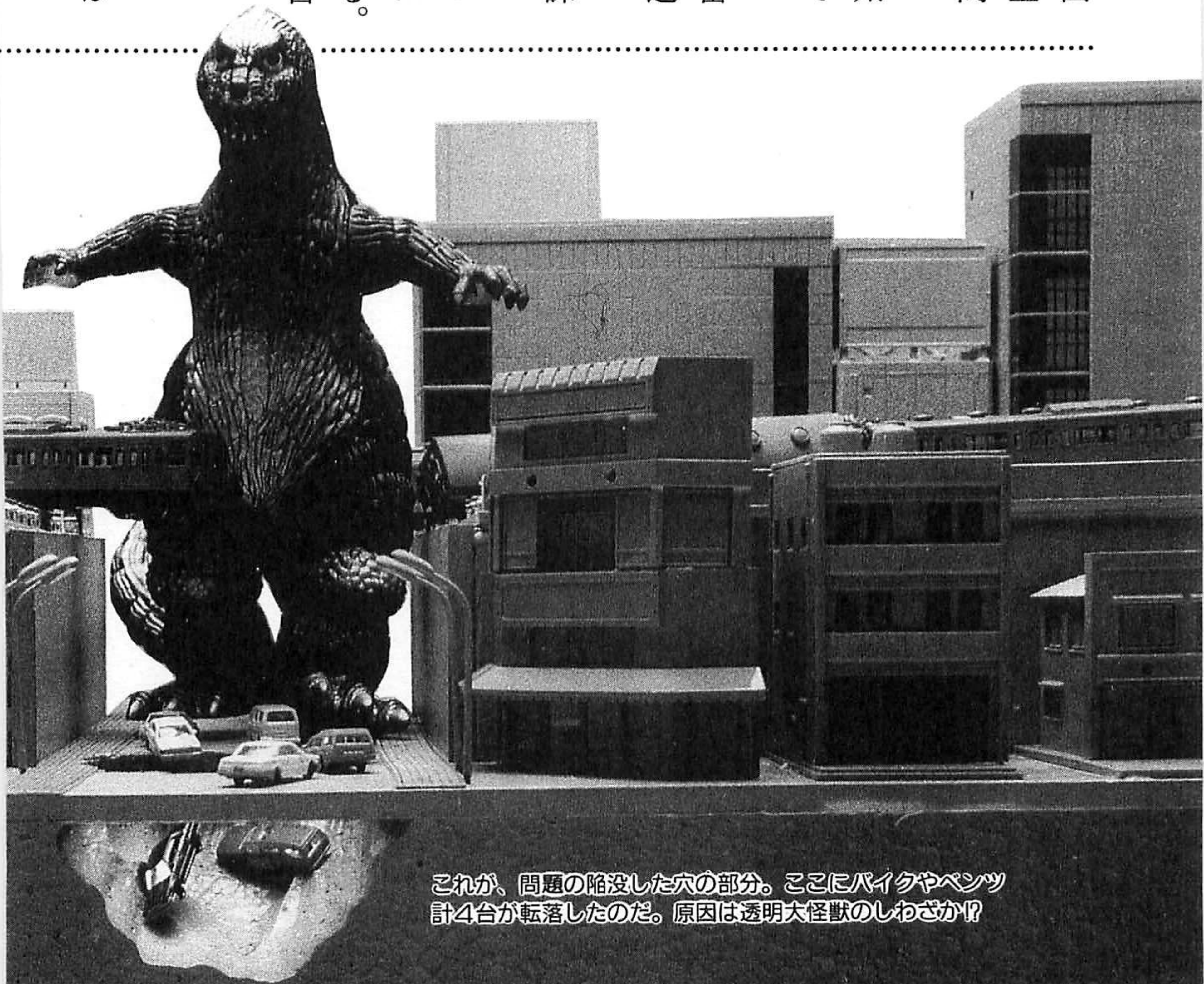
ところが、東急ハンズから買ってきた線路は太すぎて、4本しかガードの上に乗らなかったのである。

岩本と入れ替わるように柳沢が帰ってきた。富士オートメーションから小山と鈴木が、金井大道具からは渡辺が呼ばれ改造作業の中心となった。ニュースコープ・バージョンを作ったデザイン課の面々は、やっと解放されて食事に出かけた。

『NEWS23』はこの日、23：30放送予定だった。残りは四時間。たっぷりというわけではないが『ニュースコープ』の時に比べれば余裕がある。

彼らの目標は「とにかく作る」から「完全を目指す」へと変わっていた。

柳沢が買ってきたミニチュアと交換するため、作業はビルはがしから始まった。

「私はみんなでコピーを巻いて作ったビルのほ

これが、問題の陥没した穴の部分。ここにバイクやベンツ計4台が転落したのだ。原因は透明大怪獣のしわざか!?

うが好きでしたけれどね。味があって」。ビルをはがしながら、上野はかすかな痛みを感じていた。

次に線路がはがされた。ところが、スケールを合わせて買ってきたはずの新しい線路がどうしても6本しか入らない。確かにスケールは合っていた。しかしそのミニチュアは精巧すぎて、枕木を支える敷石の部分を広くとりすぎていたのだ。

「6本で妥協しても視聴者にはわからないんだが」。しかし、上野はどうしても思い切ることができなかった。なんとか7本にならないか、なんとか……。

スタッフを見回す。

「そういえば『カトケン』(加トちゃんけんちゃん)のミニチュアが第6倉庫に残ってましたね」

同じ製作課居残り組の西川が想い出した。2人はすぐに第6倉庫に向かった。だが、倉庫にはカギがかかっていた。責任者を探したが、すでに退社した後だった。上野と西川は顔を見合わせ、しばらくの間立ちすくんでいた。

「カギをこわそう」

どちらからともなくそう言い出した。実行。7本の線路を持ち出す。彼らの立ち去った後のドアには、1枚の札がぶら下がっていた。

「ごめんなさい」

会議室でははがす作業が終わり、新しいミニチュアを接着する作業に入っていた。力をこめて加圧するため、スチレンボードが折れんばかりにたわむ。7本のレールもきちんとガード上に接着された。

実感を出すため、ビルは一つ一つ色調を変えて着色した。岩本が塩化ビニールで作ったトンネル部を抱えて帰ってくる。

11時、列車の前後を確認しながら線路の上にセットし、完成。

作業開始から6時間30分、事故発生から約8時間後のことであった。

23：30『NEWS23』のトップニュースとして陥没事故が報じられた。現場からの中継、専門家の話、そして出番がくる。キャスターの筑紫が隣に立って説明を始めた。説明のためにモニターに映っていたのは僅か20数秒だった。

模型は『ニュースコープ』後4時間の作業を経て、見違えるほどリアルにグレードアップされていた。説明する筑紫がまるで巨大怪獣に見えるほどだった。

後日、この模型に関して筑紫にコメントを求めた。彼の答えは「特別な印象はない」というものであった。（『断面』終わり）

筑紫哲也に見えないものを、ボクと大泉は見ていた。その時、2人の心は2人の体を離れ不思議な透明怪獣を見たのだ。

怪獣のしわざに見えた大陥没。そして特撮の世界へ引き込まれた事故模型。

製作したTBS美術部は「時間」という怪獣と闘ったのだ。

地球にはまたいつか、第2、第3の透明怪獣が現れるだろう。そして誰もが、自分のオキシジェン・デストロイヤーを探して、立ち向かわなければならない。

DIALOGUE——❶

SFからSMまで対談！

実相寺昭雄 VS 宅八郎

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

「おたくの神」にして「ウルトラの父」実相寺昭雄との密談記！24年ぶりに復活した「ウルトラQザ・ムービー」の公開直前に、この対談が行われた。異色作で知られる実相寺は「おたくの神」だ。そして、その映像はウルトラエイジにとっての「父」でもある。セブン12話・スペル星人にフェラチオさせる面白さってあるよね!?

宅　昔の「ウルトラQ」は撮ってないんですよね。

実相寺　そうです、僕は。脚本は2本書いたんだけど、オクラ入りになった(笑い)。ただ、その時が円谷(つぶらや)プロに行った最初なんですよね。そういう意味で今回、24年ぶりに監督できたのは感慨無量(かんがいむりょう)ですね(笑い)。「ウルトラマン」でも「怪奇大作戦」でもなく、本家の「Q」をやれたってことはね。

宅　今回お撮りになるのに、昔の「Q」を意識したんですか？

実相寺　やはり設定とか、骨格とか構造はもともとの「Q」を生かしてますよ。今回はリゾート開発なんてことがテーマになってて、そこはやはり「Q」らしいと思ってる。つまり、怪獣は自然のシンボルである、という原点に還(かえ)ったんですね。

宅　なるほど。ところで、円谷時代のエピソードを自伝的につづった小説「星の林に月の舟」がありましたね。あれはすごく特撮おたくの間では話題になりました。

実相寺　あれね、小説では自分のことは美化して、他人のことはからかうっていうタテマエで書いたんだよ(笑い)。

宅　TBSでTVドラマ化されてますよね。'89年の「ウルトラマンをつくった男たち」。実相寺さん役は三上博史さんでしたね(笑い)。

実相寺　全然ちがうよね、三上さんは。僕とは、似てないよ(笑い)。それに僕はね、もっといいかげんだったですからね。

●間違えてスプーンを出したハヤタ隊員、畳の上に出たメトロン星人！

実相寺　愛着のある作品？　やっぱり、最近作ったモノのほうが愛着あるんだけど、シリーズとしては「怪奇大作戦」だね。

宅　なるほど。じゃあウルトラシリーズで、この1本っていうと？

実相寺　自分の好みだと『ウルトラマン』では「空からの贈り物」がいちばん好き。

宅　あ、スカイドンの！　あれは、ハヤタ隊員が

実相寺昭雄。'37年3月29日生まれ

フラッシュビームとまちがえてスプーンを出しちゃうんですよね。当時、ボク子供だったけど、すごくよく覚えてますよ。

実相寺　あのシーンはプロデューサーにすごく怒られたんですけどね（笑い）。セブンでも「狙われた街」でメトロン星人を畳の上に出したのは問題になりましたね（笑い）。

『ウルトラマン』第34話「空の贈り物」から。まちがえてスプーンを出したハヤタ隊員！

宅　四畳半の、ちゃぶ台の……（笑い）。

実相寺　でもね、そのへんのシーンを見た人たちは、いちばん強いイメージを残しちゃってるみたいなことはあるよね。子供のほうがずっと飛躍したものについてくる。大人だと、映像に説明を求めたがるでしょ。

宅　なんでこうなるのとかね。

実相寺　〝なんで画面傾けて撮るの〟とか。僕としては〝なんでまっすぐに撮るの〟って言いたくなるね（笑い）。

宅　ボクは、あの独特の傾いた構図を〈実相寺アングル〉って呼んでます。あれって、おたくにはファンが多いんですよ（笑い）。

●脇役のキャスティングにリアリティが生まれる。加賀恵子の存在感はスゴイ！

宅　「怪奇大作戦」には故・岸田森さんが出てたでしょ。今回の「ウルQ」の堀内正美さん（万城目の同僚・浜野役）は、岸田さんをかなり意識してんじゃないですか？

実相寺　そうそう。やっぱり当時の岸田さんをダブル・イメージして使ってるから。

宅　「ラ・ヴァルス」でも刑事役の堀内さんはすごく変質者っぽくて、よかったですよ。

実相寺　こだわる役は絶対に、自分でキャスティングするんだ。脇役を固めたほうが面白いからね。いちばんリアリティが出るでしょ。

宅　今回の「Q」のポイントは、堀内さん、それに加賀恵子さん（フシギな村の宿屋のおカミ役）じゃないですか、やはり。ボクそう思った。

実相寺　そう、それから寺田農（みのり）さん（万城目の上司役）もね。

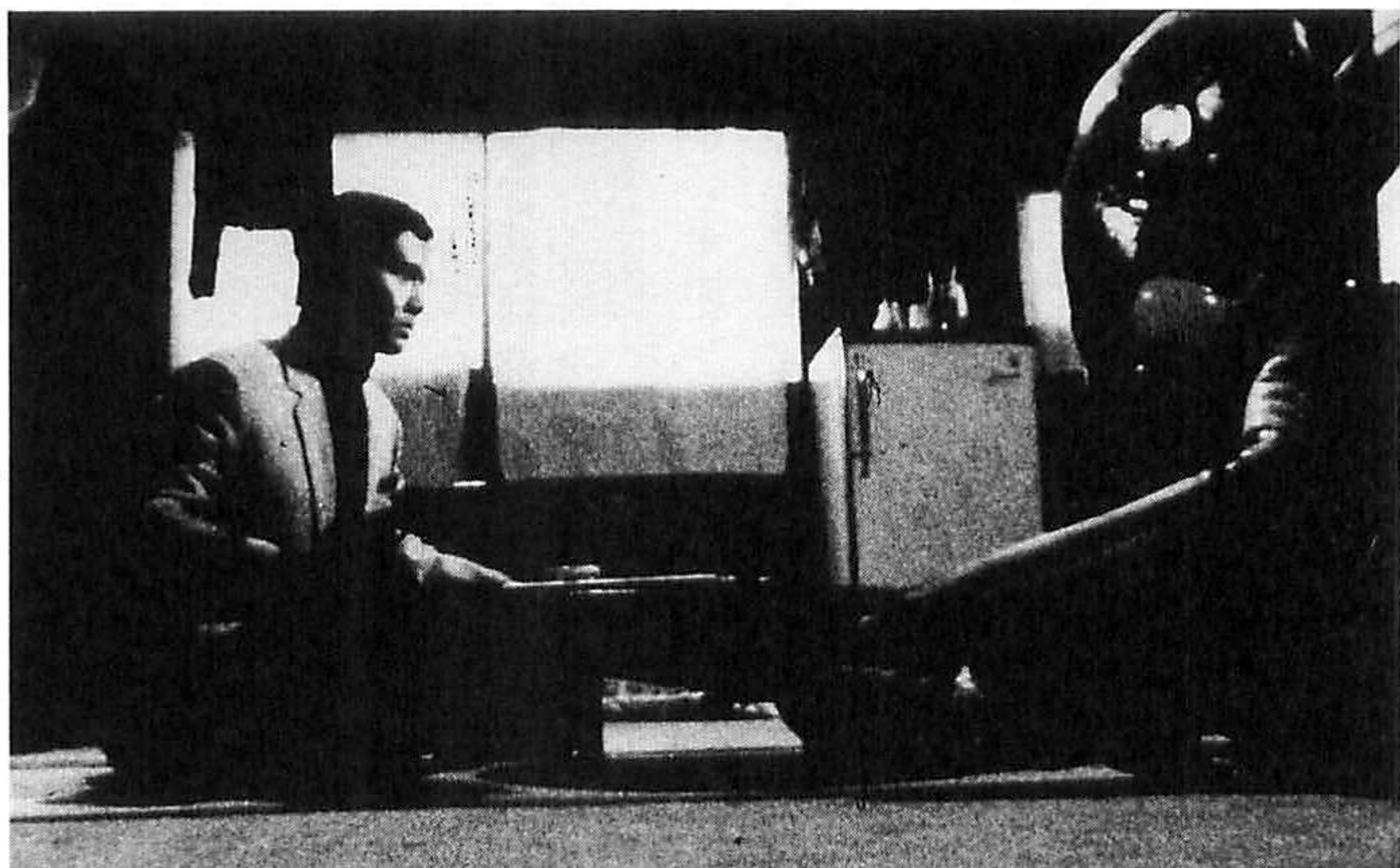
宅　わかるわかる。「ラ・ヴァルス」でこの3人を共演させてますもんね。ボク、昔から加賀恵子さん好きなんですけど、監督にもずいぶん思い入れを感じるんですよ。

実相寺　最初に「アリエッタ」で面接して気に入っちゃったんだ。今度の「Q」の彼女は宇宙人みたいな感じでしょ。ずっと続けて出てもらおうと思ってるんです。

宅　なんか、神々（こうごう）しいっていうか、加賀さんの存在感って独特のスゴイものありますよね。影があって、ワケありで、何かを背負ったような、ね。

実相寺　うーん、独特のものだよね。

宅　「アリエッタ」は現実に起きた〝ホテトル嬢殺人事件〟を題材にしたとか……。

実相寺　あれは、実際に取材したんですよ。そこで働いてた女の子に、事件の時のホテルの中の模

『ウルトラセブン』第8話「狙われた街」から。四畳半に座りこんだメトロン星人とモロボシダン

様とか全部聞いて。

宅　加賀さんは夫を亡くし幼子(おさなご)を抱えて、借金返済のためにＳＭ嬢になる主役でしたね。

実相寺　面接したら加賀さんが良かったんで、彼女のイメージで脚本を書いちゃった。

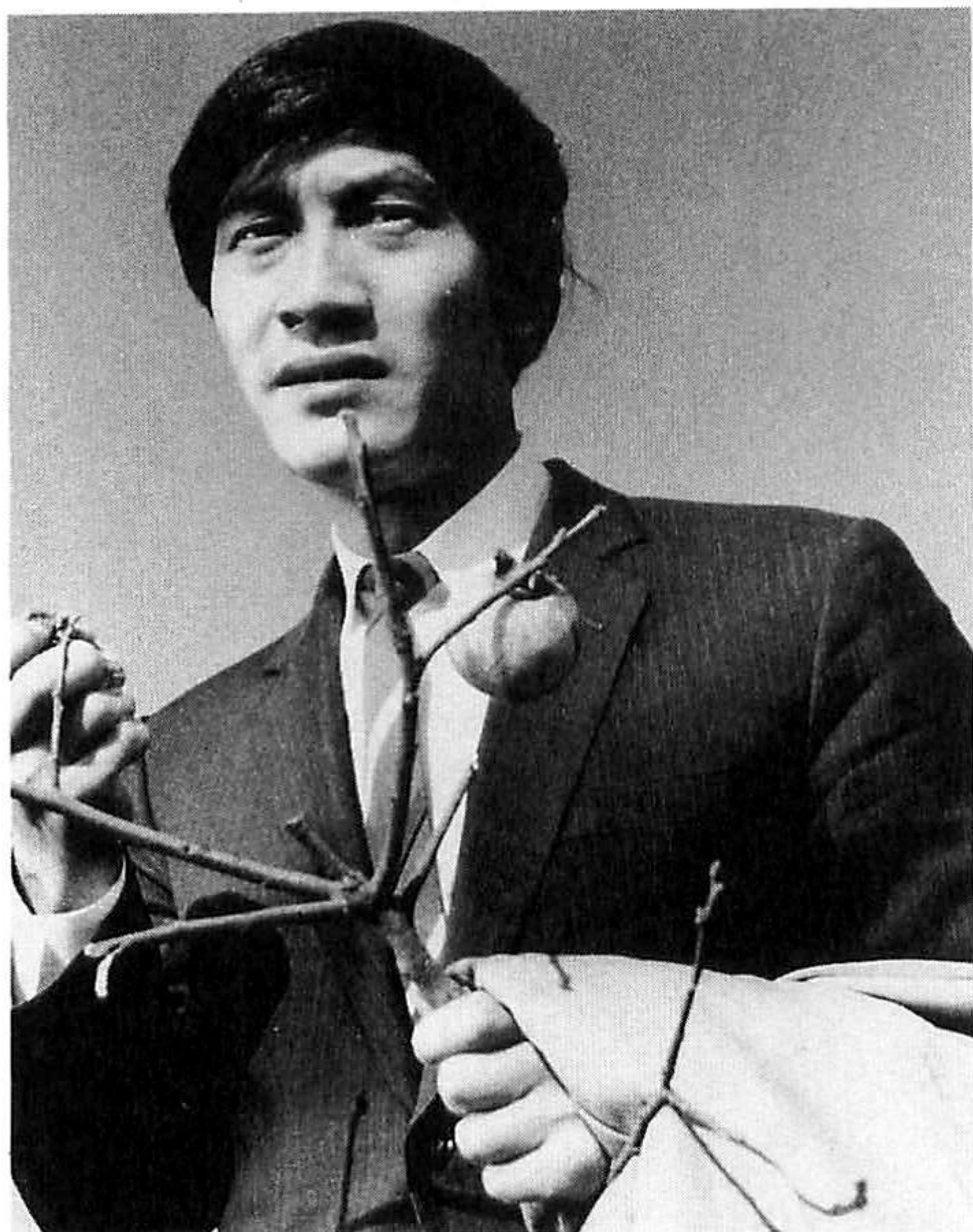
宅　加賀さんのインタビューとかもボクはよく見ててね、自殺未遂で手首を何回も切ってたり、子どもがいらっしゃったり。「アリエッタ」は、もしかしたら加賀さんの実生活にも近いんじゃないかって、思ったんですよ。

実相寺　近いかなあ(笑い)……。

●「小便を出せ！」すべて本物。リアルすぎてイケナイ映画

宅　「アリエッタ」だと、沙也加がＳＭの指導を加賀さんにしてて……。

実相寺　「ラ・ヴァルス」は椎名かおりがソープランドの技術を指導してるんだよね。

宅　沙也加とか椎名かおりって、ものすごくイヤらしくてボク好きなんですけど。

実相寺　彼女たちは本物だからね、出身が。沙也加はＳＭクラブでＳの女王様をやっていたし。沙也加と打ち合わせて実際の手順でやってるんだ。

「アリエッタ」で、沙也加が加賀さんの眼球をフォークで突き刺すマネして、小便出させたシーンね。

宅　ええ。あれ、ビックリしちゃいましたね。よかったですう。

実相寺　あれは映倫でリアルすぎて、イケナイな

『怪奇大作戦』'68年9月15日～'69年3月9日放映。怪獣がいっさい出てこない特撮もの。故・岸田森の演技が光る

んて言われて（笑い）。それを狙ってるんだけどね。「ラ・ヴァルス」で椎名さんのソープ・シーンの時も実際にやってくれってって言って、ビデオを1時間以上回しているの。

宅　えっ1時間、そうか。やっぱ、あのシーンは今までのアダルトじゃ、ありえないような、ものスゴイものを感じたんですよね。

ところでボクは沙也加さんもファンでね……。

（ストリップ劇場をまわって、苦労して撮った沙也加との記念写真を、実相寺昭雄に見せる）

実相寺　あ、ホントだ。機会があったら「ウチ」で今度ラッシュフィルムを見せてあげるよ。

宅　やったー！　ほんとですか。ぜひ見たいですね。

沙也加と宅八郎。ストリップ劇場のポラロイドショーを回って撮影したもの。実相寺に見せた写真である。なお、この記念すべき１枚は、宅のデビュー作「おたく大特集」完成日に新宿の劇場で撮影した！

●これはセミドキュメンタリーだ！
リアリズムの巨匠・実相寺昭雄

宅　それから「露出責め」とか「言葉責め」とかのシーンを見てたら、相当にSMのコトわかってるみたいで。いきなりですけど、実相寺さんSM好きでしょ！

実相寺　うん、SMも好きだよ、僕。僕の友だちがSMクラブやってたのね。僕も風俗にスゴく興味があって、そのへんのノウハウを作品に生かしてる。

宅　はあはあ。

見よ、本人も一匹の怪獣だ！

実相寺　「ラ・ヴァルス」でホテトルの事務所が出てくるでしょ、豊丸たちの。アレも、風俗関係者が本物だと思ったらしいよ(笑い)。

宅　「ラ・ヴァルス」だと、スカトロ男優の山本竜二さんが出ていて、今回の「ウルトラQ」にも使ってますね。怪獣・薙羅(なぎら)に殺される警官の役で。

実相寺　AV男優の池島ゆたかも「Q」のその役で出てたんだよ。「ラ・ヴァルス」で、彼がホテトル嬢役・鮎川真理をフェラチオさせるところ、すごくいいでしょう宅さん。ドキュメントっぽくて。

宅　ええ。「ナマでやれ！」みたいな感じで。レイプ犯役の竜二さんの演技も良かったですね。実相寺さんの撮るものって、見ちゃいけないような感じのエロスなんですよ。興奮していいのかどうか、考えこんじゃうんだよね(笑い)。

実相寺　(笑い)。

宅　実相寺さんがピンクチラシのコレクションをしてるってのも、ボク知ってますよ。今、何枚くらい集めてんですか？

実相寺　7000枚欠けるくらいかな。もう本当

は1万枚越してなきゃいけないけどね。もうちょっと早く集め始めてたらなあ(くやしがる)。
宅　「ラ・ヴァルス」で寺田農さんがピンクチラシのファイル見てますよね。あれ、実相寺さん本人のですか？
実相寺　そう。小道具としてウチ(お宅)から持っていったんだ。
宅　やっぱり。そうですか(笑い)。ビデオ見てて、これは絶対、本物だと思いました。
実相寺　あのチラシはね、新宿とか池袋とか、場所によって形が違うんだけどね。
宅　はー(笑い)。

●怪獣とAVの接点、それは「街」だ。
実相寺昭雄の原風景。

宅　ところで、川崎高(たかし)って、ペンネームですか？
実相寺　そう、僕の(驚く)。
宅　あー、やっぱり。〝川崎高〟脚本(共同執筆)のウルトラセブン「円盤が来た」。あのペロリンガ星人の現れる街と、「アリエッタ」で加賀恵子の住む街の風景が近いなあ、よく似てるなあって思ってたんですよ。何だかボクはそう感じた。
実相寺　東京と川崎で、ロケ地は違うんだけどね。
宅　そうかあ。でも、どこか近いなって思って。踏切のある街の風景がいいんですよ。カンカンカンカンって鳴ってるような。実相寺さんでしか撮れないリアリティだなあって感じしますね。
実相寺　「アリエッタ」は都電の荒川線のそばで、

『ウルトラマンをつくった男たち』('89年)。スペシャル番組としてTV放映された

あの辺はもともと、本籍地があったところだから。なんていうのかな、ボクの原風景みたいなのが、ひとつあるんですよ。

宅　あの街の雰囲気がね。騒音の入り方とか、実相寺映像を見てると、眼だけじゃなくて、耳にすごくきちゃうんです。

実相寺　ペロリンガ星人の、町工場の街とか、「狙われた街」とか、みんな環境、いろんなディテール、リアリティのこだわりみたいなことは、どれも共通するところはあると思うんだ。今度の「ウルトラQ」も、セット一つも使ってないのね。

宅　よかったのは、あの竹林から光がバーッと出るシーン。ロケかセットかわかんなかった。もうビックリしちゃった。

実相寺　あれもロケなの。でもきれいすぎてセットに見えてね、まずかった(笑い)。実際の竹林にライトを60個埋めたんですよ。ホントは200個にしたかったけど(笑い)。

提供・九鬼

'89年『アリエッタ』。実相寺が初めてAVに挑戦した記念碑的作品だ

●幻のウルトラセブン第12話に愛をこめて

注・欠番12話は、'67年12月17日に放送、その後'69年6月に一度だけ再放送された。スペリウム放射能に血液を冒されたスペル星人が、地球人の血液を採取する物語。'70年10月に「被爆者を怪獣扱いした」という抗議のため、自粛。現在は再放送もビデオ発売もされていない幻の実相寺作品。

宅　最も実相寺映像の影響を受けた世代って、ちょうどボクくらいの年齢なんで

すよ。宮崎勤くんとボクは、2日ちがいの同い年なんですけどね（笑い）。おたくには実相寺さんのファンは多いんです。

実相寺　何となく、わかりますよ……（笑い）。

宅　宮崎くんも、幻のセブン12話「遊星より愛をこめて」には執着してましたね。あの〝裏〟ビデオを秘蔵していてね。じつはボクも持ってるんだけど（笑い）。何だかメトロン星人の回に近いなあ、って思って。夕焼けの感じとかね。

実相寺　あれ、一緒に撮ったんだもん。2本撮りで「狙われた街」と「遊星より愛をこめて」は入ったからね。

宅　ストップモーションとか多く使ってて。

実相寺　そうそう。特撮でスチールを使った。

宅　ああ、12話は桜井浩子さんが出てましたね。考えてみれば、〝フジアキコ隊員〟（桜井）と、アンヌ隊員（菱見百合子）の共演（！）なんて、この一度きりですからね。12話は「幻の名作」だっておたくは思っちゃいますよ。

実相寺　忘れちゃったけど「遊星――」に関しては非常に病的に手紙を送ってくる人もいるよ。

宅　そうなんですか。あの件は確か、小学2年生のカード（当時、宅は小学2年）や怪獣図鑑が元になってましたよね。

実相寺　だから、図鑑を作る時に〈スペル星人に〈被爆星人〉という言葉をつけちゃったことから始まったわけでね。テレビ作品はまったく違うテーマなんですけどね。

宅　作品だけ見てたら、と。

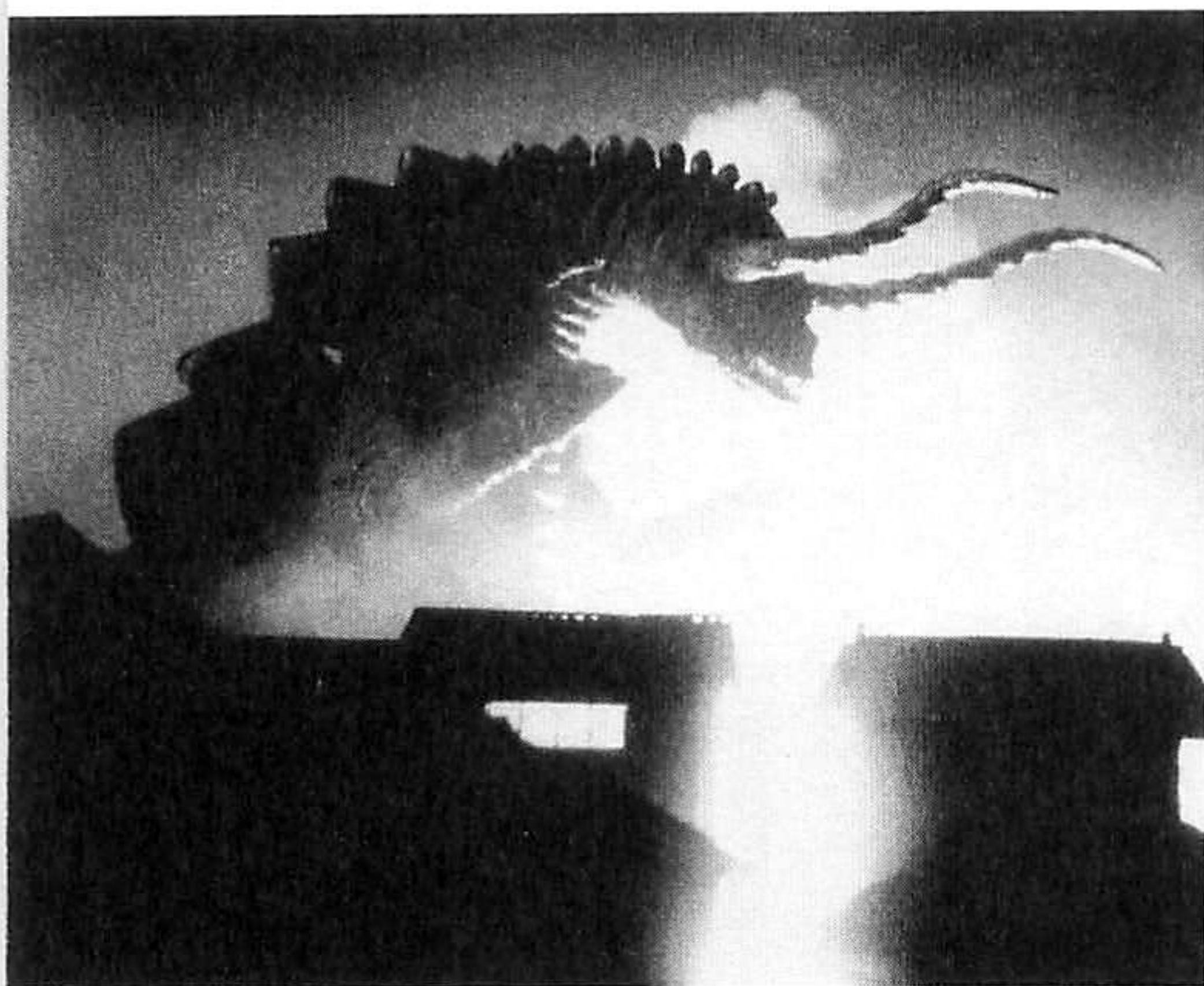
実相寺　だから、あのことの抗議やコメント依頼は僕や脚本の佐々木守のところにはまったく来てないんだ。1回も来てないの、僕のところには直

'90年『ラ・ヴァルス』。喫茶店の客からウェイトレスから、すべての脇役を人気AV嬢で固めた超ゴーカキャスト。小林ひとみ、豊丸、樹まり子、鮎川真理ほか

接。事件化した当時、コメントを求められたこともないんです。それも非常に不思議でしょ(実相寺が12話について語るのはこれが初めてだ、という)。

宅 抗議ってのは放送局とか出版社とか、上の権力にいっちゃうんですね。

●「ウルトラQザ・ムービー」は子供たちに観てほしい

宅 実相寺さんが追求していくテーマって?

'90年『ウルトラQザ・ムービー/星の伝説』

実相寺 それは影の部分でやれる世界なのかな。だから光と影の、いちばん際立つ世界じゃないかって気がする。そういう面白さってのはあるよね。興味があるね。

宅 わかりますね。加賀さんにしても堀内さんにしても、奥底にかかえてる影の部分って、すごく感じる人たちだし。ダークサイドの部分をね。

実相寺 主役が光なら、脇役は影の部分だしね。

宅 ウルトラシリーズとかと、アダルトを撮る時には区別ってあるんですか?

実相寺 ないよ。怪獣ものでも、アダルトでもジャンルは何でもイイ。子供ものだから、アダルトだからって意識はあまりないみたいですね。

宅 最後に、今回の「ウルトラQ」の話でまとめさせて下さいよ(笑い)。

実相寺 昔「Q」を観て育った人たちが、いま自分の中で増幅して神話を作ってるでしょう。それと同じように、今回の「Q」も子供たちが観てくれて、これからの神話を作ってくれるといいな、と思っていますね。

15 レプリカント森高千里が宣言する〈デクのポップ〉世界!!

ついにわが、おた天プロジェクトチームは人造モリタカ1号を完成させた！日本一のスタッフによる、超リアルフィギュア・モデルを見よ！

おたくの技術はここまで来たのだ。しかし我々はレプリカントのレプリカを造ってみたにすぎない。本物の森高千里そのものが生きたレプリカントだからだ。絶世の美女(アイドル)。この世のものとは思えないプロポーション。

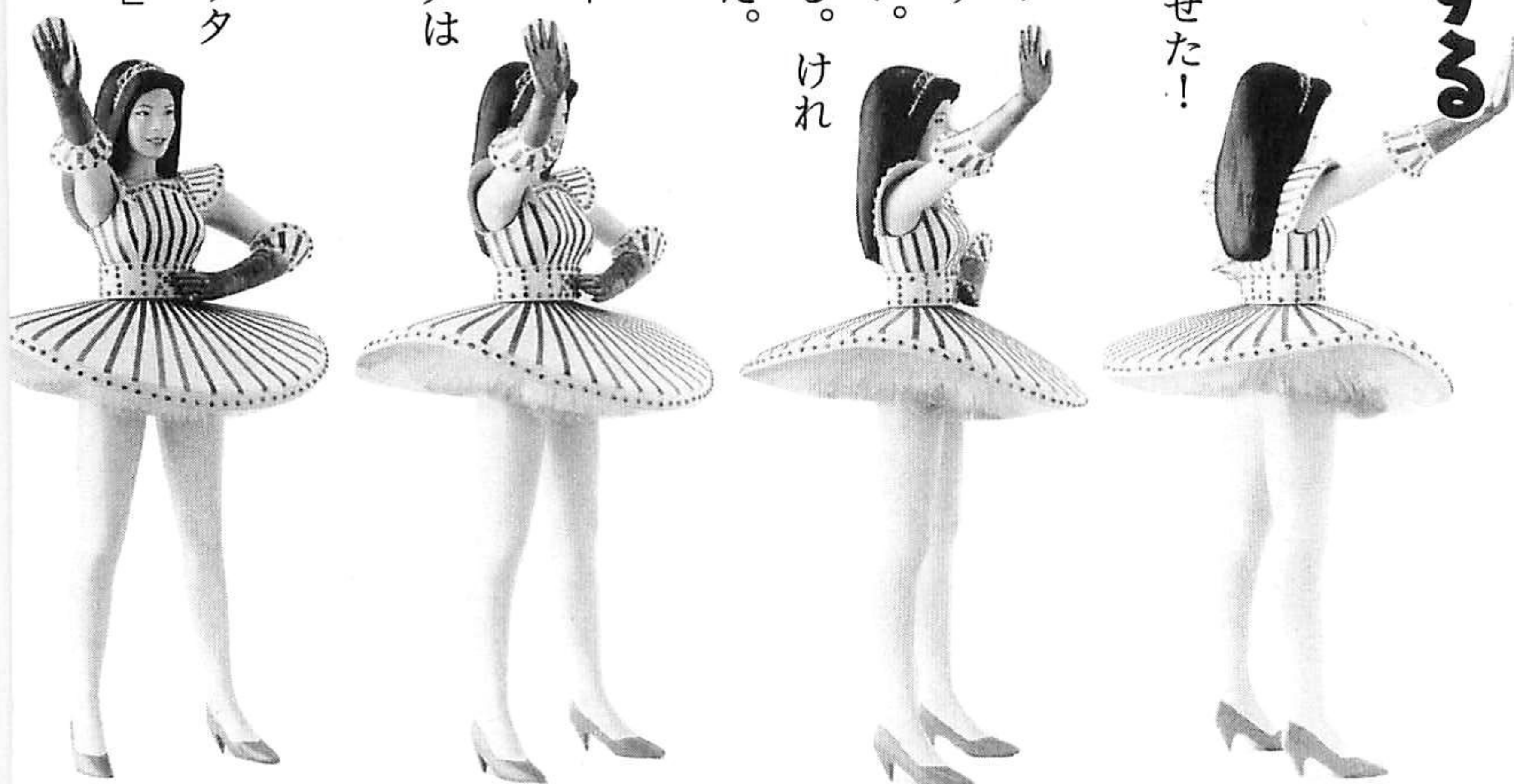
もちろん単にプロポーションが優れた美女モデルなどいくらでもいる。けれども、それは官能的、肉感的（グラマー）という意味しかもたないハズだ。

森高のカラダはそんなナマなもんじゃない。非肉感的肉体宣言！

そう呼んでしまいたいほど、インダストリアルな脚線。ソリッドでクールな表情。正気とは思えないコスチューム。

未来派デザイナーによって機械的に設計されたような流線形のカラダはとても人間のものじゃない！

モリタカのボディは工業デザインである。

生命感と現実感のないサイバーパンクな、とてつもないミニスカ。モリタカのコスチュームは〈宇宙服〉だ。ボクは森高千里を「宇宙服歌謡の女王」

と呼びたいッ。
ノーベル賞をとった科学者・利根川博士の夫人が「若者・新人類はおじさん・旧人類と遺伝子がちがう」と書いたことがある。まさしくモリタカは人間の遺伝子も生身の体を持っているとも思えない。

森高千里は怪獣だ！

まるでコスプレの女王、アニメキャラ。これほどに設計図をひき、〝設定資料集〟を作りたくなるアイドルは、いなかった。森高でなければ、こんなコト考えもしない。

だからこそ、すべてのおたくは森高のファンだといっても過言ではない。「やだなー」といわれても「ダメッ」「ダイキライ」といわれても「のぞかないで」と変態呼ばわりされても、だからこそ森高にひざまずきたい！

おた天プロジェクトが開発したモリタカ1号。アーマード森高も造りたいッ！

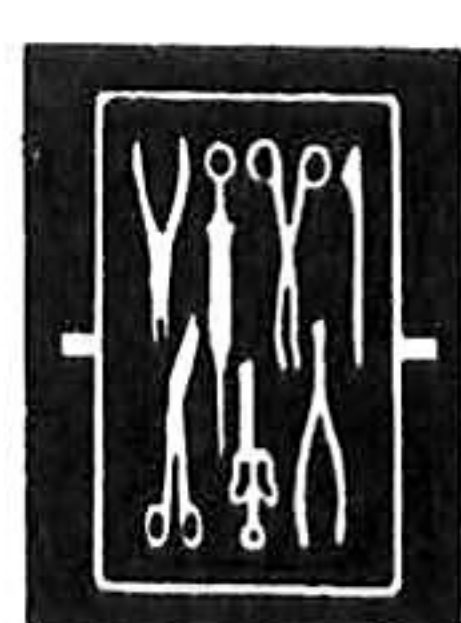
すべてのおたくは、森高サマの奴隷である。

森高千里は歩くポップアートだ。CDジャケットは彼女の姿が何体にも合成されたイメージ写真。ボクはアンディ・ウォーホルがプリントしたマリリン・モンローや、あのテクノポップ・バンドYMOのアルバム『増殖』を想い出し、100体の人造モリタカが行進する夢を見る。

プラスチック・アイドルの大行進だ。

そして、あの奇跡のアルバム『非実力派宣言』がたまらないッ。森高のプラスチック感覚は体だけでなく、天才的な作詞にもあるコトを証明してしまった！

かつて〈実力〉がもてはやされた頃、「デク人形」とか「デクの棒」というコトバは差別用語だった。

しかし森高は『非実力派宣言』で、輝かしい〈デクのポップ〉の幕開けを高らかに告げたのだ！

16 非実力派時代の女王・森高千里はメディアのファッション・マッサージ嬢だ!!

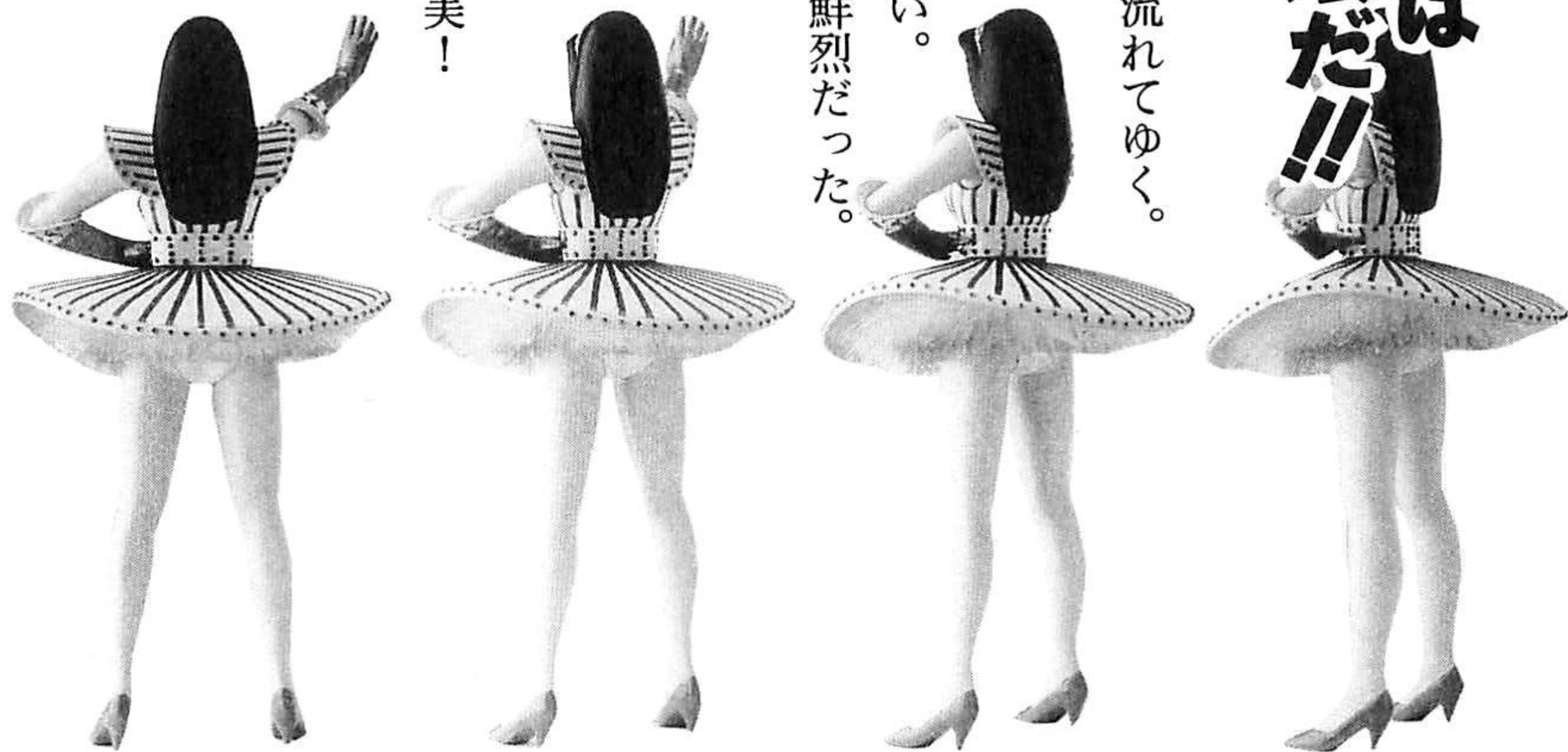
電波を通じて、印刷物にのって日本中へ一億二千万体の「森高千里」が流れてゆく。一目見てあまりにも強烈なインパクトの姿。歩くポップアート森高はもはやヒトではない。怪獣といってもいい商品(MONO)なのだ。

生身を感じさせないデク人形の美学は〈デクのポップ〉スターと呼びたい。かつての南沙織の名曲『17才』をカヴァーするプロモーション・ビデオは鮮烈だった。ビデオ合成でモニター上に分身した、3人3色の超ミニ森高が微笑み、歌い踊る。カワイイッ!

ボクは何度、自宅でこのビデオを見ながら、森高千里といっしょにデュエットで踊ったことだろう。ダンス! ダンス! ダンス!!

まるで、電子世界だけに存在するマックス・ヘッドルームのような虚構美!『ブレードランナー』の巨大なビル壁面のモニターに、この森高ビデオが映されたなら、とボクは夢見た。

しかも、このレプリカント・アイドルは自らが〈ニセモノ〉であるコトを自覚し、本人作詞で〈非実力〉という魔法の呪文を唄うのだ!

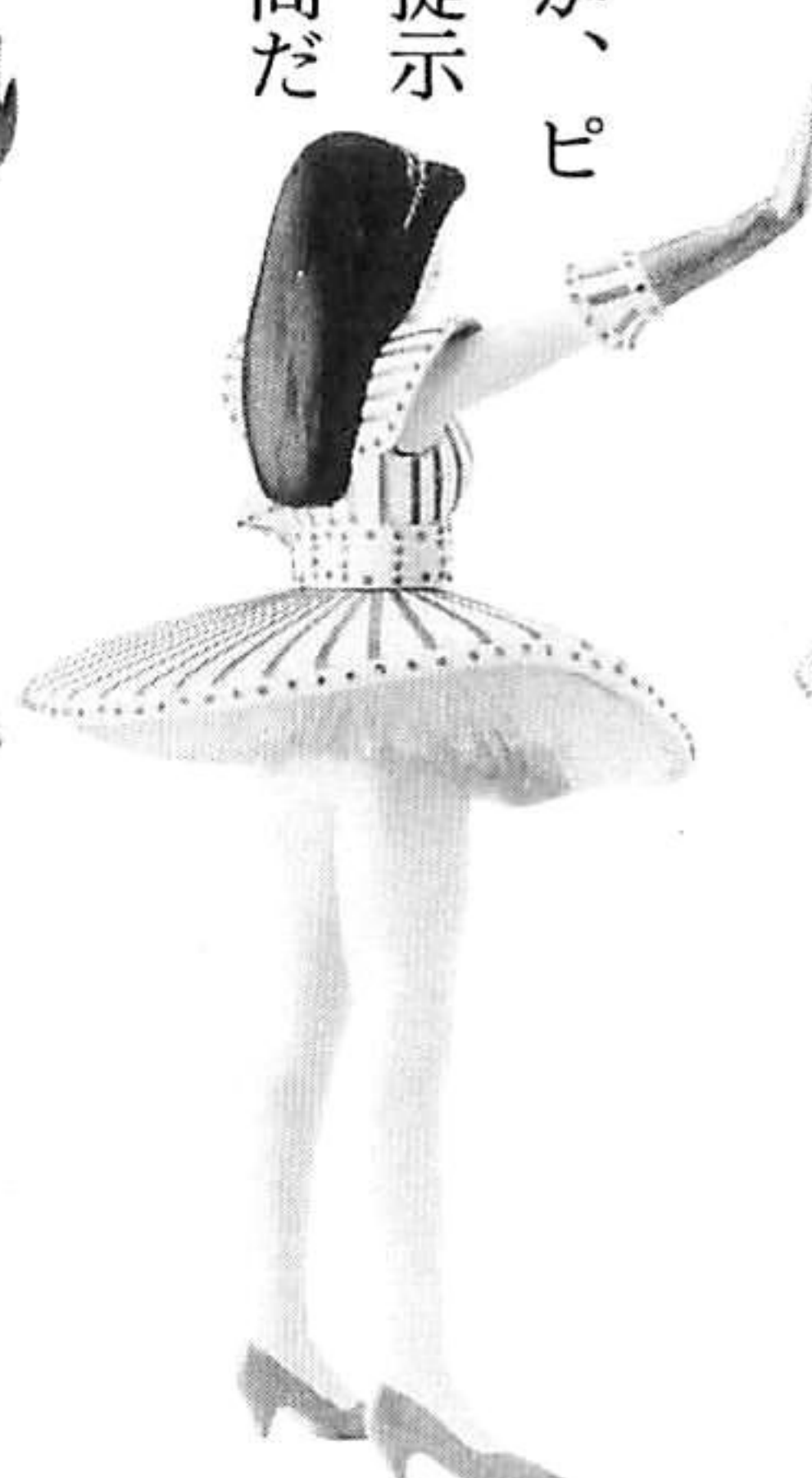
♪わたし、実力は興味ないわ。実力は人まかせなの。実力がないわ、

いいわ〜♪

実力と非実力とは何だろう。生身とレプリカ。ホンモノとニセモノ。現実と虚構。シニフィエとシニフィアン?……。〈非実力〉=スカなるものが、より強い魅力をもつ時代。もお、スカって最高!

『TVの国からキラキラ』で糸井重里が、ピンク・レディーで阿久悠+都倉俊一が提示したアイドル像。その最終完成形が森高だとボクは思う。

イデア=偶像。アイドルの語源。まさしく本来の意味でのアイドル、それが森高千里だ。あのピンク・レディーですら、本人が虚像だとは自覚してはいなかった。

モニター、ビデオテープ、印刷物の数だけ森高のイデアは永遠に複製される。あのミニスカ姿で永遠に。〈森高〉というシステムの先端に森高本人がいるというシミュラークル。そして森高はボクらをそそのかす。

「ねえ、今度私どこか連れてってくださいよ」「ヒュー」「ストレスがたまる〜〜〜ああグチャグチャよ〜」「ストレスが地球をダメにする〜」「イエーイ、イエーイ、エー」「あー海だ」「すごーい、波だー」。

本気かパロディか、まったくわかんない荒唐無稽な作詞、曲間のセリフはもはや不条理SFである。しかもそれはKYON^{2}の天性のアドリブとも違う。まるで渋谷を歩く女子高生のようなコトバ。

それは、〈実力〉の信者たちを打ちのめす、痛烈なアンチテーゼだ。森高にはすべての饒舌な論客を無言にする力がある。

最新作「臭いモノにはフタをしろ!」を聴いてッ!

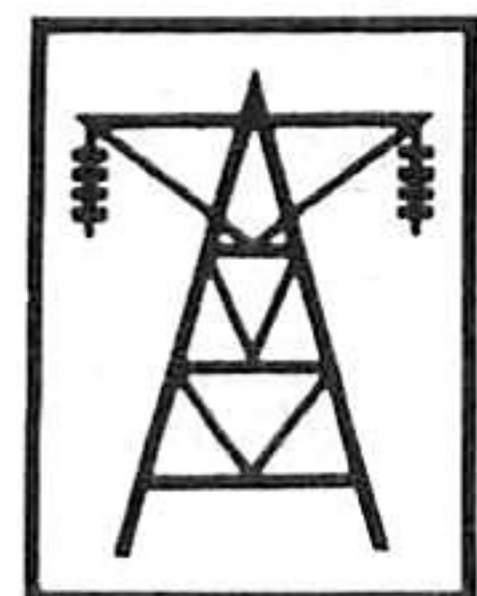
「臭い」といえば森高の無臭性。'70年代的な生活感の濃い山口百恵から、生活臭の希薄な聖子(+呉田軽穂)への世代交代があったのは'80年春だ。

徹底的な生活感の脱臭化。

そんな'80年代デオドラント文化の果てに、生活感どころか生命感さえ脱臭(朝シャン)してしまった究極のアイドルへ行きついたのか!?

　非実力時代の神話をつくりつつある、デクのポップスター。

そう森高千里は虚構世界〈フィリップ・K・でく〉ワールドを生きる、メディアのファッション・マッサージ嬢といえるだろう!

キモチイイ——!!

17

円谷英二こそが日本初の怪獣だった！ 巨人獣の来迎(らいごう)が「人間怪獣時代」を暴き出す!!

もっとも怖い怪獣は何だろう？　バルタン星人、レッドキング、それともゼットン……？

『ウルトラマン』に登場したどんな怪獣より、もっともっと怖かったのはフジアキコ隊員だった。巨大なフジ隊員が虚(うつ)ろな表情でビルの街に現れる。ウルトラマン第33話「禁じられた言葉」（メフィラス星人）の1シーンだ。

脳を直撃する映像。何かイヤだった。まったく同じアングルでバルタン星人がビル屋上に現れた時には、これほどの恐怖感はなかった。

どんな怪獣にもない巨人のリアリティ。あの奇妙な感覚は何なのだろう。

怪獣がデカイのは当たりまえだが、人間がデカイのはとてつもなく異様に見える。巨大感を強烈に感じさせるのだ。いかに優れたアイデアの、どんなによくできた造形の怪獣であろうとかなわない究極の怪獣。それがフジ隊員だった！

同じく東宝映画『フランケンシュタイン対地底怪獣(バラゴン)』や『ウルトラQ』の「変身」に登場した巨人。

そして、同じくウルトラQ「1/8計画」。縮小された世界に入り込んだ等身大の主人公・万城目と一平の2人はバチバチッと火花を散らし、そのミニチュアの街の電線を切断してしまった。そう、まるでゴジラのように。

これらの巨人たちの映像を見た時の不安感をボクは忘れない。現実と特撮の境界がぐらつくような不安感だった。それは何かを暴かれるような恐怖感でもあった。

フェリーニの『ボッカチオ'70』やカルトムービー『50フィート女の逆襲』など巨人映像は日本の専売特許ではない。しかし日本で最もハヤく巨人になったのは誰だったか?

それは特撮セットに立った特撮の神様、円谷英二だ!

その楽屋裏の風景は完成された怪獣映画よりも奇妙だったに違いない。それを見て巨人映像が逆説的に作られたのだろう。

そう、怪獣の父・円谷英二こそが日本初の怪獣だったのだ!

巨大であることを人は怪獣として、畏(おそ)れ、神として崇(あが)めてきた。巨大なブッダの手のひらの上で震えた孫悟空のように。

'65年『ウルトラマン』第33話「禁じられた言葉」より。メフィラス星人によって巨大化されたフジアキコ隊員

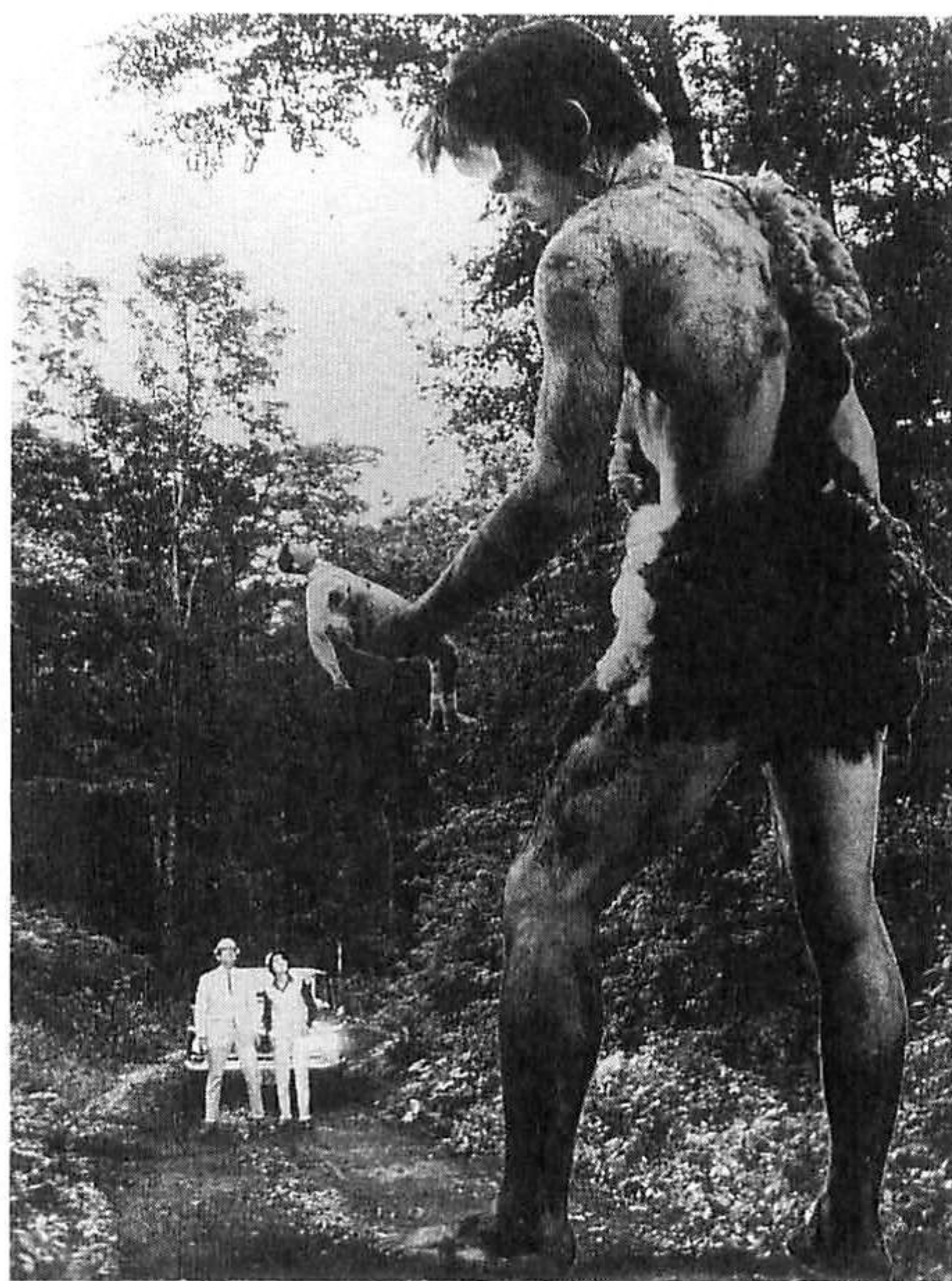
怪獣＝巨(おお)きい人。ガリバー旅行記をはじめとして世界には巨人伝説は多い。しかし、いったい何メートルから巨人なのか。10メートル？　5メートル？　2メートル？　ジャイアント馬場は怪獣なのか。

どこからが巨人であるとは言えまい。巨大だから怪獣なのでなく、等身大であっても人間は本質的に怪獣なのだ。

1933年、世界初の怪獣映画『キングコング』を見て、人生を決定した男が世界に2人いた。しかし、彼らレイ・ハリイハウゼンと円谷英二は『キングコング』にそれぞれ別のものを視ていたのかもしれない。

ハリイハウゼンはキングコングのオブライエンと同じく人形アニメ方式を選択し、その後シンドバッド・シリーズなどを発表。しかし1954年、円谷は世界初のぬいぐるみ方式の怪獣を考え出したからだ。

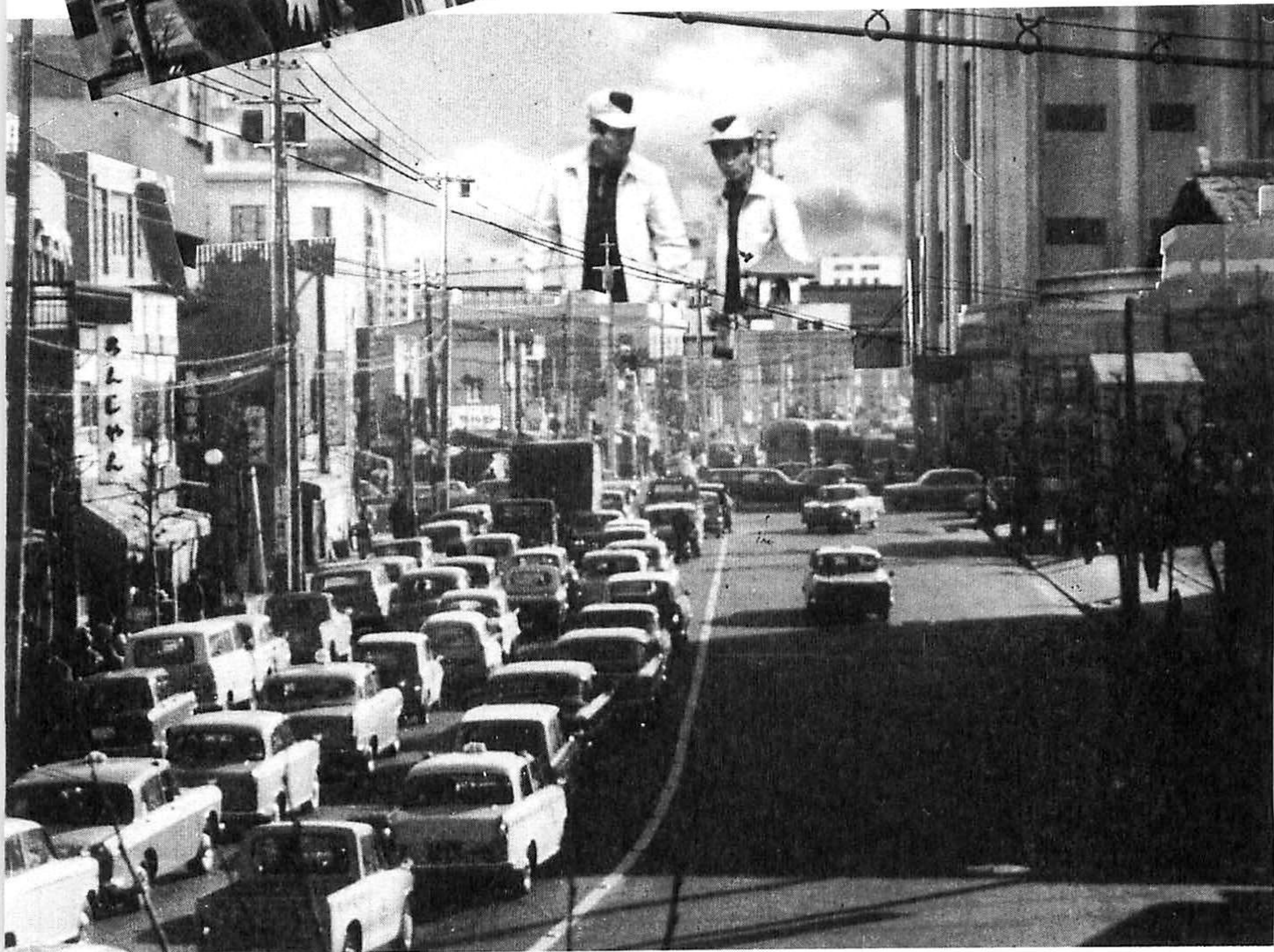
その名はゴジラ！

『ウルトラQ』第22話「変身」より。モルフォ蝶のリン粉を浴びて巨人になった、恋人同士

東宝ビデオ提供

'65年東宝映画『フランケンシュタイン対地底怪獣』。続編にあたる『サンダ対ガイラ』も製作された

円谷は人間自身が怪獣であることを感じとっていたのではないか。

人形アニメでなく、ぬいぐるみシステムのゴジラは人が入ることで、より怪獣らしくなったのである。

ゴジラの効果音をバックにAV女優・豊丸がウォーッと悶絶（もんぜつ）したアダルトビデオ『人間発電所』。

『ウルトラQ』第17話「1/8計画」より。縮小された街に入り込んだ万城目と一平

彼女はまさしく怪獣だった。豊丸の前に、男優たちは誰もが恐れをなした。

「助けてくれー」

人は誰もが心の中に一匹の怪獣を飼っている。

人間そのものが、人間こそが怪獣なのだ。

その本質＝畸形（きけい）をフジアキコ隊員ら巨人たちがわかりやすく拡大して暴いて見せたのである。

そう、おた天プロジェクトが製作した、驚異の人造人間モリタカ。あの森高人形は、人間怪獣時代を実証するものなのだ。

サンダ対ガイラ対、円谷英二！　特撮を指示する彼は、まるで怪獣の先生だ

18 FMW・大仁田厚のプロレスはつか版B級怪獣映画だ!!

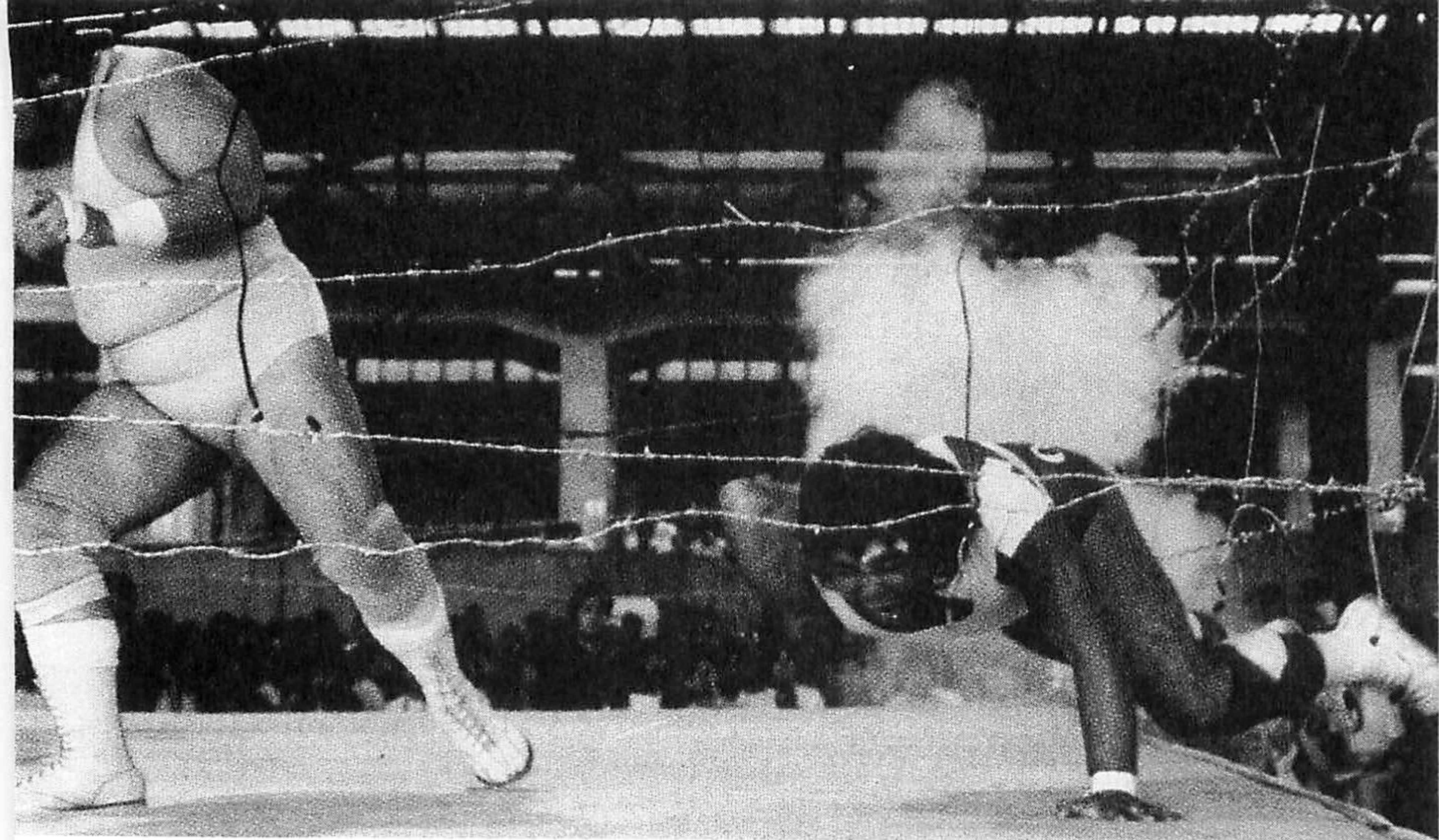
ギャオォ……ガオー、ガオー! 2匹の怪獣の咆哮がこだました。さる'90年8月4日に行われた「有刺鉄線・電流爆破デス・マッチ」! FMW(フロンティア・マーシャルアーツ・レスリング)の大仁田厚とターザン後藤の試合である。ロープのかわりに有刺鉄線を張りめぐらせ、200ボルトの電流が流されたリング。そればかりか120個の爆薬までもがセットされた。

「シャレにならんで」「もうイイからやめてくれ」の声をヨソに、FMWは言う。

「うちの売りはパンクなプロレスなんです!」と。

パンクスもビックリのリングは見ているだけで、痛い。誰もがこのリングには上がりたがらないだろう。あらゆる試練を耐え忍んできた、往年の稲川淳二でも裸足で逃げだすにチガイナイ。

感電しながら闘う2人。鉄線が肉を裂き、炸裂する爆薬が火花を散らす。強烈な爆破音がとどろく。

その後'91年5月6日に行われた「地雷爆破デスマッチ」

'90年8月4日に行われた、FMW大仁田厚対ターザン後藤戦。その名も「有刺鉄線・電流爆破デス・マッチ」

この電撃爆破空間はもはや地上にはない場所だ。いってみれば特撮の世界。レスラーは怪獣である。電流や爆薬は、まるで自衛隊による「怪獣攻撃作戦」だ。いっそ戦車やメーサー車も用意したいほど、このプロレスはもう怪獣映画である。それもA級作品『ゴジラ』や『モスラ』じゃなくて『サンダ対ガイラ』だ！
山の怪獣サンダと海の怪獣ガイラ（怪獣版・山彦VS海彦）の死闘はまさにプロレスだった。
身長50メートルのゴジラに比べて、グッと小さい30メートル級の怪獣。建物との比率は異様なリアリティ（巨大感）をかもし出し、躍動感あふれるアクションを見せた。
このスピード感＋暴力性はまさしくプロレス！
ところが大仁田と後藤は〝まるでプロ

レスのような怪獣映画〃のようなプロレス、を見せたのだ。
サンダとガイラは同じ細胞をわけたフランケンシュタインの兄弟という設定だった。人間ではない人造人間の哀しみを背負った兄弟同士の悲劇的対決。FMWの見世物小屋的な哀愁性にボクはそんな感覚を抱いた……。
そして試合終了後、泣きじゃくる大仁田の「涙」も見のがせない。
「オレも後藤もFMWが、プロレスがホントに大好きなんだあ——！」
涙のカリスマといわれる大仁田厚。
彼のマゾヒスティックな「男のロマン」はどこか、つかこうへい的にさえ見える。
ホモでマゾの美学。銀ちゃんとヤス。大仁田厚はプロレスで悲壮な「階段落ち」を演じ続ける男なのだ。
「怪獣映画」感覚をパフォーマンスするFMW。これからも、もっともっと過激な超娯楽を見せてくれ。
がんばれ大仁田、がんばれFMW！
ギャオオオーーン、ガオーーーーッ!!

東宝ビデオ提供

'66年東宝映画『フランケンシュタインの怪獣サンダ対ガイラ』

19 日本人のおたく性が怪獣化?『ミュータント・タートルズ』のルーツは忍者怪獣ジッポウだ!!

アメリカでいま、空前絶後の「亀の嵐」が起きている。日本でも'90年12月に公開される映画『ミュータント・タートルズ』(原題はティーンエイジ・ミュータント・ニンジャ・タートルズ)。TVや写真週刊誌、新聞でも、さかんに紹介されている「忍者亀」だ。アメリカでの公開3日間動員数は史上第3位。600種以上の、ありとあらゆるキャラクター商品が生まれ、大ブームとなっているのだ。

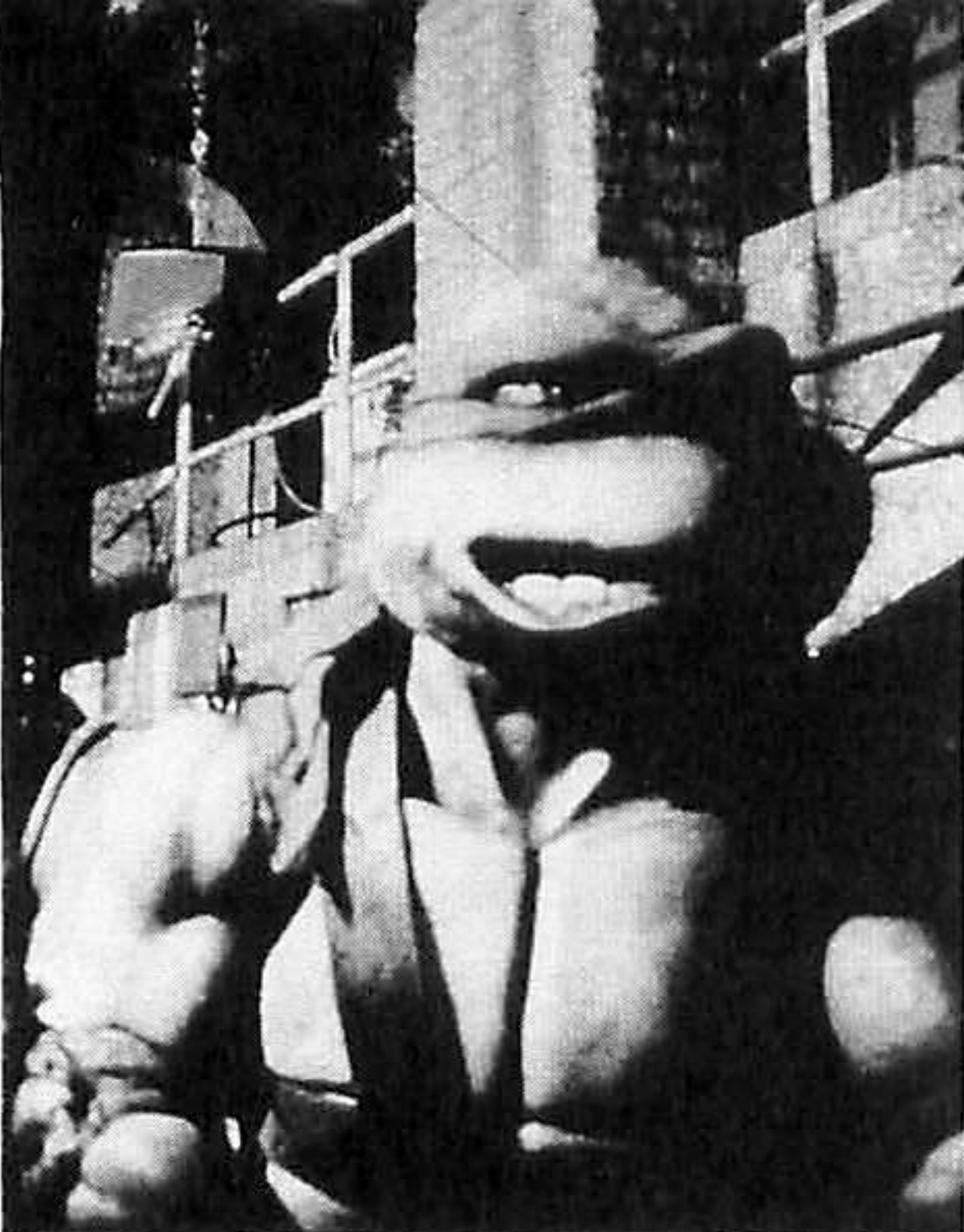
ボクはこの「亀」をひとめ見てジッポウを想い出していた……。

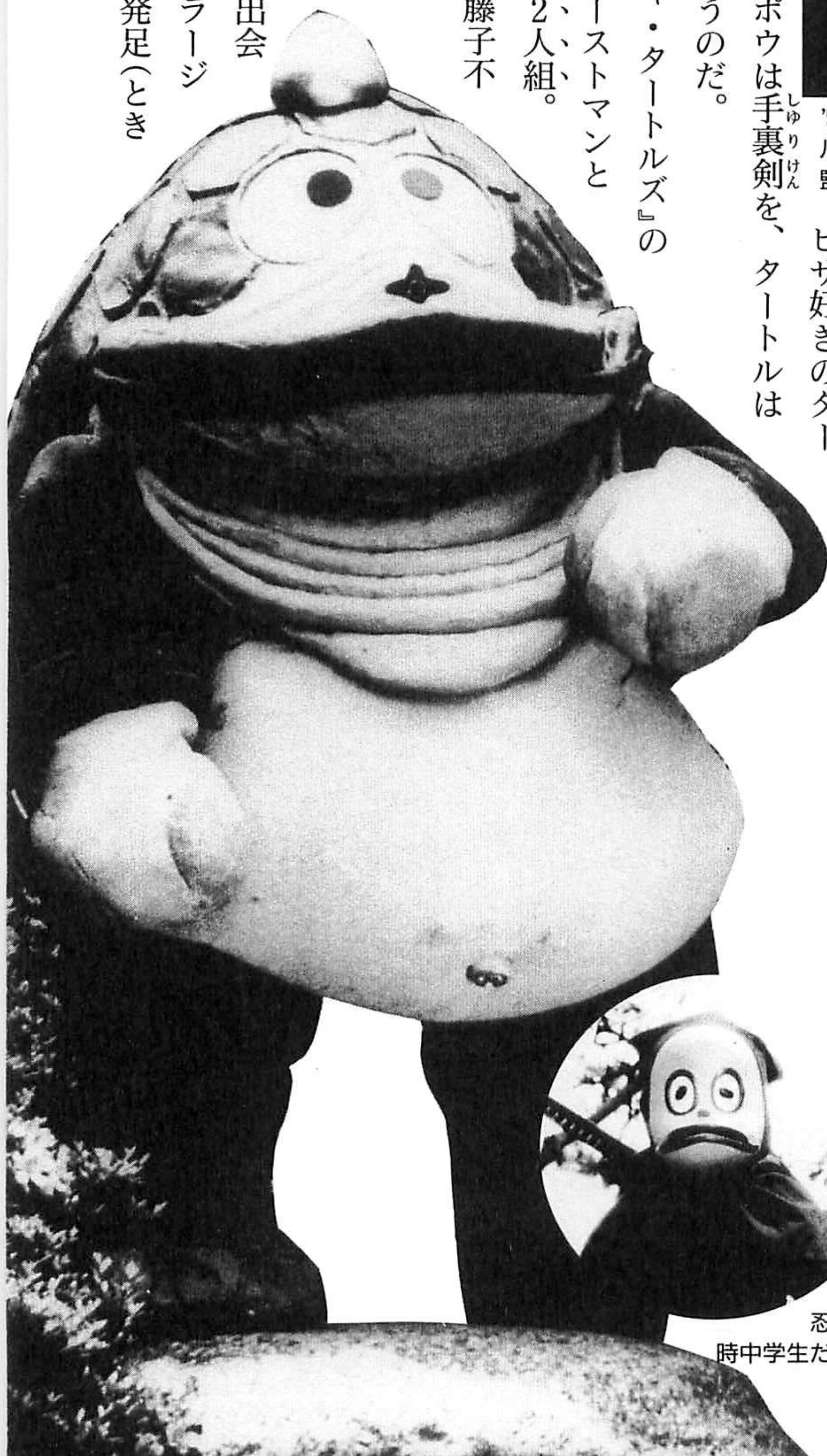
思えばカメ型怪獣は多い。大映ガメラを筆頭に、ウルトラQの「育てよカメ」、ライダーV3のカメバズーカ、ガッチャマンのタートルキング……。

数あるカメ獣のなかでも、ジッポウはミュータント・タートルそっくりだ!

ジッポウとは? 藤子不二雄の『忍者ハットリくん』に登場する、忍者怪獣。まさしくニンジャなのだ! しかもアニメじゃないぜ、実写のジッポウ。昭和42年放映の『忍者ハットリくん+忍者怪獣ジッポウ』だ。

♪シュッシュッ、シュパッ、シュパッ、シュパー、

造形 ジム・ベンソン(セサミストリートやSF映画などで有名)

'90年公開映画『ミュータントタートルズ』写真は東和ビデオ提供
監督　スティーブン・バロン

服部カンゾウ、忍者でござる――♪
前川陽子の唄が懐かしい。
　宇宙から流星のようにやって来たジッポウと、放射性物質で突然変異したタートルの、共通する怪しげなカガク性。甲羅（こうら）を背負ったユーモラスな姿のジッポウは食いしん坊だった。まるでラップを踊り、ピザ好きのタートルじゃないか。ジッポウは手裏剣（しゅりけん）を、タートルはヌンチャクをともに使うのだ。
　そして『TMニンジャ・タートルズ』の原作者はケヴィン・イーストマンとピーター・レアードの2人組。
　まさしくアメリカの藤子不二雄だ！
　食えないイラストレーターだった2人は'82年にノーザンプトンで出会う。1年後、彼らはミラージュスタジオ（工房）を発足（とき

『忍者ハットリくん＋忍者怪獣ジッポウ』（'67年8月3日～'68年1月25日放映）
'66年放映の第1作の続編。そういえば2作とも主題歌のタイトルバックだけはアニメだった。それにしても能面のようなハットリくんの顔は子ども心にもコワかった。
忍者の師匠役に故・左卜全、また当時中学生だった松坂慶子も出演していたっけ

わ荘か?)。そして'84年に1300ドルを借金してタートルの原作コミック(モノクロ40ページ)を自費出版した。アッという間に本はソールドアウト。1冊1ドル50セントだった同人誌は今では200ドルだ、という。

そして'87年ついにTVアニメ化。大評判となって映画化されたのだ!

おたく2人の大化け(サクセス)。こうしてアメリカの藤子不二雄はコミックロード(まんが道)を歩み、アメリカンおたくドリームを見たのである……。

だいたいカメって最高。生きた「怪獣」カメ。世界的に、少年にとってカメは最も身近な怪獣だ。トカゲには、トカゲには甲羅がナイッ! あの超合金的なバリヤー感覚が、カメをトイとしての「怪獣」にしている。グッズが売れるのもよくわかる。手のり怪獣(ペット)ってワケだ。

それにしても甲羅って「おたく」じゃないだろうか。自宅を背負って生きている亀。自分のカラにこもるのも簡単、ラクチンだ。

おたくのメタファー=カメ。

そして日本人のメタファー=NINJA。

ミュータント・タートルは日本人のおたく性が怪獣化して、アメリカ上陸。その驚異的なエコノミック・アニマルぶりが、多くのキャラクター商品として流通。アメリカを席巻しているのかもしれない。

海を渡ったジッポウがNINJAの故郷・日本に帰ってくる! この正月映画は全国のおたく君必見の映画といえそうだ。

(上)アメリカで大人気のコミック版タートルズ。(左)ピーター・レアード。'54年マサチューセッツ州生まれ。幼い頃から恐竜、ロボットなどの変わった世界が好きだった。Ⓐかな? (右)ケヴィン・イーストマン。'62年メイン州生まれ。元レストランのシェフ。夜学に通って、絵を勉強したという。映画にもゴミ回収業者役で出演。Fかな?

DOCUMENT——③

激突!! 小島一慶VS宅八郎

テレビ言いたい放題！「反社会男」2人の、真夜中の決闘!!

宅八郎はテレビで、小島一慶と対決したことがあった。小島は、おたくから最も遠い人間である。女と、まともにつきあえなくて異端視されている男と、立場を忘れてまでも女にのめり込んだおかげで、社会から追放された男の「幻の対決」を再録！

ボクの、おたく評論家デビューは『週刊SPA！』'90年3月7日号「おたくが日本を動かす」大特集だった（巻末の年譜を参照のこと）。

そして、宅八郎としてTV画面に初めて、その姿を現したのが、'90年4月30日放送された『プレ★ステージ』だったのだ。

出演が決定したのは、放送日のわずか数日前。

そして生放送の2時間ほど前に、打合せのためにテレビ朝日に到着したボクは驚いた。

番組の〈構成〉が、ほとんどボクの構成した特集そのままだったからだ。

会議室で、初めて番組の司会者・小島一慶に会った。チラッとボクを見て業界あいさつする。

「それで、何がやりたいわけ？　へ〜え、〈お・た・く〉、ね」。打合せでも、スタッフや出演者をリードしたがる男、だった。

——そして小島のあのカン高い声で、番組の生放送は始まった。

「おたく、というと熱狂的なマニア、という暗いイメージがあります。宅さんは、おたく族そのも

のという感じですが」。
「さあ、どうなんでしょうか」とボク。
「宅さん、おたく族向けのビデオというと『切り裂きジャック』なんかはどうですかね。猟奇(りょうき)殺人ものみたいな物は、おたく向きかなあ」。
「いや、それも決めつけなんじゃないですかね。まあ好きなことは好きでしょうけどね」とボクは苦笑した。
しかし小島は言った。「だって、宮崎勤はおたくなんでしょ」。「それじゃ、やっぱり宅さんもおたく族なんですか」。小島は興味深そうだ。
笑いながら彼は、ボクに言った。「う〜ん。おたくも非常にたいへんだね」。
ま、たしかに大変ではある。
小島は続けて言った。「ところで、おたく族のビデオの見方というのは、ちょっとやっぱり違うんでしょうね。違うんでしょ?」
「なんか一人だけで、記録をとったり……」と疑うような表情で小島はボクを見る。
小島はいつも、アダルトビデオを他人といっしょに観(み)て楽しむのだと言った。いったい誰と観(み)ていたんだろうか。今考えると興味深い。
ボクは「ただ、フツーの人とちがうとしたら。おたくの場合ね、基本的に多いのは、ビデオはダビングしながら見てるんですよね」と答えた。
すると、小島はエッという顔になった。
「ダビングしながら! じゃあ、自分の所有物にするんだ。レンタルしたアダルトビデオなんかでも名場面、珍場面とか編集したりして!」
「ああボクも作ってますよ」と、ボク。
「ちょっと! 一度、貸して下さい、宅さん!」
小島はボクに言った。

●スタジオのみなさん、宅さんをほめてあげて下さい！（小島）

小島。「おたくさんがアダルトビデオを選ぶときの見方というのは？　おたくの方は、AVはやっぱりビデオ制作会社で選ぶんですかね？」。

ボクは「女優で選ぶんじゃないですかね。女優の性能をまず見ますね」と答えた。

「性能って何？」小島は不思議そう。

番組はビデオソフト情報を交えながら進んでいた。その場で映るアダルトビデオを見ながら、ボクは答えていく。

「たとえばね、この憂花かすみさん（その後、ビートたけしと寝た女として有名になった）なんかだと、若妻役で出てますね。でも、この方はたしか前職が看護婦さんですね。この方の特徴、性能としては、愛液が多いというのがある」。

「宅さん、やったんですか」。スタジオの中で小島は爆笑した。そして言った。

「おたくは恋愛の時なんかはどうなるんです。ひとりの人に突っ込んでいけるんですか」。

今、考えればこの男は女に突っ込んでいったために、社会から追放されたわけだ。

本当に知りたそうに小島はしつこく聞いた。

「あまり恋愛はしない人が多いんですか」「下着おたく、な～んてのもいるんですか」と。

「それは、どうでしょう（笑い）。ボクは困ってしまった。

小島は言った。「おたく族はかなり会話の中に資料とかデータが多いですね。ようするにそのデータを覚えることが〈自慢〉なわけですか」

ボクは「まあそうですね。自慢だし、誇りですね。それを教えてあげたりもする」と答えた。すると、小

島は、急に、意地悪そうな表情に変わった。
「教えたくてしょうがないんでしょ。ひけらかし、なんだ」とカン高い声で言う。
ボクは応(こた)えた。「まあそう。会話の中で多いのは『知ってる?』『持ってる?』なんです」
小島は続けて言った。「でも、生きていく上で必要な情報じゃないみたいね(笑い)」
「それはあります」とボク。
始めからボクを見くだしていた小島は、さらにスゴイことを言いだした。
「でも、宅さん、よく知ってるよね。満足でしょう、宅さん、知ってるねってみんなに言われて。ねえ。今日はうれしかったですね」と。
かなりバカにした感じだった。さらに小島はふざけた調子で言った。
「宅さんがいろいろ知ってることを、スタジオのみなさん、ほめてあげてください!」
これが小島流〈軽妙洒脱(けいみょうしゃだつ)〉な司会術なのだ。

●僕は人と触れ合っていたい!
(そのせいで失脚した小島一慶)

久米宏になれなかった男・小島は言った。
「話を聞いていると、私は〈おたく度〉ゼロ、です」。心から、自分がおたくでなくてよかった、という感じだ。
ボクも黙っている男ではない。この男に言ってやった。「アナタは〈不合たく〉ですね。落ちこぼれになります。これから、おたくじゃないと生き残れない世の中がやってくるんですよ」と。
さらにボクはこの〈良識男〉に言い放った。
「アナタがまっとうなのはね、今だけ。いい目見てるのは今のうちだけ。おたくな世の中になったら、もうやってけません!」
この予言は当たった(?笑い)が、小島はまるでボクの言うことが理解できないようだった。
「そんな世の中になるかねえ。宅さんは、おたくの時代がほんとに来ると思ってるわけですかあ?」と言った。

ボクは何とか理解してもらおうとした。
「そう思ってますね。これだけ情報があふれてると、情報を選択してコントロールする技術が必要になるわけ。だから、おたくっていうのは情報エリートなんです」。
小島は「そうですかあ、そ〜う？」と言って笑った。どうしても、おたくがエリートだ、などとは思えないと言う。この男は、まったく懐疑のまっただ中にいるとささえ言った。
しかし、小島はこの本を読んで思い知るだろう。あの時の対決がこうして文章化されることが、まさしく情報のコントロールであることを。
ボクは言った。「たとえばある意味では、対人関係はいらないわけ。酒のつきあいだとかはいらないと。ふれあいだなんてダサイことやってられないっていうのも、おたくでしょうね」。
すると、小島は驚いたように言い放った。
「ふれあいがダサイ!! さびしいじゃない」。
今考えてみれば、小島は女との〈ふれあい〉によって、失脚したわけである。
彼は言った。「宅さんの説明によると僕はそうじゃないし、おたくのようには生きたくないな。もっと〝ふれあっていたい〟しね」と。
ボクは何とか理解してもらおうと思い、コトバをやわらげた。「やや攻撃的な言い方をしちゃいましたけども小島さん、もちろん……」
すると小島は「もう、わかりました！」とボクの話を途中で切ってしまったのだった。

●小島さんがやっていけない時代が、もうすぐ来るんです!

番組放送中、ずっとボクを冷たい目で見ていた小島はムキになって言った。

「おたくは、みんな個人プレイが好きなわけでしょ、本質的には。だって、だってそうでしょ。みんなとワーッとやる気はないし……」

ボクは答えた。「いやいや、それは違いますよ。コミケットとかああいうものも……」

さらにムキになった小島は言った。

「いや、それはたまたま自分の利益のために、情報収集のために行くだけでしょう。あんまり関わりたくないとか先ほど言ったじゃないですか」。ええッ、宅さん! という感じの小島。

ボクは応えた。「たとえば専門用語をどんどん言うのは、おたがいのコミュニケーションの確認なんです。だから決して一人でとじこもってるということはない

ですね」
するとと、小島は「そうかなあ……」と、かなり意地悪そうな表情をボクに向けた。
そして「おたく族というのは果たしてこの先生き残れるんであろうか、という感じですが」と首をかしげながら言う。
そしてボクの紙袋に興味を示すのだった。「あれ、その袋には何が入ってるの？」。
ボクはいろんなグッズを取り出して見せた。
小島は不思議そうに「いったい、そんなモノ何が面白いの？」と言った。
「一目見たら、わかりませんかあ」とボク。
「危ないねえ〜！　そんなもの持って歩いてるわけ！」と小島は信じられない顔をした。
この時、小島一慶は確信しただろう。ボクには番組に来てほしくなかった、と。
ボクは最後に言った。
「小島さんには、なかなか理解できないかもしれないけど、おたくの場合はボク

の持論では〈族〉じゃなくて、〈構造〉ですね」

小島は「構造……？　どういうことですか、それは」とボクに聞いてきた。

ボクは言った。「だから地球がおたく化しつつあるという……」

小島は苦笑しながら、「世界がおたく化してるとは、私はまったく思いませんですがね。ということで、本日は終わります」と言った。

そして、うすら笑いを浮かべて「今日は宅さんの毒気に当てられたていいますか、いささか打ちのめされたといいますか（苦笑）。疲れてしまいました（苦笑）」と言い放ち、番組は終了した。

こうして、ボクと小島の対決は終わった。ずっと〈おたく〉を社会的に認めてたまるか、という態度をとった、この〈良識〉ある男。その後、彼はその社会良識から追放された。

小島は思い知ることになったのである。

1991年(平成3年)3月16日(土曜日)

(第3種郵便物認可)

現場離れ謹慎します

おれがバカだった

傷つく人もいる

一切弁明しない

おわび会見で

一慶アナ泣いた

なんてオレはバカ

しばらく謹慎します——と涙ながらに釈明会見する小島一慶さん＝東京・六本木で

テレ朝系モーニングショー

後任は渡辺宜嗣アナ

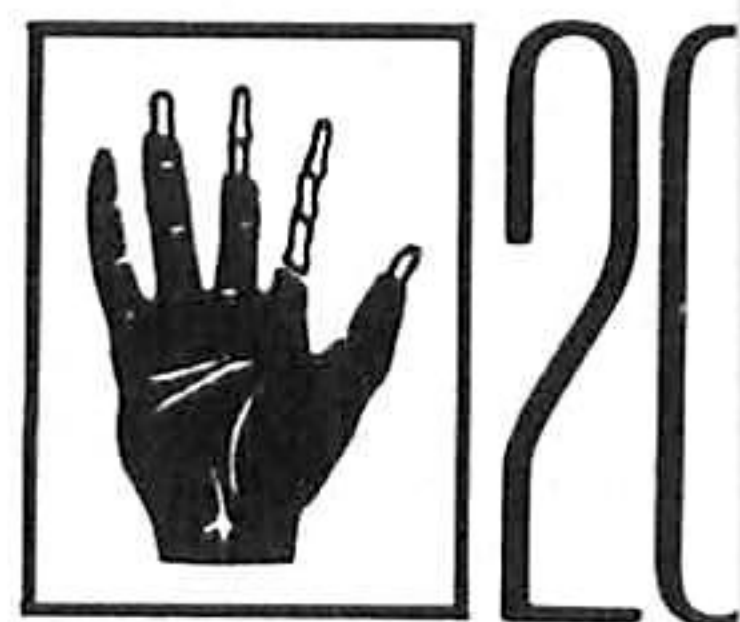
金沢からスポーツ

入局3年目の

覚醒せよ、か・く・せ・い!

この右手に

メディアが乗った!

20

おたくが超能力を持った時。時代を覚醒する書『ゴッドハンド』刊行!!

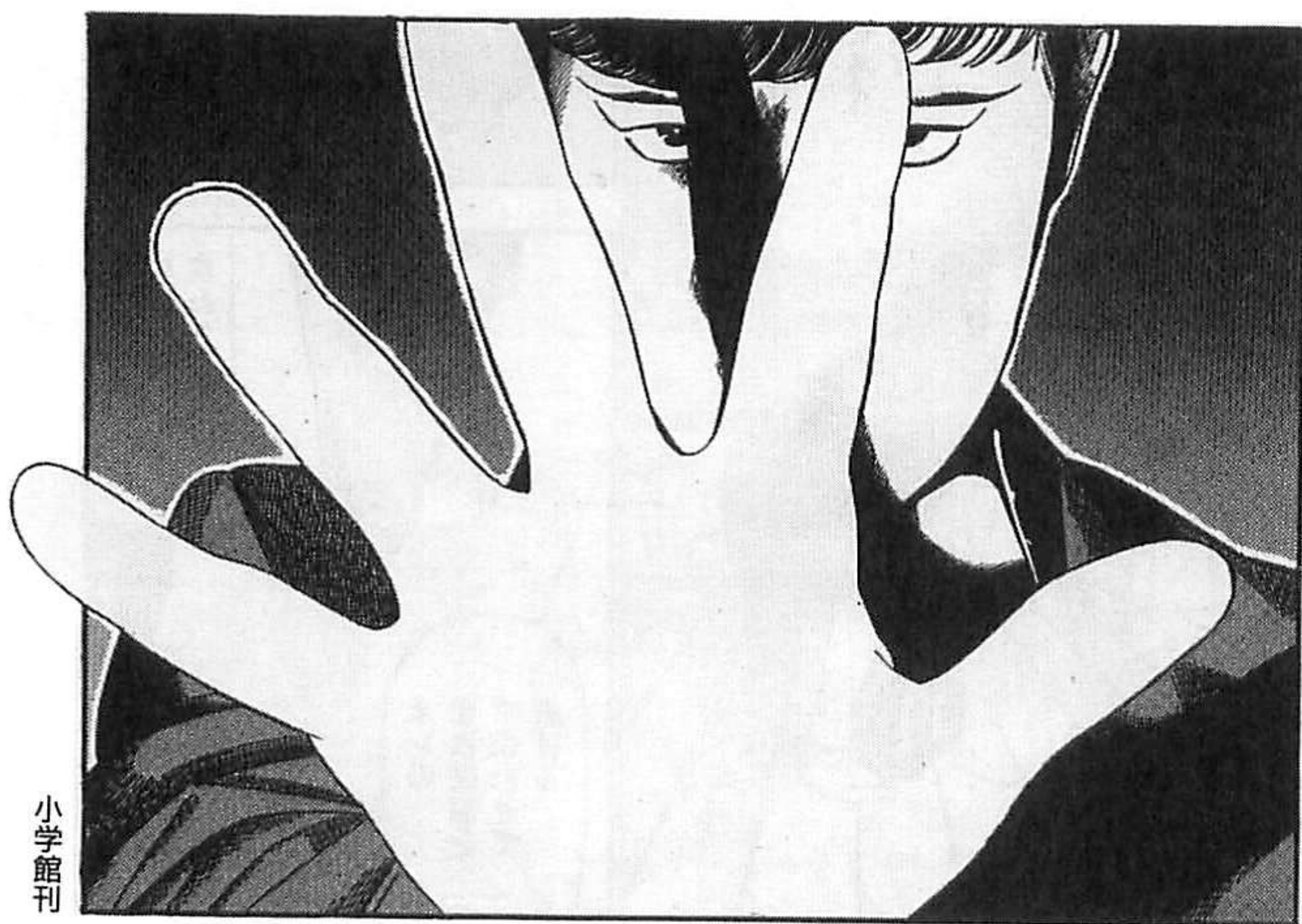
「3、2、1、ハアーッ!」かつて初代・引田天功はTV画面に向かって催眠術をかけてみせた。そして日本中の視聴者から「術にかかった!」という電話が放送局に殺到。

天功は画面に向かって、もう一度「ハァッ!」と叫んで術を解き、木曜スペシャルは終了したのだった……。

〈虚構〉であるTVから現実への催眠術アタック＝オタック。

そんな同じ魔力も持つ能條純一作『ゴッドハンド』第1巻が刊行された。クライマックスはやはりTV局。主人公がNHKを電波ジャックするシーンだ。

「この右手から奇跡が生まれる!」主人公は右手に超能力を持つ高校生、神(じん)大介。人々は彼の右手のエネルギーの前にひざまずき、エクスタシーさえ感じた。彼と握手する者は涙さえ流し、「このぬくもりは一生忘れない」と忠誠を誓った。

挑発!「右手ひとつで世界を征服する」という野望を持つ神(じん)は〈独裁者〉になるべく、国家権力を挑発し続ける。

小学館刊

部下を率いてNHKを占拠した彼はTVカメラに右手を差し出したのだ。あの日の天功のように。BGMはワグナー「ワルキューレの騎行」!

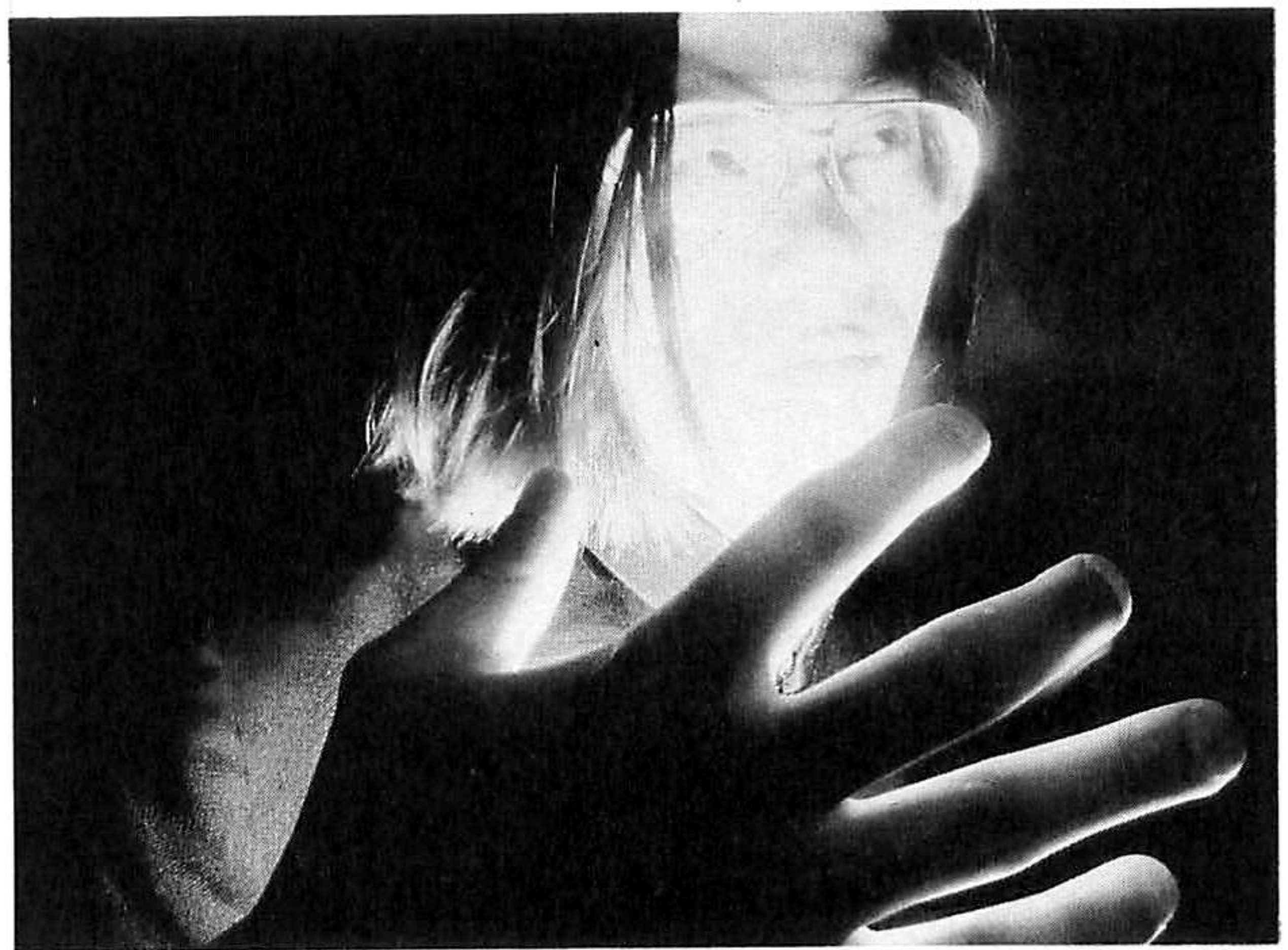
全国民はTVで右手を見つめワグナーを聴いた。日本中で本当に奇跡が起き出す。熱狂する視聴者。メディアを通じて神のファシズムが浸透してゆく。

か・く・せ・い、覚醒! 神は国民を〈覚醒〉させ、日本を独裁国にするコトを狙うのだ。TVを通じての対人関係はまるで、おたくの人間関係か?

陶酔! 神はワグナーが好きだった。彼の家で少女りえは、ラジカセから「ワルキューレ」の流れるなか、陶酔とともにオナニーした。

予告! 神は中学時代に先生から夢を聞かれて「夢はありませんがボクは世界の独裁者になります」と答えた。予告どおりに〝彼の闘争〟は続く……。

狂っている! こんなマンガが現在、堂々連載中。さて、狂わされるのはマンガの中の登場人物だけではない。ボクら読者が作品の催眠術に引きずり込まれてゆくのだ。

『沈黙の艦隊』との共通点は現実にマに受ける者が出てくるコトだ。虚構であるマンガが国会で取り上げられるような、攻撃性。かたや自衛隊、かたやNHKという実在する舞台

設定。本当にNHKには有事の際の秘密通路はあるのだろうか⁉

『ゴッドハンド』も読者が作品世界の狂信者になってしまう(平井和正の小説のような)マンガなのだ。

まず、編集者が狂った！　この単行本のつくりを見よ。高すぎる1200円のハードカバー特製本。表紙に浮き彫りのハーケンクロイツ。とどめに何と、巻末は音楽評論家のワグナー解説と「ワルキューレの騎行」楽譜付き！

コレはもう禁断の書と言わざるをえない。

ヒットラーにとってのゲッペルス、キリストにとっての使徒ペテロ、編集者はそんな存在だ。そして側近の次に一般大衆の読者＝信者が狂い出すのだ！

虚構の中でだけ完成された傑作というものは手塚天皇崩御とともに終わりを告げたのかもしれない。

いま一番、面白いのは〈虚構〉を超越し、〈現実〉を攻撃(オタック)するマンガなのだ！

――さて、天功がTVを通じてかけた催眠術は本当に解けたのか？　もし天功の死んだ今もまだ術が解けていないのだとしたら……。ボクらは永遠に、覚めない天功の夢の中にいるのかもしれないのです(ウルトラQの石坂浩二調で)――！

昭和52年、日本テレビ系『木曜スペシャル』で初代・引田天功は視聴者に向かって、催眠術をかけた！

21 絶望の挑戦者はゆく！キャシャーンがやらねば誰がやる!!

「たったひとつの命をすてて、生まれ変わった不死身の体。鉄の悪魔をたたいて砕く。キャシャーンがやらねば誰がやる！」

重い不協和音とともに流れた、あのオープニング・ナレーション。「絶望感」にあふれたアニメが始まる。『新造人間キャシャーン』は東欧民主化を描いたかのようなアニメだ。

近未来、ある嵐の夜だった。工学者、東博士の造った公害処理用アンドロイドBK1号は稲妻を受けて狂い出す。まるでフランケンシュタインの物語のように。

この鉄の悪魔は自らをブライキング・ボスと名のり、戦闘用アンドロイドを大量生産。博士の研究所だった古城はアンドロ軍団の本拠地となり、人間は支配された……。

東欧ルーマニア・トランシルヴァニア地

『新造人間キャシャーン』
'73年10月2日～'74年6月25日フジテレビ系。愛犬ラッキーはロボット犬フレンダーになった。フレンダーはキャシャーンを乗せて、戦車やジェット機、小型潜水艦などに変形する

方の吸血鬼伝説を想い出す、ブキミな古城。その内部は新都庁知事室など比べものにならないほどの大宮殿となった。

大理石と鋼鉄のインテリア。巨大な鉄風呂で美女ロボットに体を洗わせ、豪華なソファにふんぞりかえるBKボス。

キャシャーンの父・東博士と、白鳥ロボット・スワニーは古城でBKボスに飼われることになった。

そしてスワニーの秘密。母みどりはスワニーの中に幽閉されたのだ。そして月光を浴びた時、スワニーは母の虚像を宙に映し出し、息子と話すことができた。

キャシャーンのパートナーは少女ルナだ。ルナ=月。どこか、このアニメには月のイメージがつきまとう。それは絶望の暗い夜空にブキミに光る、東欧の月だった。

「ヤルッツェ・ブラッケン！」アンドロ軍団の号令だ。ハーケンクロイツのような軍旗をひるがえし、人間征服のためアンドロ軍団は侵攻を続けた。人間の住むすべての街は〈無防備都市〉となった。

マンホールの下からのアングルで、強大な軍隊の行進が描かれる。市街戦の惨状。竜の子アニメの特徴である無国籍感覚はこの作品では、まるで東欧のように見えた。古い建築物が残る街並。レンガ造り、石造りの街が破壊されてゆく。

この絶望的状況に立ち向かうキャシャーン！　東博士の息子・鉄也は人間であることを捨て、鉄の体のキャシャーンとなったのだ。〈戦火のかなた〉の物語。彼は孤独なレジスタンス、肉弾戦で軍隊に挑んだ。

アンドロ軍団を率いる
ブライキング・ボス。

とても勝てるとは思えなかった。気が遠くなりそうだった。少年時代のボクは毎週火曜日(放送日)を憂鬱に待っていた。この絶望感が重かった。
確かにキャシャーンは驚異的に強かった。手刀が鋼鉄を裂き、キックで敵を粉砕する。彼は強すぎるほどに強かった。
しかし、それよりも強いもの、それがアンドロ軍団だった。相手はもはや国家=軍隊なのだ。個人が勝てる相手ではない。勝利してハッピーエンドをむかえるとは、とても思えなかった。これまでアニメヒーローの勝利を疑ったことなんて、なかったのに。
しかも、たった一人のこのパルチザンに人々は冷たかった。第14話「キャシャーン無用の街」。そこは人間が奴隷としてBKボスに忠誠を誓うことで成立した街だ。住民たちはその〈均衡〉を壊す者として、キャシャーンを責めたのだった。
キャシャーンは華麗に宙を舞う。まるで鍛えられた体操選手のように。その美しさが彼の〈人間性〉を象徴しているように見えた。
ピノキオや人造人間キカイダー、妖怪人間ベムは「人間になりたい!」と叫んだ。しかし人のために人間であることをすててまで、人間性に悩んだヒーローがいたか!
それがキャシャーンだった。
忌まわしい全体主義、恐怖政治の悪夢をふりかえる時、我々は一人の男を想い出さなければならない。
キャシャーンがやらねば誰がやる!

アンドロイドを一瞬にして破壊するMF銃を手にした、少女ルナ。カワイイ。

22 この未来から目を離すな！『14歳』が悪夢の近未来をシミュレートする!!

「チキン・ジョージ」というのは、アレックス・ヘイリーの小説『ルーツ』(TVドラマ化され異常人気を博した)のなかに登場する、黒人の名前である。闘鶏(とうけい)(にわとり死闘プロレス)で、お金を儲(もう)け、サクセスした黒人だ。

ところが、突然にも『ルーツ』の黒人と同じ名前を持つ、怪人がボクらの前に現れたのだ。

その男は「私の名はチキン・ジョージ。誰にも望まれずに、生まれてきました」と名のった……。

『ビッグコミック・スピリッツ』連載中の近未来恐怖マンガ『14歳』(楳図かずお)に登場したチキン・ジョージ博士である。彼はひとめ見たら絶対に忘れられない怪人だ。何といっても顔が、にわとり(！)という人物なのだから。この博士を見てボクは1週間のあいだ、ヤキトリが食べられなくなってしまった。ヒッチコックの『鳥』や手塚治虫の『鳥人体系』『火の鳥』『サンダーマスク』などに〈鳥類〉の不気味さを感じていたボクも、仰天した。

さすがは天才・楳図かずお博士である！　ぐわしっ!!

小学館刊

誰にも望まれずに、生まれてきました。

悪夢の未来世界がシミュレートされる『14歳』では、バイオ・テクノロジーの進歩はトリ肉を造り出すまでになっていた。小型のプールに満たされたクローン培養液の中にプカプカと浮かぶ、ささみ細胞。近未来、人類は細胞が増殖してできた人造肉を食べているのだ。

ところがある日、チキン製造工場で突然変異から怪物が生まれた。

信じられない知能を持つ天才チキン・ジョージ博士である。彼は動物たちを絶滅させた人類に復讐を誓い、ゴミだらけの謎の島で人類滅亡の実験を繰り返していた……。

といったお話なのだが、物語のイントロでほのめかされた「14歳」というキーワードは今のところ、不明。

しかし何といっても『14歳』はチキン・ジョージの魅力につきる。初めて彼を見た時の、あのショックは忘れられない。同じ作者の名作『笑い仮面』以来のものだ。

おまけに、チキン・ジョージ博士が作り出した、言葉をしゃべる天才ニワトリ、チキン・ルーシー（メス0歳、見た目はタダのニワトリ）までが登場。ジョージとルーシーが「クワーッ、クワッ、クワッ、クワーッ!!」と会話するシーンは恐怖をこえて、大笑いである。

これほどの異色作が、人気コミック誌に掲載されているのも、何やら怪しい。
スピリッツの巻頭では「YAWARAちゃんの1本背負い、決まり！」とか「士郎、究極の鳥料理は……」なんて人気マンガを連載してるっていうのに！
『14歳』のコピーは「おごれる人類に未来はあるのか!?」とか「この未来から目を離すな！」とか、おどろおどろしい。だけど、そんなコト言われてもねえ、と柔ちゃんのファンは困ってしまうに違いない。
それにしてもひと頃流行した「サイバーパンク」は何て清潔なものだったんだろう、と『14歳』を見ると思い知らされる。
「これからはサイ・パ・ン感覚がナウ」とか「やっぱ、脳にジャック・インする感覚がオシャレ」だとか、トレンド野郎たちが大ハシャギしていた、あの頃。
ジャンクだとか言っていても、これほどに不潔なものじゃなかったハズだ。そう、本来の意味で「サイバーパンク」というのは、こういうものなのかもしれない。
「バーチャル・リアリティ」なる言葉が、「サイバーパンク」の言いかえにしか感じられない、ボクは思うのだ。

言葉をしゃべる天才ニワトリ、チキン・ルーシー

23

祈れ、みあちゃん！教祖・増田未亜がアジアの彼方から突撃する!!

増田未亜はおたく支持率が異常に高いアイドルである。

'87年大阪のTVドラマ主演で注目され、上京。その後歌手としても、またバラドル(?)としても、おたく界にカルト人気を誇る18歳少女だ。「未亜」は本名。その由来は〝未来の亜細亜(アジア)の子〟だという。

そんな彼女のビデオ『亜細亜防衛少女みあちゃん』が極秘に撮影されていた……。

——突然飛来した謎の円盤によってアジア各地で怪奇現象が起きる。その頃、原子力潜水艦・轟天(ごうてん)707号が自衛隊から脱出。独立戦闘国家を名のってタイ国洋上へ。艦長みあちゃんは汎(はん)亜細亜防衛圏構想を世界に問う。揺(ゆ)れる日本、怒るフセイン。タイ洋上ではついに日・米・ソ連合艦隊＋UFOが轟天(ごうてん)号を攻撃！　24時間戦エマスカ？——

とココまで書いた話はウソである。そんな学芸会レベルのビデオの予定はない。ごめんなさい（よく似たタイトルの学芸会ビデオがあったっけ）。

次のページの写真は'90年12月14日に発売された写真集『午睡(シエスタ)の風』タイ・ロケの一コマだ。彼女が着ているのはタイの民族衣装。

「写真集は水着がメインです。でもコレは私が雨降りの中、必死になってがんばった記念の一枚。神秘的な雰囲気が出てるでしょっ。どの雑誌でもあまり〝載(の)らない写真〟として

は貴重ですよ」
ボクはメインに使われなかった、この一枚を選んだのだ。さて、彼女のファンはほとんどが、おたくだと思う。末亜ちゃん本人はファンのことをどう思ってるのかなあ？
「私のファンはおとなしくて冷静。みんな優しいんですよ。話すと、私の私生活のことまで親しげにしゃべってくる。悪く言うと、なれなれしいんですけど(笑い)。つい話しちゃうんです。(アイドル仲間の)田山真美子ちゃんなんかはもう少しうまいんだけど……」
出演作で一番のオススメは'91年公開される映画『新童貞物語2』だと彼女はいう。
「じつはおたく少年の話なんですよ。内気な男の子で、コンピュータマニアという設定で。でもその人はオシャレなおたくさんで洋服もフツーだし……(笑い)」
なるほど……。
末亜ちゃんはことのほかマンガが大好き。アニメも中学時代はマクロスや聖闘士星矢(特に紫竜)の大ファンだったのだ。
「今はアニメは見る時間がなくって……。でもマンガは何でも好き。特に少年ジャンプとヤングジャンプはほとんど買って読んでる！　お気に入りは『ろくでなしブルース』『花の慶次』『電影少女』……それにツレちゃんも」
慶次はどこがいいの？

増田末亜　本名・同じ　'72年5月6日
鹿児島県生まれ、京都・大阪育ち
牡牛座　154cm　40kg　B77 W58 H80

「馬がデカイ(爆笑)。絵が好きなんです。ケンシロウも大好きだったしね……。文章が多くて〝男のロマン〟がたくさん書いてある。ああいうの好き」
未亜ちゃんは声優としても活躍しているが〝自分の声〟はアニメだとイイけど、ふだんは好きじゃないそうだ。休日は何とカラオケBOXによく行くらしい。
家族愛のエピソードが多い、というのもおたく界に流れる増田未亜伝説のひとつ。
「今度のファーストコンサートも家族・親戚合わせて20人くらいで上京して来てくれるんです(笑い)」
こんなことをさりげなく話しちゃうアイドル、増田未亜。
その愛らしい笑顔を見て、このファンとの独特の距離感が彼女の魅力なのだな、とボクは思った。
それは、まるで親戚の子を応援してあげたい、といった存在感。
「あとねえ……兄が一人いて仲良しなんだけど。私、ホントはね、お兄さんは二人ほしかったの!」
ボクの妹にならないかい……?
未だ18歳には見えない〝未来の亜細亜の子〟。
写真集、そしてコンサートと砲撃を開始せよ!
そうだガンバレみあちゃん、未来に向かって!!

24 Ⓐ感覚にときめいて♥藤子不二雄Ⓐが好き!!

心のスキマを埋めたーいッ！
世界のすべてのモノにはF面とⒶ面がある。世界はFとⒶに2分されるのだ。F面は陽、Ⓐ面は陰。そう光と影、明と暗、メジャーとマイナー、ポジとネガ……(関係ないがアイドルWINKは2人ともⒶ面だ)。
ポピュラーなF面よりも、ナゼかボクの心を捕らえて離さないのはダークサイドのⒶ面なのだ。
藤子F不二雄といえば『パーマン』『ドラえもん』『21エモン』……と明るくメジャーなヒット作が多くアニメ化の率も高い。
それに比べて藤子Ⓐは『笑ゥせぇるすまん』『夢魔子』『プロゴルファー猿』『怪物くん』

ユラユラとタバコをくゆらす、夢魔子
中央公論社刊

『少年時代』……そして『魔太郎がくる!!』。

く、暗――い！

あまりにも暗黒な作品だらけである。心の暗部が暴き出され、思い出したくない過去を回想させ、見たくないものを見せられる世界。

目を、目を、目をそむけるな！

ボクらがココロのスキマに飼っている〈暗黒〉がⒶ感覚なのだ(画調もブラック、ベタの面積を測ったらⒶはFの2倍は黒いんじゃないだろうか!?)。

「ド――ン！」。奇妙な効果音によって〈暗黒〉が白日の下にさらされていく。しかもポップに。キキキーッ、と車がスリップした音の後にどこか期待するドーンという破壊音。この「ド――ン！」がⒶの音だ。

コンビ解散前も、おたく界ではFⒶどちらの作品なのかは明らかだった。

しかし解散後『笑ゥ――』のアニメ化や『少年時代』の映画化がされるにつれて、時代は今やⒶに向かって突き進みはじめたようだ(たとえば『世にも奇妙な物語』や『もう誰も愛さない』または「宅八郎」などの大ヒットはあまりにもⒶ面だ)。

時代そのものが、うしろめたいもの、陰湿なもの、暗黒を欲しているのだ！

何しろ雑貨屋では「ちびまるグッズ」のとなりに「喪黒福造グッズ」が置いてある。あのグ

ココロのスキマ、おうめします……

おーほっほっほ。TBS系『ギミアぶれいく』でアニメ化され、一躍メジャーになった"笑ゥせぇるすまん"喪黒福造
パック・イン・ビデオ提供

ラスに注がれたジュースはどんな味がするんだろうか⁉　コワい。けど飲んでみたい。ゴクッ。
怖い、といえばアニメ化された作品でも『怪物＋くん』とか、まずアニメ化不可能な『魔太郎が＋くる!!』(ゆく、じゃないもんね)という発想がコワい。キテルのだよ、魔太郎が！
怪物を主人公にギャグマンガを描いたり、「いじめ」が社会問題として騒がれるずっと前に、イジメられっ子を主人公にしてみたり……。
そんなタブーを藤子Ⓐはコレでもか、コレでもかと露悪的に描いてきた。社会派タッチでも何でもなく、まるで藤子Ⓐ自身が「おーほっほっほ」とエクスタシーを感じているかのように。
ボクもイヤな思いをしてみたい時がある。そんな時にうってつけのドラッグにⒶを服用する。ゴクッ。もはやリッパなⒶ中毒患者なのだ！
明るく楽しい夢がF世界なら、暗く怖い悪夢はⒶ世界。藤子Ⓐ自身も「ぼくは悪夢が大好き」と語っている(『夢魔子』あとがき)。覚めた時に楽しいのは、いい夢よりもむしろ悪夢なんじゃないだろうか、と。目覚めてホッとする安堵感がイイのだ、と。
しかし、そういえば「ドラえもんは植物人間のび太くんの見ている覚めない夢なんだ」という救いのないウワサがあった。そんな恐怖の都市伝説を生み出したF世界こそ、もしかしたらⒶ世界よりもさらにコワい魔界なのかもしれない……。
さて魔太郎に関しては、語るよりもボク自身がいずれ実演してみたいと思う。

中央公論社刊

♪オレは怪物くんだ！怪物ランドの王子だぞ!!

25 ジョジョではない、荒木飛呂彦こそが最強のスタンド使いだアァ――ッ!!

WRREEEYYYY（ウリリリィィィィ）――！　集英社バンザイ、『少年ジャンプ』バンザーイ、JOJO（ジョジョ）バンザーーイイィィィィイイ!!

『少年ジャンプ』連載中、荒木飛呂彦作『ジョジョの奇妙な冒険』はその名のとおり、奇妙な作品だ。すべてが官能的にストレンジ！

人類と人類でないものの闘いという、古典的なテーマでありながら、まったく新しいリズムを感じさせる。『北斗の拳』や『アキラ』で終末をむかえてしまった〈酸性の未来〉とは別の時間軸をもつコミックであるかのように。

イヤというほど流行した、ホコリにまみれたサイバーパンクや「懐かしい未来（レトロフューチャー）」。それ以上に美しくも不潔なバイオ・パンクとでもいうべきは、荒木ワールドなのだ。

未来は死んだ。大河の先に未来は滝となって流れ落ち、消えてしまった……。しかし、その滝ツボの奥底に、まるで鳴門のうずしおのようにJOJO世界がうずまいていたのだ。

ゴゴゴゴオオォォォ――――！

19世紀末から現代まで『火の鳥』や『2001年宇宙の旅』のモノリスのように時を超越して描かれる謎の石仮面。

そして石仮面は〝吸血鬼〟を生み出し、人類の悪夢は50年ごとに繰り返された。そうＪＯＪＯ(現在三代目)と不死身の怪物の闘い(三世代3部に渡ってくり広げられた)である。

描かれるとしたら、第4部は未来形のＪＯＪＯかもしれない。そのイントロは恒星間航行中のロケットが第2部で宇宙空間に放逐(ほうちく)された究極生物カーズを目覚めさせてしまうシーンから始まるのだろうか？

荒木飛呂彦は、悪夢感あふれるアイデアをグロテスクな描写と独特の言語感覚で描く。コミックをまるでロックのように演奏するのだ。

「ふるえるぞハート、燃えつきるほどヒート！」

「わがナチスの科学はァア、世界一ィィィィ！」

「貧弱ゥ！　貧弱ゥ！」「ラリホォォ〜〜〜！」

といった作詞にも似たセリフまわしィィィ!!

そして奇妙な擬音語、擬態語の数々を、ロックのシャウト(！)やギターノイズのように描く。ゴゴゴゴゴ……！　チュミミンッ！

荒木は生物の持つ奇怪で不快なグロテスクさに敏感なようだ。怪物はフジツボやミミズ、オケラ、タコなどのイメージ。虫が好きなのか、触手や触脚の怪奇美をこれでもか、これでもか、と見せる。

怪物だけ、ではない。ナチス軍人のサイボーグや、両腕とも右腕の男が登場したり……。通行人は口からハトを吐き、副主人公に化け

た敵はカブト虫を食べる。街の女は、ひとりでにニキビがつぶれ出す。
プチッ、ドロドロ。
そして悪夢の中では目玉が無数に落ち、4本の足が生え、はいずり回る。まるでクスリのバッドトリップだ(ボクも一度だけ薬で緊急入院したコトがある)。
白土三平の影響か、手品的(トリック)図解が多いクセに、描かれる世界はあまりにも魔法的(マジック)。まさにトリックとマジックの境界例、マリックする世界ィィィ！
こんな大河伝奇ロマンはJOJOからJOJOへ、孫から孫へと継承される(単行本まえがきで荒木は祖父の思い出を語る。祖父コンプレックスの中に伝統や文化といったものに対する、尊敬の念が感じられるのだ)。
スタンド・バイ・ミー、そばにいるよ。
超能力を目に見えるようにビジュアル化したスタンド。現在の第3部では老人と孫のJOJOたちがスタンド能力で、敵のスタンド使いと闘っている。
スタンド。その概念はかなりわかりにくい。けれども、強引に説得されてしまうあたりが異才・荒木飛呂彦自身のスタンド能力なのだろう。スタンドは術、スタンドは力、スタンドはイメージ、スタンドはコトバ！　バイオパンク!!
荒木マンガは独特の術語感覚でリズムを叩き、パラダイムを転換させた。まさに術語使い、荒木飛呂彦こそがスタンド使いなのだ。
そしてボクもまた〈砂上の楼閣に棲む、机上(きじょう)最大の空論〉というスタンドを使ってみた——い！　オラオラオラオラオラオラオラオラ————!!

集英社刊

スタンド使いか!?
荒木飛呂彦

空条承太郎とスタープラチナ。恐るべきスピードとパワーを持つ彼のスタンドだ！「学生服＋超能力」つまり'90年代版バビル2世か？

宅八郎のスタンド能力!!

WRRRYYYY!

砂上の楼閣から机上の空論を使う!スタンドの名まえは〝狂気の執念〟だァァァァ——ッ

1991 SUMMER

小田晋VS宅八郎徹底対論

おたく診察室・ロールシャッハ対談

どーするどーなる、おたく問題。おたくのスポークスマン・宅八郎とおたくの専門医・小田晋が激突する！ はたして「おたく」は90年代の救世主か、病理か!?

小田　たこ八郎さんに名前が似てますね。あの人とっても感じのいい人でした。

宅　小田さんも読み方かえれば、おたススム、おた晋ドローム。おた＋宅でおたく対認です（笑い）。ボクは先生の大ファン。マッド・サイエンティストってカッコイイですよね！　ウルトラQに出てる感じで。昔のマンガとか怪獣映画の科学者像みたい。ポップですよ!!

小田　こりゃまいっちゃったナ(笑い)。

宅　先生サイン下さいよ。それから、映画とかにも出てほしいです。

小田　イヤです。

宅　さてオタッキーという言葉をずいぶん使われてますね。精神医学的な立場から、先生は「おたく」をどうとらえてますか。

小田　対人関係の距離の問題です。若者に「おたく」と呼ぶ人間関係が増えてきたり、共同浴場だとイヤがったりとかね。これはかつては精神分裂病の特徴だったんです。それが今は一般的なメンタリティになってきている。そしてさらに、おたく族は人間同士のふれあいを回避し、モノをつうじて人と関係する傾向がある。じつは最近では、回避性人格障害=アボイダント・パーソナリティ・ディスオーダーと呼ばれてるんです。

宅　えっ！

●アボイダント・〝シンドローム〟とは何か!?

小田　初めてアメリカの精神医学のマニュアルで使われたのが1980年。現在は国際的に認知されつつある。そういう人が増えたからですね。

宅　おたく化の進行ですね。その特徴は？

小田　①広範にわたる緊張と危惧（きぐ）の環境。②日常生活にある自意識と不確実感や劣等感。③拒絶と批判に対する過敏さ。④受け入れられることに対して確実性や保証を得ないと気がすまない。⑤人間関係が限られている……。

宅　（ギクッ）ボクも当てはまりますね。

小田　分裂病そのものとの違いは完全につきあいを絶つのではなく、キズつきたくないのに人とつきあいたいコトです。これを神経学的には「ヤマアラシのジレンマ」と言うんです。二匹のヤマアラシがいて、近づきすぎると相手を刺してしまう。でも離れると寒い。距離をとるのがムツカシイわけです。

宅　なるほど。

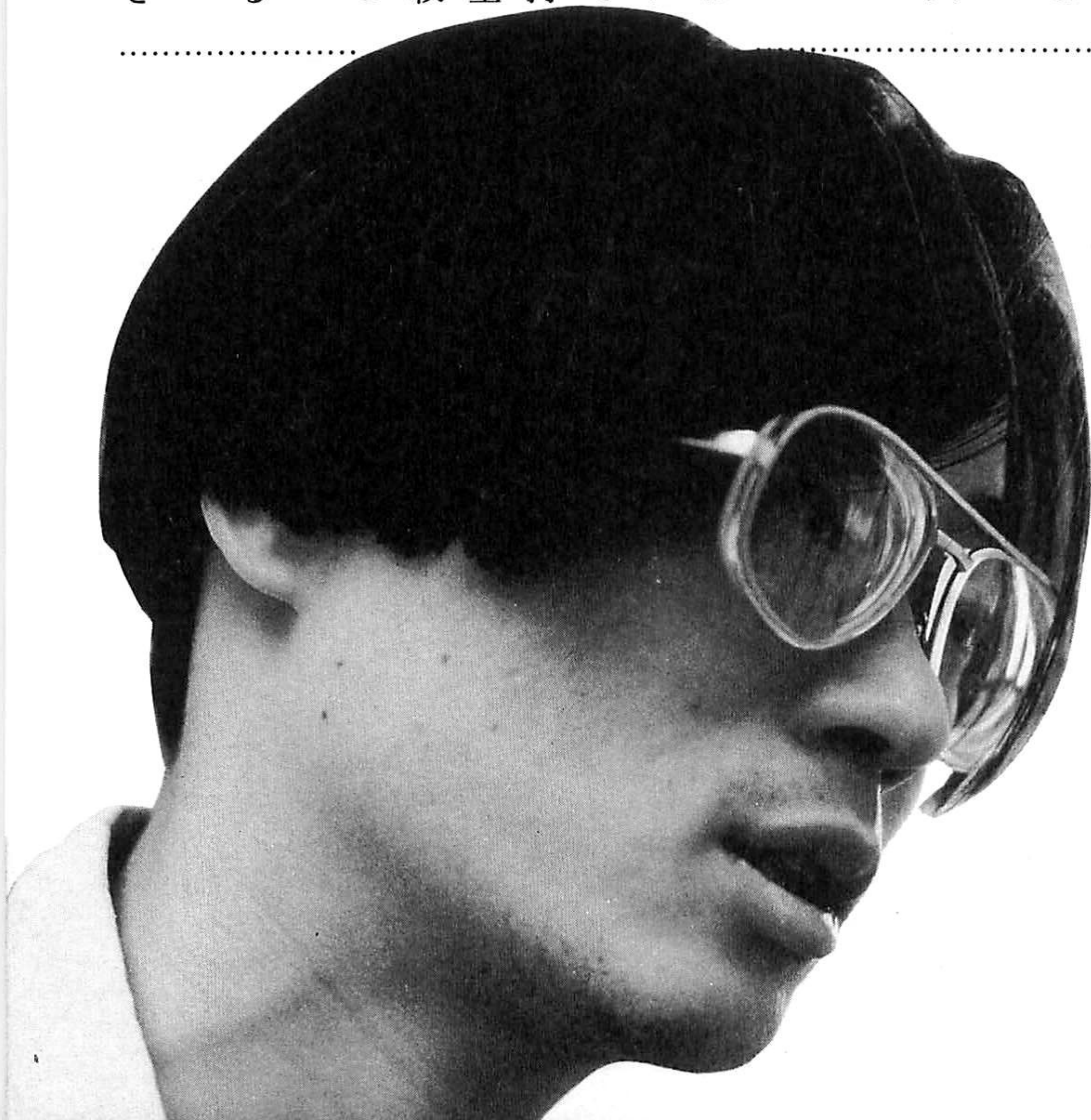
小田　その克服（こくふく）の手段、つきあうための手段がモノなんです。オタッキーは。

宅　モノなり、情報なり……。

小田晋　プロフィール
昭和８年生まれ。筑波大学教授。
岡山大学、東京医科歯科大学大学院卒業。
現在、社会精神病理学、犯罪学を専攻。

小田　グッズです！いわゆるグッズを媒介としないと、つきあえない、というのかな。
宅　80年代、情報量が急激に増大しましたからね。おたくは80年代の情報洪水から生まれたんじゃないか、と思っています。
小田　はい。オタッキーは情報化社会に対する人間の適応のあり方だと思いますね。

●キミは40歳の宮崎君を想像できるか!?

小田　不安を持ちながらのヤマアラシ状態で、おたくはグッズを通じて危険なバランスをとっている。モノを介して人とつきあうという「防衛」です。でも僕は、こういう形の対人関係に疑問を持っている。人間はやはり人格的なふれあい方が望ましいのでね。この防衛は不自然だ。幼女連続殺人事件のM被告人の例をとってもあの世界はいつまでも維持できないわけですから。
宅　「不自然」ね。それはわからない。維持できるんじゃないですかね。
小田　じゃあ宅さんは、40歳のM被告を想像できますか？
宅　それは今から13年後になってみないとわからないですね。

小田　わかんないでしょ。いま想像できないいってコトは、彼はありえない状況に追いつめられていたわけですよ。

宅　それは違う。13年前にベルリンの壁の崩壊やソ連の大統領制を、どこの誰が想像しえたか。ボクは40歳の自分さえ、想像できませんよ。

小田　でも彼は他者にとって利益になるような行動を何もしてないでしょ。

宅　でも、ボクは友人になれたかもしれない。

小田　つきあうったってですね。M被告は他人に対する思いやりや感受性が乏しかったらしい。非常に一方的で自分勝手だったと、みんなが言ってる……。

宅　先生、会われたわけじゃないですよね。いい面もあったと思うんだけど。

小田　もちろん、それを否定するわけではありませんが、人生全体としては、もう答えは出てるわけですよ。4人殺してます。しかも幼女をです。

宅　思いやりとかを欠いていたってのは、そういう意見だけがメディアに集中しちゃったせいかもしれないでしょ。

小田　でもね、どんな事件の場合も報道のウラから見えてくることはあるわけでしてね。では4人殺してないM被告を考えてみたらいい。やっぱり困った所の多い人ではじゃないかと思うんですよ。

宅　……。そうですかね。

●小田晋の結婚はおそかった!!

宅　先生！　事件こそ起こしてませんが、ボクもコンプレックスありましてね。

小田　ない人、いないでしょうね(やさしい笑いを浮かべる)。あったってフシギじゃないですよ。それでどんなコンプレックスが？

宅　ボク27歳。宮崎君と同じ27なんですけど童貞なんです。ヘンですか。

小田　はー、この頃はそれがとても多いんですよ。何歳までにって「義務」はありません！　私のころは、若い医師はみんな貧乏でしたから結婚はみんな遅かったですよ。

宅　ところで以前小田さんは、犯罪者を作家や芸

術家だとすれば、犯罪学者は批評家のようなものだ、と言ってましたね。ボクは先生を犯罪分析界の小林秀雄、批評の神様だと思ってるんです（笑い）。それで、たとえば批評家は、今までのワクに捉われない新しい芸術が出てきた時はうれしいハズですよね。そんな無上の喜びってのは小田さんにもあるんでしょうか。しめしめ新しいイイ犯罪が出てきたゾ、みたいな？

小田　うれしいとは言えないところがあるんです。期待してるとは言えない。芸術と違って、犯罪は人を喜ばせるものではないから。

宅　でも分析してる時の先生はスゴく、おたくっぽいですよ。

小田　それに精神障害者の場合、結局は何とか治さなきゃならないんですからね！　犯罪者と2人で困っていってしまう場合もあります。

宅　小田さんは、分析しててどんな犯罪が面白いですか？

小田　ジャンルじゃなくて心理状態です。さっきの2人で困っちゃったケースは新宿、渋谷、浅草の3か所で2人の娼婦を殺して、1人に重傷を負わせ腸を引きずり出して、そのうえ乳房を切り取って上にのせてみたという快楽殺人者なんです。

宅　えっ。小田さんの話し方は、こわいですよ。

小田　彼は素直で、自分の心理状態を隠そうとしない。自分のやったことを淡々と話すんです。でも最後にどうしてそんなことしたのか彼自身にもわからないんです。こっちもわからない。了解の限界に達するんです。

宅　はぁ……。先生にもわからない……。

●推理小説マニアの小田晋が、もしも犯罪をするとしたら……

宅　小田さんがゼヒ鑑定してみたいって犯罪はあるんですか。

小田　今の新宗教ってあるでしょ。オカルティズムと関係した犯罪。あれは犯罪学、宗教精神医学、宗教心理学の三重の研究になるからやってみたいですね。

宅　自分の中にも犯罪者的要素がないと、分析は

できないのかなって気がするんですけど。先生にもあるのかな。

小田　犯罪性というより人間性への興味がないとできないんです。しかし、たとえば、推理作家が犯罪者的かというと、そんな傾向はありません。コナン・ドイルはモリアーティ教授とは思えないでしょ。乱歩や松本清張さんの人格や生活にも犯罪傾向はない。例外的にエドガー・アラン・ポーは少し破滅型ですが、ダシェル・ハメットにしてもレイモンド・チャンドラーにしてもですね、シムノンにしてもカタギな人ですよね……。

宅　おたくだ！　ミステリー詳しいですね(笑い)。お好きなんですか。

小田　ん？　ハイ、学生時代には読みましたが…。

宅　でも、先生だって100%犯罪しないとはいえないですよね。もしやるとしたら、どんな犯罪ですか!?　性犯罪？　ドロボー？

小田　誰だって何するかわかりませんよ(笑い)。でもね一般に大学の教官や裁判官でも激情にかられたり、怨念にかられたりして、人を殺さないわけではありません。

宅　なるほど。ほかには？

小田　殺人ともう一つは万引きです。これは初期に、ストレ

ス状態で、ウツ状態で抑制力がなくなって、ついやってしまうという場合があるらしいですね。僕は一度もやったことないですけど。

宅　万引きは誰でもしてますよね、子供の頃とか。先生、本当にしてないんですか。

小田　ありません！　小学校時代に友だちから消しゴム盗み返したくらいです(笑い)

宅　小田さんは趣味ってないんですか。

小田　僕は仕事以外に楽しみはないんです。収集癖は本だけです。

宅　マンガなんかはどうなんです。

小田　僕は手塚治虫さんに似てます(笑い)。同じ頃に大阪で生まれ、科学少年で、医学部へ行って、いじめられっ子で、顔も似てますね。

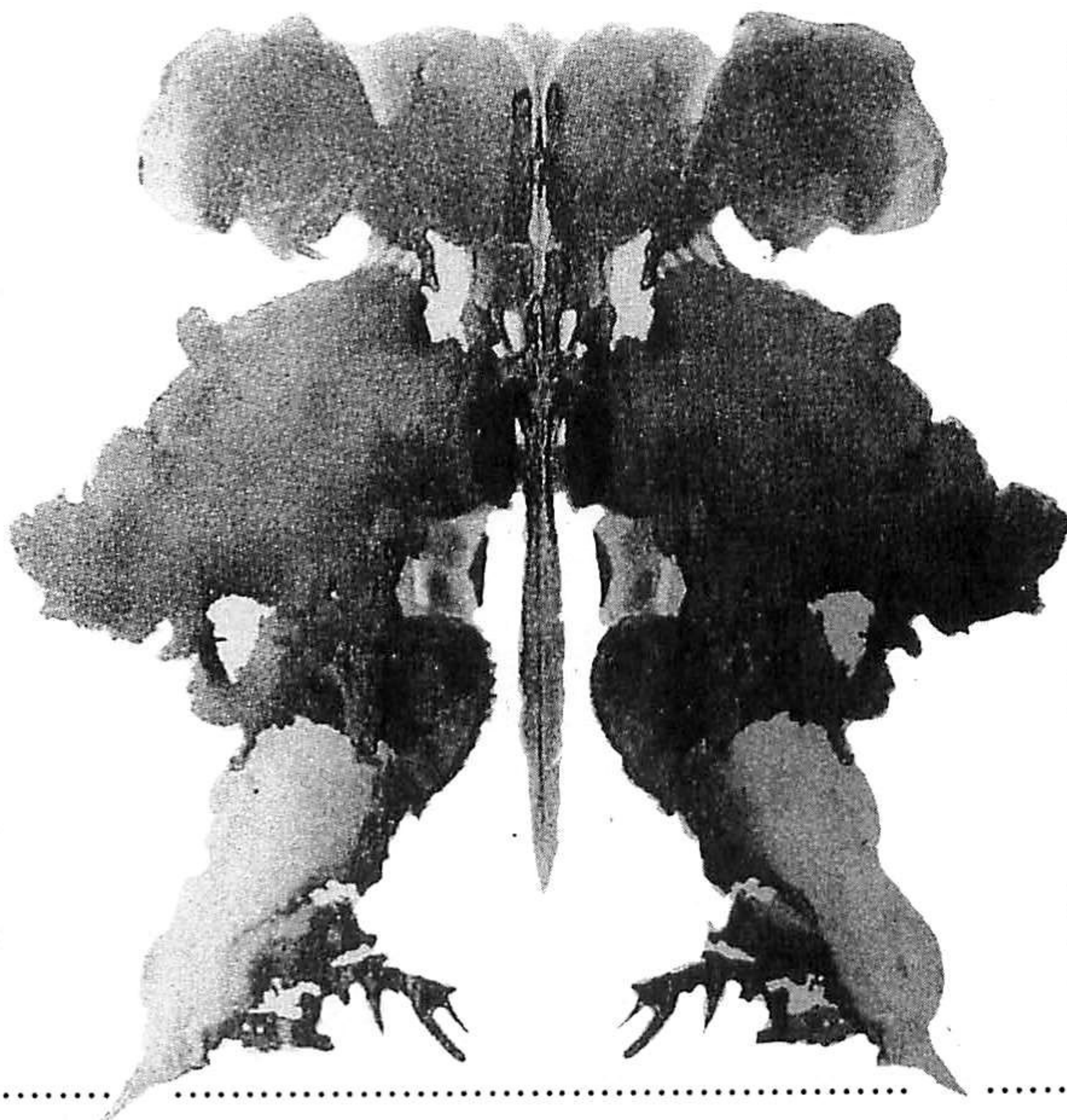
宅　タヌキと呼ばれてたらしいですね。

小田　はい(笑い)。手塚マンガは中3の頃、市立図書館で発見しましてね。こんな面白いモノがあるって自分だけの秘密に大事にしてたんです。ところが友だちもみんなそうだってわかって、ガッカリしちゃった。

宅　そのガッカリする感じが、おたく！

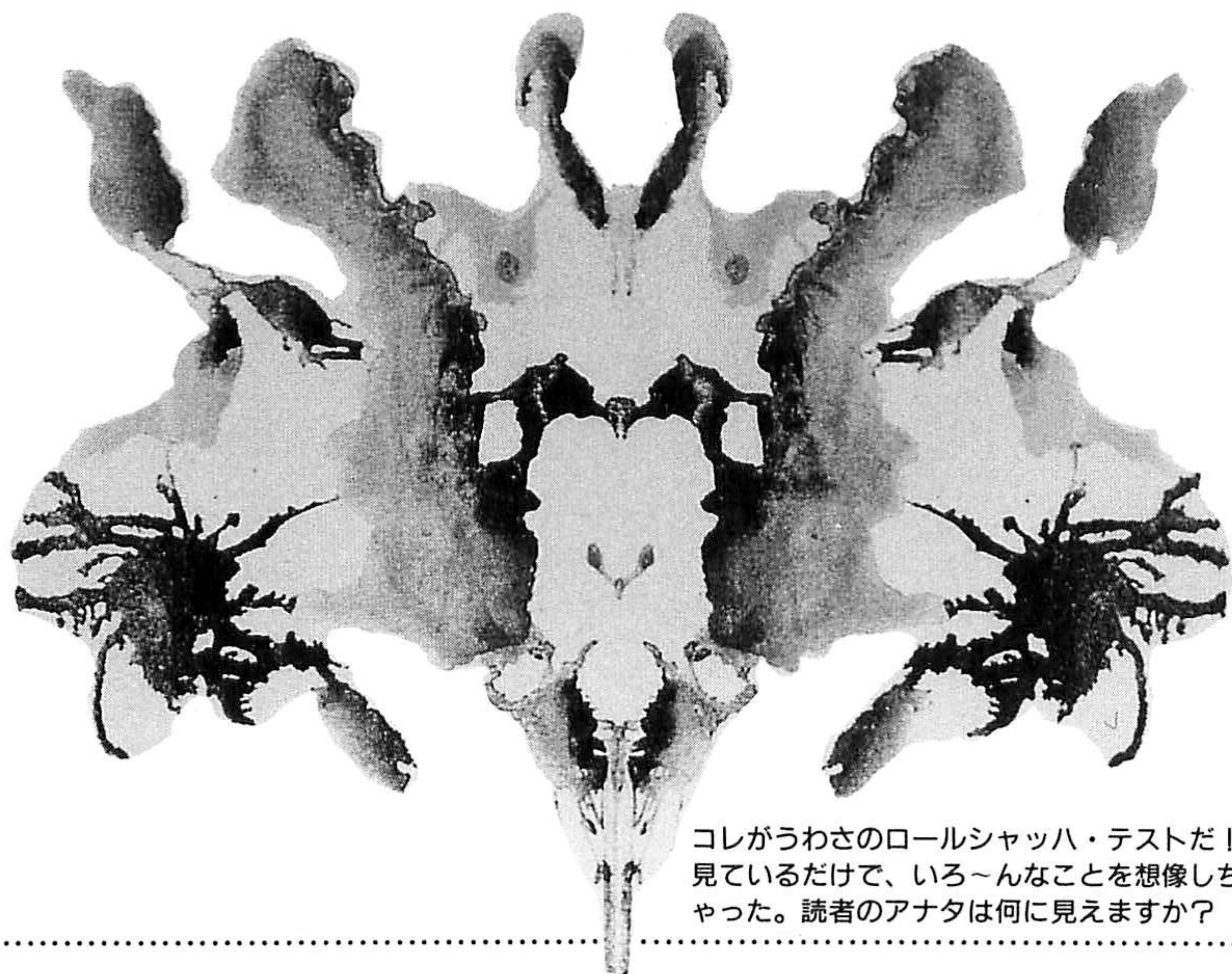
●電車の中で「!!」と絶叫した、小田晋！

小田　今はね、吉田秋生さんの『バナナフィッシュ』。バナナフィッシュという薬物があって、ＡＤ

SDとLSDの誘導体だということになっているんですね。人を殺したくなる薬。このマンガはそれがテーマなんです。ちょうど似たような事件がありましてね。大学院の学生に教えられてね。別件で東京拘置所へ鑑定に行った帰りに北千住の本屋で、全9巻のうち1巻だけ買ったんですよ。それで帰りの常磐線の中で読みはじめたワケです。そしたら、途中で「!」と声をあげちゃってね。

宅 どうして(笑い)。

小田 だって事件にピッタリだし、最近の小説には見られない大長編の風格がありましたもの。

宅 続巻が読みたくなって、買いに戻ったんじゃないんですか。常磐線を。

筑波大学の小田晋・研究室がコレだ! ボクを待っていたのは、この「お宅」だった。せまくて、対談に困っちゃった。

コレがうわさのロールシャッハ・テストだ！
見ているだけで、いろ〜んなことを想像しちゃった。読者のアナタは何に見えますか？

小田　それならまだいいんですけどね……。

宅　……、エッそれはスゴイ話ですね。ボクもその電車に乗りたかった。それで『バナナフィッシュ』の続巻はどうしたんです？

小田　なかなか9巻そろえるのに苦労しましたよ。持ってる学生が「貸してやろう」と言うんだけど、いまいましいから貸してくれ、とは言えないしね。

宅　はあ。それもおたくっぽい。おたくだ、おたくだ。借りればいいじゃないですか。

●おたくの資格って、いったい何なんだ!?

小田　だけど宅さんは「おたく」を広義に使いすぎてると思うんです。

宅　そうですね。広い意味でマニアの言い換えになってる。もちろん狭義の認識もあるんですけど……。

小田　でもおたくは対人関係に回避的であるため、相手を「おたく」と呼ぶんでしょ。僕はそう狭義に定義して、使ってます。宅さんの用法だと僕までおたくになってしまう。

宅　小田さんはおたくですよ。ピピッて、サイン発してます。ボクは仲間だからわかるんだ。

小田　まあ確かに……。この教官室はご覧のとおり(モノスゴい本だらけ)。全部、精神医学の本です。こんなことしてる教官は僕だけです(うれしそう)。

宅　ホラ、おたくじゃないですか！

小田　でもビデオじゃなくてブッキッシュ(本のこと)だし、僕は旧人類ですし……。それに僕は対人関係はすごく大事だと思っていますしね。

宅　対人関係の得意な、おたくだってボクのまわりには多くいますよ。苦手(にがて)どころかイニシアチブ握って、映画やビデオを作ってる。

小田　その彼は、おたくの「資格」がない。ただのマニアです。

宅　資格っていったい何ですか。小田さんは狭義に、おたくをネガティブに定義してて、そこからハズレちゃうと困るんじゃないんですか!?

小田　そんなことはない。それでは、彼は相手を「おたく」と呼びますか？

宅　あのー、実際に「おたく」と呼んでるおたくなんて今はあまりいないですね。先生は命名にこだわりすぎてる。命名された83年からもう7年もたってるんですよ。

小田　いや、一般にオタク族は対人関係で「キミ」という呼び方ができない、したくない人。それから、自、分、の、住、所、も、電、話、番、号、も、教、え、た、く、な、い、人、として使われていた用語ではありませんか？

宅　そ、そんなバカな。実際のおたくの現場と、小田さんのいうオタクはずいぶんズレがありますよ……。

●おたくはナゼ差別されるのか！ロールシャッハテストとしての「おたく」とは!?

小田　それにしてもオタッキーに対してナゼ、これほどのラベリングが行われたか。おたく族がラベリングの対象になるのはナゼか、宅さんはどうお考えですか。

宅　気味が悪いヤツが増えてきたと思われたからですね。自分はおたくじゃないと思ってる人には

「おたくは暗い」ってニュアンスで許せなかったワケ。

小田　ネクラのひとつの存在形態としておたくがあったと。もう一つはおたくが「たくましく健康的で明るいスポーツマン」じゃなかったというレベルでしょ。

宅　そういうスポーツマン的「理想のイメージ」が無批判的に善(=ネアカ)、そうじゃないと悪(=ネクラ)とされてきた。その是非を見つめ直すロールシャッハテストが「おたく」なんですよ。

小田　皮肉にも今の日本社会は若者に筋肉的チカラよりもコンピュータ的才覚を期待しているかもしれません。

宅　ますます、そんな「おたく性」が要求される世の中になるだろうと思います。おたくはすでに構造であり、時代相のありようですね。

＊そして、この後。いつも使っているというロールシャッハテストで、宅八郎が小田晋に診察されることになった。

小田　これは、何に見えますか？

宅　デビルマン、プテラノドン………(絵を次々にかえていく。そして―――)。

小田　精神病とまではいかないが、これは境界線症例の反応に、よく似ていますね！

宅　境界例といっても、それって現代人なら誰もが持ってる危うさってヤツでしょ？

小田　いいえ。誰でもは、持ってません！

宅　………(不安)。

宅八郎氏は「オタク」を広義に定義しており、これでは人類で「オタク」でない者はなくなってしまうほどである。この対談の時点では私も「オタク」のネガティブな面を強調しすぎたきらいがある。

宅氏のいう「おたく」は情報社会における「マニア」の現象形態ということであり、その意味でなら一つの現代への適応形態である。ただ名称自体の中に対人関係における回避的な傾向が含まれているのは、気になるところである。

（小田　晋）

（初出は、週刊SPA!'90年6月27日号。単行本収録にあたって小田氏の強い希望により、やや内容の異なったモノになっています）

DIALOGUE——③

リカちゃん先生が境界例・宅八郎を診断する!!

香山リカ VS 宅八郎 サイコ対談

犯罪学の権威、小田晋に「境界例です。通院の必要があります」と診断された宅八郎!
宅は〈境界例〉なのか? やっぱり本当に精神病院へ行かなきゃならないのか?
「香山先生、ボクの不眠症を治してくれ〜〜」「助けて〜〜」
最後に、香山診断による「宅八郎の精神鑑定書」を特別公開!!

(1時間待っても対談場所に来ない宅八郎を、香山リカと編集者は待っていた)

香山 (遅刻する宅を分析している)攻撃型受動型人格障害っていうのがあって、内に秘めた攻撃性を現せないっていう人がいるんです。つまり、ためらったり、のらくらしたり、遅刻したりして、消極的反抗の態度をしめすんです。

編集者 (イライラしながら、宅八郎を待つ)消極的なんですか。

香山 だからね、積極的攻撃性は見せられないんだけど、忘れちゃったり、行かないという事で内に秘めた攻撃性を出しちゃうんです。

編集者 つまり、基本的にどこかでちょっとイヤだなと思っているんですね。

香山 恐れている。宅さんは今日、恐れているのかもしれませんね、この場に来る事を。(遅れに遅れて、やっと宅八郎がやって来た)

宅 遅刻しちゃってすい

ませーん。

香山　はじめまして。こんにちは。

宅　いや、ボクは香山さんに前に何度かお会いしてるんですよ。

香山　えー、どこでどこで。

宅　6年くらい前だと思うんだけど、渋谷の丸井のヤング館の1階から上がっていくエスカレーターのところでお会いしてるんです。

香山　えー、覚えてないなー。

宅　ボク、1階からパンティー見えるかなーって。

香山　それは別に私のって言うんじゃなくて？　ずーっとそこにいたんですか？

宅　そういう事はよくあるんですけど、その時はちがいます。

香山　のぞかれちゃったのかー。

宅　赤いチェックのシャツ着てて、黒いタイトスカートで、パンティーは見えたような見えないような(笑い)。今、どんなスカートはいてるんです

香山リカ。
1960年7月1日生まれ。
精神科医

かあ（のぞきこむ）。

香山　いや、そんな。下から。それを今日は確かめに？

宅　それもあります(笑い)。

香山　それなのに一時間も遅刻して。

宅　編集部で寝ちゃってたんですよ。ボク、不眠症だから、思わず寝すごしちゃったんですよ。ごめんなさい。

香山　六時半に渋谷っていうのに、六時半にならないと家を出れない人もいるんです。ここまでのタクシーの中でどんな事考えていました？

宅　もしかしたら、まだ四時くらいで寝てるのかもしれないかーと思って。タクシーに乗っているけど、これは無しの話かなって。

香山　そういう夢か現実かっていうボォーっとすること多いんですか？

宅　それで以前、小田晋さんには「君は境界例だ！」って言われたんです。「入院はしなくてもいいけど、通院したほうがいい」って。それで不安で不安で。大丈夫かなあって。小田さんにはロールシャッハテストやってもらったんですけどね。

香山　何か印象に残ってるカードはありますか？

宅　何か色数の少ないヤツでね、そうデビルマンみたいなの。あれっ、香山さんのシャツも、ロールシャッハみたいですね(笑い)。

香山　巨人みたいなやつですか、三角の羽根が下向いているやつかな。

宅　そのカードけっこう、カッコイイんですよね。翼手竜（プテラノドン）がバーッと、空を飛んで行くのね。それを下から見上げているような感じがしてね。

香山　………。それ、珍しいですね。あれはね、安楽。何枚目かにそれが出ると、けっこう精神的にはホッとするっていう人が多いんですよ。あれは、羽根を休めて止まっているところ、という反応が多いんですよね。

宅　あれっ。そうですか。何か、わからないけど見てると「キキーッ！」って声が聞こえるんですよ。林の中でね、空をハーッて見上げるとムササビかモモンガが木から木へバーッて飛び移るようなね、その瞬間を見たような気がしたんですよ。

香山　それは、珍しい。あれを静止じゃなくて、運動っていうイメージで捉えた人って、初めて聞いたわ……。

宅　へぇー。長いこと、小田さんとやってると何だかわかんなくなってくるからかなあ。

香山　そうかあー。それで具体的な悩み事はあるんですか？

宅　不眠症でずーっと、生まれてから悩んでいるんです。

香山　生まれてからの不眠。すごい。

宅　寝られなくてね、小学校の時、ボクは忍者の漫画が好きで、『伊賀の影丸』を見てたんです。そしたら忍者が催眠術合戦を始めるんです。忍者同士が相手のマネっこしあうんです。右手をパッと挙げると向こうも右手をパッと挙げる。

香山　それ病気なんですよ。反響動作って言って、お医者さんがしゃべりながら机をトントンとたたくと患者さんもトントンとやっちゃう。

宅　その感じ。漫画見ててボク、ボーッとなっちゃうんですよ。それを読んでる自分にも術がかかっちゃうんです。そのうち一人がのどに刀の切っ先を突きつけて「のど突け！」って言いだす。す

ると相手もマネして「のど突け！」って。結局術の弱いほうがのど突いて死んじゃうんです。その時、薄れていく意識の中で「術をかけていたのは自分のハズなのに、かかっていたのは自分だったんだ」って言って死んでいくんです。子供の頃それ見てて、何か危うくなってくるんです。それでボーッとしてるんだけど、寝られなくなるんです。

香山　すごーい。

宅　これってやっぱり、境界例なんですか？

香山　子供ってね、もともとお母さんとか、周りの環境と自分との境ってはっきりしないんですよね。

宅　いや、大人でもはっきりしないですよ！

香山　自分と他が未分化というか。でね、子供と母親は未分化だとするでしょ……。

宅　何で、お父さんじゃ駄目なんですか。何で、お母さんばかり出てくるんですか香山さん！　わかんないですよ。別にケンカを売ってるわけじゃないけど。さっきから聞いてると、お母さんばっか出てくる。お父さんとは未分化じゃないんだ。

香山　お父さんっていうのは、自分からお母さんを最初に取り上げる者として……。

宅　別に誰も取り上げられていませんよ。

香山　そうですか……。子供は自分と「親」とが

未分化で、それは幸福な状態なんだけど、大人になるにしたがって、周りの世界が自分以外の対象から成り立っている事に気づいて、世界の構成を把握していくんだけど、境界例っていうのは、自分と他人との境の無い関係を、例えばグッズとかぬいぐるみとかとの関係に置き換えて、未分化な中間領域の中にとどまろうとするんです。

宅　そうそう、小田さんも「グッズ!」ってカン高く言うんです(笑い)。

香山　うーん、でも大人になってもはっきりしないのかー。普通、子供はグッズを愛していても、大人になる時、それをいったん葬(ほおむ)るといわれているんです。天国でも地獄でもない、これもまた中間領域みたいなところに葬って忘れるっていわれてるんだけど、宅さんはグッズ葬ってないでしょ。

宅　葬(ほおむ)ってますよ。小学生の頃ペットが死んだりしますよね。それ川原に捨てにいって、毎日腐っていく様子を見てた事ありますよ。1カ月くらい行ってたんじゃないかなあ。

香山　えっ、頭蓋骨磨いたりとかあ?

自分の病気を語る喜びにひたる宅八郎
精神科医は人を見くだしてますよ

宅　そんな事しないけど、葬るって感じでしたよ。絵を描いたりして。段々朽ちてくると臭いんですよ。それが変な感じで笑えてくるんですよ。

香山　葬るって儀式はやっちゃったのね。オマジナイみたいなクセないですか。畳にのる時は必ず、縁を踏んでから入るとか。

宅　それはないですね。型が気になったりはしますね、今の状態が。

香山　背骨がちょっと曲がっているような気がして、すぐやり直したり。

宅　そうするとね、自然というのがどういう状態なのか分からなくなるんです。香山さんもさっきから普通にとか、自然にとかおっしゃってますけど、それボクすごく気になるんです。用語が適切じゃないかもしれないけど、自意識みたいなのが分からなくなるんです。背骨が曲がってると感じる意識を認める意識があるわけで、それを認める意識がまたあるとしたら、どうやって自意識を意識できるのか分からなくなっちゃうんです。

香山　鉄腕アトムを持ってる鉄腕アトムのシャンプーみたいに。

宅　そうすると、いない忍者と戦ってるような状態になるんです。右だ、左だって。

香山　本当に右だ、左だっていう声がするんじゃないですか？

宅　それは、ないけど。何か変な事フッと思いつくんですよ。たとえば眠れないときに、トイレに行くと寝られる、とかね。いや、眠りはそういう問題じゃないんだ、とかね。

香山　っていう声が聞こえるんでしょ（まだ疑ってる香山先生）。

宅　それは聞こえるんじゃなくて、内側からするんです。だから、小学生くらいの時、布団に入って豆電球見てたら、やっぱり寝られなくなって、翌日発熱したことがあるんです。

香山　世の中としっくりいかないってことで苦しんだ事ありますか？

宅　それボク、ずーっと歴史なんですよ。幼稚園くらいの時から担任が変わると、きまって親が呼び出されるんです。

香山　それで腹を立てたり？

宅　高校くらいだと、同じ学区から行った人も少なくて、「あれはおかしい」みたいに決めつけられちゃって、ショックでしたね。その時に、そういう事言った奴、忘れないでいつか復讐してやろうと思っていました。

香山　それで実際は何もしていないんでしょ？

宅　……（ニヤリ）。

香山　腹が立ったりしたら、人に直接文句言ったりします？

宅　ボクあんまり怒れない事を、後で何か……。

香山　遅刻とかで表すんだ、やっぱり。

宅　境界例って具体的にどんな症状なんですか？

香山　人に捨てられたくないという気持ちと、自分を過大評価する気持ちとが両方あって、一言で言えば不安定なんです。

宅　それ、あるある。

香山　落ち込んじゃうっていうのと、人をすごく怒鳴りつけちゃうっていうのが。

宅　それ、編集部にいて校正のゲラが出ると、「ゲラが出た出た」と言って、編集部中見せてまわるんです。それから、そのゲラを仕上がりの線でハサミでチョキチョキ切って、その中に印刷所のハンコなんかが残っていると、ムカムカするんです。それを毎回ファイルにしてるんですが、本当の印刷したのが出ると、また切ってその上にのせて、ハンコが見えなくなると安心するんです。

香山　その間、その怒りのリビドーはどうしているんだろう？

宅　あんまり外にいかないですよ。怒りというか、ウラミに近いなあ。

香山　人に対して全く気にしない事はないでしょ。

宅　いや、原稿がどう読まれるかとかすごく気にしますよ。ボクね、コラム一回の原稿、１３００字くらい書くのに、マジで5日間位かかるんです。書いた後でも、20回くらい書き直しするんですよ。もう、ず〜〜っと朝から晩まで、原稿書いてるよ。

香山　推敲に、推敲を重ねて、詩みたい。それに見合った報酬を出さなくっちゃね。

宅　ところが推敲にならないいんですよね。

編集者　書き直すんだけど、書き改めようとしている文章の方も、おかしいんじゃないかと思っちゃうの？　さっきの忍者と同じなんでしょう。

宅　そうそう！　精神科的に、文章を早く上手く書くにはどうしたらいいですか!?

香山　そんなの無いよ。

編集者（見かねて）それはさ、精神科の答える事じゃないと思うよ。香山さん、今までのお話から診(み)て、分析するとどういう評価ができますか？

香山　さっきちょっと言ったけど、理想自我があって、自分との間の距離が大人になるにしたがって長くなるんだけど。宅さんの場合、その距離が短いような気がするんです。

宅　ボクは短絡(たんらく)的なんですか？（ちょっとムッとする）

香山　いや、そうじゃないんだけど。別に宅さんがそうだって言うんじゃないけれど、境界症例の人だと、その理想的自我を短絡的に、たとえばアイドルに統一しちゃって。西村知美さんのお姉さんを誘拐(ゆうかい)しちゃうみたいに……。

宅　それ、宅さんじゃないけどって、結局同じ事言ってるじゃないですか（怒る）。

編集者（フォローする）宅さんは、西村知美のお姉さん誘拐しないもんなあ。

宅　誘拐はしないけど、計画を立てる事はあるよ。たとえば、知り合いの女の子を殺したとしたらどこに埋めるかとか、ずーっと一日考えていた事あるよ。

編集者　………。それについて

美人の香山先生に診察してもらえて最高！今日の先生、スカートが似合うなあ。

言うとさ、前ね、宅さんは尾行癖だったんですよね、たしか。

宅　ボクね、人の事をずーっとつけてる事があったのね。気になるとついてっちゃうんですよ。香山さんもね(フフフ)。学生時代5、6年くらい前、三軒茶屋に住んでいませんでしたっけ?

香山　……、は、はい(イヤな表情であせる)。

編集者　ほら、きたぞー(笑い)。それ、男でも女でも関係ないの?

宅　女が9割ですね。人がマンションに入ると、その部屋を突き止める為に毎日行くんですよ。けっこう気になった時なんかは女の人が帰ってくるのを、ゴミ箱に入ってずーっと待っているんです。その後はハイテク導入しまして、ビデオカメラをゴミ箱に仕掛けるんです(自慢して、得意そう)。でも香山さんのテープは無いから安心ですよ。

香山　イリオモテヤマネコを観察してるみたい。

宅　ようやくファインダーの画面にその女の人が映っていた時は、うれしくってね。

編集者　その、通った時は性的興奮するわけ?

宅　するんですよ。別にセックスしたいとかじゃなくて。ただ、さっきの話じゃないけど、こんな事じゃボクはいけないなあって気になってね。

香山　だから、理想的な自我と距離を失って一体化するのはリスキーなんです。社会的規範から逃れることは、危険と引き換えなんですよね。それから誰でも、自分の中の深い所っていうのは分裂してると思うんだけど。宅さんは、まさにそれを凄く意識しちゃって生きているって感じですよ。

宅　でも、とにかく香山先生、ボクを寝させてくださいよ!

香山　睡眠薬って、そんなに使い方間違えなければ安全ですよ。

宅　それは、やっぱり精神科に通院しなけりゃだめってことですかね?

香山　それは大丈夫でしょう。さっきの二人の忍者の一人が、お兄さん的に具体的に現れるといいんです。

宅　それなら先生、ボクのお姉さんになってくださいよ(笑い)。

診断書

患者

宅八郎 殿 生年月日 昭和37年8月19日 28才

病名：境界例

著明で持続的な同一性障害、不安定で激しい対人関係の様式、見捨てられ抑うつ、衝動的で予測不能の危険な行動パターン、不適切で激しい怒りの爆発、などが認められ、上記診断と考えられます。

尚、就労能力は欠如していると思われます。

上記の通り診断します。

よつて向後、一生の間の 通院 ならびに自宅療養 入院 治療を要します。

平成（昭和） 3年5月吉日

精神神経科

医師 香山リカ

香山先生による精神鑑定書

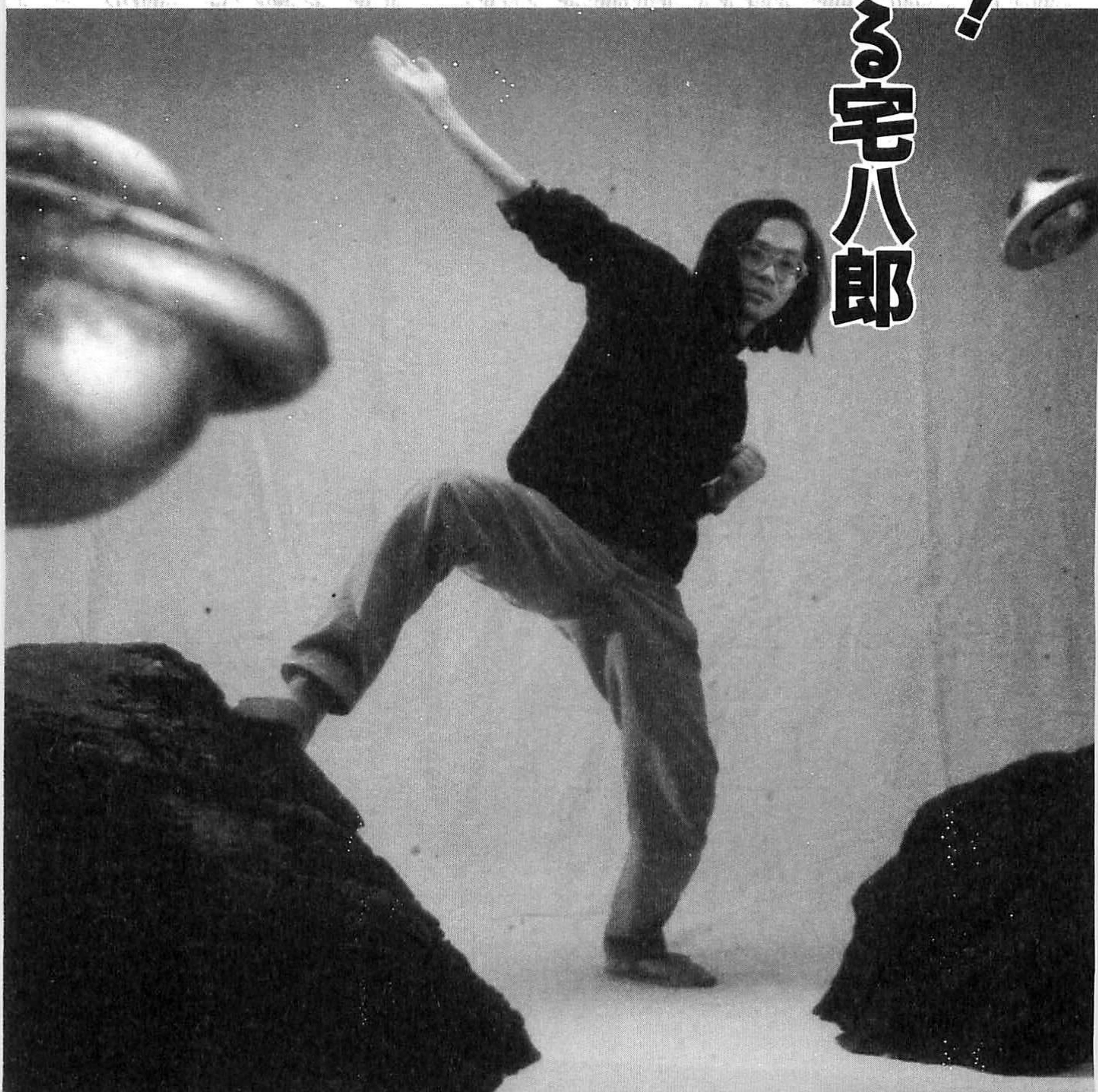
ダーーーッ！ポーズをつける宅八郎

これは『クロコダイル』'90年3月号で、アイドル穴戸留美の巻頭グラビアを企画構成した時に、ルンルンに演技指導したポラロイド写真である。

まるで『マグマ大使』の最終回。マグマ大使とゴアの変身したゴアゴンゴンが闘った、あのゴアラ遊星。

そんなイメージでセットを作り、ロケットを腰につけた衣装(!)の留美ちゃんにカッコつけさせたのだった。

そのために、宅が「こんな感じで、やってやって♡」と親身の指導をしたのである。

なかなか宅もカッコイイでしょ！

26 もう頭が割れそうだ。『伊賀の影丸』がボクの精神を破壊した!!

うわあああぁー！　忍者は刀でのどを突いて、死んだ……。

『伊賀の影丸』の1シーン。催眠術合戦にやぶれた1人は自殺したのだ。小学生の頃ボクはこの場面を読んで、ボーッとなった。精神が危うくなった。自分にも催眠術がかかったのだ。また、街角でも人に術をかけたくなってしまった！

催眠術が得意な忍者、夢麿と死神。2人はまったく同じ動きを始める。まるで鏡に向かっているかのように。

死神は刀をとり、のどに当てると夢麿に命令した。「つけっ！」。これで夢麿はのどを突いて死ぬはず、だった。ところがその時、死神は自分に命令する声を頭の中で聴いたのだ。「のどをつけ!!」「のどをつけ!!」「のどをつけ!!」「のどをつけ!!」。

彼は薄れゆく混迷の意識の中で〝自分が術をかけているつもりで、かかっていたのは自分だった〟と気づく。が、遅かった。うわあぁー！　断末魔の叫び……。

ボクが精神科医・香山リカ先生に相談した、コレが問題のシーンだ。この本をボクは小学生のとき父方のおじさんからもらったのだ。

その後、このマンガを探してみた。やはり危うい。死ぬまでの見開き2ページで「のどをつけ」という〈心の声〉が14回も書かれる、この場面は真に読者をも催眠術にかけるほ

右三本

左二本……

おいおい夢麿とやつはなにをはじめたのだ

催眠術だ催眠術のかけくらべだ

どちらかがすでにかけられている……

十文字……

刀……

『伊賀の影丸』秋田書店版・第1巻「七つの影法師」編から

のどにあてる……

つけっ

どうしたのどをつけ!!

その時死神は自分に命令する声をきいたのだ

のどをつけ!!

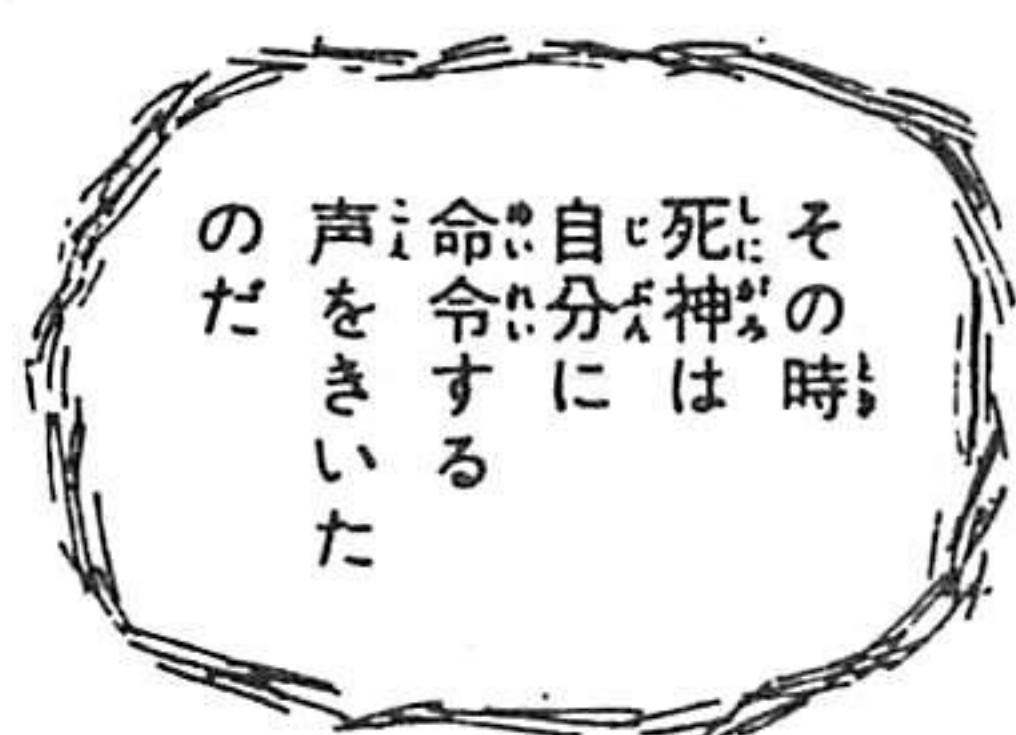
のどをつけ!!

のどをつけ!!

のどをつけ!!

のどをつけ!!

のどをつけ!!

こ これはどういうことだ!?

この後さらに、死神の頭の中に声が鳴り響き、彼は自殺した

ど危うい、と思う。小学生のボクはかかった。今でも剣道の試合で突きをみると、のどが怖い。面や胴はまったく平気なのに。
それだけではない。以後時々、ボクの頭の中で存在しない忍者2人が闘いだす(善と悪だったりね)ようになってしまった。二重拘束の強迫神経症に陥るのだ。迷ったり、こだわるようになっちゃったわけ。
『影丸』には他にも、草原にいると虫の音が気になりだして死ぬ術や、空に無数の赤いバラの幻覚を見せる術など、神経症的忍法が多い。自己と闘って負けるのだ。そう、死神に勝った、あの夢麿も最後は鏡に向かって(自分に自分で)術をかけ、自滅した……。
恐怖！　意識の合わせ鏡地獄！
忍者マンガでも横山光輝と白土三平は対照的だ。白土忍法は手品と同じ。タネあかしされる。科学的解法で図解される『サスケ』の名シーンは野球マンガの魔球と同じだ(大リーグボール2号・消える魔球は白土忍法的)。巧妙であってもトリックだから安心、安全だ。
それに比べて横山忍法は魔法(マジック)。読者、ボクらを境界例へと誘うサイキックなのだ！　さすがは『魔法使いサリー』の作者である(バットをよける究極の魔球・大リーグボール3号は横山忍法的だ)。
そう、ボクがかかったように、おた天をココまで読み、催眠術合戦のシーンを見たアナタもすでに術中にはまっている。みんなボクの仲間だ。おたく、だ。ボクが右手をあげればキミも右手をあげる。
声がきこえてきた。「のどをつけ」うわあああぁぁ――!!

27 ボクの前に現れた、幻の男は言った。「『マイティジャック』はファッションだ」と。

MJ。『マイティジャック』は日本初の一時間ワク・大人向け特撮テレビ番組である。放映は土曜日夜8時のゴールデンタイムだった（ちなみにスポンサーはサントリーと花王）。昭和43年に、冨田勲のシンフォニック・サウンドに乗って、万能科学戦艦MJ号は空を飛んだ。毎回、超兵器のオンパレードで、今もなお「特撮おたく」の熱い支持を得る作品である。

そのストレンジな男に会ったのは新宿。紀伊國屋書店前の街頭だった。突然、声をかけてきた彼は言った。

「宅さぁん、MJはファッションですよ」

「ああ、マイティジャック……。あれは東宝映画『海底軍艦』の進化形ですね。それに『サンダーバード』＋『007シリーズ』の影響がある。つまりメカ＋アクション。キミもメカフェチかな？」と、ボクはとまどいながら答えた。すると彼は……。

「いや、そうでもないんですよ、フフフフフ……」ニヤリと笑った。

「MJはファッションですよ。ボクが熱くなってるのはメカじゃないんです」

「すると、あのMJ隊員のふだんの職業がヘンなの（地図屋、クラブのママ、プロゴルファー、

提供・マガジンハウス
『ファッション・イヤーブック90年春夏編』

パリ・コレクションから。
J・P・ゴルチェのショー風景

花屋……）を笑ってるってパターン？」
「普段着でも隊員たちはオシャレでしたね。当八郎（宅八郎ではない、念のため。二谷英明が演じた）隊長はホームスパン・ツイードのジャケット、天田はプロゴルファーらしく、アーガイルのクルーネック・セーター、源田はモッズっぽく、黒のタートルに千鳥格子のジャケットで……」
「はあ、はあ、はあ」とボク。
「宅さん、第1話『パリに消えた男』を覚えてますか。当はタブカラーのシャツにモノトーンのレジメンタル・タイを締め、とっても小粋にハウンドトゥースのジャケットを着こなしていましたね。ゲストの応蘭芳（マグマ大使の奥さんモル役）の演じた秘書はシャネルスーツみたいで色っぽかったなあ。それにパリのカフェ。あそこの客がかけてたメガネは、まるでアラン・ミクリのデザインみたいでしたよ。わかりますか、宅さーん」
「ビデオで確認します」とボク。
「そう、特撮ものに制服は数あれど、MJスーツほどカッコイイものはないと思うんです。あのウエストがキュッと、シェイプされたダブルブレストのスーツがね。ピークト・

白のタートルネック。白いシャツにモノトーンのタイを合わせるコトもある

ピークト・ラペル（剣エリ）

MJ章

ウエストシェイプのシルエットが美しい。バックにストラップ

ミリタリー調を演出。ヨージ・ヤマモトふう

ダブルブレスト、6つボタン3つかけのブレザー

生地はビデオで確認すると、ウールギャバジンではなく、サキソニーかサージだと思われる

テーパードステムのパンツ

ストリートファッションの流れ

'30年代	ジャズスーツ
'40年代	ズートスーツ
'50年代	テディボーイ アイビー
'60年代	モッズ
'70年代	プレッピー
'80年代	ヒップホップ
'90年代	おたく!?

ラペルのエリで。隊員たちが動きまわる時の、あのドレープ感がたまらないんだなあ」と彼はうれしそうに話し続ける。

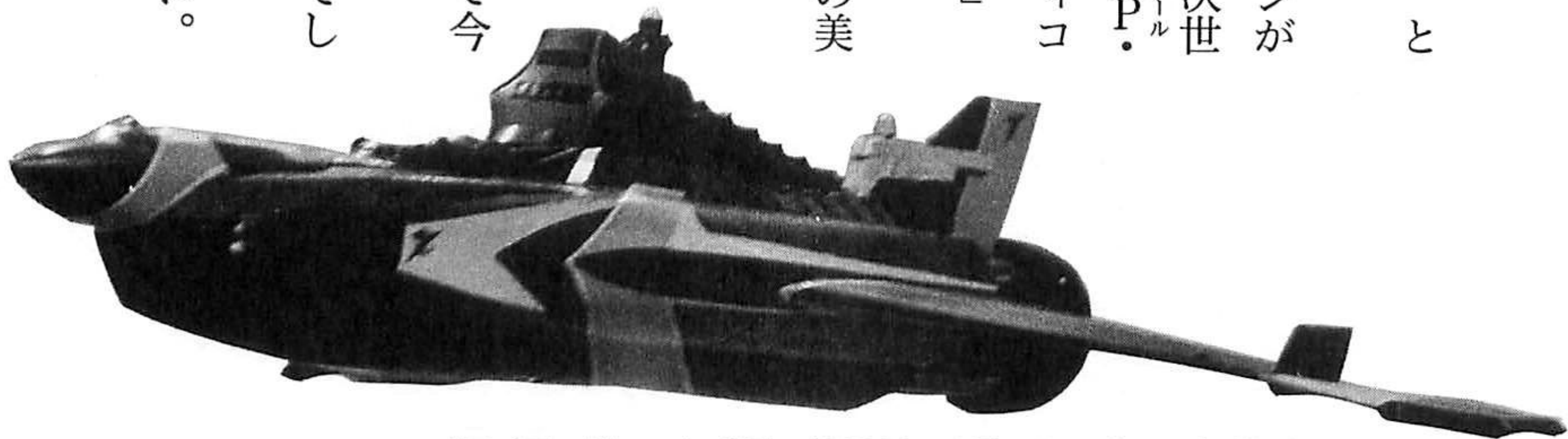
「ブライアン・デ・パルマの『アンタッチャブル』もジョルジョ・アルマーニの衣装デザインがイカしてたでしょ。'30年代のジャズ・スーツぽくて。MJも同じ。だいたい'30年代は第一次世界大戦後で軍隊の影響があって、ウエストが絞(しぼ)られてんですよね。キュッと。わ、私はJ・P・(ジャンポール)ゴルチェが生んだ〈ボディコンシャス〉のX(エックス)ラインシルエットにMJを見たんです。ボディコンの意味は〈意識(コンシャス)する身体(ボディ)〉ですが、MJは正義を意識（コンシャス）したんですよ……」

「な、なるほど」

「MJスーツはバックにストラップがあって、クラシカルでいいんだな。シャープさの美学があって。メカに通ずる機能美はスーツにあり、ですよ。『モードの迷宮』（中央公論社刊）で有名な、鷲田清一（関西大教授）の『ファッションという装置』（河合ブックレット）を読んだ時、私はMJを想い出してたんです。ファッションは〈私〉が〈世界〉と関係するための変換器だといってるワケ。〈装置〉なんです！」

「つまりMJにとって最大のメカはスーツであった、というワケですね。そのテーマで今度『おたく天国』をいっしょに作りましょう」とボクはこたえた。

ところが、どうしたわけか彼は雑踏の中に消えた。まばたきする間に見えなくなってしまったのだ。吹き消すように。

まるで忍者のような、幻の男。あの時のキミ、これを読んだらどうか連絡してほしい。

『マイティジャック』'68年4月6日〜6月29日フジテレビ系放映

28 天才は『ラブリンモンロー』で、生と死のリアリティを追求する!!

死のリアリティは確かに変容したように思う。人が死ぬことの現実感は喪失したように思うのだ。

そんなリアリティが失われたのは、いつからのコトだろう。暴力犯罪などが起きると、よく言われるのは「TVやマンガの残酷描写が青少年に悪影響を及ぼし、暴力衝動を呼び起こしてしまう」という紋切り型の言説である。

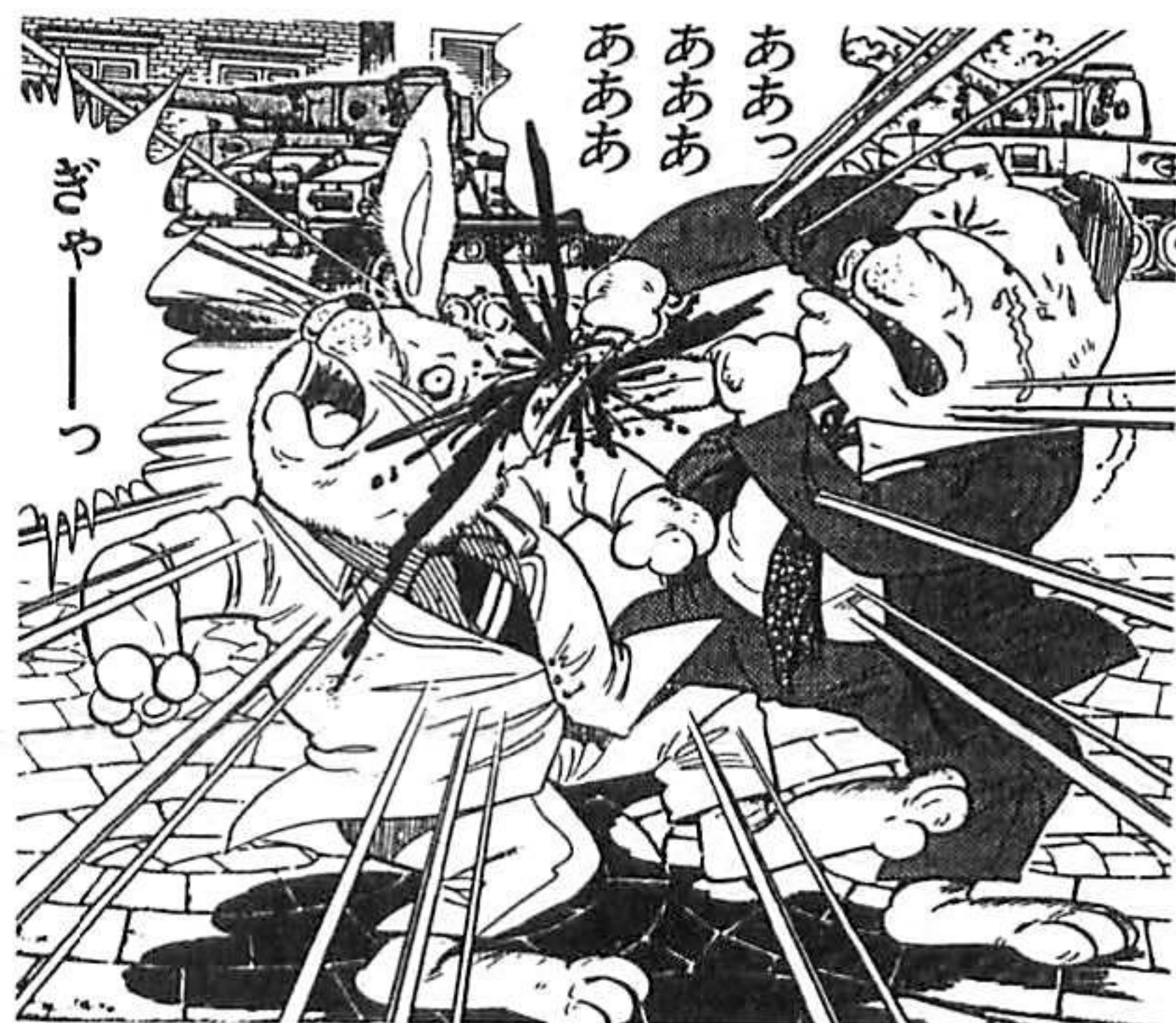
それは日本製アニメが輸出された時に、海外でも問題とされた点だ。

マンガ、アニメ、SF、刑事もの、時代劇……あらゆるドラマの中で、毎日多くの人間が死んでいる。そういえば、今は渡哲也が率いる石原軍団が殺したヒトの数は何人になるんだろうか？

虚構の死を繰り返し見せられるコトによって、確かにある種の現実感は失われたように思う。

ただリアリティの喪失、麻痺が即、犯罪につながる、とは思わない。それはあまりにも

ジョージ秋山の問題作『ラブリンモンロー』
ヤングマガジン連載の異色マンガだ！

短絡的な言説だ。
たとえどんな残酷シーンを見ても、それが虚構である限り、「たいしたコトないや」であって、「すげえオレもやりたいゼ」ではないのである。
「エロ・グロ」描写の規制論者どもは、つねに回帰を叫ぶ。「自分たちの少年時代はよかった。今のエスカレートした表現から、子どもを守れ！」と。
死の実感なき時代。仮に暴力描写を規制したとしても、懐かしの「古き良き、あの時代」（笑い）に帰るコトはできないと思う。
その意味でスプラッタームービーは失われた現実感を取り戻そうとする、人間的な表現努力なのかもしれない（実際には、そのシーンがどんな特撮テクニックで撮られているか、の興味は大きい）。
虚構のなかで、恐ろしいものなんて何も無くなった！　ボクはそう思う。
そんなボクが久しぶりに、ある種、目をそむけるような思いにかられたのはヤングマガジンで、『ラブリン・モンロー』の連載が始まった時だった。
はじめは何だかジョージ・オーウェルの『動物農場』を思い出していたマンガだった。
舞台はナチス・ドイツの占領下の東欧に擬せられた動物世界。
ナチス軍は狼に、制圧される小国の民衆はウサギやネコ、ヤギなどとして描かれる。主人公ラブリンはブタの娼婦だ。
作品のなかではブタどもがブチ殺され、凌辱（りょうじょく）されていく様が、これでもかこれでもか、と描写されてゆく。

眼を覆う残虐シーンの数々が描かれてゆく！

それは人間が惨殺されるシーンをはるかにしのぐ、血なまぐさい残酷さに満ちあふれていた。その時ボクは目を覆(おお)った！

ＴＶアニメ『ガンバの冒険』で、主人公の仲間のネズミが白イタチ・ノロイの爪に引き裂かれた時に感じた、それだった。擬人化でも擬獣化でもなく、ボクは動物が惨殺される時に、肉親を殺されるような心の痛みを感じていたのだ。

動物は友人だ。愛すべきペットだ。遠くの人の死よりも、身近なペットの死。

ディズニー以来、動物はマンガの中では愛されるペットのハズだった。そんな動物が惨殺される時、ボクらは見慣れた人間の死以上の「死」を意識していたのである。

そして今や『ラブリン・モンロー』は究極のスプラッターコミックになった！

「生」は「死」を前提に語られねばならない。「死」と対比されて、はじめて「生」は意識されるのだ。ボクらは「生」をも見失ってしまったのだろうか。

そんな時代にあって、天才ジョージ秋山は、本物の恐怖を、生と死のリアリティを描かんとしているように、思う。

主人公の娼婦ラブリンと、侵略軍の司令官ウルフ大佐
講談社刊

29 M。M。M。M。M。集合するM記号！冬の街に「Mの余波」を見た!!

M。冬の電車の中で、2つのMを見た。それはどちらも、車内の中吊り広告だった。宣伝のキャッチコピーが衝撃的だ。
「Mの国宮崎」、そして「Mの愉しみ」！
これはJRの宮崎県観光広告と、角川書店の角川文庫ミステリーコレクションのキャンペーン広告である。
「Mの国」には小さな文字でMisterious、Mild、Move、Melody、……とMを頭文字にした、宮崎県のセールスポイント(?)が連続して書かれていた。
そして「Mの愉しみ」にも同じように〝Magical、Mental、Miracle、Mellow、Maniac(!)それがミステリーのM。〟と書かれている。
車両ごとにM、M、Mと繰り返されるM記号が眼に突き刺さった。読者である、おたくも、そして多くの一般読者もMと聞いて、あの男を思い出すだろう。
その男の名はミヤザキツトム！
そしてあの本、『Mの世代——ぼくらとミヤザキ君』を読んだ方も多いと思う。大塚英志、中森明夫両氏の対談に、事件に対するM世代の文化人の発言を併載した本だ。
この本の帯には、やはりMedia、Me、Mother……と、世代の感受性が縁ど

られるM記号が集合していたのだった(初版発行は'89年12月、つまり2年前)。

それにしても、2枚の中吊り広告。別にアイデアの盗用だ、などと指摘したいわけではない。広告ならば悪いイメージを避けるのが、基本。よりによってナゼMなのか。Mは良いイメージになったのか、それとも確信犯なのか。

製作者に話をきいた。「Mの国宮崎」のJR側では――。

「M、に宮崎勤を連想した者は、我々の間でも、ミヤザキ県庁関係者にも1人もいません。そんなこと言われては心外、極めてショックです。『Mの世代』なる本との関連もありません!」

もう一枚のM、「Mの愉しみ」の角川書店の広告代理店では――。

「ミステリーなので冒険してみました。確かに、Mにはマゾとかミヤザキ勤とかの意味は込められてる、かもしれません。『Mの世代』、何ですかソレ。まったく関係ありません」

(上)宮崎県観光広告、(下)角川文庫キャンペーン広告のポスター

語られる意図はともかくとして、この2枚をボクは危険かつ、大胆な広告として受けとめた。時期を同じくして2枚出たというコトを含めて、冬の「Mの余波」と言えるものだと思う。

ところで『Mの世代』は、M事件を糸口に「'90年代の倫理」を語ろうという本だった。

おたく問題を語るうえで、間違いなく引用される一冊である。ボクにも、そんな手紙、長文にわたる論文などが、数多く送られてくる。

そう冬の倫理。サァ日ごと寒さもつのります。皆さん、こたつに入っていますか？　寒い時にはエチカが一番！

♪雪のふる夜はたのしいエチカ　エチカ燃えろよ　お話しましょ〜〜〜♪

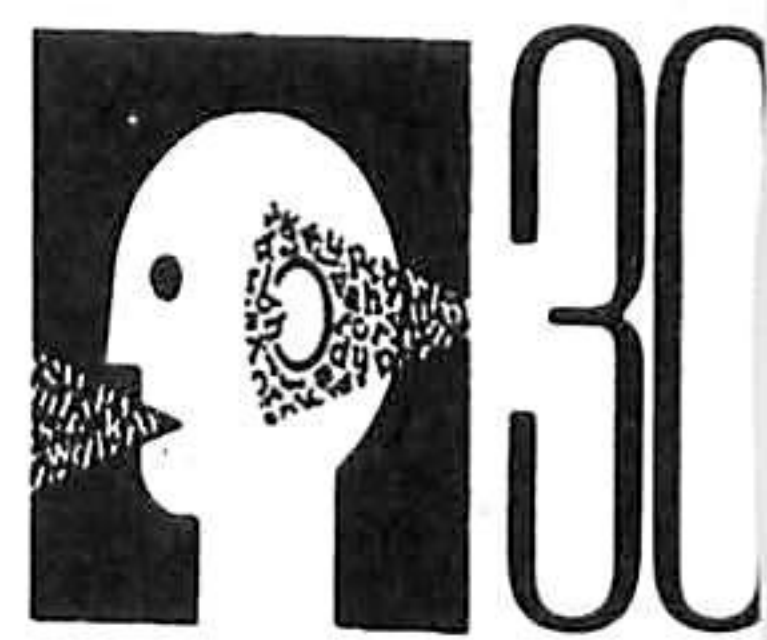
というわけで、冬の時代に倫理はトレンドとなりつつある。感性の時代とされた80年代、「大切なのはセンスよ、センスがあればいいのよ」というノリだった。

そして今。究極の感性は〈倫理〉になってしまったみたい。現代思想おたくの人は「問題は倫理よ、倫理をもって生きるのよ」と言う。

まるで感性を倫理に言い換えてるようにも聞こえちゃったり、する90年代だ。

唄おうぜ。

♪燃えるよエチカ〜〜〜!!

『Mの世代』1100円　太田出版刊

30 そして人が本になる！『外道の書』刊行。アキラの子供が生まれた!!

「ビキビキビキッ！」人の顔に呪文のような字がビッシリと浮かび上がってゆく。まるで耳なし芳一（ほういち）のように。

ビキッ。そして顔がヒビ割れ、めくれ上がった。次の瞬間、何と人間がバサッと〈製本〉され、一冊の本になってしまったのだった！

〃本〃を手にした小学生、「マスター」はブキミに微笑み、うれしそうに本を回収する。

マスターは〈奇怪な儀式〉によって人から本を作り、12冊の書を集めようとしているのだ。

その本は〈外道の書〉。それが、いつ誰の手で書かれたのか、は誰も知らない……。

去年、ヤングマガジン誌上で13週にわたって連載された『外道の書』（井田辰彦作）のコミックス単行本が刊行され、静かな人気を博している。

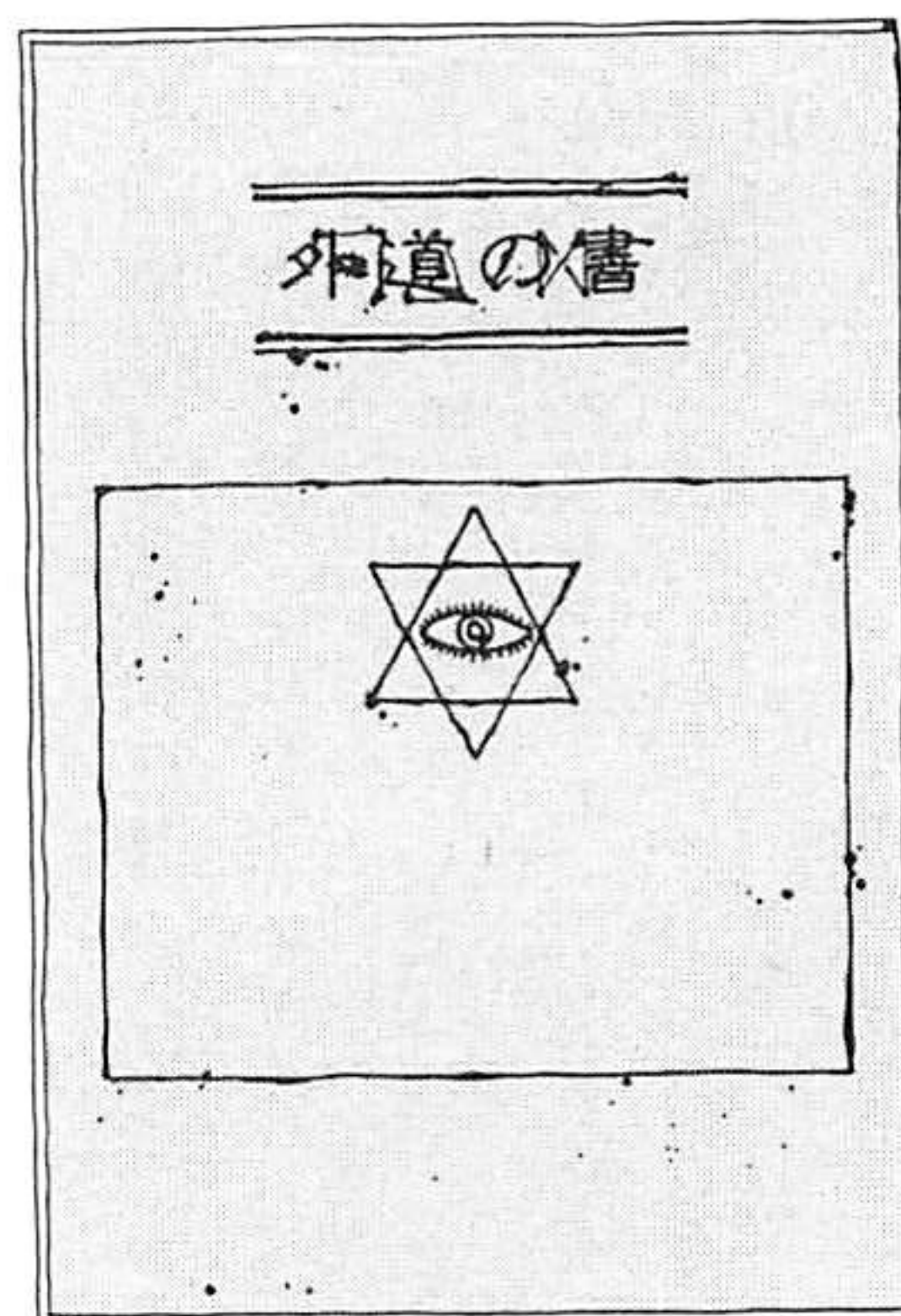
ボクは軽いめまいを覚えた。それにしても、人間が本になる、その描写表現は秀逸（しゅういつ）だ。

生理を直撃する怪奇趣味。ゾクッと、気分が悪くなりたい人には必見のコミックである。

そして塾に通う小学生、マスターの放つ静かな恐怖感もイイ。

兄を本に変えられたしまった、主人公の少女さつきはマスターと話す。

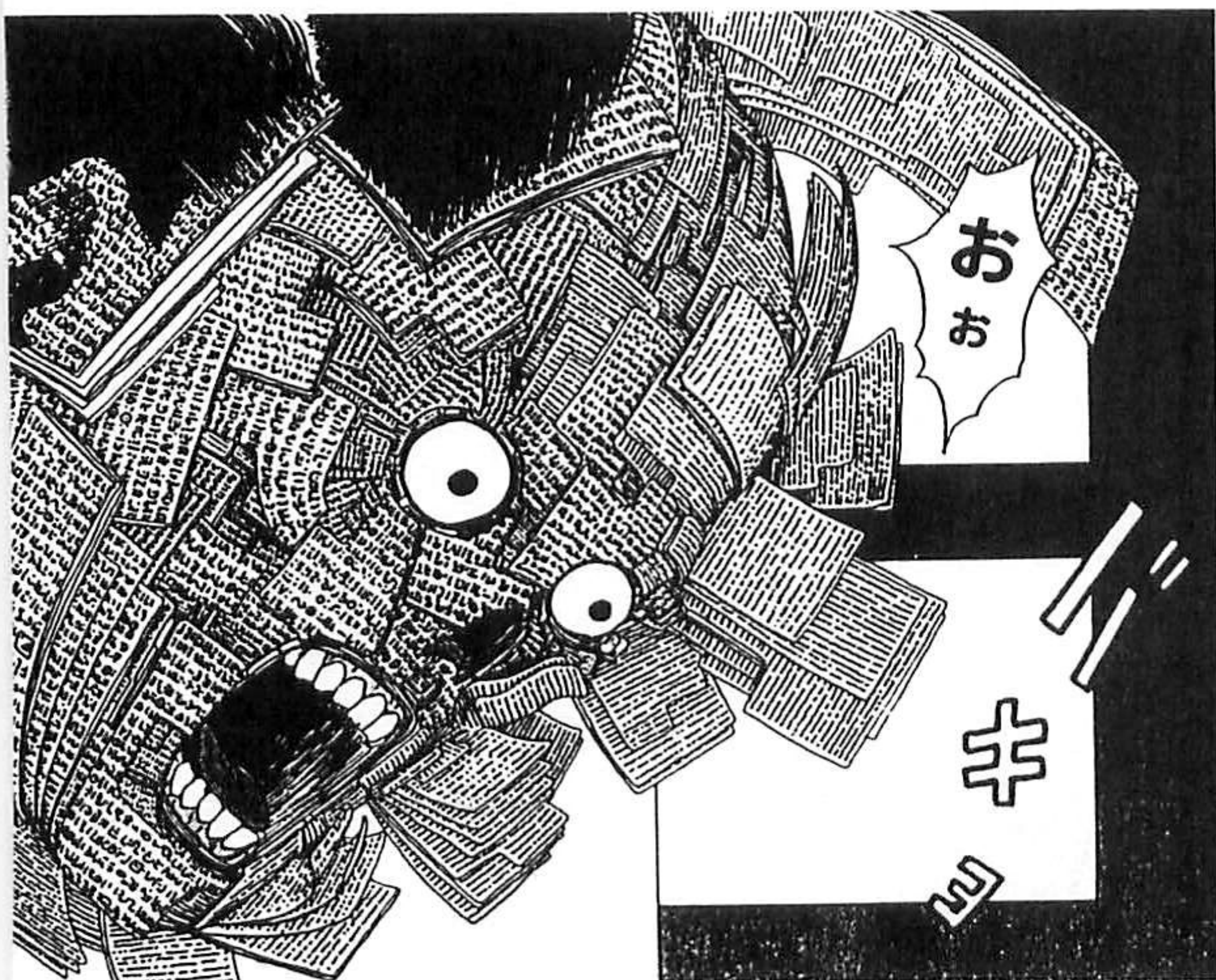
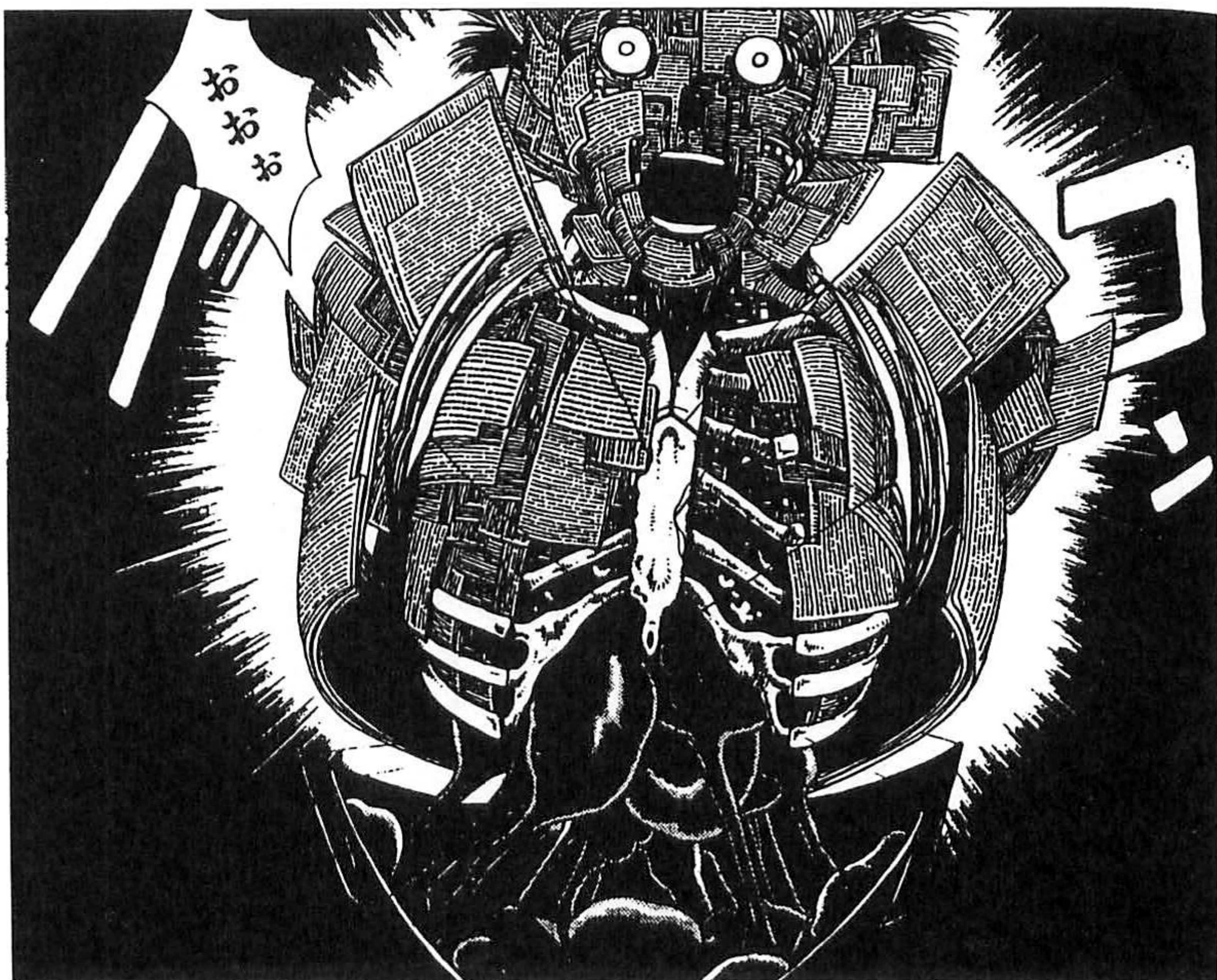
「本を集めてどうするつもりなの、まさか世界征服とか……」

「知識さ！」

「力なんかに興味はないよ、この本には絶対の真理、究極の知識が書かれている。僕はそれを求めて800年も生きてきた、転生を重ねてね……」

「!」絶句する、さつき。

力でなく知識。知識を求め、グッズをコレクションする。この小学生は「おたく」である！

「外道の書」12冊全部をそろえると、神の知識が手に入る、いや神になれる、というワケなのだ。そして13冊めの「書」がこのコミックそのものなのだろう。

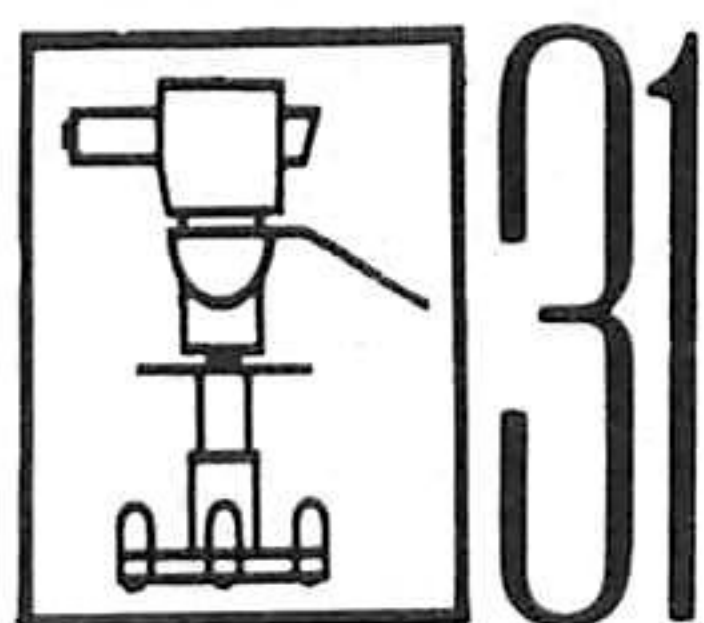
アンファン・テリブル！　恐るべき子供、マスターの存在感は『アキラ』以上にコワい。

もっと古くは『悪魔くん』にも近いけれど。また、塾や団地を舞台にした設定は、『童夢』あるいは『ノーライフキング』を思わせる。
そして、儀式に失敗した〝乱丁、落丁本〟。第一の書と呼ばれる出来そこないの男だ。脱出した彼がマスターらと闘っていくさまは、まるで仮面ライダーである。
思えば、井田辰彦というこの若い作家自身おたくなのかもしれない。かつてのマンガのイメージをリミックスし、パズルを組み立てたような印象なのだ。
かつてサイバーパンクという流行があった。それは廃墟のイメージを核にしていた。『アキラ』もそうだった。廃墟とはモノが破壊されつくした姿である。物質の行き着いた果て、の未来イメージだ。
そんな「さいはて」の向こう側には何があるのだろう。
若手のマンガ家たちは、ようやくサイバーパンク以降のリアリティを模索しはじめたよ

講談社刊

うに、思う。
物質世界が完全に崩壊したあとの精神世界。『外道の書』の魔法感覚にそんな精神世界を探る試みを感じた。
同じヤンマガで長期連載された『アキラ』の〈コドモ〉がマスターなのだ。
アキラで終結した「未来」の向こう側に、そのコドモが生まれようとしごどろん。
ごどろん。
ごどろん。
さあ悪夢の書をあなたも手に取るがいい。

ボクもこうして単行本になってしまいました！

'91年度年賀状より

あけまして、おタめでとう！

♨今年も何卒この「イカす！おたく天国」よろしく、オタ願いいたします。

31 おたく天国史上最高の日。けっこう仮面よ、ありがとう!!

生きててよかった!
おた天やってて本当によかったあッ!!
だって、けっこう仮面に会えたんです。ボクの人生はこの日のためにあったといえるでしょう。特別撮影が決定した時、ボクは声高に叫んでいました。
「見える!」って。
『けっこう仮面』がビデオ実写化されるなんて、だいたい夢のような話です。正義のために恥も外聞もすて、全裸というコスチュームを着た美女。『ハレンチ学園』でも『キューティーハニー』でもなく、もっと過激な『けっこう仮面』が映像になるなんて。
「おっぴろげジャーンプ!」頭の中にモザイクが広がっていきました。
走馬灯(そうまとう)のように脳裏に甦るマンガの思い出は、ボクをこの特別撮影の日へと誘(いざな)っていったのです。
ビデオを用意しました。ハイエイトCCD－V900。サインをもらうだけじゃガマンできません。ビデオに残さなくては。ビデオに撮ることで、けっこう仮面がボクのものになります。可愛がることができます。
世界でただ一本のボクだけの宝物です。思いどおりにしてやる。巻き戻しもできるし、

ポーズもききます。
毎日、自宅でボクはけっこう仮面に会えるのです……。
そしてこの日がやってきました。
見える！
とっても〈けっこう〉な部分が見えるんです。
けれど。次第にボクは奇妙な感覚の中にいました。目がかすむんです。
目の前に生身の体（ハダカ）とモニター上の電子の体（ハダカ）がある。迷うんです。現実と虚構の間で。モニターがリアルに見え、い、い、い、生身のハダカのほうにモザイクが見えてくるんです。
そうだ、触らなくては。
でも直（じか）に触るなんて怖くてできません。ボクは用意した「義手（マジックハンド）」をおそるおそるのばしてみました。これで〈マッサージ〉するのです。
ギーギーギー——。

『けっこう仮面』（主演・青木クリス、監督・早川光）はジャパンホームビデオから発売

マジックな音が響きます。まるで博士になった気分。
「OH！　Dr（ドクター）・ストレンジ・ラブ!!」
なんてストレンジな感触でしょう。マジックハンドを媒体（メディア）として伝わる肉感。この「手」から奇跡が、愛が生まれるのです。
ボクは無上の喜びにうちふるえていました。涙が出そうでした。頭の中が白くなりそうでした。
そのうえボクは女教師役の、あの青木クリスさまにも会えたのです！
ああ、あ……。
この世にクリスがいなかったら。
ボク、死んじゃう!!　そのくらい青木クリスが大好き。
おたクリスって呼ばせてもらいます。
このセクシーな女優が目の前にいるのです。
「ハアッ！」って叫びたい。しかし叫んだら異常者と思われてしまう。ボクはこらえることにしたんです。

この日のことをボクは一生忘れないでしょう。そう、まるで夢。夢の中にいるような気持ちでした。おたく天国、本当の天国。そして今日もボクは家で泣きながらビデオを見ています。
夢よ、いつまでも！
残念ながらボクだけの宝物（ビデオ）は誰にもお見せできません。でも、あなたにもひとつ、このストレンジな愛（ラブ）をわけてあげたい。皆さんにも何とかお伝えしなくては。
ビデオムービー『けっこう仮面』はジャパンホームビデオから発売されます。そのビデオであなたもどうか、この愛を体験していただきたいのです。

永井豪原作。『月刊少年ジャンプ』74年9月号～'78年2月号連載。あまりにも過激なコスチューム(?)から実写化は不可能とされていた。
集英社・ホーム社刊

主演の青木クリス（'90年度プレイメイトジャパン）。'68年3月25日生まれ。
163cm 47kg B84 W57 H83

焼肉対談

肉、うまい！ 佐川一政 VS 宅八郎

食いしん坊、バンザーイ！
お腹をへらした2人がついに焼肉屋に来店した。早く肉が食べた〜〜〜い!!
宮崎事件以降、積極的な発言者としてメディアに反撃を開始した佐川一政氏をゲストに迎える、日本一の衝撃グルメ対談！

宅　この対談を読んで、不愉快になる人もいると思うんです。まずは2人で謝っておきましょうよ。ゴメンナサーイッ。ああ愉快、愉快。わーっはっは！　さてさて、グルメで知られるアノ山本益博サンにも、まだ食べた事のないモノがある……。今日は、まさしく日本一のグルメ、佐川さんと食を共にできて、光栄です！

佐川　うまそうな焼肉ですね(苦笑)。

宅　お口に合いますかどうか。食べ物は何が好きなんですか？

佐川　やはり、お肉ですね(笑い)。

宅　「肉おたく」ですよ、佐川さんは。

佐川　実は今の住まいの1階も焼肉屋なんです！

宅　えっ、事実は小説よりもファンタスティック『HANAKO』にも載った店ですよ……。(笑い)ですね！　いっそ、自分で開店したらどうでしょう。「焼肉屋ルネ」とか「サンテ苑」とか。

佐川　自分では料理はしないんですか、焼肉とか？

宅　全くしない。あの時だけです！

佐川　タン塩が焼けましたよ。

佐川　パクッ。

宅　まったり、していてうまい！　そう『霧の中』であの肉の味を「まったり」と、表現してましたね。あれがボクは「まったり」という言葉を見た最初です。あの後ですね、グルメブームで「まったり」が流行ったのは。

佐川　そうなんです。あれは実は関西弁なんですよ。関東では新鮮に聞こえたらしいんですが。吉本隆明さんにも「まったり」という表現が『霧の中』では秀逸だといわれたんです。一種独特のニュアンスがあるんですよね。

宅　あ、佐川さん、そろそろカルビも焼いちゃいましょうよ。

佐川　霜降りでコレおいしそう……。

●佐川一政がメディアを暴く！

宅　'89年の夏に宮崎勤さんが逮捕されて、その後

佐川さんが大活躍したでしょ。コメント発表したりとか、文章を寄稿したりとか。

佐川　最初が『夕刊フジ』で、次が『アサヒ芸能』それから『テーミス』『週刊現代』……。

宅　かなり出ましたよね。佐川さん自身のフランスでの「例の事件」があったのが10年前。

佐川　1981年です……。

宅　それから写真週刊誌ほかの餌食(えじき)になってらっしゃって(笑い)時々見かけてたんですが。宮崎事件を契機に積極的な発言者として、新たにデビューした感があったんです。佐川さんの発言は痛快だった。それまでマスコミに狙われ、人権を無視する攻撃を受けてきた佐川さんだからこそ持ちえたメディア批判、反撃の視点。紋切り型の報道が加熱する中で、それはボクが共感を持ちうる「正論」だったんです。

佐川　ところが、そんな僕の発言に対してメディアの側からの攻撃がありましたね。

宅　そこで、さらに佐川さんは、自分を批判した「進歩的なオシャレで知的なジャーナリストども」に再反撃したでしょ。論争に発展したでしょ。その結果、彼らが単なるファシストであったり、ただ声の大きな人だったり、ただの主婦連のオバサン感覚の持ち主に他ならないんだ、ということを暴き出したように見えたんです。

佐川　ありがとうございます。

宅　人間扱いされてこなかったでしょ。数少ない人権のない貴重な人ですよ(笑い)。天皇と同じゼロ記号というか。今のところ佐川さんは法律的に抑制された犯罪者でもなく、けれどカタギの社会人でもない。フランスと日本の法の境界、現実と虚構の境界、そんなパラドックス空間の住人だからこそできた、四次元からの逆襲。それで、メディアの中の「佐川という回路」はレトロウィルスだな、と思ったんです。エイズやコンピュータウィルスと同じ存在。レトロウィルス(逆照射酵素)がDNAを変容させるかのように、メディアを逆照射し暴いてみせたんだな、と。

佐川　バイ菌だって言われたこともありましたけど(笑い)。ぼくの存在は無であってもメディアが

いろいろな対応をしてドラマが生まれちゃう。
宅　まるでプリズムですね。人を食ったサガワが、今はこうして人に食われている(笑い)かもしれないけど。

●佐川一政は松沢病院をぬけだしてホラービデオを見ていた！

宅　あーっ、カルビ焼けてますよ。
佐川　パクパクッ。
宅　だから、狂人扱いされてきた佐川さん以上にメディアの側が狂ってるようにも見えて楽しかった。京王線の八幡山の駅でマスコミ関係者を見たら、大宅壮一文庫から来たのか松沢病院から来たのかわかんないですよ(笑い)。
佐川　でもね、松沢病院に僕がまだ入院してる頃。実はね、時々抜け出しては下北沢のビデオショップまで行って、ホラービデオを集めてたんです(笑い)。
宅　えーっ！
佐川　本当は外へ出ちゃいけないんですけど。門番がいないから出られるんですよね。それで電車に乗って。
宅　八幡山かあ。松沢病院にはどのくらいの期間、入院していたんでしたっけ？
佐川　1年3カ月。フランスから強制帰国させられて、入院したんです。
宅　いつも、大宅壮一文庫へ行く時にね、あの前を通ると「塀の中」がどうなってるのかすごく興味があったんです。
佐川　キレイですよ。桜の木がたくさんあって、春には甘酒飲んで、お花見大会もやるんです。精神病院としてはけっこう歴史、伝統があって由緒正しいんですよ。中はかなり広くて、二千人？……よくわからないけど、かなりたくさんの人が中にいます。

●松沢病院の懲りない面々。精神病院内部についにメスが入った！

宅　へえ、松沢病院には、かなりブッ飛んだ人もいたんでしょ。

佐川　いましたよ、面白いのが。人のキンタマ握るのが好きな人とか。みんな怖くて逃げ回って(笑い)。お風呂で人のキンタマ握ったまま放さないで、とうとう握りつぶして、中身が飛び出しちゃった。マシュマロみたいでキレイだったという話です。

宅　そ、それは怖い！

佐川　話してくれたのは「通り魔第1号」という隣のベッドの人なんですけど。あとはトイレ洗剤を飲んじゃった人とか……すれ違いざま、いきなりバカヤローッて殴(なぐ)りつける人とか……。猿グツワした女性患者がいて、かわいそうにと外(はず)してあげたら、とたんに男性の腕にかみついちゃったりとか。ロボトミー手術を受けた患者さんもいましたね。彼は鳥とでも犬とでもSEXしちゃう人で。性欲減退させるため脳の一部を削除して。それでもまだ看護婦さんのお尻触って回ったり……。

宅　なんかもうバカボンの世界ですね。

佐川　いろんな世界の人がいます。でも笑い事じゃすまされない事件もありました。病院内で殺人事件があったんです！　夜中に江戸包丁で人がブスブスッて刺し殺されたんですよ。それに日航機墜落事故のK機長も「人を二十何人殺しやがって！」とか言われて首しめられて殺されかけたり……。

宅　楽しい思い出はなかったですか。

佐川　ありますよ、いろいろ。クリスマスにクリスマスソングを歌って洗濯してたら、後ろからヌッとK機長が現れて「カラオケ大会に出てくれません

か」。Kさんは大会の責任者だったんです。それで僕は「ゴンドラの唄」歌ったら優勝しちゃった。ハハハハハ。

宅　逆噴射のKさんは中ではどうだったんですか。

佐川　けっこう強い薬飲んでて、いつも病室で寝てばかりいる人でしたね。出てくるのはカラオケ大会だけ。必ず看護婦さんと「銀座の恋の物語」をデュエットするんですよ。あの曲、専門で。

宅　へえ〜、ボクも一度は入ってみたいですよ、松沢病院。

佐川　どうぞどうぞ。僕は、もういいですから(笑い)。

●佐川さんの初体験は23歳、相手は外国人だった！

佐川　抜け出してビデオ屋へ行ってたどころか、病室からタクシー呼んでそのまま川崎・堀之内へ行ったこともあります。

宅　えっ！　トルコ風呂ですか？

佐川　ええ。そんなこと絶対いけないんですけどね。で、遅れて帰ってきちゃったんで外出禁止になって、吉本隆明さんとの対談が流れた(笑い)。

宅　すご〜い。ボク行ったことないんです。のぞき、とかAV専門で。ボク、童貞なんですよね。生身の女ダメなんです。怖いっていうか……。

佐川　それもわかりますよ。この間もディズニーランドでデートしてたら、お化け屋敷で女性が腕組んできて、緊張しちゃったよ。体が固くなっちゃってね。

宅　いいじゃないですか。ボク佐川さんがうらやましいですよ！　健康的で!!

佐川一政。'49年生まれ。現在、作家として『サンテ』『蜃気楼』などの著作がある

佐川　そんなこと言われたのは僕、初めてです(笑い)。彼女は中村あずささんに似た28歳の子です。
宅　ところで童貞喪失はいつだったんですか。
佐川　23歳の終わり頃。相手は外国人だった。それもやっぱり宿命的ですね(笑い)。
宅　えーっ。それはどんな？　まさかオランダ人だったりして(笑い)。
佐川　デンマークの女性です。横浜・関内の外国人トルコの子。よかったですよ。もちろん外国人は初めてで、その記憶は今でも鮮明に焼きついています。でもお金が無かったんで、時計を質屋に入れて、親父のウィスキーとブランデーを盗んで、それをキャバレーや酒屋に売りまくって。
宅　ものすごい行動力、エネルギーですね。親父の酒をってのも、すごいなあ……。
佐川　親父の健康のためだと思って。
宅　う〜〜〜ん(笑い)。ところで話は変わりますが、ボクは子供の頃はいじめられっ子でした。佐川さんはどんな子供だったんです？
佐川　普通の子って感じ。未熟児で生まれて虚弱体質で、もうすぐ死ぬとか10歳まで生きられないだろう、とか言われてたんです。だから今は生きのびたという感じがします。
宅　10歳で死ぬハズだった！
佐川　小学校も1年遅れて入学して。でもね実は僕、小さい頃ずっと活発だったんですよ、本当に。けっこう人気があって明るくて。いじめられもしたけど、負けなかった。
宅　そうか。じゃあ例の事件の後で、いじめられっ子になったんだ(笑い)。
佐川　小学校の頃は無邪気でコンプレックスは何もなかった。ところが中学、高校になって疎外感を覚えだしちゃったんです。自意識を持ちはじめてから急変しちゃった。
宅　わかるなあ。ボクも、高校入ってから成績が落ちちゃって。それでボクの場合は、おたく世界に逃避していったみたい。同人誌作ったりとか。
佐川　僕は読書ですね。その時いちばん本を読んだ。それで成績も落ちてきて、学校がイヤでイヤで地獄でしたね。いつも疎外感を感じていました。

宅　よく似てますよ。ウラミ手帳つけてたもん。でも、佐川さんは勉強はできたんじゃないの。事件がなければ大学の先生やってたハズでしょ？

佐川　女子大の先生に内定してたんです。何もなければ、ね。パリでの博士過程が、運命だったんですけど……。

宅　ボクの場合、奇妙な自意識は小学校くらいからあったんですけどね（注・忍者の出現、香山リカ対談参照のこと）。あと、いつごろかな、人を殺す計画を考えたりとかね。

佐川　危ない（笑い）。

宅　佐川さんに言うのもヘンなんだけど（笑い）。殺したとして、どうしようかってずっと考えたことがあってね、どこに埋めようかなあ、とかね。

佐川　僕と似てますね（笑い）。

宅　それを頭の中でシミュレーションしだしちゃった。逮捕されるまでの道程とかも考えだしちゃったり、とか。ミステリーの世界。妄想癖。

佐川　ますます似てる。シミュレーションを組み立てだすんですね。だから僕が現実にやっちゃった時には、それをたどってる感じしかしなかった。現実認識が乏しいっていうか。

宅　ボクは今、そんな感じありますよね。文章書いてても何やってても。演じてるんだか本気なんだか、何だかわかんないような状態。意識的なのか無意識なのか全然わかってない感じ……。

佐川　それはよくわかる気がします。僕もマスコミで仕立て上げられたイメージを自分で演じてるような気がしてますからね。

●もう、嫌がらせしかない！

宅　佐川さんの文章みてたらコレは頭の良い人だなって。それに自虐的な文章に大笑い。ポップの領域にいっちゃった感じで好きです。あのへんの言語感覚は自虐的だし、露悪的ですね。佐川ギャグなんですかね。

佐川　いやあ（笑い）。確かに、自虐に快感を感じているところもあるかもしれない。でもね僕は事件で自分のプライドとか、あらゆる立脚点が吹っ飛んじゃった。全部がマイナスになった。それで

露悪的になるほかなかったんです。ひどいこと言われる前に自分から言っちゃう。それは、自分をおとしめておいて、そこから逆襲する一種の策略でもある。逆手にとってマイナスをプラスに転化させる作業なんです。

宅　そんな形で、佐川さんという存在が活躍すればするほど「良識のある人」に対して、ひんしゅくを買うかと思うと、ものすごく痛快なんです。それだけで、いやがらせみたいなものだから。

佐川　生きていてすみません。

宅　(笑い)。ボクはいじめられっ子の理論武装は、あまり意味はないと思うんです。じゃあどうすりゃイイかと言えば、いやがらせ。攻撃、復讐しかないと思うんです。

佐川　なるほど。

宅　今回、佐川さんに来ていただいたのも、良識人に不快感を与えたかったからなんです。

佐川　ありがとうございます(苦笑)。

宅　ボクは'91年はもっともっと人に迷惑をかけるような仕事をしたいと思う。つまり迷ワークですね。佐川さんは?

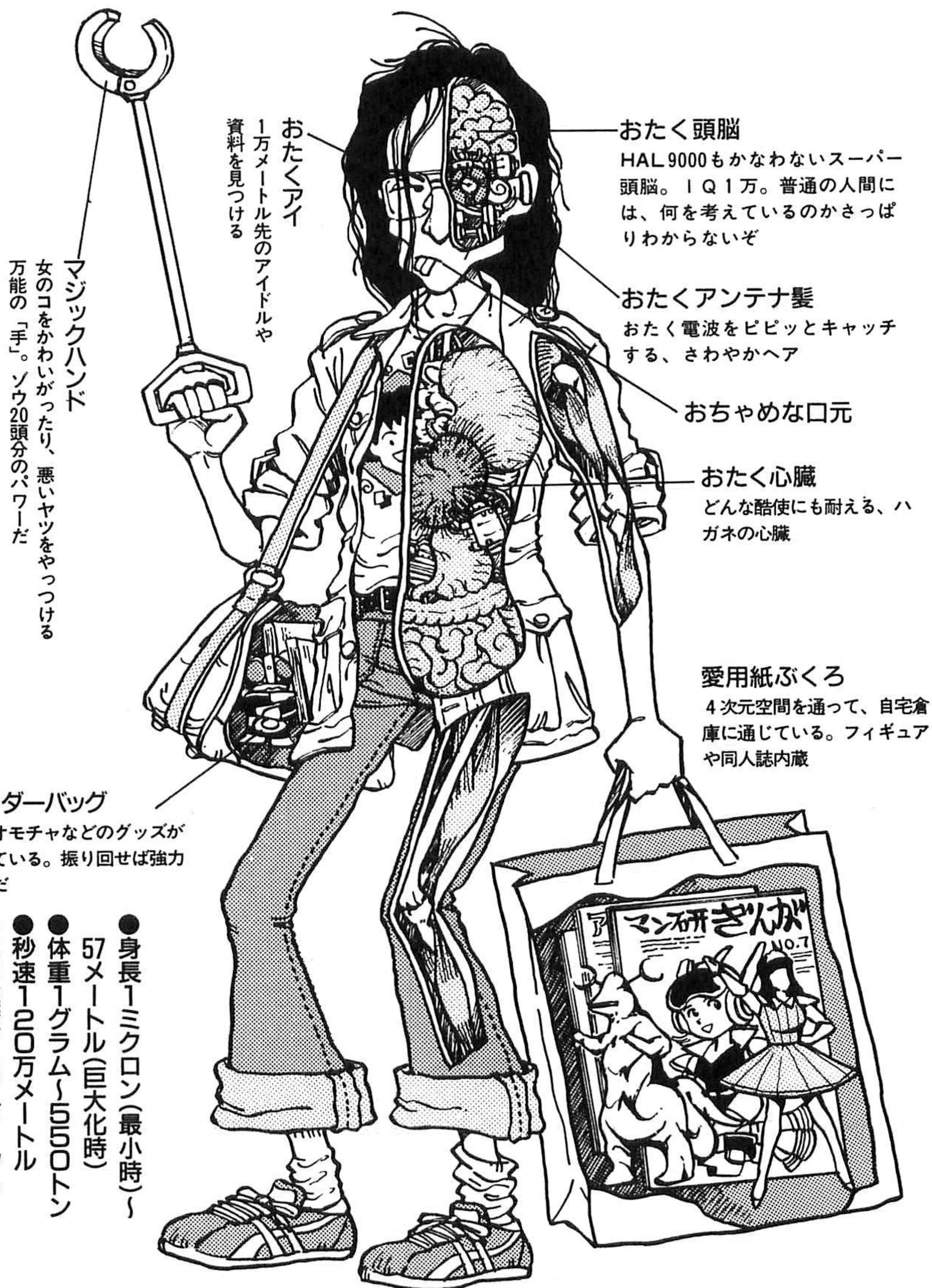
佐川　僕が唯一生きる道はフィクションだと思うんです。だから小説ですね。

宅　作家としての大活躍に期待したいですね。今日はどうも!

特別ふろく★今、明かされるおたくパワーの秘密

宅八郎大図解

マジックハンド
女のコをかわいがったり、悪いヤツをやっつける万能の「手」。ゾウ20頭分のパワーだ

おたくアイ
1万メートル先のアイドルや資料を見つける

おたく頭脳
HAL 9000もかなわないスーパー頭脳。IQ1万。普通の人間には、何を考えているのかさっぱりわからないぞ

おたくアンテナ髪
おたく電波をピピッとキャッチする、さわやかヘア

おちゃめな口元

おたく心臓
どんな酷使にも耐える、ハガネの心臓

愛用紙ぶくろ
4次元空間を通って、自宅倉庫に通じている。フィギュアや同人誌内蔵

ショルダーバッグ
資料、オモチャなどのグッズがつまっている。振り回せば強力な武器だ

マン研ぎんが NO.7

- ●身長1ミクロン(最小時)～57メートル(巨大化時)
- ●体重1グラム～550トン
- ●秒速120万メートル
- ●水中速度707万ノット
- ●出身　静岡県

DOCUMENT――④

プレイボーイ軍団総攻撃

：あまりにも怖い悪夢世界ノ・ボクは魔太郎になった!!

：コ・ノ・ウ・ラ・ミ・ハ・ラ・サ・デ・オ・ク・べ・キ・カ！

ボクは魔太郎。イジメられっ子だった。藤子不二雄Ⓐの描いた『魔太郎がくる!!』のようにボクもまた、何かヒドい目にあうたびに手帳にウラミを記録していたのだ。

ボクはいつでも被害者だった。そして悪夢をよく見る。突然、穴に落ちる夢。怪獣に襲われる悪夢。うなされて「うわあ――！」と叫んで起きちゃうコトも多い。暗いウラミが形を変えて悪夢に現れるのだろうか。

さて、ボクの'90年最大のウラミを手帳から公開したいと思う。そしてコレは「わが闘争」の始まりなのだ。

ボクの話を、聞いてください。BGMは、井上陽水「夢の中へ」！

'90年9月10日に見た悪夢。その夢の中でボクはおた天掲載中止の危機に陥（おちい）っていました。事もあろうに他誌の妨害を受けて。写真撮影のため、TVモニター、ビデオカメラ、義手、十字架などをわざわざ持ってロケバスをチャーターし、多くのスタッフと郊外のスタジオへ来たボク。万全の準備にもかかわらず、当のモデルはいつまでも現れなかったのです。待ちぼうけ、です。

モデルはその日、あるビデオムービー（注・『けっこう仮面』）のクランク・インをむかえるハズの

女のコ（注・'90年プレイメイトジャパンの青木クリス）。青くなりました。経費の損害。迫る締切り。このままでは企画はオクラ入りです。

アポを取っていたハズのモデルが来ない理由は、月刊ＰＢ担当者が今日は行かなくてイイと、彼女に指示を出してしまっていたのです。

ナゼ、どうして？

この徒労感をどうしてくれるんだ！　その時、締切りの迫っていたボクば別の企画を構成しなければなりませんでした。まいりました。（注・その後ビデオプロデューサーの尽力で、改めて再セッティングし、「けっこう仮面編」が構成された）

さてココで冷汗をかきながらボクは目覚めました。しかしボクは悪夢の続きを見てしまうクセがあるのです。

Ｍ。Ｍという姓にボクは縁が深い。Ｍ勤、Ｍ駿……。しかしココに、ボクにとって許せないＭが登場したのです。月刊ＰＢのＰメイト担当・Ｍ！

何日か後に見た悪夢の続きでボクは歯ぎしりしていました。おた天を妨害したらしいＭ。元暴走族だと豪語し、現在の御自慢はヤバイ筋との親交、というウワサの36、37歳の男はボクに謝罪するでもなく、せせら笑っているのです。逆にボクらをなじっていました。

これはどういうことでしょう。

悪夢の中で、ボクらは事実確認の電話を月刊ＰＢに入れていました。毎日５本くらい、１週間ほどにわたって。

フシギなものです。ずっといないのです。青学出身で白金台に住み、アウディを乗り回し、元女性誌モデルだった妻とともに別会社を経営し、「Ｓ社をやめるゾ」が口グセの男が、いない。

伝言しても返事すらありません。まるで相手にされていないようでした。ＰＢ編集部が電話の通じない魔界とわかりＦＡＸ攻撃。何度も何度も送りました。

ようやく連絡が取れると、うんざりした調子で会見を約束。月刊ＰＢが損害を支払ってもいいという話のようでした。

良い知らせ？　悪夢とはこういうもの。フッと

希望の光が射す。悪魔（デーモン）の気まぐれです。その後、おとし穴が待っていたのです。悪夢の中には……。

　会見した結果が、ボクの歯ぎしりでした。彼はどう言ったか？

「おたくの撮影に行かなくてイイというのはモデルじゃなくてマネージャーに言ったんだ。そんなトラブルは知らん。ナゼ、マネージャーに言ったかって？　女を守るのが私の立場だ。すべて報告を受けて指示してる。ヘンな取材受けられないから。たとえマネージャーのカン違いでも、おたくらが損害を請求するのはおカド違いだ！　おたくらのやり方はわがPBの〈常識〉では考えられないよ。そっちのミスだ！」

　そんなふうに夢の中で悪魔は言うのでした。冗談でなく、ボクを「たこはちろう」と呼んでみせた、ボクにとってみれば「非常識」な男の常識にボクは心からまいっていました。もし本気でそう思っているのなら、ボクは霊界の住人です。それ

中央公論社刊

ならMは単なるバカだ。そして、もしこの男がワザと呼んでみせたのならこれほど失礼な話はないでしょう。

UプロのA・CとYオフィスのM・H(Pメイト)のスペイン・ロケの際、妻を同伴(どうはん)したというM。同伴妻の旅費がPBから出されたか、夫婦旅行の片手間にお仕事なさってるかわかりませんが、そんなやり方が通用するPB編集部の「常識」。うらやましい限りに思いました。

ボクは「電話を何回かけても返事がないのは非常識じゃないの?」と聞くと、興奮した彼は「私は忙(いそが)しいんだ。留守(るす)だったんだ。そう言われることが非常識なんだ! とにかくマネージャーに明日確認して、必ず報告しようじゃないか!」と叫びました。

翌日、その翌日。ついに、かつて超大物代議士の愛人ヌード撮影に成功しながらも掲載できなかったという、情けない月刊PBの男からの連絡はいつまでも入りませんでした……。

そして夢の中のボクは、まさしく魔太郎となって、逆襲していました。

しかし、しょせん夢の中。そのシーンはどうにもよく想い出せないのです……。

悪夢の話はココまでです。現実のボクは魔太郎となって復讐(ふくしゅう)できたらなあ、と空想するさえない毎日を送っています。来る来る、魔太郎がくる!

コ・ノ・ウ・ラ・ミ・ハ・ラ・サ・デ・オ・ク・ベ・キ・カ!

●『月刊PLAYBOY』'90年11月号198ページに「ビデオムービー『ケッコウ仮面』(原作・監督　永井豪……(以下略)」なる記事が掲載された。

●『ケッコウ仮面』なんてビデオは存在しません。さらに『けっこう仮面』の監督は早川光氏です。これはあまりにも『けっこう仮面』という作品、出演者、そして永井・早川両氏に対して失礼だと思う。

●『月刊PLAYBOY』はそれらの方々および原作マンガを発行する出版社(注・集英社)に対して謝罪してはいかがでしょう。

●おせっかいながら提言したいと思う。

●それでは、お——ほっほっほっ。

この章、(『週刊SPA!』'90年11月7日号に掲載)

特別手記

月プレ宮崎事件の真相

前章の「魔太郎実演編」。この原稿はあまりにも、わかりにくいかもしれない。読者の間に「宅八郎が狂った」というウワサも流れたほどだ。そこで説明のために手記を記しておく。

悪夢の構造をとることにしたのは、その時にはかなりボカした表現をとるほかなかったからだ(ボクが悪夢を見たのは本当だが)。

たとえ反撃であっても、他誌攻撃である。『SPA!』編集部が問題だと判断して、記事が差し替えられたんじゃ、意味がない。

しかもその時は「木村和久事件」(年譜255ページ参照)の直後のことであった。記事が削除される可能性は高いと思ったのだ。

けれどボクはこの記事だけはどうしても掲載したかった。宮崎幸男、そして月刊プレイボーイを刺す、ために。そこで悪夢の形をとったのである。

直接、突き刺せなかったのは残念だったが、結果的には「おた天」らしい霧のかかったような文章になった。これはこれでボクは満足している。

●さらに詳しい説明を加えておくことにする

'90年9月10日のことだ。その日はビデオムービー『けっこう仮面』クランクインの日。ボクは青木クリス主演の、このビデオの特別撮影をすることになっていた。

そのために、ボクとスタッフはわざわざ東京都狛江市のスタジオまでやって来たのである。ロケバスに多くの機材や小道具を載せて。

ところが……。当の、主演の青木クリスが現場に来なかった。スタジオ現場は大混乱だ。

当日になってから突然、月プレの編集者が「今日は宅の撮影に行かなくていい」と'90年度プレイメイトの青木に告げて、来させなかったのである。

独占取材の話はついていた。おた天の中でも目

玉記事にするつもりであった。ボクはこの撮影のために26ページにもわたるブックレットさえ作っていたのだ。

「独占」のための取材日程が決定したのは、撮影の3日前。準備を考えれば、実に無理な話である（おた天はいつも無理が多い）。

その無理を全部クリアして、完璧なセッティングを仕上げたわけだ。ほとんど徹夜状態で。それなのに、とうとう撮影は延期になったのである。その後、かなりの無理をして、何とか撮り直しはできた。しかし記事は翌週の掲載となり、その結果、独占記事の意味はなくなってしまったのだ。また一日分の人件費、必要経費などかなりの損害金額が発生している。

どれもこれも、すべて月プレが悪い。これは明らかな妨害だ。

その犯人、それは宮崎幸男という男だった。

何度も電話をするが宮崎は全然つかまらない。今考えれば、逃げていたとしか思えない。

ようやく連絡がとれると「こちらが悪いんなら、損害は月刊プレイボーイが支払ってもいい」ということであった。とにかく一度会って話そうということになる。

ところがボクは甘かった。宮崎幸男はとんでもない男だったのだ。

●そして、宮崎幸男はボクに何を言ったか

念のため記しておくが、この日の会見の内容、そして事件に関する電話のやりとりはすべてテープに録音している。言い逃れは通用しない。宮崎はどう言ったか。

「自分は何も悪くない。私は青木のマネージャーに対して〝君は撮影に行かなくてもいい〟と言っただけで、青木クリスに直接〝行かなくていい〟と言ったわけじゃないっ」

青木一人で行けばいいと思ったというのだ。そんな話があるか。まるで自分が悪いとは思っていない。何という責任感のない編集者なのだろう。だいたいマネージャーに対して、所属モデルの行動を編集者が命令指示するというのもわからない。

〃月刊プレイボーイは人材派遣業法に違反してまで、モデルの管理をしている！〃

そんな「印象」だった。月プレではモデルを〃飼っている〃という意識なのだろう。悪徳業者め！　トボケている。終始、宮崎は他人事のように話して、抗議しようとすると話をそらすのだ。さらにボクが彼の矛盾をついて追究すると、彼は突然逆上しだした。

「たとえ青木かマネージャーがカン違いしたとしても、青木に車を出してお迎えに行かなかった、あんたらが悪い。そうしなかった、そちらのミスなんじゃないか。プレイボーイの常識じゃあ信じられないね、そっちのやり方は。非常識だっ」

そして「外人女優ならそれが当然だ。もし外人だったら、あんたら、どうするつもりなんだよっ！　お車を出すのかっ！」と、あきれたことを言う。

「そんな質問に答える必要はない」

ボクは切り返す。だいたい連絡を取れないようにして青木を囲い込み、人材派遣まがいのことをしているのは月プレなのだ。

ボクは言った。「何度電話をしても返事さえしない、そちらも、非常識だと思いますよ」

すると、この男はさらに目を血走らせて叫んだ。

「非常識だとお、そんなこと言うあんたらのほうが非常識だ。電話番号なんか知らないよ！」

ボクは電話をするたびに連絡先を伝言しているのだ。そう言うと、彼は吐き捨てるように言った。

「そんなメモ捨てちゃったんだから、しょーがないだろ！」

メチャクチャで話にならない。これが月刊プレイボーイの「常識」なのであろう。その後、ボクは青木クリス本人とそのマネージャーにも確認したが、宮崎の話はまるでデタラメであった。

会合はこうしてケンカ別れに終わった。ボクにとっては屈辱の一日であった。

ボクは決意した。「魔太郎になってやる！」と。

●そして『わが闘争』（マインカンプ）は始まった！

あらゆる手段を使って宮崎のことを調べた。

彼の過去、出身大学、仕事ぶり、車、現住所。

そして興味深い「悪事」も知ることができた。それらについては魔太郎実演編を読みといてほしい。
彼は小学校の時、デイリー・ミラーの言葉「ペンは剣よりも強し」を読んで、編集者になろうと思ったという。
宮崎の11年前と6年前の写真さえ入手した。8人の宅八郎の情報収集能力をナメないほうがいい。「たく、はペンよりも強し」なのだ。
宮崎は編集者としては、相当の実力者であった。特にグラビアの世界では大物だ。
これまでに作った有名な写真集は数知れず。最近では〝ヘア延期〟になった小柳ルミ子が、そうだ（福田〈編集長〉、宮崎コンビの編集）。
また『ジョン&ヨーコ・インタビュー』ではヨーコ・オノから彼への感謝も記されている。
そして調査の過程で彼を知る人々からも忠告を受けた。「あいつはヤクザとのつながりもあるから、気をつけたほうがいい、今のうちに手を引いたほうがいいよ」と。
しかしボクはそんなことは怖くはなかった。ミヤザキを「刺す」、のみだ。
いくら大物だろうが実力者だろうが、ボクには関係ない。「刺す！」
そして「魔太郎計画」は始まった。魔太郎について書くことはいくらでもある。しかし、書くだけではない。ボク自身が魔太郎を演るのだ！　これが新しい〈編集〉だッ。
「暗闇の中で、月刊プレイボーイの本の山を燃やしてやるッ。魔太郎となって」
ボクとおたくスタッフは月プレ数百冊、芯にする材木、ドラム缶、そしてガソリン・ポリタンク2個などを、ワゴン車2台に積み込み犯行現場に向かった。
八王子と昭島を結ぶ拝島橋。その橋の下で、あたりが暗闇になるのを待って、月プレの山にガソリンをぶっかけ火をつけたのである。「ボウッ！」「ゴワ――ッ！」
そうだ、これは怒りの炎だ。ボクは月プレと宮崎を呪う、この燃えさかる憎悪の炎のなかで、ウラミのポーズをとった。

――しかし、後でボクはヤケドしちゃった。「魔太郎計画」。この「犯行」の詳しいドキュメントについては、かなり面白いので、いずれノンフィクションとして発表したいと思う。

●かくして宅八郎は月刊プレイボーイに勝利した！

ついに、おたく天国「魔太郎実演編」は完成した。そしてボクは月刊PBをはじめ、宮崎と、その妻が運営する別会社「マクスト・コーポレーション」に犯行声明をFAXしたのだ。

ジジジジジッ。「宮崎幸男に告ぐ！………」

事務所のFAXから送信されてきた文書を見て、彼が仰天（ぎょうてん）したことは間違いない。そして掲載号を、宮崎が関係していそうな他社各編集部にもすべて送本した。

ボクの記事は何よりも月プレ関係者には相当なショックを与えたようだ。編集長の福田収はマヌケなことに、宮崎が海外出張の際に妻を同伴した事実すら把握（はあく）していなかったようだった。

管理能力ゼロ、とはこのことだ。

福田は大あわてで、この「けっこう仮面」宮崎事件に関して調査したという。しかし、その事実を確認するとよほど〝痛かった〟のかボクに抗議するでもなく、沈黙したのだ。

けれどボクは思う。

ほおかむりするのでなく、自分が管理する部下に非があるのなら、すみやかに謝罪し損害賠償をするのが編集長としての自覚であり、「大人」の態度ではないのか、と(これは後の週プレ編集長・宇田精爾（せいじ）に特に当てはまる)。

結局ボクの攻撃の甲斐（かい）あって、宮崎は社内的なメンツを失い、プレイメイトの担当を降ろされたようだ。これを自業自得（じごうじとく）、という。よ～く覚えておくように。

作戦成功。こうして「わが闘争」は全面勝利をおさめたのである。

(ところが、プレイボーイ・グループは反省するのでもなく、まったく懲（こ）りていないことが後のコミネ事件によって判明する。ボクは甘かったのだ)

くたばれプレイボーイ!!

1・23『EXテレビ』大事件の真相

'91年1月23日放送の『EXテレビ』(日本テレビ系)で、ボクは共演者の小峯隆生(『週刊プレイボーイ』編集者)およびプレイボーイに対して宣戦布告。

「これは日本最低の雑誌だ」という声とともに、コミネの目の前で『週刊プレイボーイ』をビリビリに破り捨てた!

この模様は全国に放送され、翌日には日本テレビに投書が殺到。その数は最終的には、200通を超えたという。

そして、この事件は『サンデー毎日』『噂の真相』ほか、他誌メディアでも報道された。

事の次第を報告し、これから小峯とプレイボーイの糾弾を開始する。

「血祭りにあげてやるから覚悟せよ!」

ボクがTVの生放送でこの〝テロ行動〟に出た理由は、共演者のコミネが卑怯にも裏で、ボクにヤクザまがいの脅しをかけてきたからだ。

週刊プレイボーイ編集部の小峯隆生は最低のチンピラ編集者である。

'90年12月26日に出演した前回の『EXテレビ』の本番前のことだった。楽屋でボクとSPA!の編集者、番組ディレクターらがくつろいでいた。

そこへ入ってきたコミネはいきなりボクに言ったのだ。

「おまえに話がある」と。

●プレイボーイは、いったいボクに何をしてきたのか

コミネの話は、月刊プレイボーイ編集者・宮崎幸男の件に関することだった。そう、'90年9月か

ら10月にかけて起きた「月プレ宮崎事件」である。
宮崎は月プレ、コミネは週プレ。たとえ編集部どうしが隣で、同じ穴のムジナだとしても、週プレと月プレは違う雑誌だ。しかし、この問題をむしかえしリンケージ(連還)させたのは、小峯よアナタなのだ!
ボクが書いた「魔太郎実演編」(本書196ページ)の宮崎告発記事について、小峯は言った。
「おまえ、何考えてんだよ、あの記事は。オレはプレイボーイ軍団を代表して言ってんだ。冗談じゃねえぞ。ひどい記事だよ。同業者のことは書くなよ、おまえ。最低の記事だな。おまえ、他にやることねえのか。オレに一言言えば良かったんだよ」
一言断るほど、ボクはアナタを認めていない。おまけに小峯はSPA!の担当編集者にまで説教をはじめた。
「こいつの書いたあんな記事載せるな。チェックしろよ。あんた何考えて編集してんだ。意見聞いてやろうじゃないの。どういうつもりなんだよ!どうして載せたんだ。説明してみろよ。おいっ!」

週刊プレイボーイ
小峯隆生

他誌の編集者にすごんでみせたコミネはさらにボクに脅しをかけるのだった。
「オレらプレイボーイ軍団は怖いよお。たかが、おまえ1人つぶすのなんか簡単だよ。いろんな手があるからな。わけないよ。裏から手を回すことだって、圧力だってかけられるしな。怖いよお、うちは。おまえが宮崎さんのこと悪く書いたのは、しかたなく許してやる。だけど、今度やったらPB軍団は総力をあげて、おまえを絶対につぶす!

忠告しといてやるよ」

放送本番直前の楽屋である。その場にはEXテレビのディレクターもいるのに、さらにこのヤクザ編集部のチンピラは言った。

「おまえと一緒にTVの共演なんか本当はしたくねえんだよっ」

何という非常識な男だろう。これはTVの本番直前のことなのだ。終始おい、コラ、わかったか、という調子であった。こんなに失礼、無礼、非礼、三拍子（さんびょうし）そろった脅しはない。正直まいった。

●両プレイボーイ編集長に告ぐ！　勝手にしやがれ

「同業者のことは書くな」だって。やはり相当にプレイボーイ編集部の人間は低能だ。かつて自分たちで作った『ぐぁんばれ平凡パンチ』という記事も忘れてしまったのか。

週刊、月刊、両プレイボーイの編集長（宇田精爾（せいじ）、福田収）は、社員でない小峯が勝手に言ったことだ、と言い逃（のが）れをし

『EXテレビ』生放送で放映された問題のシーン。あまりにも意外な展開にスタジオ内はあ然となった！　その後、宅は『EXテレビ』からは追放された

てはならない。コミネといえばプレイボーイ、プレイボーイといえばコミネというイメージで、これまでお互いを利用してきたはずだ。

しかもTV出演の際にはいつでも「プレイボーイ編集」という肩書を出しているのだから、言い逃れは成立しない。社員であろうがなかろうが、そんなことは関係ない。

小峯のPBの名前をカサにきたヤクザ顔負けのふるまいは、外部の人間に「両編集部の意」だと解されても弁解はできないハズだ。

だからこそボクはプレイボーイ誌そのものをテレビで破り捨てたのだ！

だいたいPB軍団の若手編集者一派の意を代表して、脅しをかけてきたのだとコミネはボクに認めている。宅八郎をつぶしてやれという、そいつらにも、まったく月プレ宮崎事件の反省は見られない。

よっぽどプレイボーイの編集者は、どいつもこいつも小峯どもの集まりなのだろう！

くり返す。プレイボーイ・グループは裏で脅しをかけたり、他誌の妨害を平気でするような卑劣なチンピラどものいる編集部なのだ！

宮崎事件に関してはすべて事実のため、編集部としては抗議できなかった、と小峯は白状したが、卑しくもプレイボーイは出版媒体であり、小峯も活字の世界で署名で仕事をしている男である。

反論があれば正々堂々と、誌面でボクを攻撃すればよかったのだ。

今回でボクのPB軍団への攻撃は2度めになる。「今度やったら」という脅しのとおりボクを抹殺するつもりなら、どれほど卑劣な手段で、何をしてくれるのか、楽しみに待ちたいと思う。

「勝手にしやがれ！」

そうとも。ボクは「気狂いピエロ」だ。

小峯隆生さん、32歳のお誕生日、おめでとう!早く大人になってね。

出版社にはハエがたかることがある。最悪の害虫が。神田J保町に存在する2つの巨大出版社にはそれぞれ2匹のKという名のハエがたかっている。

自らハエと名のって、平成を歩くトレンド馬鹿のK。そして隣接する出版社の暴力団まがいの男性誌編集部にたかるハエ、K。まずは2匹めのK、小峯隆生というチンピラを退治したいと思う。

みんなー、ハエたたきの用意はいいかーッ?

オオーッ!(読者の声)

ボクがプレイボーイ軍団に宣戦布告した、『EXテレビ』。その日の放送内容は「おたく大研究第三弾」であった。

これまで前2回放送された「おたく研究」でも、ゲスト小峯の頭の悪さには不快感を持っていた人も多いと思う。しかしそれだけの理由で、この「テロ行為」に出るほどボクは狂ってはいない。

ボクは攻撃を受けたから返したまでなのだ。小峯の脅しは極めて不愉快だったし、フリーライターのボクにとっては正直な話、怖かった。ボクはおびえた。そこで相手にも10倍の恐怖を味あわせてやることにしたのだ。

だが、その前にこの2月19日に('91年)32歳になった小峯隆生にボクは言いたいことがある。

「お誕生日、おめでとう!」

●コミネは早く自立し、社会性を身につけ、一人前の男になれ!

しかし32歳をむかえた、週刊PB編集者・小峯のこの社会性の無さ、無自覚は極めて問題だ。

この1月23日の『EXテレビ』放送中に小峯は「一人でも多く一人前の男を育てたい。それが自分の信念だ」と言い、ボクに説教をしようとしたが、アナタこそ早く一人前の男になってもらいたい、

とボクは思う。
また1月9日にTBS系で放送された森本毅郎の『遊々！お昼です』という番組で、小峯は何と「おたく評論家」を名のって、しゃあしゃあと出演。得意そうに言いたい放題のことを言っている。
この「おたく評論家」さんは〝おたくは親から自立していない、社会性のないダメ野郎だ。生きている価値がない〃と、決めつけていた。いち早くプレイボーイから自立して大人になったほうがいいのは、もちろんコミネである。

週刊プレイボーイ編集
おたく評論家
小峯隆生

'90年1月9日TBS系『遊々！お昼です』に堂々と登場した、おたく評論家氏

しかも'90年7月18日に放送されたEXテレビ「おたく大研究第一弾」で、コミネは「おたく族でとにかく許せないのは失礼なことだ。礼儀（れいぎ）をわきまえろ！」

と発言している。
しかし小峯よ、アナタほど失礼な男も珍しい。いかに「おたく」に社会性がないといっても、初対面のボクを「おまえ呼ばわり」したり、ヤクザまがいの脅しをかけたりするほど、おたく族も無礼じゃない。アナタは「おまえ族」だ。
その意味で小峯とプレイボーイ軍団は「おたく以下」である！
こうして、このボクが社会性というものを教えてやっているのだ。PB軍団よ、アナタがたはボクに感謝しなければならない。これからはボクを恩人（おんじん）と呼んでもらいたい。

●そして、その日がやってきた

調べによると小峯は'91年1月23日19時50分、有楽町マリオン日劇で『ゴッドファーザーIII』を鑑賞。まるでアンディ・ガルシアにでもなったつもりで、日本テレビにやって来たようだ。あの日スタジオ裏の廊下（ろうか）で、肩をいからせた小峯がボクをにらみつけ、すごんだことは二度と忘れない。

そしてスタジオで事件は起こった。
その場面は予定では〝宅とコミネの2人が友情を深める〟コーナーになっていたのだから、大笑いである。
放送本番中に、またも小峯はボクにすごんでみせ、ボクの発言を封じるように、威圧的にふるまったのだ。
そこで、さらに小峯に対する怒りが込みあげてきたボクは、ついに週プレを破り捨てるという〝凶行〟に及んだのである。
するとそれまで、あんなにイキがっていた小峯は態度を急変させ、腰くだけになった。
それだけではない。おまけに放送終了後ビビリながら、このハエ男は卑屈(ひくつ)な笑いを浮かべてボクに言ったのだった。
「お願いだから、あんまり悪く書かないでくださいよ。頼みますよ、宅さん」
なんて情けない男だ。お情けを乞(こ)うぐらいなら、

ダメな「お宅」

小峯隆生さん、32歳のお誕生日、おめでとう　早く大人になってね。

最初から脅しなどかけてこなければいいのに！

●小峯よ、フリーランスの誇りをもって反省してくれ！

さて小峯がプレイボーイの社員でなく、じつは一フリー編集者だということを、ボクの報告で、はじめて知った人も多いと思う。

彼は「なかなか社員にしてくれないんだ」と言っていた。その時にボクはある種の痛ましさのようなものを感じていた。小峯にも、プレイボーイのシステムにもだ。調べによると小峯のPB編集者歴は約8年（バイト期間をのぞく）。

8年。確かに充分すぎる時間だ。社員になることを望んでも不思議ではないのかもしれない（ボクはそういう生き方そのものは否定しない）。

彼はよく「ウチは天下の100万部雑誌だから」とも言った。小峯と話していると、いかにも権威主義的な男だという印象が強かった。そんな彼は、自分が社員でなくフリー（契約）編集者であることを恥じているのだろう。

だからこそ、ことさら小峯はヤクザさながらにプレイボーイという代紋を背負いたがるのだと思う。さもしい男だ。

彼は'85年4月にオールナイト・ニッポンのDJになった後に『宝島』（'85年9月号）からインタビューを受け、こう答えている。「俺はバックが違う。なにしろ日本一の集団・週プレ編集部がついているんだ！ と思ってます」と。大爆笑である。

そしてその大プレイボーイの名のもとにボクに脅しをかけてきたわけだ。まったく最低のチンピラだ。フリーとしての誇りはないのか、と小峯に言いたい。

だからボクはアナタのことをハエだの犬だの、と呼ぶのだよ。

また'86年11月1日発行の『ef』臨時増刊号で、小峯は主婦の友社のインタビュアーに対して自分は「集英社の社員だ」と平気でウソまでついているのだ。

しかし必ずしも社員はフリー契約の人間よりもエライわけではないし、出版社の規模や雑誌の部

数の多少で地位が決定されるわけでもない。様々な立場でそれぞれに、がんばっている人は多い。社員じゃなくたっていいじゃないか。フリーだっていいじゃないか。小峯よアナタは、せっかく強運（と、いくばくかの才能）で署名を得て、マスコミで活躍しているのだ。何も舞台裏で脅しをかけることはないじゃないか。

それは運に恵まれずに、地道に努力している人に対しても失礼だと思うよ。

小峯はプレイボーイ編集部の忠犬である。そして飼い犬のしでかしたことの責任は当然、飼い主がとらねばならない。

ＰＢ編集長・宇田精爾（せいじ）に告ぐ。もしも、このイヌを放し飼いにするつもりなら、せめて狂犬病の予防注射をしてからにしてくれ。

●その後、おたく天国連載誌上で小峯に原稿依頼を呼びかけ（もちろん原文掲載を条件に）、また連日プレイボーイ編集部に連絡するが、小峯は見苦しく逃げ回った。ついにコラム誌上に、小峯本人の反論は掲載されることはなかった。

●●〈少年民俗学〉コドモの間で『ＰＢ』破り捨てが大流行!!

今、コドモのあいだで「宅八郎のマネ」が流行中とのウワサ!

何と、週刊プレイボーイ誌を破り捨てるのが、ビックリマンやスーパーファミコン並のブームになっている、という。おかげで週プレの売上部数は急増中らしい。ホントに感謝してほしいなあ。

コドモたちよ、大きくなったらボクのようなリッパな、おたくになるんだよ。

わっはっは!

という微笑（ほほえ）ましいニュースに続いて、さて今回は根本的に小峯隆生とプレイボーイ軍団の体質を批判しようと思う。

しかしまあ、こんなことになっちゃったキッカケはプレイボーイ側のヤクザまがいの脅しである。

どうしてコミネはボクに対して、脅しをかけてきたのだろうか。
おそらくはボクの「外見」がひ弱だと見て、ナメたのだろう。コイツなら脅せば、押さえつけられる、言うことをきくと思ったのだろう。本当に最悪の男だ。
もしも仮にボクが190cm、100kgくらいの体格で腕力自慢、民俗学専攻の東京外大講師、といった人物であったならば(仮の話)、あんな脅しをかけてこなかったに違いないのだ。
ところがコミネのズルい計算は見事にハズレたわけだ。安い。この男のあまりの安さ。その本質はいったい何なのか？　それをボクは、擬似体育会系の見苦しさだと考える。その説明のために「いじめ」について書くことにする。
おたく問題はいじめ問題に近い。おたくにはいじめられっ子タイプは多いと思う。
特にM君の連続幼女誘拐殺害事件が起きたあとメディア上でも、おたくはいじめの対象とされた。そして、いじめが進行するなか大塚英志や中森明夫といった「かばってくれる、お兄さん」も登場した。
ところがその後、おたく界にはひどく古すぎるサヨク的な理論武装が流行。「おたくはいわれなき差別を受けている、みんな、もっとおたくであるコトに誇りを持とうよ」というような。そんな理論武装書が、同人誌としてベストセラーを記録したのである。
しかし理論武装はあまり意味がない、と思う。なぜなら、いじめられっ子が「いじめってのは良くないことだからぁ～、やめろよぉ～」とリクツで防衛してもさらに、もっともっと、いじめられるコトはほぼ間違いないからだ。
おたくはこれまで何年も「楽屋で脅され」続けて何も言えなかったのだ。では、どうしたらよいか。逆襲である。

●両プレイボーイ編集部に告ぐ。
「硬派」をきどるのは、やめたらどうだ！

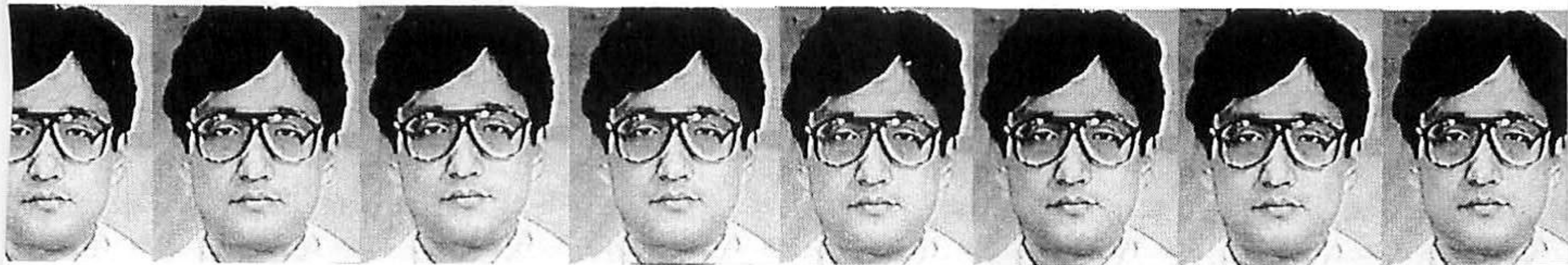
防衛でなく攻撃するのだ！　陰湿(いんしつ)ないじめには、

215図 〈少年民俗学〉コドモの間で『PB』破り捨てが大流行!!

より陰惨な復讐を。魔太郎や魔少年ビーティにつづけ！　ボクはボクで、おたウヨクのような気もするが(笑い)。
ジーク・ハイル(勝利万歳)！ジーク・ハイル!!
ところで「いじめ」には、いじめっ子にゴマをすり、自分がいじめられないために、さらに自分よりも「下位」の弱者のいじめに回る陰湿な卑怯者がいる。最悪の擬似いじめっ子である。
それは、小峯よアナタのコトだ！
そしていつも都合良く、強者の顔色をうかがっている〈擬似男〉は体育会系を演じた。
「うりゃあ、うりゃあ」
けれども本物の体育会系の人はアナタのように失礼じゃない。礼儀正しいし、すごんだりはしないハズだ。
ふだんは陽気にSEXネタの冗談を飛ばしているが、実は政治経済社会について硬派に取り組んでいくジャーナリストな〜んて、見え透いたポーズをコミネは気どっているつもりなのだろう。
安さ爆発。うすっぺらな、あわれな男だ。そんな、くだらない男のことを書きつづってきたボク自身も、悲しい男だなあ。
「うりゃあ、うりゃあ」
虚しい叫び声がこだまする。
それにしても、コミネというヤツは情けない男だ。ボクがアナタの目の前でPB誌を破り捨てた時、アナタはボクを殴らなければならなかったのだ。そのつもりでボクはやった。
それがアナタのいう「男」の姿だろうが。
小峯は口だけの男であり、舞台裏でしか発言できない楽屋男である。そして、舞台でもなく、お茶の間でもない〈舞台裏〉という擬似空間、それこそがプレイボーイ編集部なのだ。
コミネに代表される擬似体育会系の安っぽい論理が、プレイボーイの体質そのものを作っているのだと思う。擬似硬派雑誌め！

●プレイボーイ編集部の皆さん「恥」という字を御存知ですか？

女のハダカで売っておきながら（ボクは裸は大

好きですよ）、兄貴風をふかし、やたらに硬派硬派と吠えたがる「男」の雑誌プレイボーイ（笑い）。
今回は全国ネットのテレビで雑誌をビリビリに破られるという、メディア史上、前代未聞の汚点をプレイボーイは負ったのだから、何としてでも反論しなければならなかったハズだ。本来ならば。
しかしPB軍団は凍りついた。一切だんまりを決め込んで、嵐のすぎるのをただ待とうというつもりらしい。何事もなかったかように、大衆には忘れてほしいのだろう。
コミネよ、そして週プレ編集長・宇田精爾よ。アナタ方は自分が恥ずかしくはないか。
ボクの逆襲には目を伏せ、ついに何ら反論や、いさぎよい謝罪すらできなかったプレイボーイ軍団の「男たち」よ。アナタ方の「男」はそれくらいに安っぽいものなのだ。どこに「男の姿」があるというのだ。もう「男」だの「硬派」だのと軽々しく誌面で気どるのはよしたらどうだ？
「うりゃあ、うりゃあ」
コミネの化けの皮ははがれたように思う。コミネの内容の無さが、面白くなさが、頭の悪さが。
そう、三流編集者のヤクザまがいの脅しは、まさに「こけおどし」であった。そしてプレイボーイそのものが「こけおどし」の腰ぬけ二流マガジンなのである。
あわれで、みじめ、情けなくも、見苦しい、そんな時代遅れな誌面をこれからも、構成し続けるがいい。
くたばれ、くたばれ、くたばれプレイボーイ!!
さて擬似いじめっ子の構造と同じく、そんな「名誉白人」的な言葉に「おたく」を前提にしなければ通用しない「おそと」なる安易な造語がある。
小峯もまた「オシャレなおたくになれ、カッコイイおたくになれ」という〈おそと派〉であった。
ボクは「おそと」なんて言ってるヤツらを、ゆ〜っくり時間をかけて、じ〜っくり調べ上げ、一人ずつ血祭りにあげてやるつもりだ。
「助けてくれー」と命乞いをしながら、そいつらは糞尿にまみれ、脳漿をまき散らして、死んでゆくのだ（大藪春彦調）。

『コミネ語録・TV編』(『宅八郎ウラミ日記』より、一部転載)

①'90年7月18日放送『EXテレビ』

●おたくは人とまともなコミュニケーションがとれるようになれ!

●おたくは外見にこだわれ!

●礼儀をわきまえろ!

●宅八郎は「化石おたく」だ!

②'90年8月22日放送『EXテレビ』

●オレは宅八郎といっしょにされたくない。おれは天下のオールナイトニッポンの元DJだ。何で、こんな「たかが、おたく一匹」と、いっしょにされなきゃいけないんだ!

●腐敗(ふはい)。宅八郎はくさったヤツだ!

●世の中の役に立つ、ためになる「おたく」になれ!

●それは、具体的には、金になる、ということだ!

●オレは明るいおたくなんだ。多面性オタクなんだ!

③'91年1月9日放送『遊々!お昼です』

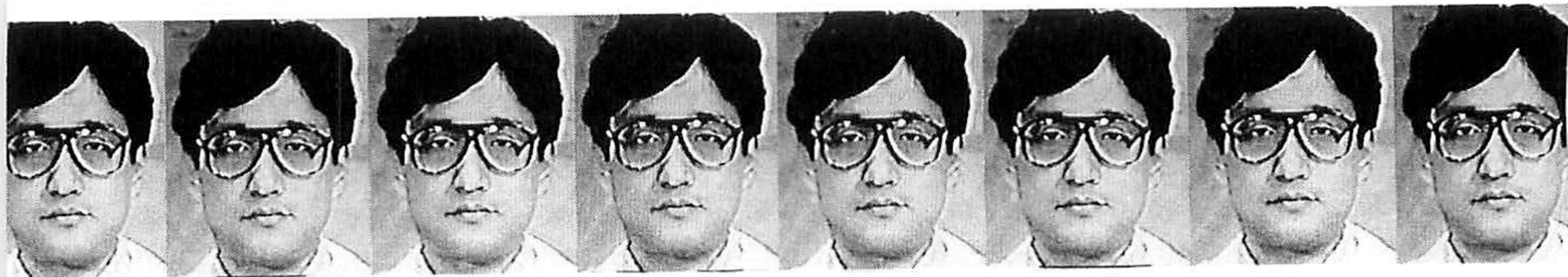
●趣味人は自立してるからいいが、おたくは問題がある!

●おたくは大人になりたくない、社会人になりたくないヤツだ!

●おたくは親のスネをかじって、甘えている。個室を与えるな!

●おたくは異性とつきあえない、友だちになれないヤツなんだ!

●おたくはモテない人間だ。モテないから、おたくになるんだ!

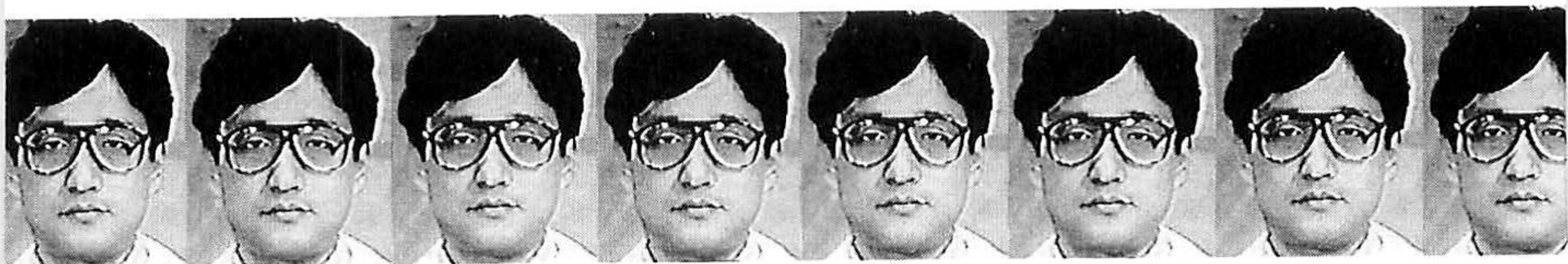
●親の過保護が、おたく発生の原因だ。おたくは何も不自由しないから、何も

しないんだ！

●また番組内で「コミネ流おたく族でなくする方法」についても演説

(1)何らかの形で、自信を持たせる
(2)親が子供に責任を持たせる
(3)22歳か24歳で、個室を取り上げる。

そうすると、おたくは崩壊しちゃう！

④'91年1月23日放送『EXテレビ』

●オレは宅八郎の生き方を否定する！
●宅の家をブルドーザーで壊し、あるものを全部燃やす！（宅をコイツ呼ばわりした後で）
●宅八郎は戸塚ヨットスクールで死ねばよかったんだ！
●コイツは何の答えも出せない人間なんだ！
●おたくは利用価値はある！
●宅八郎はもう、すでにおたくじゃない、役づくりなんだ！
●（宅に向かって）うるせえな！　もうやめろ、おまえ！　おたくは！
●おまえは、おたくじゃない。オレのほうが絶対におたくの友人は多いんだ！（放送されていないCM中の発言）
●宅八郎はプロフェッショナルだから、おたくじゃない！
●おたく評論家の第2号は誰にもマネられないわけですよ！（自分が〈おたく評論家〉を名のって出演したTBSの番組を、誰も見てるとは思わなかったようだ）
●オレのことを調べてもいいよ、別に。何でも書けばイイ。書けよ、絶対！
●だから書く。とことん書く。反論なり謝罪がない限り、殺すまで書いてやる。ボクのコミネ攻撃は終わっていない。いずれ、続刊を出したいと思う。

32 おたく天国連載・幻の最終回
くたばれ！宅八郎!!

死ね！死ね！死ね！死ね！死ね！死ね！死ねッ!!

毎週『SPA！』編集部に寄せられる、読者の手紙には「おた天」に対する憎悪がみなぎっていた。しかも何だか編集部の対応も冷たい。やっぱりボクは嫌われているのか!?

心配になってきた。おまけに自宅にはカミソリの刃や脅迫状が……。そこで今回、特別取材班による街頭インタビューや匿名を条件にした調査を報告する。

しかし、ボクは一切反省しません!!

『SPA！』編集部では……

●担当じゃなくて本当によかった。あんな男には関わりあいたくない。

●担当が気の毒。やりきれない思いです。

●触らぬ神に祟りなし。宅八郎は、手が付けられないようで、怖い。

●別件の取材で「『SPA！』はあんなコラムを載せてる。ひどいじゃないか、何考えてるんだ」と責められ、恥ずかしい思いをした。

●宅が編集部に来るだけで腹が立つ。直接、編集部には来てほしくない。

●業界の、いい笑い物ページだ。
●校正しようとしても、何が書かれてるか意味不明で困る（校閲部）。
●入稿、戻しが遅くて本当に迷惑している（デザイン、校閲、進行各部）。
●内部ではあまりにも笑えないことが多すぎる。
●広告主には見せられないページだ。まずい。
●原稿の質が低い。
●宅のヤロー、いい気になりやがって！　今だけだ。
●今だけの男だ。早く消えてほしい。

宅八郎と、自宅に送られてきたカミソリ

大日本印刷担当者は……

●もうやめにしましょうよ、こんな進行は……。冗談じゃないですよ。

『SPA!』編集長は……

●〃シャレにならないので、そんなコメントはできない。私は忙しいんだ。あんな非常識な男には本当に困っている〃とのこと。

『SPA!』読者の声は……

●論外！（千葉・会社員29）
●早くやめてくれ（大阪・自営業37）
●こんなページは読みたくない。不快です（匿名）
●こんなことやってる、酷いヤツは許せない（匿名）
●文章が意味不明でまったくわかりません（世田谷区・OL24）
●死んでほしい（大阪・芸人32）
●こんなヤツは顔も見たくない。問題があると思う（三重・会社員27）
●コイツには絶対、問題があると思う（北海道・学生17）

●とにかく不愉快だ（神奈川・会社員43）
●小峯の大ファンです。宅八郎はひどい野郎だ
●コミネがかわいそう。宅のやってることはあんまりだと思う。宅を殺してやる（匿名）
●気持ち悪い。ゾッとします。面白くありません（京都・OL22）
●くだらないからやめて（福岡・主婦25）
●バーカ！（港区・学生20）

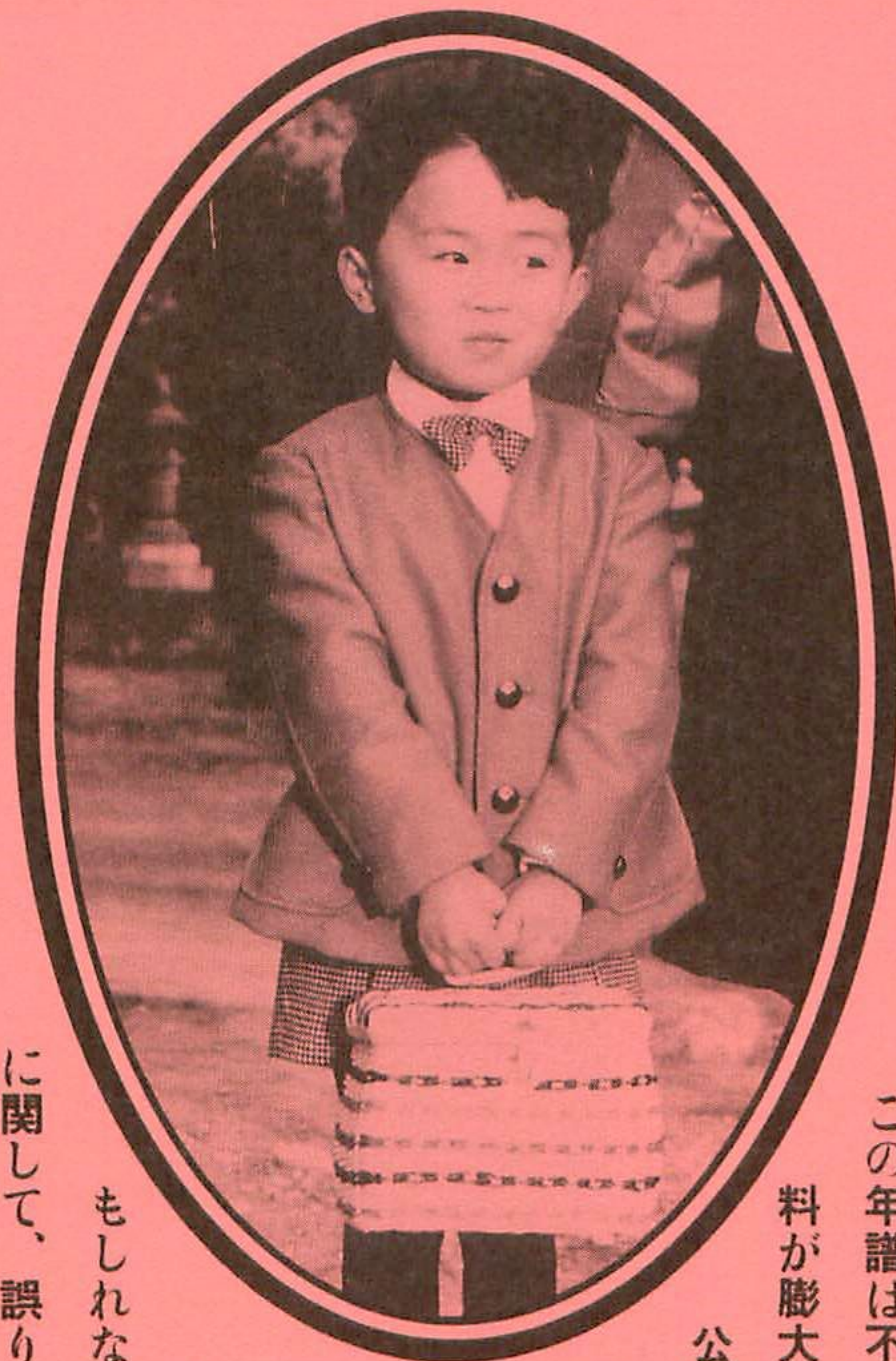
街角では……

●髪がコワイ。洗っているのか不安を感じる。汚そう（銀座・OL25）
●こんなヤツ、相手したくない（銀座・会社員34）
●バカ、とにかくバカに見える（新宿・大学2年生20）
●この人ねえ（笑い）、友人にはしたくないなあ（新宿・会社員28）
●髪を切れ！（大手町・会社員45）
●こんな奴が日本を駄目にするんだ。親は何している？（丸の内・会社役員53）
●ダサい、いらつく、むかつく！（文化服装学院前・専門学生20）
●やめてよ、バカ（同・女性18）

●こういうヤツがおたくの代表というのは困る（東京デザイナー学院前・19）
●TVで見ると気持ち悪そう、調子悪い時ばかり出てるの？（同・女性20）
●一応読んでますけど……。ちょっとトラブルが多そうで、この人は長生きしないいんじゃないか（銀座・書店主40）
●立ち読みのお客が顔をしかめて買わなかったことがある。バカヤロー売上げ返せ！（渋谷・同37）
●周りにいないタイプ、こんなヤツいたら逃げます（六本木・フリーター女性25）
●TVで見たけど怖い、気持ち悪い。恥ずかしくないの（渋谷・女子高生17）
●髪がコワイ、人形もコワイ（同・16）
●死んでほしい（青山・マヌカン24）
●絶対寝たくない男！（原宿・美容師21）
●髪が不潔そう（銀座・OL26）
●こんなことしてて、恥ずかしくないのか（同・19）

読者の皆様へ！

暗闇の中から、死神がやってくる！　ワハハハハッ。おたーミネーター2こと、宅八郎で〜す。「しつこい」「くどい」「タチが悪い」宅先生に抗議のお手紙を出そう！

宅八郎
お騒がせ年譜

宅八郎関連の出版物、テレビ番組などの日付は、基本的に「発行月日」「初回放送日」に統一しました。雑誌発行日と実際の発売日のズレや、テレビの録画と放送日のズレから、事実関係に多少の前後が生じていることを了解下さい。

この年譜は不完全版である。自分自身の資料が膨大にあるために、そのすべてを公開することはできなかった。

いずれ、それらのすべてを公開し、より詳しい説明を加え、同世代論としても読めるような(笑い)、自伝を発表したいと思う。

また、年譜には錯誤もあるかもしれない。宅八郎デビュー前、以後に関して、誤りを発見された方は御指摘下さい。また、情報収集にも限界はありました。見落としもあると思います。

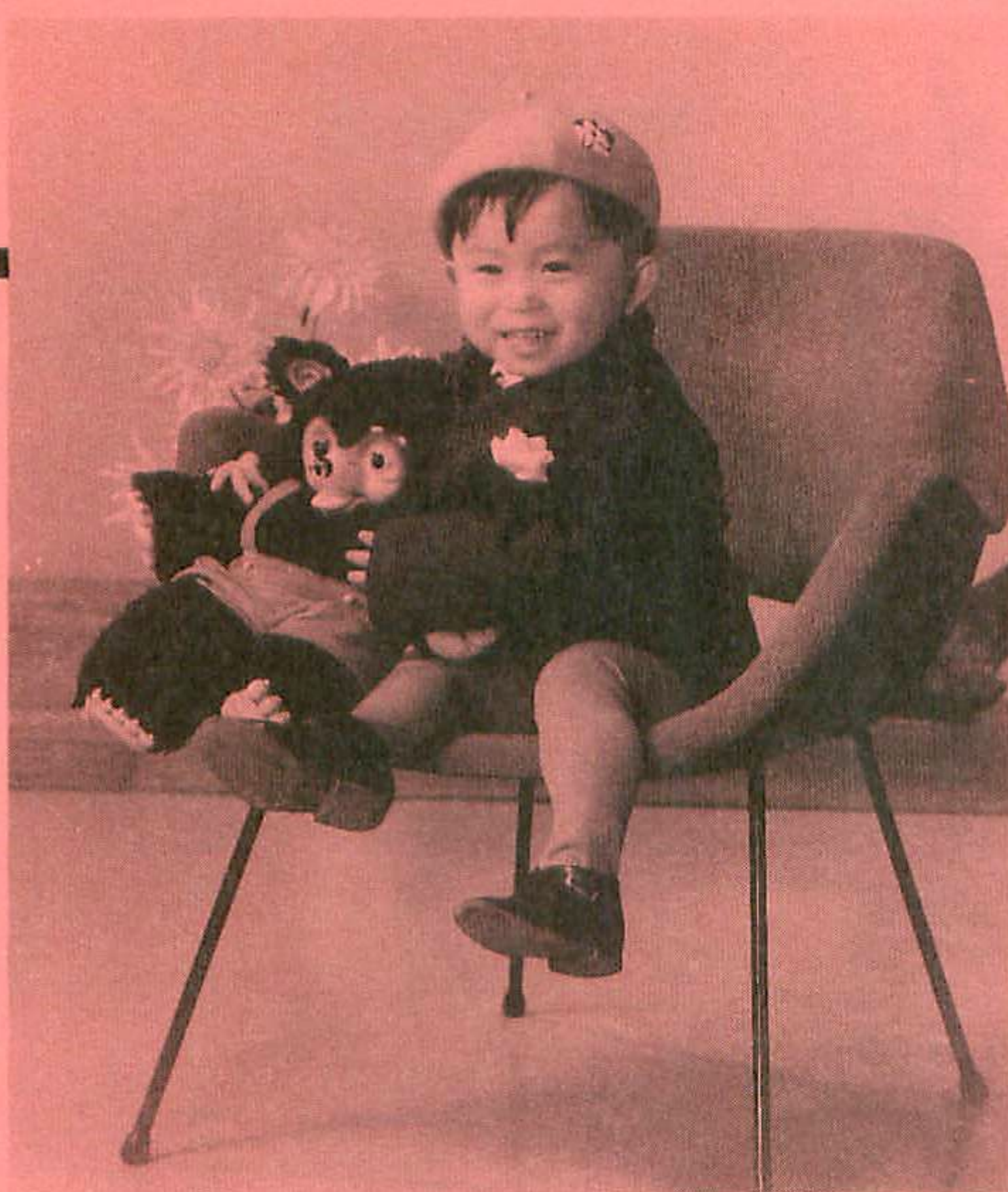
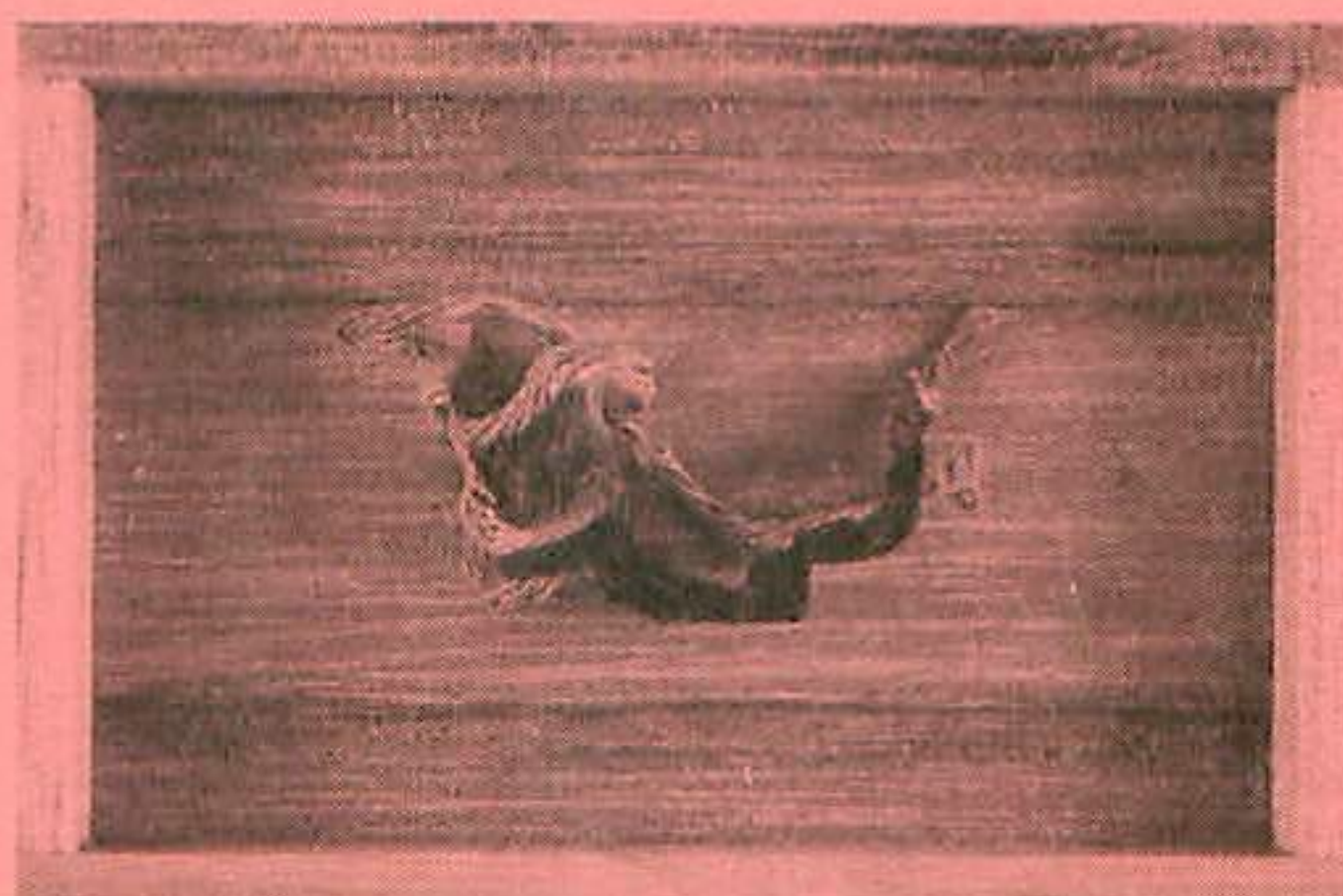
何でも新情報を募集します。宅八郎本人から、豪華粗品を進呈いたします。

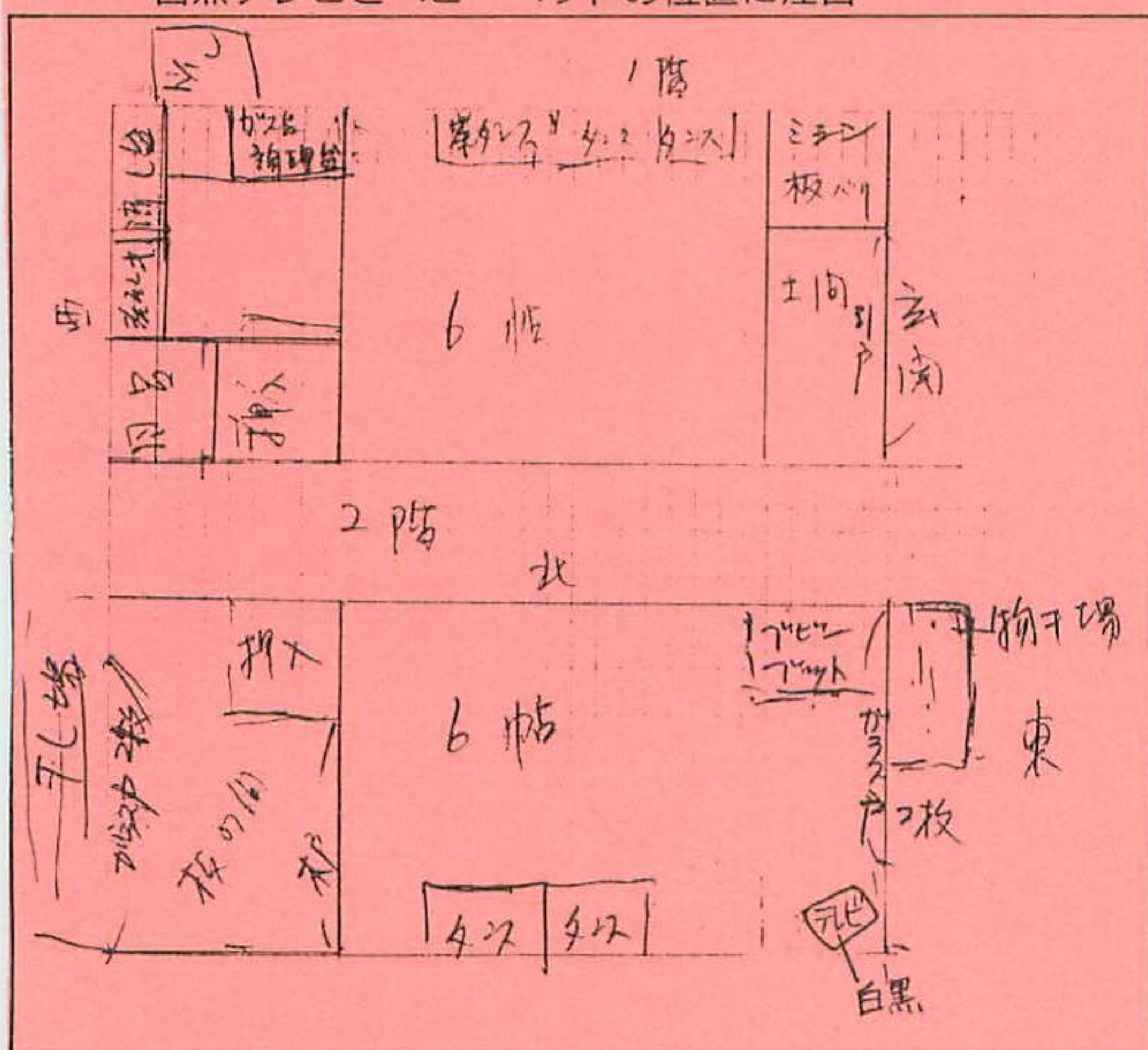
(すべてのお手紙は太田出版・宅八郎係まで)

*なお、年譜に関する多くの情報協力者の方々。みなさん、ありがとう!

幼年期［0歳〜6歳］

62・8・19
昭和37年8月19日、静岡県浜松市に宅八郎、生まれる！

62・8・21
昭和37年8月21日、東京都西多摩郡五日市町に、宮崎勤が生まれる

62・12月
初めて、白黒テレビを買った

宅のヘソの緒

白黒テレビとベビーベッドの位置に注目

宅八郎は昭和37年8月19日午前10時25分、静岡県浜松市に生まれた。
星座は獅子座、血液型O型。身長47㎝、体重2700gの小さな赤ちゃんだった。
宅と宮崎は2日ちがいの同い年だった！人は、この2人を「血のつながらない兄弟」と呼ぶ。

63・夏　タバコを食べちゃった事件（0歳）

66・4月　私立幼稚園に入園

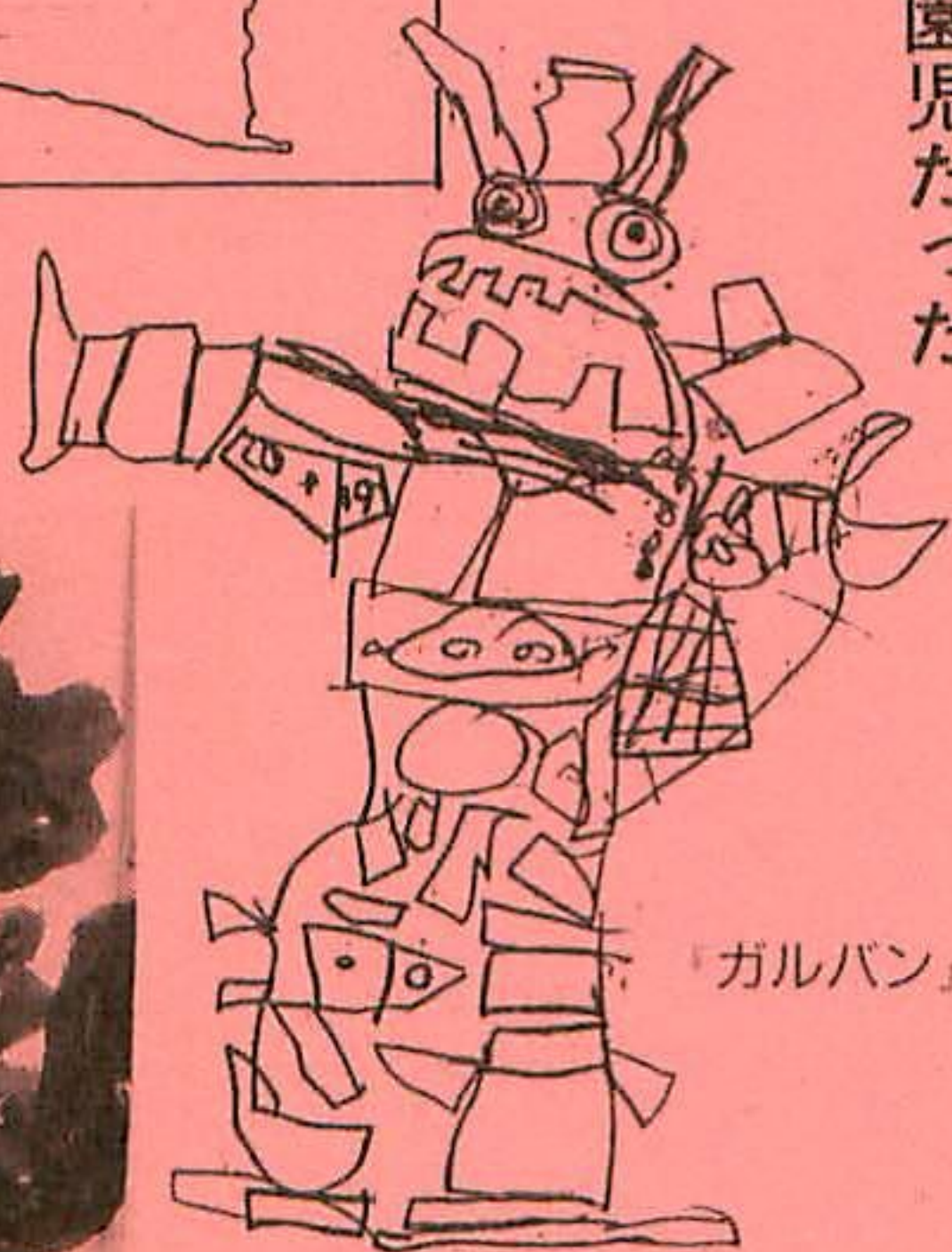
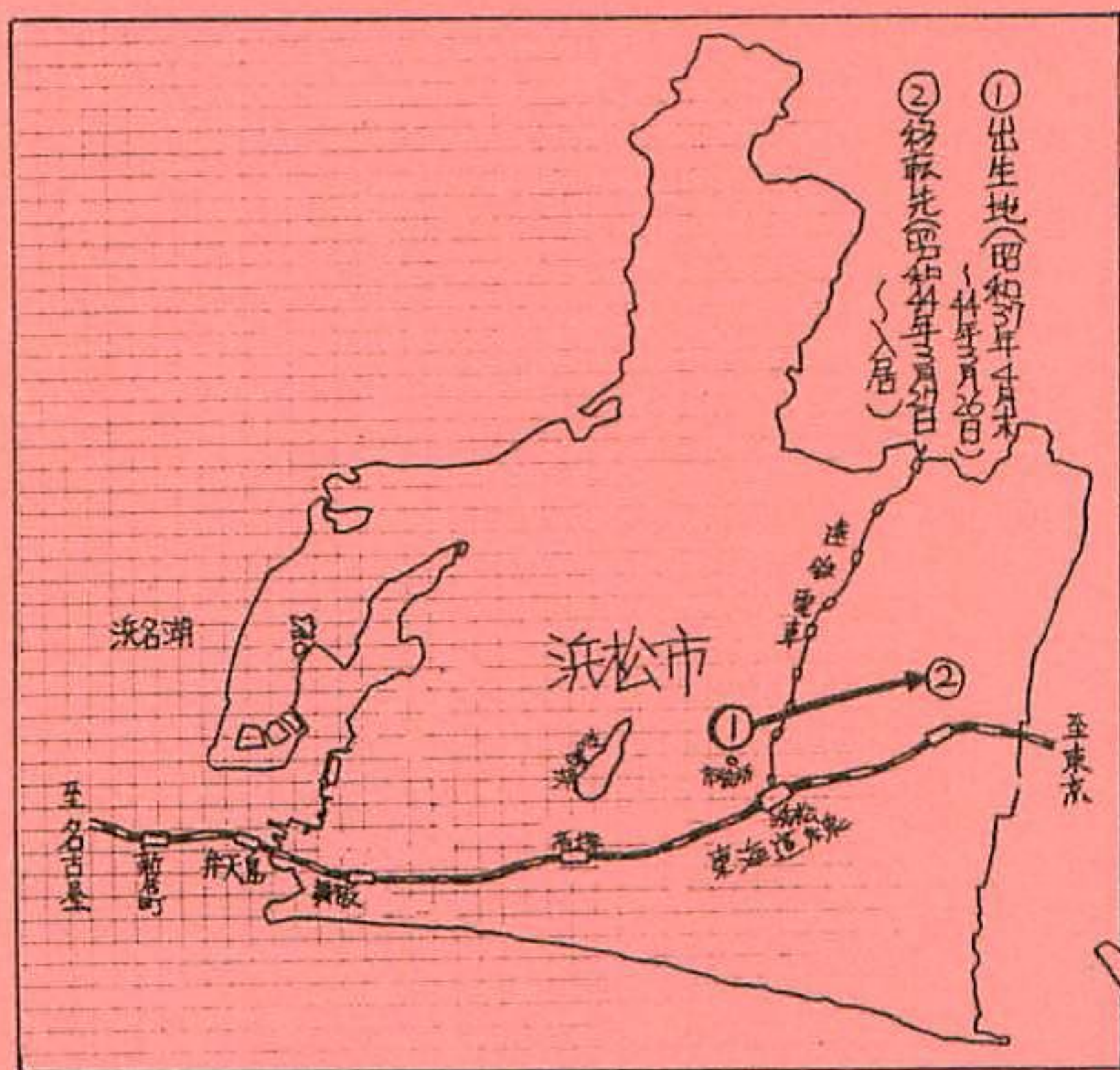
66〜69年　テレビに夢中、コス・プレする幼稚園児だった

69・3・27　浜松市内で引っ越し

浜名湖
浜松市
至名古屋
至東京
東海道本線
遠州鉄道
①出生地（昭和38年4月生〜44年3月26日）
②移転先（昭和44年3月27日〜入居）

ごじら

『ガルバン』

『ジャイアントロボ』

1歳になる直前。父親のタバコをいつの間にか、食べていた。
父はあわてて病院にかつぎこむ。胃洗浄の結果、大事にはいたらなかった。

東京オリンピック、新幹線開通から約2年後、昭和41年に宅八郎は幼稚園に入る。
幼稚園でも手のかかる子として保母さんを困らせていたという。

そのころ、すでにマンガとTVの大好きな子どもだったようだ。
紙で「ゲゲゲの鬼太郎」のコスチュームを作ったり、ふろしきをかぶったり、早すぎたコス・プレのようなことをしていた。
また、かなりの怪獣絵画を残している。

小学校入学直前、市の郊外へ引っ越しをする。近所のおばさんの引っ越し祝いは「ウメ星デンカ」のお菓子だった。

少年時代［6歳〜12歳］

69・4月　市立の小学校に入学

69・4月　記憶の上では初めてイジメにあう

69・初夏　交通事故で脳を強打！　緊急入院!!

69・夏　スポーツセンターで体をきたえる

小学1年　宅八郎、問題児として、表面化する

校長名	小野　光久	認印	学期	1	2	3
			校長	小野（印）		
受持名	[illegible]和夫		受持			
			保護者			

学校と家庭との連絡欄

月	日	学校から
7	23	理解力は有しているのに、学習態度にむらがあるため十分に発揮されていません。このままでは他の子どもたちに及ぼす影響も大ですので、ご家庭でもよろしくお願いいたします。
12	23	わたくしも、あせらず指導していきますが、集団生活における個々の自覚をご家庭でもしつけてください。 12.20 [illegible]

月	日	家庭から
8	28	誠にわがままな子供ですがよろしくお願いします。家庭でも常日頃注意をしておりますが、カンの強い子供でしんぼう強く教育しておりますので今後とも御海容頂きたく切にお願い申し上げます。敬具
1	7	他生徒の迷惑になっていることを考え頭をなやましておりますが今後ともよろしくおねがいします。

入学時の身長は107・5cm、体重は15・7kg。小さな子供だった。

歩いて10分ほどの距離の小学校まで通う。ランドセルと併用していた通学バックは「2001年宇宙の旅」のものだった。

見知らぬ土地の小学校に入って、すぐに地元の子どもからイジメにあった。引っ越す前の家に帰りたかった。

小学1年生になりたて。マンガを早く読みたいばかりに、大きな交通事故にあう（トラックにひかれた）。

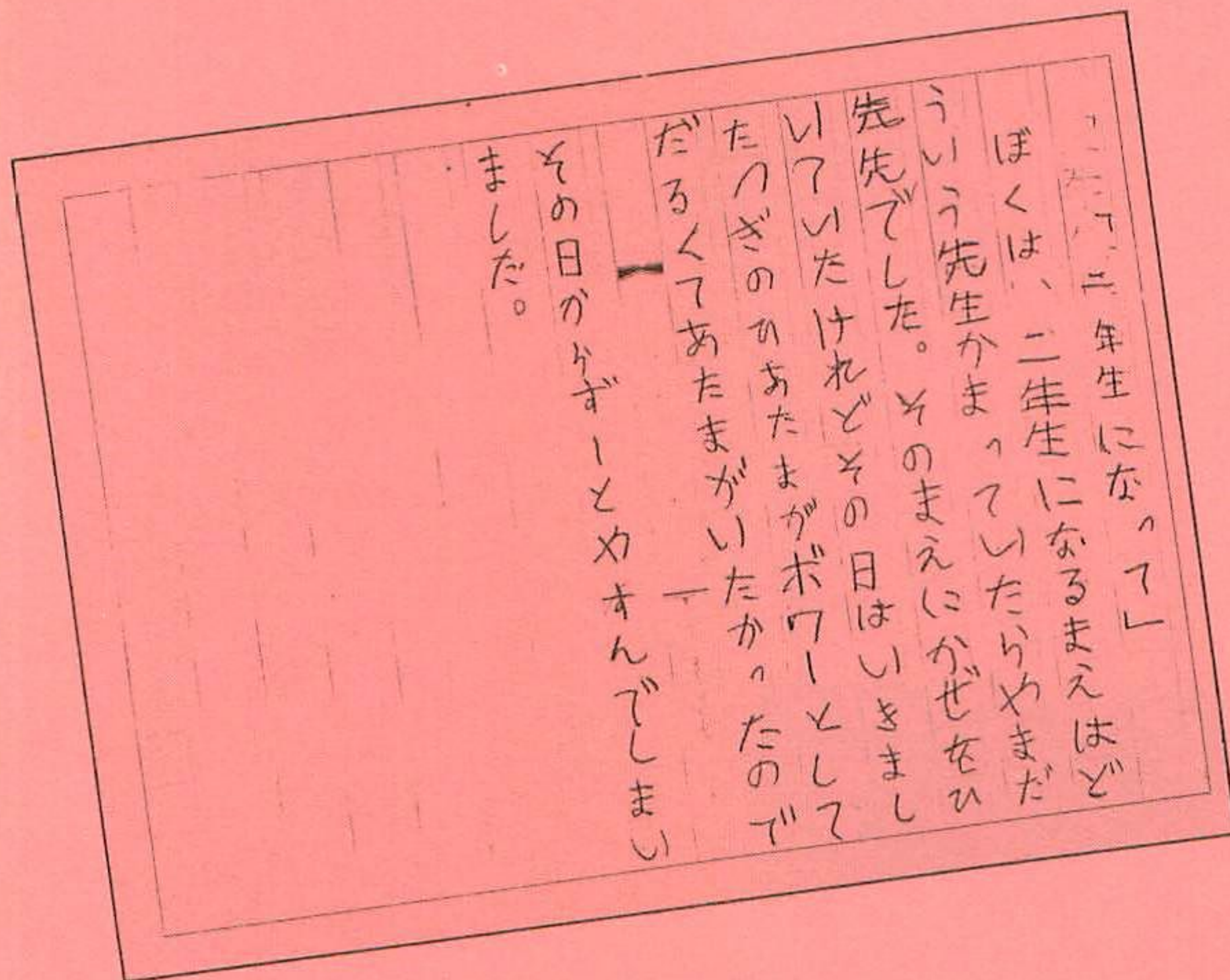
初めて救急車に乗った。脳打撲のため、脳波の精密検査を受けた。いちおう？無事だった。

幼稚園のころ、水が大の苦手だったために、そして体を丈夫にするために、スポーツセンターの水泳教室に通わされた。けっこう上達した。遠泳は特にお得意になる。

成績は優秀ながら、早くも問題児として教師や生徒に迷惑をかける。（小学校1年の通信

小学校2年で早くも視力が落ちてくる

「二年生になって」

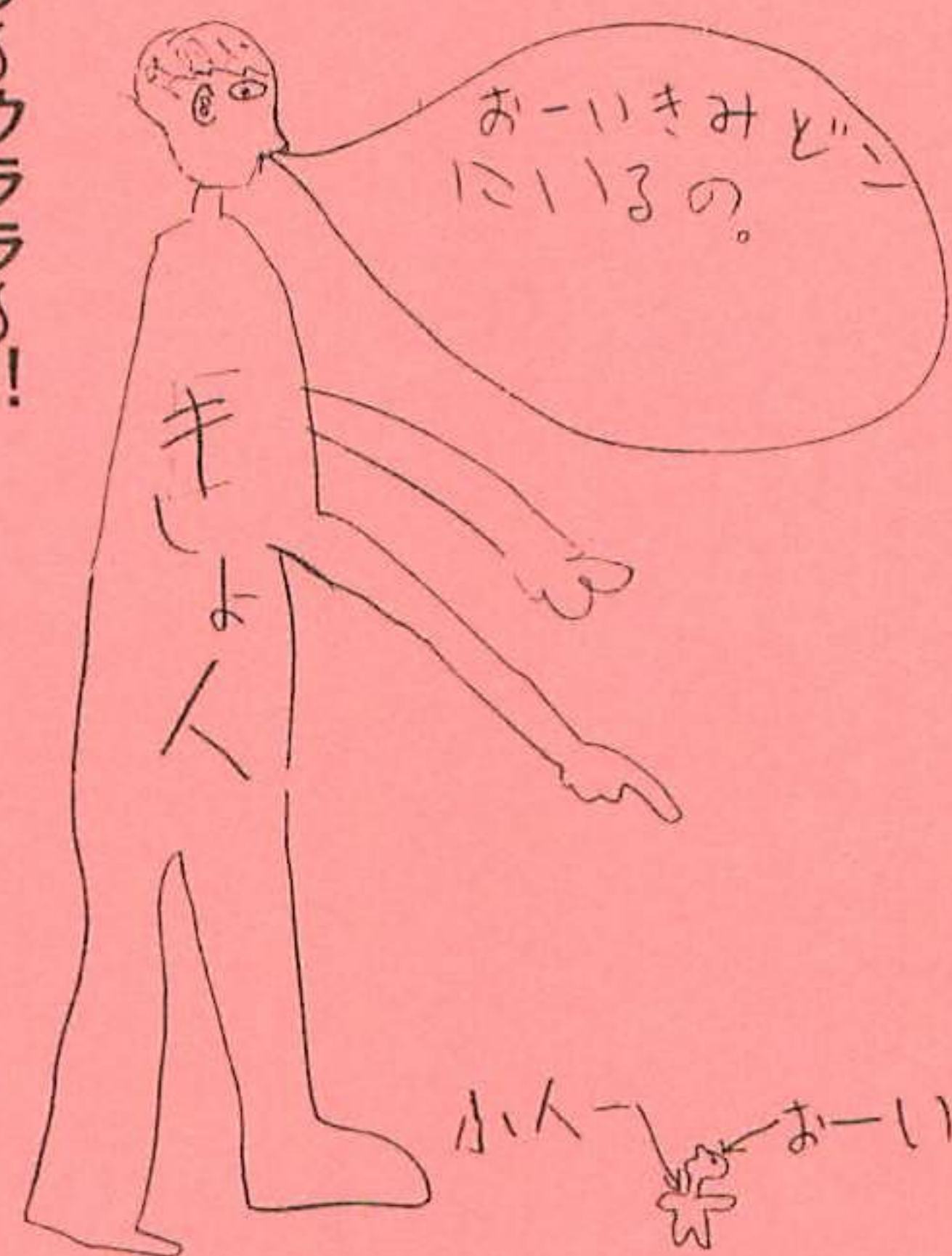
ぼくは、二年生になるまえはどういう先生かまっていたらやまだ先先でした。そのまえにかぜをひいていたけれどその日はいきましたつぎの日あたまがボワーとしてだるくてあたまがいたかったのでその日がずーとやすんでしまいました。

薄に記載された担当教師と親の通信欄を読んでほしい）

2年進級時の身長112・5cm、体重17kg そして視力は右0・8、左0・6。

読書は好きだったが、作文を書くのは苦手だった。2年の時に書いた作文を紹介する。しつこく、くどく、こだわりのある文章に宅の片鱗がうかがわれる。

「きゅうしょくのことについて」

ぼくは、だいたいのとき、きゅうしょくをのこすけど、のこさないときもあります。ソフトメンのときは食べてしまいます。そのわけはこんだてがソフトメンのときはあとのおかずがすくないしぼくは、ソフトメンがだいすきだからそのときはだいたい食べてしまいます。だけどソフトメンのときだけではありません。ときどきほかのこんだてのときも食べます。ぼくのすきなおかずはソフトメン、すぶた、コロッケの野さいソースかけ、すきやき、とりにくなどです。きらいなものは、にんじん、ミルク、ピーマン、しいたけ、ぶたにくなどです。でもミルクはまいにちでるからのみます。にんじんは、うちで食べさせられます。でもいやなことはいやです。とりにくはすきです。でもとりにくはとりにくでも

小学3、4年頃　この頃、巨人幻想を抱く『伊賀の影丸』催眠術事件(香山リカ対談および164ページ参照)

72〜73年　山本リンダに夢中！ ウララ〜ウララ〜ウララ〜!!

72〜74年　小4〜6年 マンガ、TVにますますとりつかれていく

74年頃　初めてメガネをかける

小学6年　また、交通事故にあう

中学校時代［12歳〜15歳］

75・4月　市立の中学校に入学

75・秋頃　家を増築、広くなった部屋はマンガだらけになった

あぶらにくはきらいでこわいにくがすきです。でもにくはにくでもぶたにくはきらいです。

父方の叔父からもらったマンガ『伊賀の影丸』の催眠述合戦シーンを読んでいて、自分が催眠術にかかり、ショックを受けた。自己の中に忍者の存在を意識しはじめた。

リンダ復活の頃(昭和47年6月〜)。この頃は西城秀樹も人気があった。宅も水色のラッパジーンズをはいていた。

そしてまたミステリー、SF小説にもはまっていく。そのため視力がますます落ちていった。

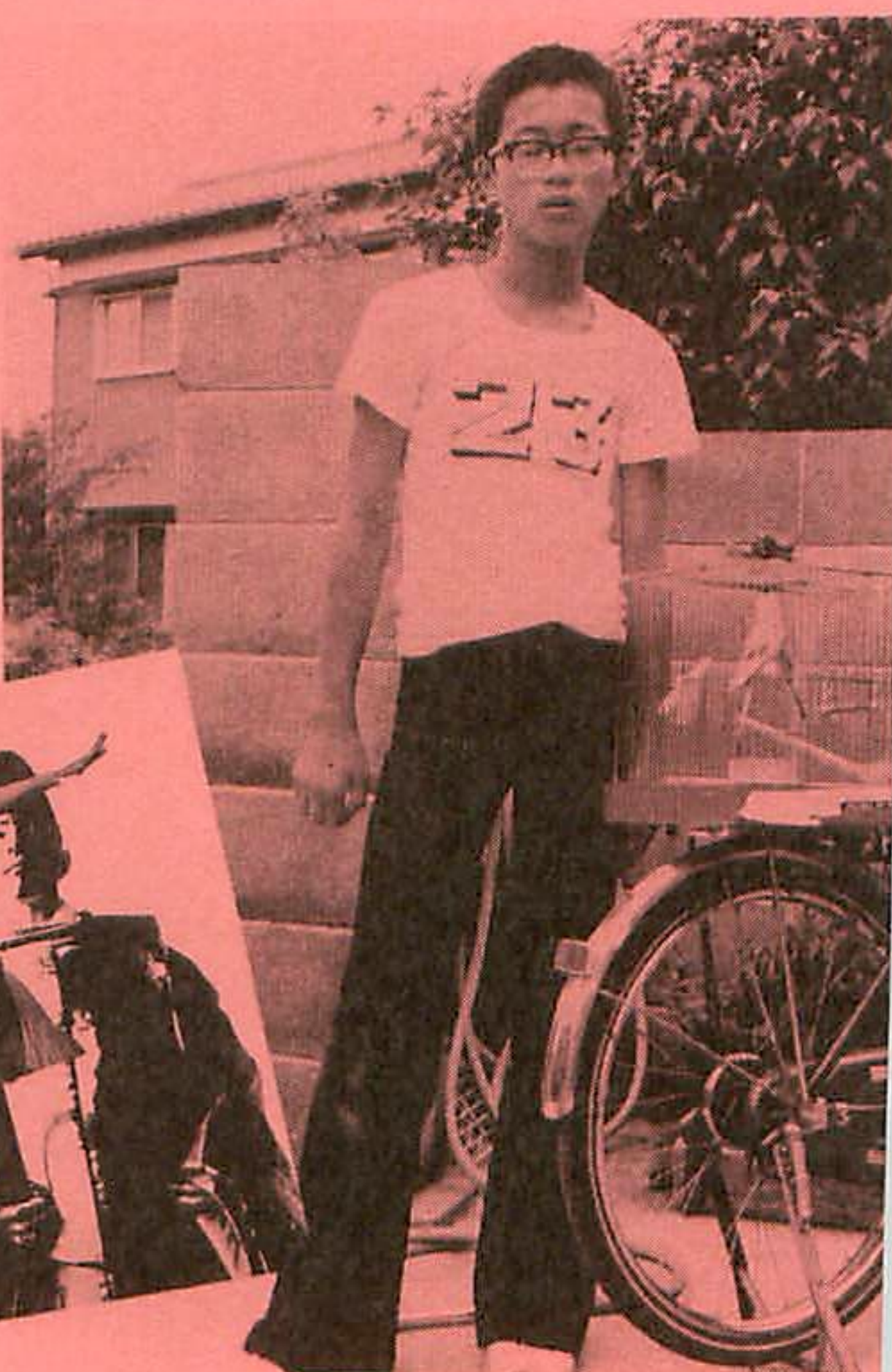
それほど、大きな事故でなかったため、通院ですんだ。

小学校高学年から好きだったマンガにどんどんハマっていく。模写を繰り返す毎日。そして『宇宙戦艦ヤマト』をキッカケに第

76年
中2、13歳くらいから、特におたく度が高まっていく

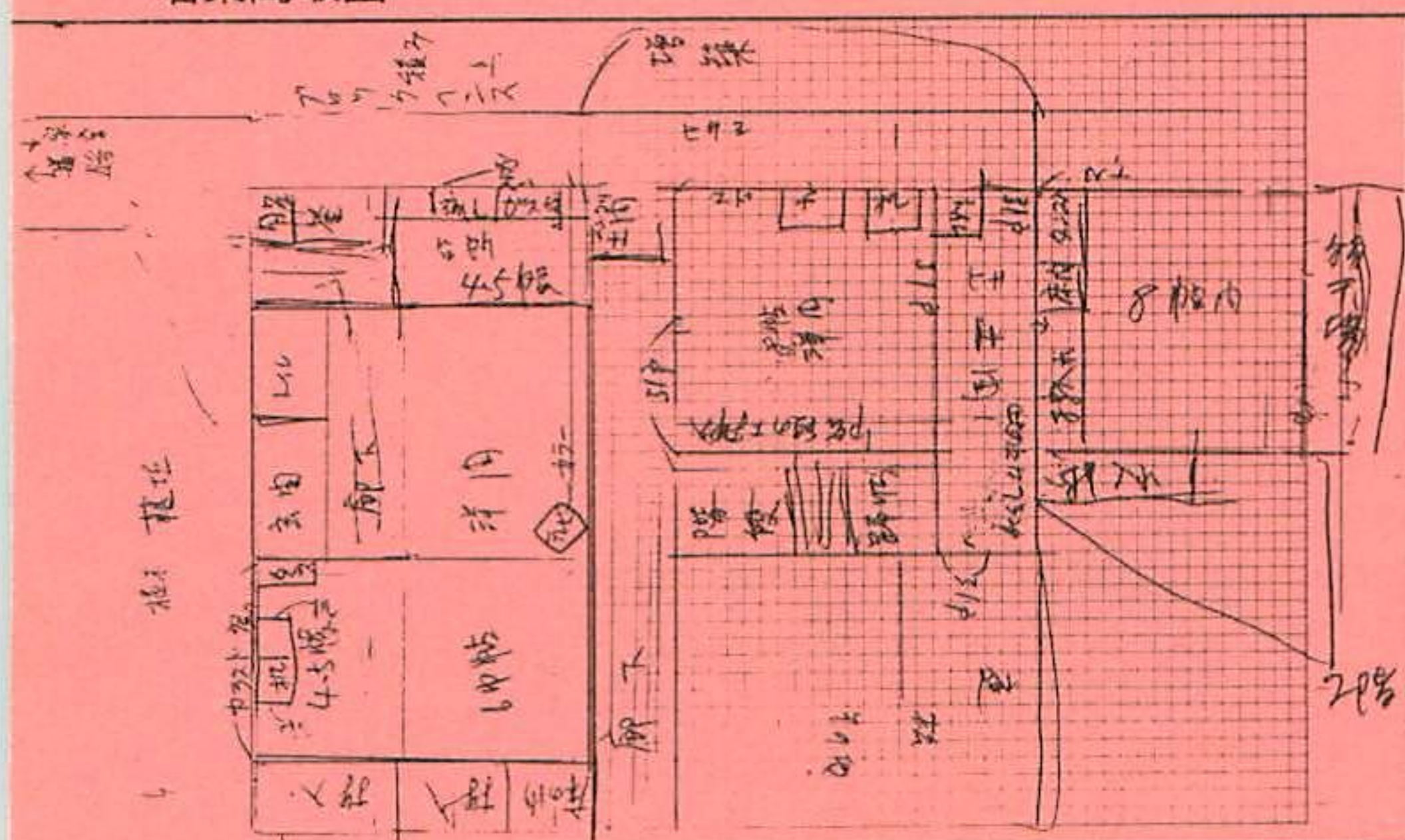
76・8月
デビューしたピンクレディに熱狂していく

76・秋
中2の時、友人の生徒会応援演説・ポスター製作にからんでトラブル

76年
三島由紀夫の『午後の曳航』にショックを受ける

77・初夏
14歳の時、静岡放送『ジャイアントロボ』再放送嘆願・署名運動

目標・みんなによくわかる生徒会
後期生徒会副会長立候補

この頃の美術作品

増築間取図

一次アニメブームがやってくる。'76年8月『マンガ少年』、'77年5月『OUT』、9月『ロマンアルバム』'78年1月『ファンタスティック・コレクション』などの〈商業・同人誌〉が続々、創刊された。そんな中で宅八郎はマニア活動に目覚めていく。

また『ファントーシュ』やアニドウの『フィルム1／24』の定期購読者でもあった。

友人の生徒会長立候補の応援演説をする。そのポスターを描いたがあまりもフザけたものだったために教師は怒り、何度も描き直させられた。授業態度も悪く中2の時、担任の体育教師Aに「普通の勤めはできないと思いますよ」と親子三者面接でイヤミを言われる。

『午後の曳航』の主人公は、13歳で自分が天才であることを自覚した少年だった。宅は同じ年齢13歳で、この本を読んだ。

そして同原作の映画も観た。監督はルイス・ジョン・カルリーノ。

この頃、左翼の研究もしていた宅は署名運動が圧力を持ちうることを知り、昔大好きだった『ジャイアントロボ』の再放送を実現するために、相当数の署名を集める。そして、

77・11・5

文化祭でアニメの研究発表

77・秋

進路指導の担当教師に「内申書は0点だと思ってくれ」と言われる

78・1・12

この日から始まった『ザ・ベストテン』は特に好きな番組だった

78・3・30

中学の最後、15歳で手塚治虫に会う

冬休みの反省

1. 生活について
朝ねぼうが多く、計画が守れなかった。

2. 学習について（課題をふくむ）
計画すべて無視してしまい、何もやらなかった。

3. 健康管理について（歯、眼、耳、鼻などの治療をふくむ）
鼻がすこし悪いのだが治療はしなかった。

4. 体力の増進について（部活動をふくむ）
毎朝マラソンをやろうと思ったのだが、ただの1日もできなかった。

5. 余暇の利用について（読書、趣味、テレビなど）
テレビをよくみた。特に映画だった（動画、特撮）

それを静岡放送に持っていった。その結果、'77年8月22日から9月29日まで（17時～）ロボの再放送は実現したのであった。

'77年夏～秋の間、市立中央図書館にこもって新聞の縮刷版のテレビ欄を一日ずつ確認。昔のTVアニメのタイトルおよびサブタイトルのリストを作る。また、全校生徒にアニメの人気投票アンケートを強制的に実施、迷惑をかける。その結果を文化祭で発表した。

それまでは勉強はできたが、テレビやマンガに夢中になっていたために、さすがにだんだん成績が落ちてゆく。

授業態度のひどさは問題になっていった。

歌謡曲にも夢中になる沢田研二、アリス、久保田早紀……。『19××』にあの頃を想い出す。

東京のイベント情報を確認して、アニメ上映会（日本アニメーション協会・主催）を見るために突然、上京。会場は新宿紀伊国屋ホールだった。そのロビーで、手塚治虫に握手してもらい、感激する。

高校時代［15歳〜18歳］

78・4月　静岡県立浜松南高校に入学

78・4月　ウラミ手帳をつけだす

78・4月　学校内の漫画研究同好会に所属

78・4・26　学校外でも、アニメサークル『たあたあ』を主宰する

78・6・10　アニメサークルの『第1号会報』を発行

6・10〜11　南高文化展でアニメの研究発表をする

この頃、クラスからは独立。イジメにもあって、ウラミ手帳をつけだした。疎外感の中で、逆に趣味の世界に逃避していったようだ。完全におたく化する。

成績はほとんどビリになっちゃうし、手をつけられないくらいだった。

中学校からの人脈、他校のマンガ研究会ほかをネットワークした。

またアニメ誌のとどめとして5月26日『アニメージュ』が創刊され、さらアニメブームは加速していく。

第1号会報では「見たいフィルムが見られるように上映会を主旨とし、会員が相互的に協力して幅の広い活動をしていこうと思います」と記されている。宅は情報に飢えていたのだろう。

そして会員募集を促進するために、この会報を高校の文化展でも配布。

文化展では中学時代に行ったアニメ関係の研究を、ほぼ完成した形で発表した。

78・7・16　地元の映画館・浜松東映を一日借り切って、上映会を主催

7月末〜8月　家出して、上京。宿泊先はカギもかからない簡易宿泊所(ドヤ)だった

78・7・29　コミケット9に参加

78・8・20　浜松に来たアニメーターの神様・月岡貞夫に会う

78・8・27　石ノ森章太郎FCの面々や、初村良明、あべりょうぞうなどと会う

78・9・1　初めての会誌『Tartar』創刊号を発行

サークル・たあたあ会誌
Tartar
創刊号

浜松初の自主上映会。15歳の少年としてはかなり無謀な試みだった。映画館の支配人と交渉を進め、自分の好きなアニメを上映させた。

作品は『バビル2世』『タイガーマスク』。しかし採算がとれず、多額の負債を抱えて、親に肩代わりさせる。メーワクかけてゴメンなさい、お母さん。

家出も15歳。東京で毎日、アニメ上映会やスタジオ見学に明け暮れる。

宿泊先の環境「ドヤ」は怖かった。この間、7月29日に初めてコミケット9(四谷公会堂)に参加した。

月岡貞夫のTVアニメでの代表作は『狼少年ケン』。その後は作家活動へ入っていった日本有数のアニメーター。

この日、浜松で開催された『佐武と市捕物控』のアニメ上映会でのこと。

創刊号からの引用「編集後記・やっと会誌が出ました。——ーページーページ、ムダのない会誌にしたつもりです。本当に穴埋めをするどころか内容をつめ込んだり、泣く泣く

78・12・1
『Tartar』2号を発行

78・12・24
サークル『Tartar』第2回上映会を主催

79・2月頃
アニメーターの必需品・トレス台を自作する

79・2・18
リバイバル公開された『2001年宇宙の旅』を観てショックを受ける

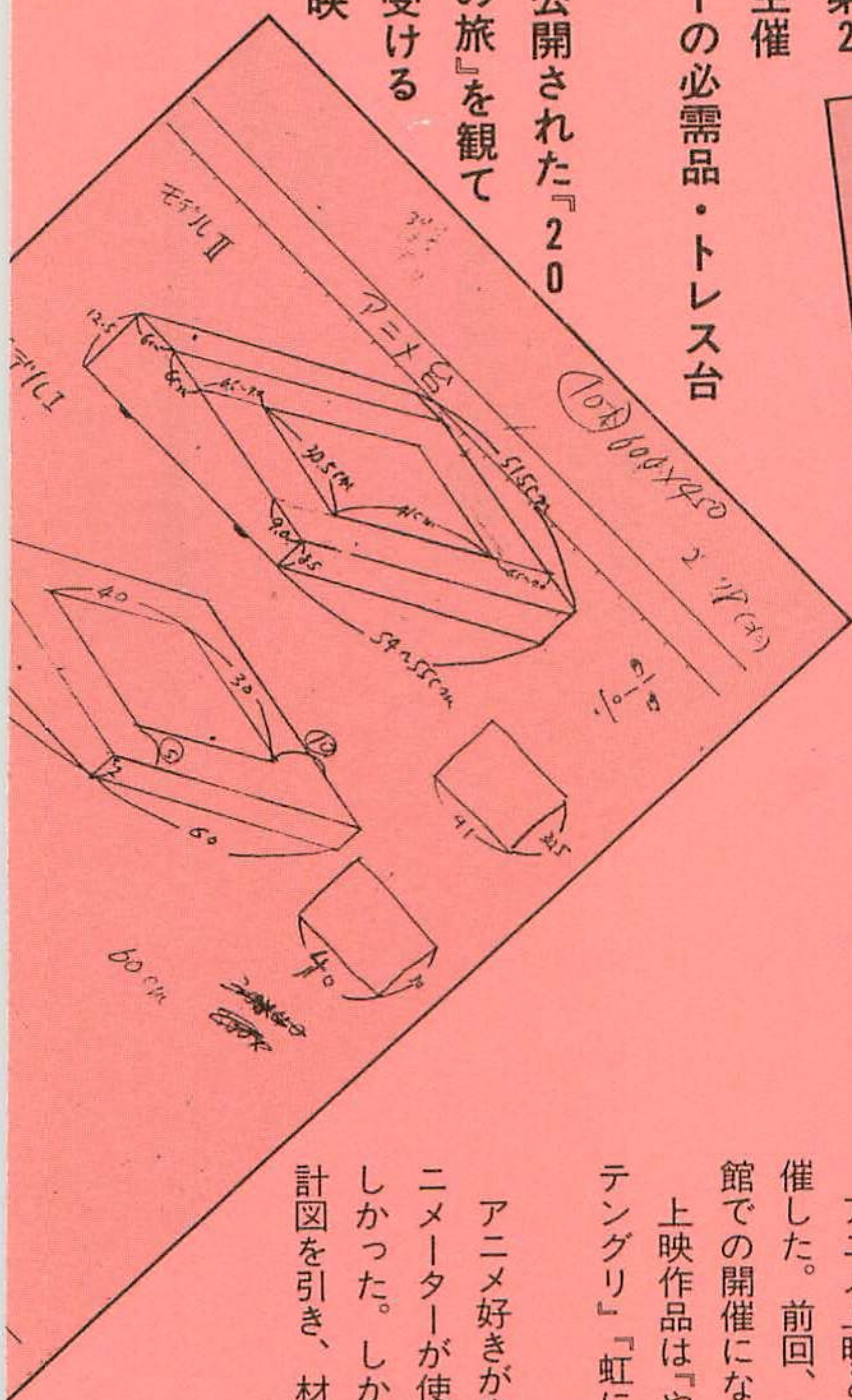
79・5月頃
高2。浜松映画ファンクラブに入会

サークル・たあたあ会誌
Tartar
No.2

モデルII
アニメ台
60cm

削除したりで必死でした」
第2号からの引用「Tartarというネーミングは米海軍の艦対空誘導弾の名を意識しつつ、会長の感覚的なものによって、つけられました。〈手におえない子供〉という意味もある」
この2号ではアニメファンの現状について、論争が掲載されている。ところで、表紙のキャプテンハーロックは好きではなかったが、女性会員の意見を取り入れた。
また、この頃TarTarは別のアニメサークルとケンカ状態になっていた。

アニメ上映とあわせて第1回全体集会を開催した。前回、負債を抱えていたために公民館での開催になった。
上映作品は『やさしいライオン』『草原の子テングリ』『虹に向かって』

アニメ好きが高じて、どうしてもトレス台(アニメーターが使用するライトテーブル)が欲しかった。しかし金がない。そこで自分で設計図を引き、材木を切ってコツコツ自作した。

日付	出来事
79・6・22	南高校内初の上映会。『日本漫画映画発達史・第2部アニメ新画帳』
79・6・23	静岡市でPAF5を見る
79・8・1	浜松南高校マンガ研究会機関紙『太陽の子』を発行
79・夏頃	浜松まんが文化研究会(漫画評論紙「あとむ」)に参加
79・夏〜秋	知人(土屋新太郎)に無理に頼んで、TVアニメを録画してもらう
79・9・18	初村良明と正式にあいさつ、かなり親密になる
79・10・27	校内で「TVアニメフェスティバル」を開催

TVアニメフェスティバル
10/27(土)PM1:00〜視聴覚室〈主催・マン研〉
◆上映作品の紹介・解説
「未来少年コナン」
「機動戦士ガンダム」
「母をたずねて三千里」
「無敵超人ザンボット3」
「ルパン三世」

PAF(プライベート・アニメ・フェス)は自作製作アニメの全国規模の上映会である。この他にも、よく静岡市(浜松から約76・9キロ)まで出かけて上映会に通っていた。

『太陽の子』は6月22日の上映会とPAFの感想文、夏休みの特別番組リスト(その頃、地方局の広報部に宅は出入りしていた)、放映中の全TVアニメ試聴率調査一覧表などで構成した。

定期券代金をつぎ込んで、ビデオテープを購入。再放送されていたアニメ『母をたずねて三千里』などを録画してもらう。登下校の往復約20キロは自転車でがんばった。

浜松在住の初村良明はマンガ・SF界では知られた人物。実は'78年に会っていたが、この日初めてあいさつ。この日のもつ意味は大きい。彼との親交はそのままマンガ+SFファンダムにつながっていく。

この日の上映作品は『未来少年コナン』『機動戦士ガンダム』『母をたずねて三千里』『無敵超人ザンボット3』『ルパン三世』。

11・3〜4
2日間　第10回全国アニメ総会に参加

79・12・1
浜松南高校マン研機関紙『まんまん』を創刊。新体制でGO GO GO！

80・1・6
人形アニメ作家・岡本忠成作品の上映会を市民会館で主催

80・1・21
デビューしたテクノポップバンド「プラスチックス」に夢中になる

80・1・29
南高マン研機関紙『まんまん』2号ルパン三世特集を発行

80・2・21
マンガ研究会を「部」に昇格させるために画策。トラブル発生

浜松南高マン研機関紙　創刊号
まんまん
特集・上映会を終えて

浜松南高マン研機関紙
月刊　まあまあ　3月号
特集ガンダム・座談会

初めて合宿制の全国アニメ総会に参加。この年は静岡市で開催された。

『まんまん』創刊号は部長・宅八郎が推進したマン研の新体制報告と、10月27日上映会の反省などで構成された。その後、宅はその新体制を『我々は、ただ砂上の楼閣を築いているにすぎないのかもしれない』と記している。

浜松マンガファンダム連合会の新年会で。同連合会は初村が中心となって、組織された。また、宅は「東海SFの会」再結成にも立ち合うことになる。

テクノポップ・ブームの到来。テクノ大好き。YMOやヒカシューなども聴いていたが、何といっても宅のお気に入りはプラスチックスだった。歌謡曲以外では、このバンドは宅に影響を与えた。

2号からの引用「バトルフィーバーが終わってしまった〜私はマリアのファンだった」

生徒会とモメにモメて、問題児だった宅の申請は却下された。

申請書類は『朝日ジャーナル』『すばる』『潮』

80・6・28

高3。文化祭で8ミリ映画『1980：a spase odessay』を発表する。

80・8・1

大幅に遅れて、機関紙『まあまあ』3月号(?)ガンダム特集を発行

80・9・7

ベルギーのアニメ作家ラウル・セルヴェの上映会を主催したが、この件についてトラブル発生

ベルギーの
スーパーアニメーション
Laoul Servals
ラウル セルヴェ
特集上映会
時・9月7日(日)開場 午後1時30分
上映開始 午後2時00分より
所・浜松市民会館 1階 鶴の間
【入場無料】
主催・浜松マンガファンダム
企画・浜松南高校マンガ研究会

8ミリ映画で使用した
スパイダーショットガン

卒業の頃

『思想の科学』『中央公論』『言語生活』などを引用し、データ調査を加えた、出版界でのマンガ状況を論じた論文？だった。

この8リミフィルムは宅の映像感覚を定着させる出来になった。画期的な合成システムを考案。残像を残して分身するバルタン星人や、南高屋上の大掛りな合成に注目。またメカゴジラ爆発シーンの爆薬は科学室から失敬したピクリン酸をもとに着火した！

また、上映権について、映画研究会および生徒会と、モメにモメる。

ベルギー大使館にかけあってフィルムを借りだした。

ところが、市民会館で開催した上映会のパンフレットに、浜松南高マン研のクレジットを入れたところ、教員から「校外での活動は問題ある」とのお達しがあり、初村をまきこんで大トラブルになった。

大学時代 ［18歳〜23歳］

81・4月　法政大学社会学部に入学

81・4月　東京都板橋区へ引っ越し

81・4月　法政大学漫画研究会に入会

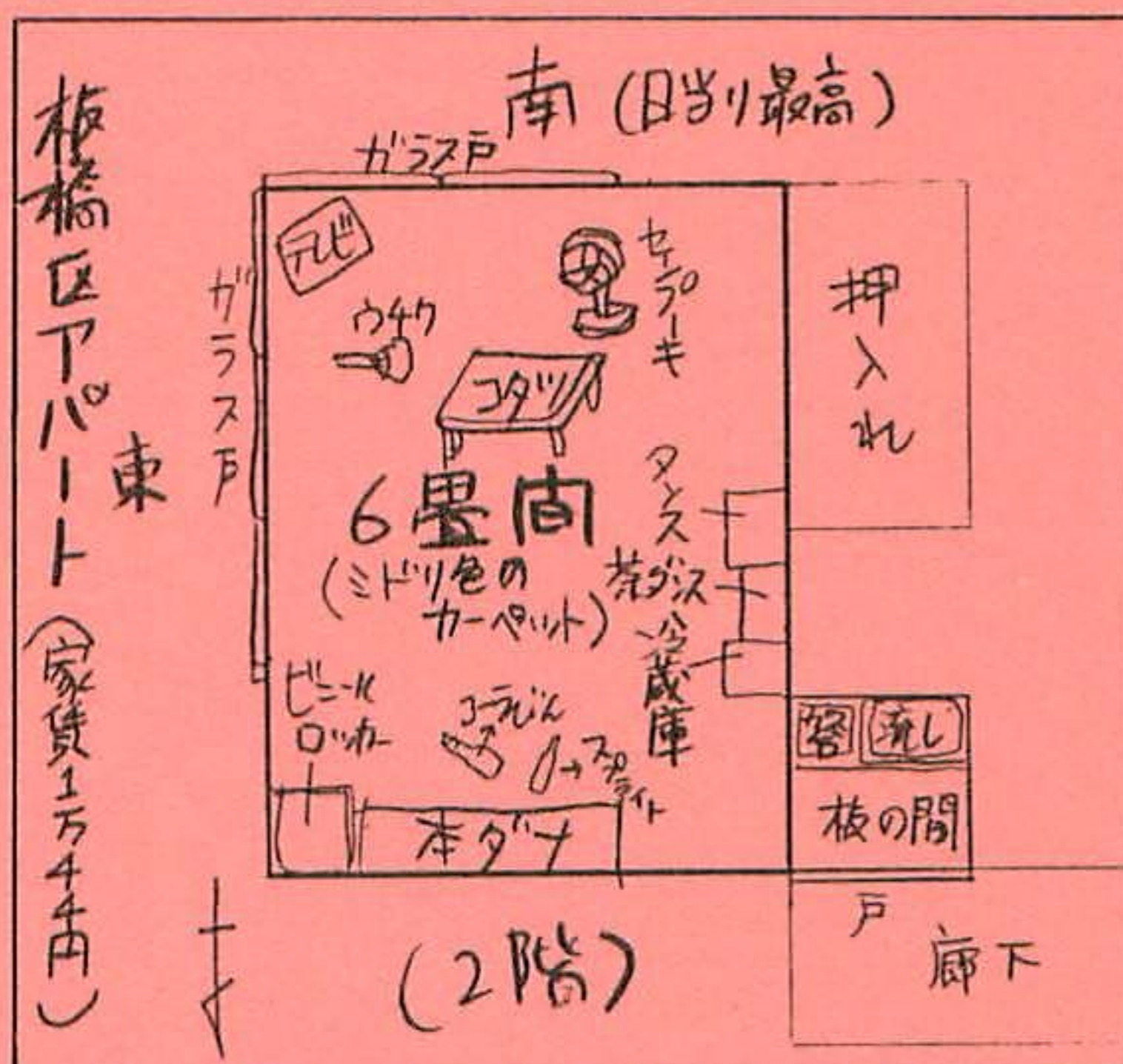
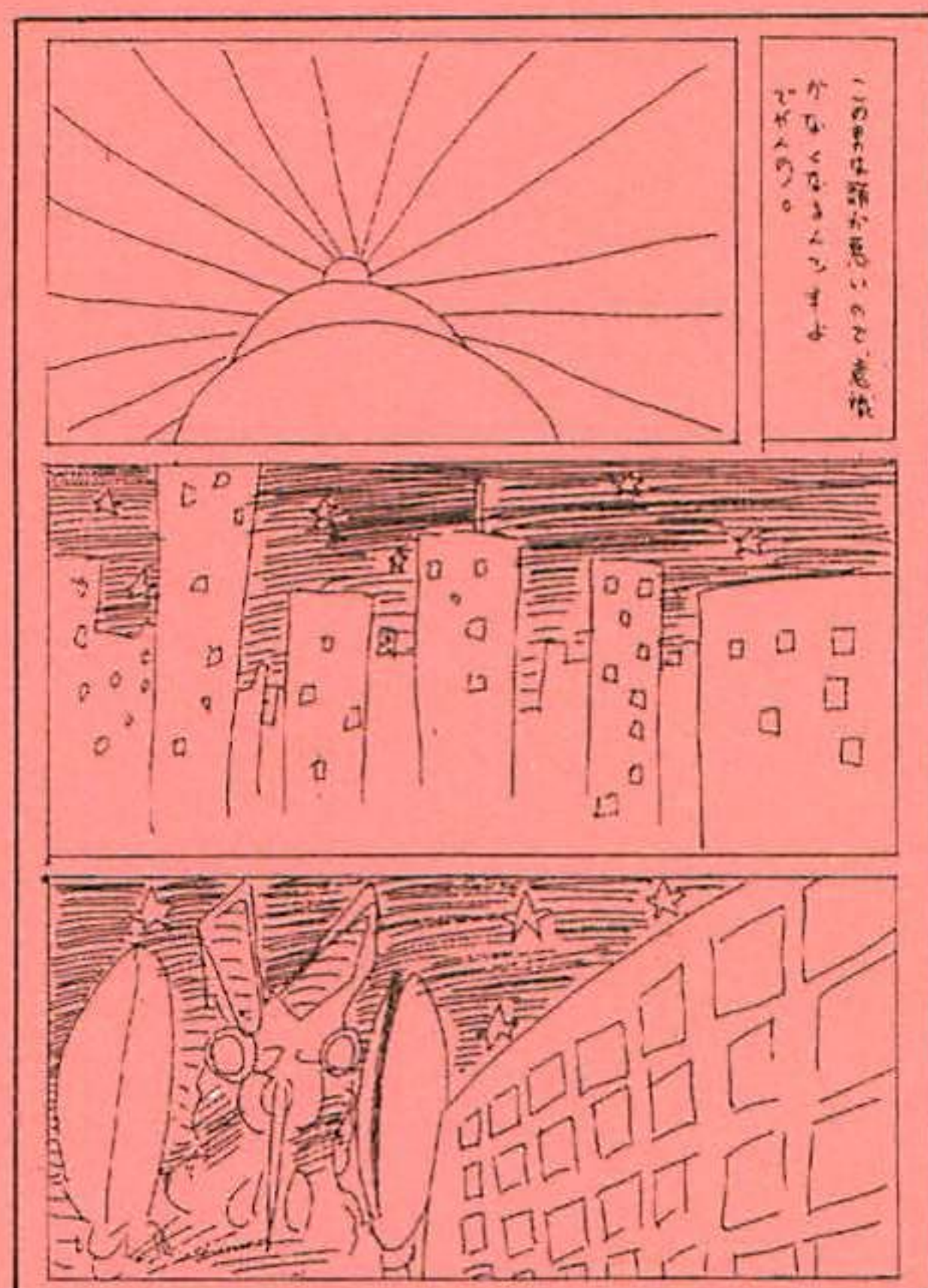
81・4月　入学直後に軽いノイローゼになる

81・4・5　コミケット17（川崎市民プラザ）に参加

81・4月末　屋根の上を暴走した「カリオストロの城」事件起きる

81・5・3　連休中、帰省した浜松で、カナダのアニメ作家の特集上映会を開催

NFB(カナダ国立映画製作庁)
アニメーション上映会
時：1981年5月3日(日) 午後1時30分開場。午後2時上映開始。
所：浜松市民会館2階 第1・第2会議室。
(入場無料)
主催　浜松まんがファンダム

81・6・29　大学漫画展開催。初めて人前に発表したマンガは「バルタン星人」もの

入学直後に軽いノイローゼ（といってもホームシックのようなもの）になっている。初めての独り暮らし、入学した法政大学、そして大学の漫研のレベルに失望したこと、などがその原因であったようだ。

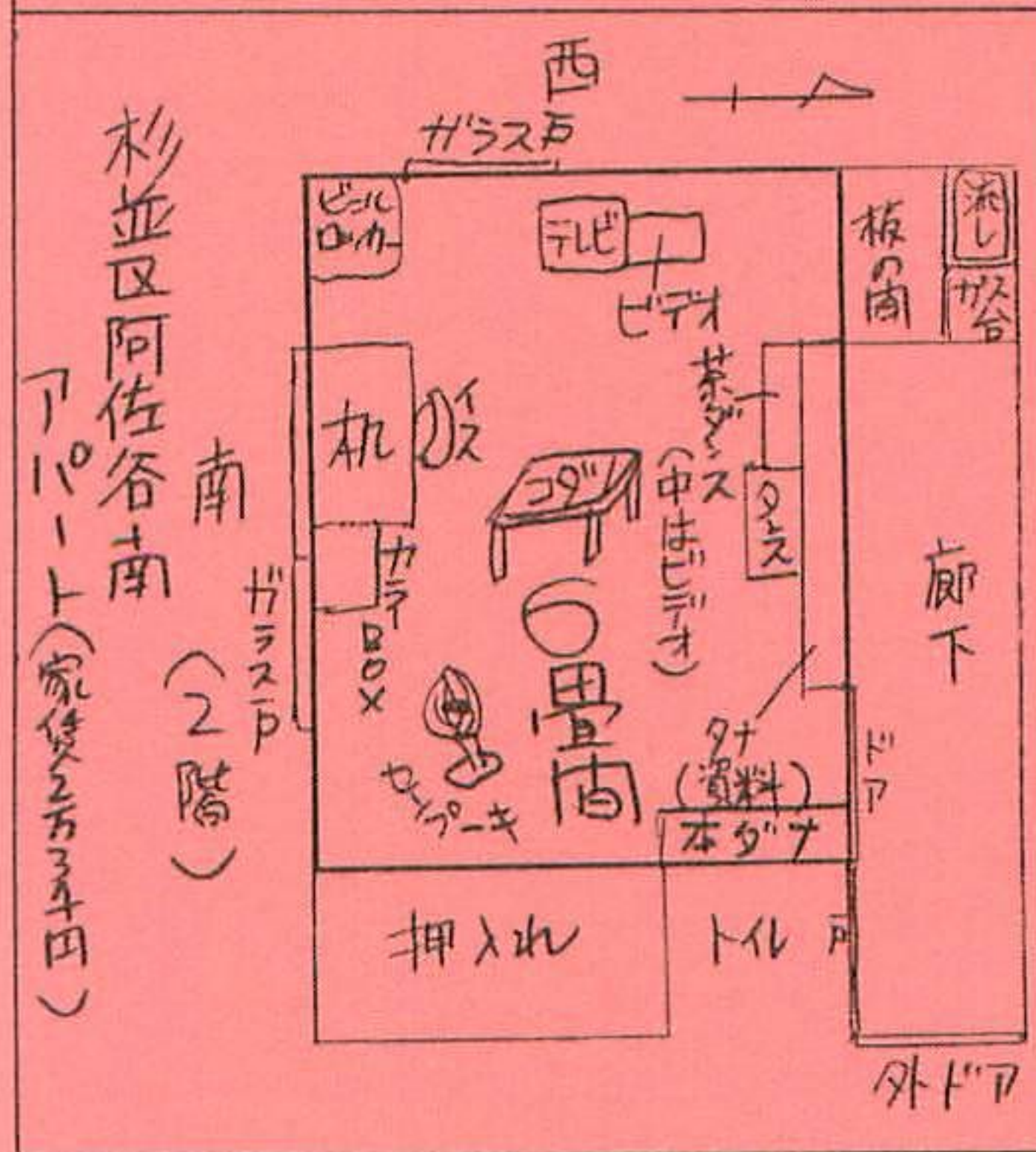
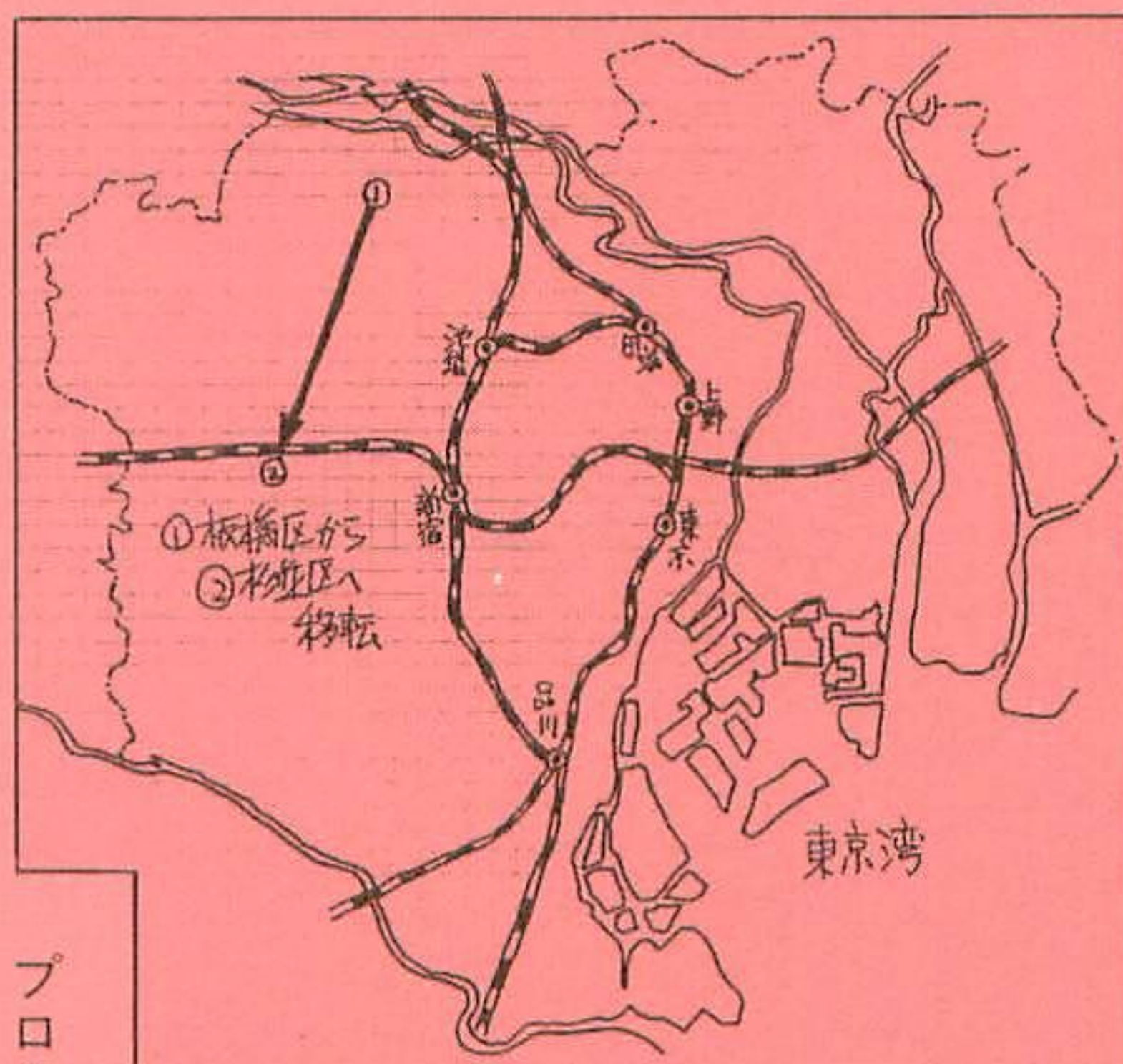
また、大学1〜3年くらいの頃はとにかくマイナー映画、アニメ、特撮、CGアートなどの上映会や、ライブに通いつめていた。田舎ものだったので『ぴあ』を片手に東京見物をしている感じだった。

ノーマン・マクラレンをはじめとしたNFB（カナダ国立映画庁）作品の上映会。カナダ大使館と交渉してフィルムを借りだし、それを手みやげに帰省した。

新入生のリレー連作（1ページを描いて次に渡す）の形で発表。コレを渡された人間は困っていたようだった。

時期	出来事
この頃	長期に渡って、少女と文通していた
81・7月	PAF7を見る
8・6〜8	浅草コミックコンベンションに参加
8・14〜15	第1回・特撮大会参加
11・7〜8	SF文化の日に参加
82・春〜夏	アメコミ『シルバーサーファー』のアニメ化に取りかかるが、挫折
8・14〜15	日本SF大会TOKONⅧに参加
82・10月	東京六大学漫研合同展「ウルトラ漫82」でオープニング・フィルムを発表。
11・6〜7	HAMANACON1に参加
83・4・4	東京都杉並区阿佐谷南へ引っ越し
83・4月〜	中野収ゼミに在籍し記号論を専攻、どうにも嫌われていたようだ

「サイボーグ009」を熱唱する宅

都内移転図

プロモビデオのような音楽ものの短編（46秒）8ミリフィルムを作ろうとした。8ミリでの合成システムの研究に夢中になる。しかし漫研部室内で映写機の盗難もあり、挫折。

「ウルトラ漫」は東京六大学漫研合同展示会。タイトルのストリーク・システムは設計自作した。『シルバーサーファー』の時に研究したシステムを実験使用（撮影機種はフジカZC－1000）。

始めの1年間は休講中の中野に変わって稲増龍夫の代講だった。この中野ゼミ時代の合宿（'84年春）でバンド『アカデミックス』を冗談で結成（リーダー+ヴォーカル=宅）。この後ゼミ生からも、気味悪がられる。

83・6・4　法政大学学生会館の中で内ゲバが発生、救急車で病院行き、緊急入院

8・20〜21　日本SF大会DAI-CONⅣに参加

83・夏　大阪のマンガ出版社チャンネルゼロに迷惑をかける

83・8月　大阪で、東京おとなクラブのエンドウユイチと知り合う

83・秋頃　東京で中森明夫と知り合う

83・10月　教育実習を出身高校から、断られる

10・9〜10　全国アニメ総会に参加

83〜84年　ビデオ撮影に夢中になっていた（最初の機種はソニーF1）

11・12〜13　HAMANACON2に参加

83・12・25　コミケット25（晴海）に参加

示談書

当事者　A 被害者　東京都杉並区阿佐谷南[illegible]
B 加害者　東京都新宿区市ヶ谷加賀町[illegible]
C 加害者　東京都中野区上高田[illegible]
D 加害者　東京都豊島区駒込[illegible]

事件発生日時　昭和58年6月4日 20時30分頃
事件発生場所　東京都千代田区富士見2-17-1　法政大学 学生会館 内
事件概要　上記日時 場所において B が A の頭部を殴打、さらに数分後 C、D が A の顔面 及び 胸部を殴打 負傷させたもの。

示談条件　1. B、C、D は A の治療費 慰謝料 その他一切の費用として ¥[illegible] を支払うものとする。なお、本件が原因で A に後遺症が発生したことを医師において認定したるときは、その費用を B、C、D が支払うものとする。
2. B、C、D は A の加入する法政大学漫画研究会より脱退し、BOX609 及び喫茶店[illegible]への出入[illegible]、今後 研究会 及び 会員への一切の接触をしないものとする。

以上の条件により 今後 本件に関し いかなる事情があっても 双方とも 異議の申立は勿論のこと、民事上 刑事上の責任追求は一切しないことを確約する。

昭和58年7月25日

A 被害者
B 加害者
C 加害者
D 加害者

「政治」「思想」はまったくカンケーないよ〜ん。少し前に副部長になった漫画研究会の内ゲバで、頭を強打し気絶して救急車にのせられた。「法政大学学館」に期待して捜査に入った警察は「漫研」ときいてガッカリ。全快するのに1ヵ月かかった。事件に宅は相当の怒りを感じたが、加害者の将来を考え示談には応じることにした。

SF大会のため大阪に行った宅は、そのまま知り合いだったチャンネルゼロの会社事務所に住みついてしまう。そこへ東京からやって来たエンドウと知り合った。その後、東京でエンドウと再会。中森明夫を紹介され、時々「おとなクラブ」へ出入りするようになるが執筆等はしていない。

教職単位を取り、すばらしい先生への道を目指していた宅の夢はかなわなかった。担当高校教師の手紙㊀を参照のこと。

本校職員は真剣に教員を目ざしている学生の教育実習のみを許可しております。今回のこの無礼な手紙には貴君の真剣な教師を目ざす姿勢が見られません。したがって貴君の教育実習はこのような姿勢・態度では引き受けられません。書類をすべて返送致します。本当に教師を志すならばしかるべき常識をもって来校して下さい　敬具

昭和五十八年十月六日

84・7月
『アクロス』（パルコ出版）7月号で街頭インタビューを受ける

84・10月
一応、就職活動するが失敗

85・2・23
東京都杉並区阿佐谷北に引っ越す

85・3月
卒業不可で留年

この頃
小泉今日子に夢中！

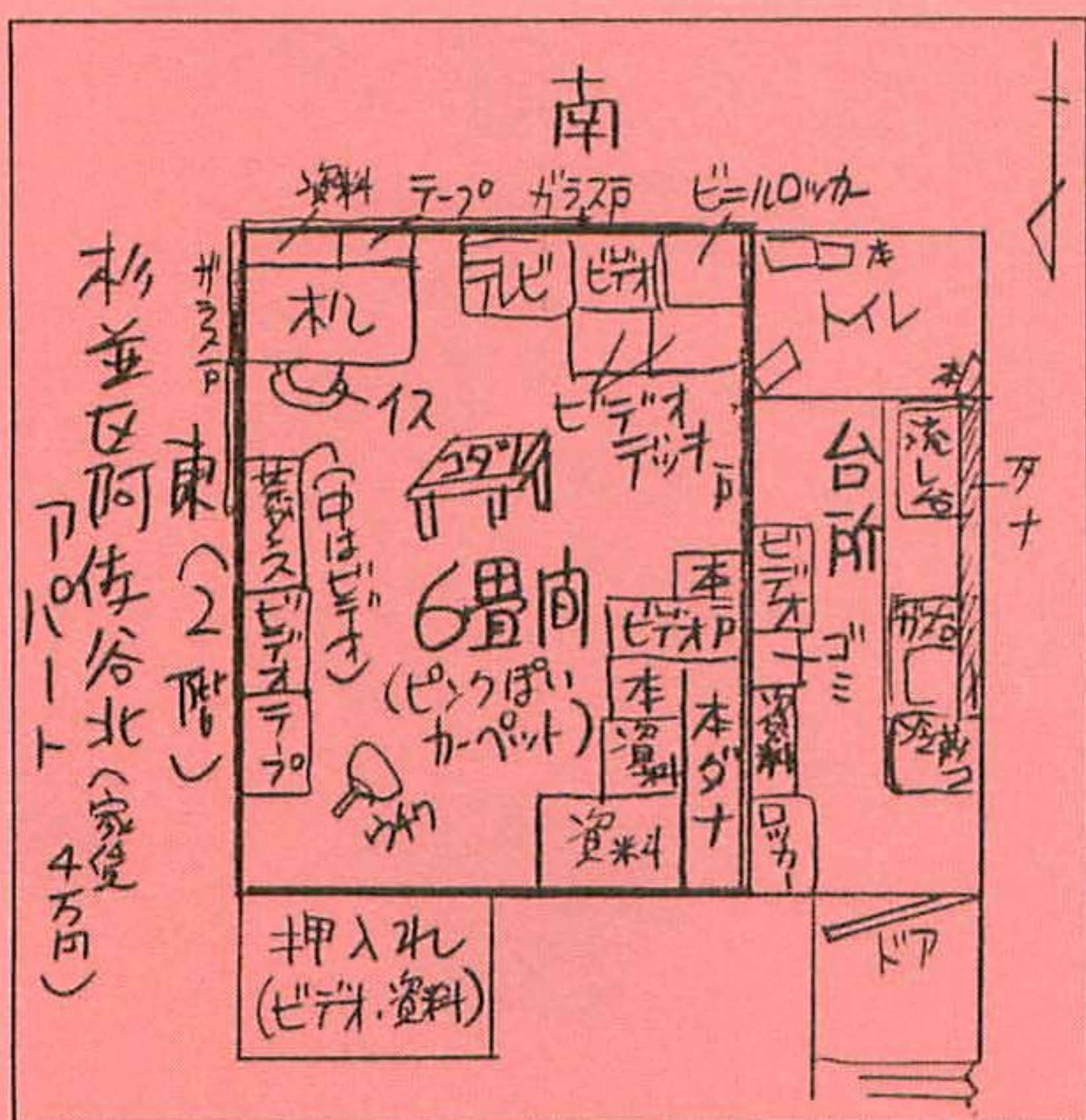
85・3・26
覚醒剤の原料・塩酸エフェドリン急性中毒で緊急入院！

四角い麦わら帽子

（6/6、渋谷パルコ・パート3前にて）
21歳／法政大学社会学部／阿佐ヶ谷在住

漫研に所属、ＳＦマニア。雑誌『東

『アクロス』記事

南
杉並区阿佐谷北 東（2階）アパート（家賃4万円）
机
イス
トイレ
台所
6畳間（ピンクっぽいカーペット）
押入れ（ビデオ・資料）
ドア

おたくからの逃避時期。

このインタビューの中で宅八郎は「アニメファンや怪獣マニアは困る。サファリジャケットやベルボトムのジーパンをはいてるヤツは困る」と語っている。

自分のおたく性に自己嫌悪し、おたくから逃げていた。

インタビューの時にかぶっていた帽子は四角い麦わら帽子だった。この頃からしばらく宅八郎は布の素材、デザイン、歴史などファッションについて研究していた。

レンタカーのトラックを借りて、独りで引っ越ししようとしたが、東京での運転も、トラックの運転も両方とも初めてだったので、大変なことになる。

血圧上昇、瞳孔散大、呼吸興奮、心臓興奮、不整脈で、死の恐怖を味わう。入院した薬物病棟は相部屋で楽しかった（同室は薬物患者ばかり）。なお、これは不法行為ではなかっ

85・3月末

第1回国際ビデオビエンナーレで、立花ハジメのライブに感動する

85・9・21

NHK『YOU』スタジオで観客として初めてTVに映る

85・10・1

就職解禁日、東京海上火災やTBSにバルタン星人姿で現れる

PUNCH LEAD-PUNC

夕刊フジ

"衣替え"10月スタート

一般職は不人気

スチュワーデスは昨年並み

会社訪問

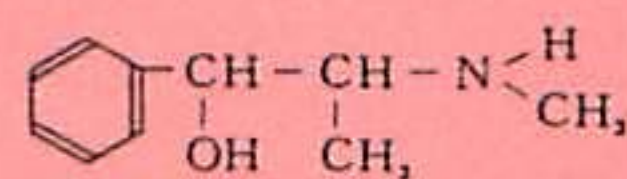
おしぼり、飲み…

【第三種郵便物認可】

(23)

目立たなきゃ

「企業は個性ある人物を求めている」というが、就職人気企業、東京・丸の内の東京海上火災保険に、グレーのスーツの上に、「バルタン星人」の衣装で身を固めた学生が姿を現した。法政大学の4年生というこのバルタン星人、午前8時過ぎに受付にやってきて、「会社訪問に来ました」。用紙をもらって控え室へ向かったが、前がよく見えないせいか、途中で転んでしまった。結局、どこかへ消えてしまったが、同社は「これも個性だが、やはり限度がある」と苦笑。(写真＝駒崎記者)

エフェドリン
ephedrine
Ⓓ Ephedrin
Ⓕ éphédrine

た。宅に前科はない。

リポーターに発言を求められ、宅は応じてもいる(会場の笑いをかった)。

また宮崎勤が『YOU』に出演したのは、これより約3年前、'82年の放送である。

この前代見聞の就職活動は『日経流通新聞』『夕刊フジ』『平凡パンチ』『ザ・テレビジョン』ほかで報じられた。

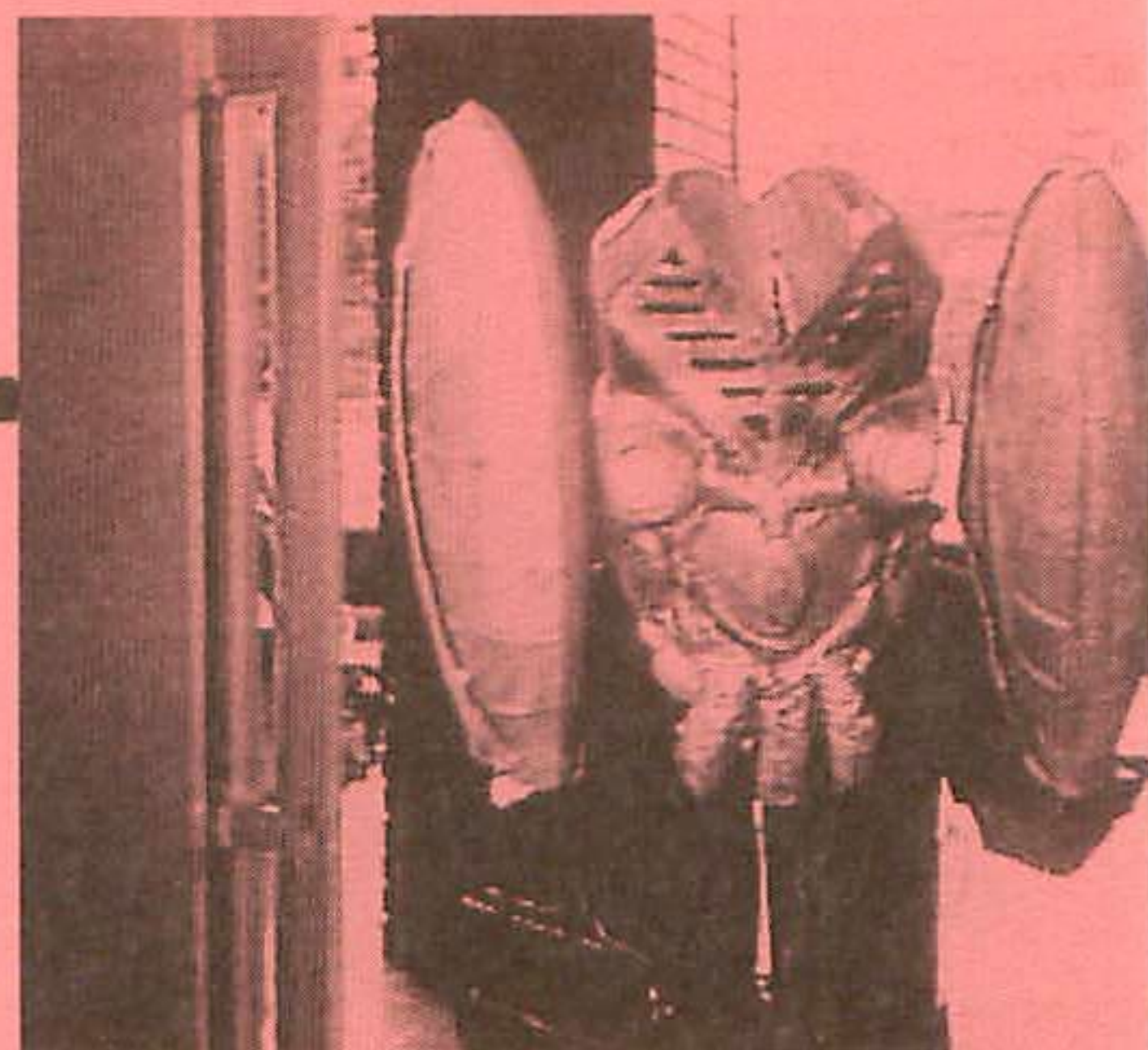
またTVでは当日フジテレビ『スーパータイム』で取り上げられ、当時のキャスター・幸田シャーミンを心配させた。

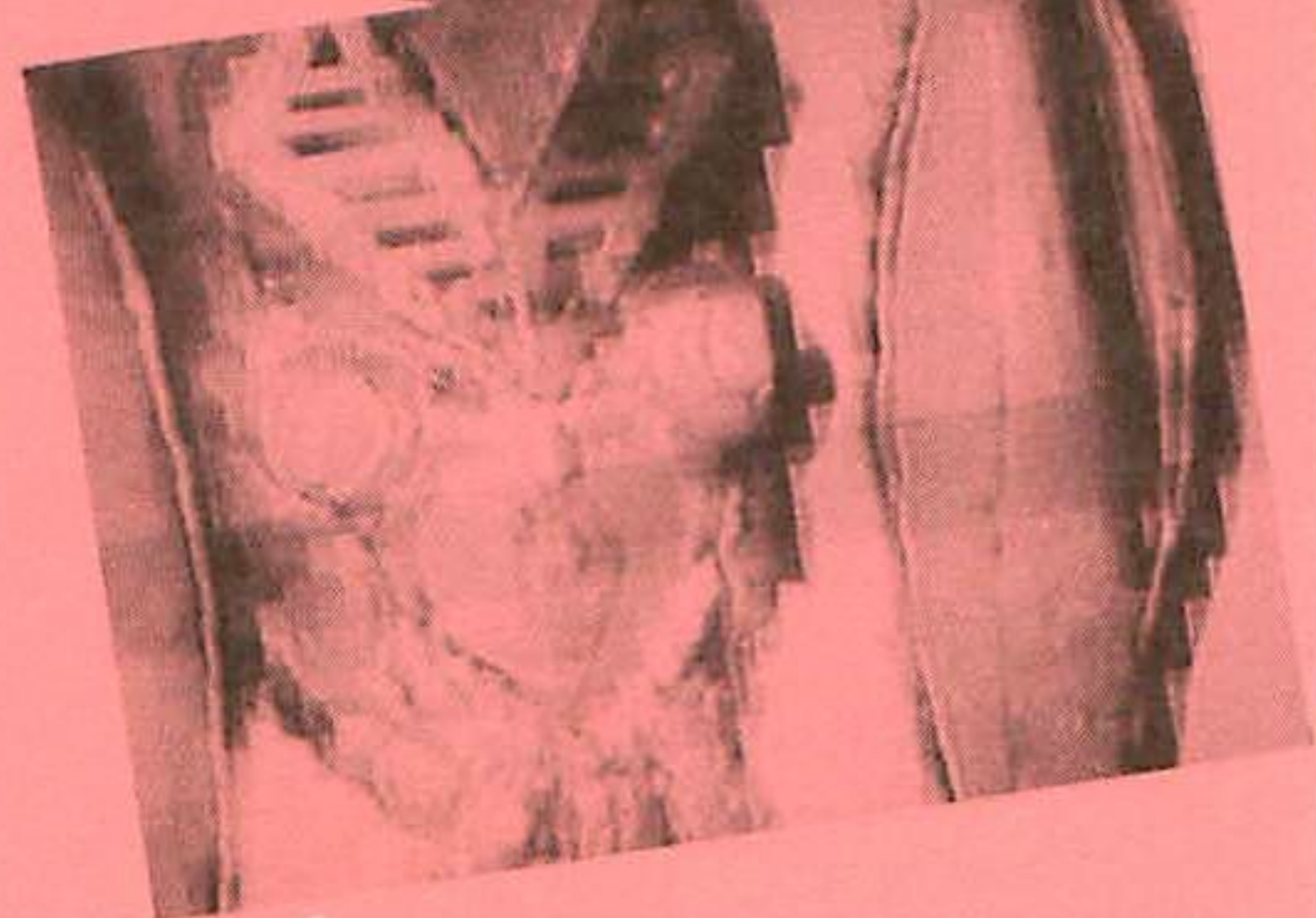
『日刊流通新聞』この記事に注目!

85・10月
就職用プロモーションビデオも製作
CMランドの求人募集に最終面接までいったが、不採用。同社の有名CMディレクター・

85・11月頃
李泰栄にもイヤがられる『活人』の編集を手伝う。秋山道男、後藤繁雄らと、知り合う

86・1・10
新・新人類として『ホットドッグ・プレス』に登場

86・3月
初めてライターとして『日

フジテレビ・データベースから発掘された、当時のビデオテープ。まさに東京海上に入るところ！

DVEを駆使したプロモ・ビデオ

また就職活動に当たっては、就職用プロモーションビデオも配布（右の4枚）。

東京海上火災に落ちた宅は、ならば映像関係へ、と考えてCM製作会社の採用試験をいくつか受けた。

プロモビデオを見た李泰栄は、不採用の理由を「君はノー・アイデアだ」と語った。

新人類三氏が冗談?で、立てた企画が実現。この他『スタジオボイス』にも登場。新・新人類の他の2人は、現在噂ライター石丸元章と『結婚しないかもしれない症候群』を編集した現編集者の菅付雅信。

元『漫画ブリッコ』編集者で、その時『アル

刊アルバイトニュース』にコラム執筆

86・3月　法政大学社会学部を卒業

そして社会へ……［23歳〜27歳］

86・4月　(株)東京コマーシャルフィルムに入社

86・5月　『鳩よ!』5月号に登場

86〜87年　谷本重美(小川範子)にハマる!

86・8月　TVCMにいきなり初出演した

2〜12月　『野性時代』野々村文宏氏の持っていたページにエッセイ?執筆

86・8・7　デビュー前の黒木香に会う

「ムシノン」CM

バイトニュース』の編集者だった緒方克宏の依頼で、CM評論のコラムを初執筆。

企画演出部に配属された。会社員時代は、毎日「絵コンテ」を描く日々。

しかし、宅八郎のアイディアは素晴らしすぎて(?)、採用されなかった。よほど会社や広告代理店の「目」がなかったのであろう。

白元の「ムシノン」というダニ防虫シート商品のCMに出演。

オーディションにタレントを多数呼んでいたがなかなか決まらず、宅のキャラクターがいいんじゃないか、と決定された。先見の明はあったと思う。

しかし約束に反して出演料は一切もらえなかった。

86・8・18 乗用車・日産サニーで大型トラックに突っ込んで、車を大破させ九死に一生を得る

86・10・20 東コマ社内で暴行事件が起きる(診断書参照のこと)

86・秋 川崎徹氏のCM製作会社マザースなどを中途受験するが、不採用になる

86・12・20 ㈱東京コマーシャルフィルムを退社

87・1月 どうしようかなと考えながらライターになる

87・2・21 自宅近くの路上で暴行傷害事件発生(殴られて救急車で入院)

87〜88年 宅八郎、思索と絶望、失意の日々を送る(茫然自失期)

診断書

一、病名 頭部 左肘 胸部 右膝 打撲 にて全治一週間を要するものと認める

右の通り診断します

昭和61年10月25日

前略

当社は、貴殿を就業規則第十章、十、の六条により本状送達の日より三十日後に解雇いたします。

右、規定により予告いたします。

尚、企画部担当役員、山本専務より貴殿に説明いたしました通り、昭和六十一年十二月二十日付退職願と同日までの病欠休暇願の届出を提出されれば、就業規則第三章、二の十四条にもとずき懲戒解雇の処分を依願退職として認めます。

昭和六十一年十二月二日

東京都港区南青山五丁目九番地十五号

東京コマーシャルフィルム株式会社

代表取締役 岡田一利

内容証明書用紙

失恋のショックが原因だった。この惨事については'91年8月7日号『ダカーポ』にエッセイを執筆した。

宅の勤務態度に逆上した上司が、社内会議室で暴行をふるう。全治1週間。

会社とモメにモメた末、退社。暴力沙汰まで起きた末の、クビである。ひどい会社だ。

この頃、まだ映像関係の仕事を希望していた宅はCM製作会社各社の中途採用を受験するがすべて受からなかった。

夜遅く道を歩いていて突然、前科のある酔っぱらいの男に、殴る蹴るの暴行を受ける。メガネは割れ、全身にケガを負った。駆けつけた警察官が男を警視庁杉並署に連行。宅はそのまま夜間救急病院に運ばれた。全治2週間のケガ。男は刑事罰を受けたが、民事上の解決はしていない。

本当の自分を見失っていた時期。

この2年間は、ほとんど地味なライター生活を宅は送っていた。

金は全然なかったが、読書をしたり、考え事をしたりの毎日だった。いろいろな研究を

89・1・1 奇妙な気持ちに駆られ、この年は初めて東京で正月を迎える

89・1・7 昭和天皇崩御

1〜3月 北公次に熱狂する

損害賠償請求通告書

昭和六十二年二月二十一日、阿佐谷北二丁目路上で私が貴方により加えられた暴行傷害について、事件後五ヶ月以上を経過するも、貴方に何らの誠意も見られないことは、きわめて遺憾です。
ついては、本状到達後卅日以内に、謝意を表明し、治療費、物損補償費、休業補償費、慰謝料、諸経費等として■■■を支払うよう通告いたします。(振込先・三井銀行阿佐谷支店普通口座■■■

していた(たとえば犯罪研究やファッション研究)。

'87年は浅田彰、泉麻人、今井美樹、上田三根子、高見恭子、中沢新一らに会っている。また木村和久には小学館で説教をくらった。

そして'88年春には竹熊健太郎に会う。初夏には足を大ケガしながら、中森明夫の『オシャレ泥棒』を手伝う。秋には石原豪人のお宅にもオジャマした。

この間のトラブルとしては、㈱東レがPR誌などのギャランティを支払ってくれなかったこと、などがある。バカヤロー!

'88年の終わり頃から、仕事的にも精神的にもすぐれなかった宅八郎は'89年を東京で迎える。除夜の鐘は、終夜動いていたJR線の中で聴いたように思う。一晩中ブラブラと都内をふらついていた。そしてその6日後、「日本のおじいさん」が死んだ。

'88年秋に出版された『光ゲンジへ』に感動。1月25日渋谷エッグマンに姿を見せた公ちゃんは〈人生のパンクス〉そのものだった。

3月4日芝浦インクスティックではサインももらった。

89・春頃
ノイローゼになり、体重は30kg台まで落ちる

89・初夏頃
ノイローゼが高じて、一度田舎に帰る

7〜9月
田舎でクルマに乗って、海やプールに毎日お出かけ、水着のビデオ撮影に夢中になっていた

宮崎事件が起きた そして上京、SPA!編集部へ［27歳］

89・8・10
宮崎勤の自供どおりに、少女の頭部が発見され、報道戦が開始された。宅八郎は大ショックを受ける

8〜9月
宮崎報道を注意深

最初の１週間ほどは眠らなかった。また１カ月ほど、何も食べていなかった。不安と絶望、恐怖の毎日。苦しかった。気がつくと金もなかったし、このままではいけないと思った宅にはとにかく実家に帰ることにした。

少しずつ元気が出てきて、体重も回復しつつあった夏。車は白のトヨタカリーナ。一日の走行距離はかなりのものだった。海へ、プールへ、宅八郎は「水」を求めていた。日焼けした男になった。健康的というよりは、内臓でも悪くしたのか、という感じの黒さ。

宮崎報道が加熱した夏、宅八郎と宮崎勤は2日違いで、共に27歳をむかえた。あまりにも強い衝撃だった。彼との共通点は多かった。いったいどのジャンルのおたくなのか、わからない無節操ぶり。強引とも思える行動。対人関係のまずさ。犯罪傾向……。宅は浜松で新聞、雑誌、TV、すべての報道を追っていた。おたくであることを隠し「宮崎は僕らとは違う」といった、おたく内部での動きも気

9月中頃　く研究、メディアのしくみを考える

引っ込んでいた田舎から、東京の『SPA!』編集部に電話する

9月末頃　「何でもしますから、仕事させて下さい」

翌週、上京。社会復帰をかけ、『SPA!』でライターになる

10〜11月　「君は'80年代に何を見たか?」総決算大特集を、徹底的な調査に基づいて検証し、手がける(12月13日号SPA!)

11〜12月　「'90年代をリードする90人」。新時代に活躍しそうな人々を人選してインタビューをこなす(90年1月3・10合併号SPA!)

89・11・28　中森明夫に大塚英志を紹介される

89・12・6　読者欄スパボイス内で、ミニコラムが始まる

宅八郎、ついにデビュー!【27歳〜28歳】

90・2・28　週刊SPA!「おたくが世紀末日本を動かす」特集号(3月7日号)で、おたく評論家として鮮烈的にデビュー

になった。

仕事をしよう、と決心する。現在の宅八郎があるのは、恩人ミヤザキのおかげなのかもしれない。

『SPA!』での最初の仕事は、読者からの手紙のリライトだった。0からのやり直しである。何の期待もされてなかった。

編集者との折り合いも悪く、苦労して2〜3週間ほどたった頃、たまたま企画を出してもよいことになる。

そして「'80年代特集」「'90年をリードする90人」の2大特集はほぼ完売を記録し、宅は認められることになる。

何とかミニコラムもスタート。年が開けたら、好きな特集を1本まかされることになる。

宅八郎にとって、それは「おたく」大特集以外に考えられなかった。

'90年1月、2月はほとんど徹夜状態で「おたく特集」16ページを独りで執筆構成した。

何年か前の、あの日。就職活動で会社に入

90・2・28
発売当日、文化放送『街角探検隊』で同誌面が取り上げられた

90・3月
『電通PR』に「おたく現象」というエッセイ執筆。電通オタク研究プロジェクトに参加

90・4・12
新聞広告にコメント執筆『ウルトラQザ・ムービー』（松竹）

90・4・6
工事現場で数名の土木作業員にケンカを売るが、袋叩きにあい、救急車で病院行き（診断書参照）

そして「イカす！おたく天国」連載開始

90・4・18
『週刊SPA！』で新生「イカす！おたく天国」連載開始

90・4・25
日本テレビ『EXテレビ』に電話出演

90・4・30
テレ朝『プレ・ステージ』おたく特集に出演。司会の小島一慶と激突！

緊急大特集
ひそかな巨大ネットワーク&パワー
世紀末
「おたく」が日本を動か

れなかったバルタン星人が今ようやく、どこかで会社員になった。そしてバリバリ働いている。そんなイメージで宅は「おたく大特集」のオープニング写真をディレクションした。

診断書

病名 頭部顔面胸部腹部 両上肢 右膝打撲傷
右の者頭書の疾病に依り
右の通り診断します
平成2年4月6日

衝撃的デビュー作「おたく大特集」は多くの反響を呼んだ。「おたく」をめぐって時代が動きだす（『プレステージ』はこの企画そのままのパクリだったし、明らかにこの特集を参考にしたと思われる他誌の記事、番組が続出）。また「おたく天国」はミニコラムからカラーページに昇格、ついに新連載となった。

詳細はI−3ページ参照のこと

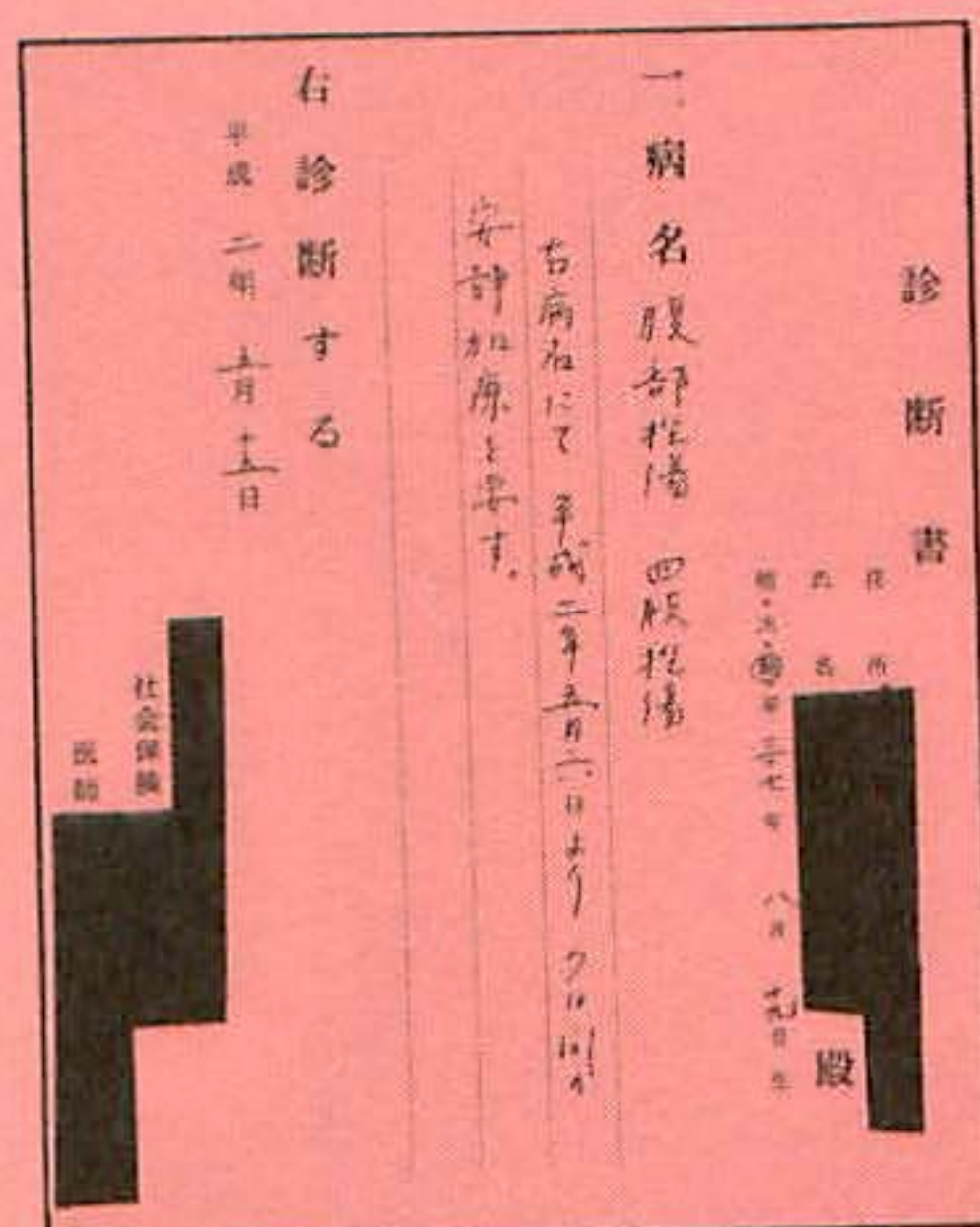
90・5・5
道を歩いていて、「ガンつけた」と殴られる。救急車で入院

90・6月
『TVぴあ』(No.66)でマンガ家・根本敬が宅八郎を論評

90・7月
『FLASH』にマンガ・ラストシーン記事構成執筆

90・7・18
日本テレビ『EXテレビ』に出演、戸塚宏と対談

90・8・1
『POPEYE』で「宅八郎大図解」が掲載される

90・8・18
国際政治学者・舛添要一をコミックマーケット38に案内

ガンをつけた、と酔っぱらいにからまれる。目つきが悪いのは仕方がないじゃないか。警察官が通りかかってよかった。病院での精密検査の結果、ある事実が発見される。

初めて(?)宅について記述された記事(だと思う)。根本は「おたくも性的な魅力を身につけなくてはいけないと思う」と記述。

戸塚宏にサインをもらう。対決、の図式ではあったが、宅は戸塚のファンなのだ。

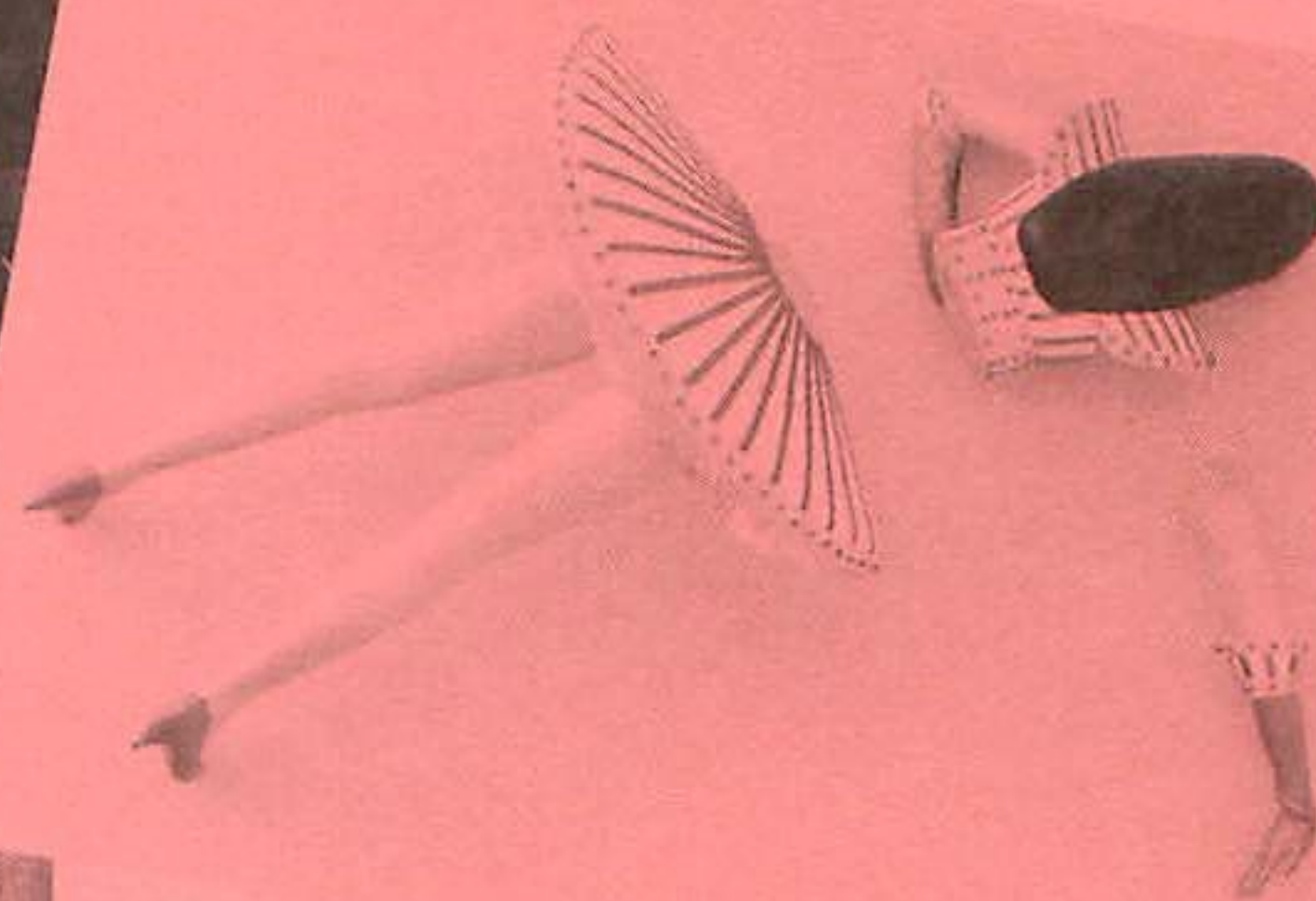
『EXテレビ』と『SPA!』ニュース記事(9月5日号)の取材を合わせて、久しぶりにコミケットに行く。幕張メッセは初めてだった。その規模とモノスゴイ動員数に、舛添はアゼンとしていた。

90・8・22 日本テレビ『EXテレビ』に出演、戸塚宏と再対談

90・8・22 同生放送内で大切なモリタカ人形が壊れる!

90・8・24 『宝島』でSF翻訳家・大森望が宅八郎を論評

90・8・26 アミケットへ行った

90・8・31 ディスコ「TYO」で田中康夫と会う

本当にヒヤッとした。「うわっ、しまった!」と思った。この日のビデオを中森明夫は後に「スローモーションで何度も見たけど、確かに自然に倒れて壊れてたよ」と宅に語った。

その後、宅は人形を修復、モリタカは無事に元気な姿を取り戻した。

7月18日第一弾『EX』についての記述。〝全国百万人おたく人口の希望の星、宅八郎はテレビでおたく像をコス・プレする。……「戸塚先生、エクボがかわいいですね」の先制パンチで開幕した宅さん戸塚さん対談は、宅さんのドーパミン攻撃が炸裂。「先生、ヨットでラリってるわけですよね。松田ケイジも真っ青ですね」「ドーパミン出すんなら戸塚サーフィン・スクールでもいいじゃないですか」と、脳内快楽物質フィールドにひきずりこみ、おたくの理論武装ぶりを見せつける。がんばれ宅さん〟とエールを送っている。

ミスコンテストを見るためにTYOに行った。黒服の入店チェックをくぐり抜けると、店内はボディコン、水着美女だらけ。ミスコンの審査員・田中康夫にVIPルームに呼ばれ、SMやSEXの話をいろいろとした。田中も人造モリタカを絶賛した!

90・9月　『群像』9月号で大塚英志が「宅八郎的擬態」を執筆

90・9・10　「けっこう仮面」事件発生!・対プレイボーイ抗争の始まり(196ページ参照)

90・9・13　『GORO』No.18オタク特集にインタビューが掲載される

90・9・18　TBS『3時に会いましょう』にビデオ出演

90・10月　『ロリタッチ』で中山天子が宅八郎を論評

タクじゃないと
ない時代ですよ。
情報がこれだけ
いうのに、
放置して
これから
で問題が
少なくと
収集能力
とこれか
なくなっ
すね。
のことを
ータ的な
ますます
わけですよ。
えば、これ
ンピュー
向をつくる
がオタク

MERIT of OTAKU

宅八郎
これからの社会はオタク的能力がないと生き残れない

昭和37年生まれ。オタク評論家。週刊スパ!で「イカす!おたく天国」を連載中の筋金入りのオタク

という気がします。
オタクはもうすでに社会を動
ています。たとえば、任天堂の
にオタクを事業の対象にしてい
社すらあるわけですから。ソフ
エアでもハードウエアでも、コ
コンを扱っている会社は、オタ
動向により売り上げが動いてい
実もあるんです。広告代理店の
も、オタクの研究室というかた
オタクなるものの研究をつづけ
るわけですからね。
　よくいわれるオタクとマニア
いについてですが、アイドルを
とれば、マニアはコンサートへ
たり、オッカケをやったりし行
示しますが、オタクはコンサー
行くというよりも、自分の部屋
イドルの曲について分析したり
タを集めたりすることで、アイ

引用――〝おたく評論家・宅八郎というわけのわからない男がいる。特撮からアニメ、現代思想まで〈おたく情報〉には異常に詳しい男である。問題はその容姿で……したがって、宅八郎の場合は〈おたく〉が〈おたく〉を擬態しているのであり……〟。

『GORO』の引用――宅は「いまは、おたくじゃないと生き残れない時代ですよ。……おたくはもうすでに社会を動かしています。……生まれながらにしておたくといった文化構造がこれからの日本を支配していく可能性すらあると思いますね……」と語っている。

中山の引用――〝希望といえば、おたく評論家の宅八郎(というより実践家)がテレビに出て何時間かぶっ通しで喋ってくれたらトリップできていいんじゃないかと思う。……それにしても、宅八郎を創作している人間が一体、誰なのか?ブレーンは何人位いるのか?といったコトも興味深い。だって彼本人はおたくではありえないというのが、ほぼ定説だし、取り扱うおたくジャンルの広さと深さはナミじゃない……宅八郎は〈おたく〉を変な目で見つめている人達におたくで復讐する、とU氏に言ったそうなのだ……〟。

90・10月　CATV局スペースシャワー「ゲバゲバゲリラ」で、いとうせいこうと対談

90・10・3　週刊SPA!に、雑誌メディアに関するコメント発表

90・10・8　東芝EMIで「'90年代のマーケティング」というインタビューを受ける

90・10・10　『HOTDOG PRESS』で萩原健太のインタビューを受ける

90・10・16　テレビ朝日『プレ・ステージ』に出演

90・10・20　『コスモポリタン』でインタビューを受ける(SEXについて)

90・10・22　『ビッグコミックスピリッツ』「平成

同局のいとうせいこうの番組にゲストとして出演。

スイセンするメディアは同人誌。書店で買えるものなら『噂の真相』『創』『本の雑誌』の3誌は同人誌なみにイイ雑誌、と発言。

見出し「オタクなくして'90年代の文化は語れない。世界をつなぐオタクの輪！」。

また、巨人になった宅がコミケに出現する、しりあがり寿のマンガも掲載された。

KENTA'S CELEBRITIES' ROOM
素敵なあなた
第36回　萩原健太
宅八郎(オタク評論家)
オタクなくして'90年代の文化は語れない。世界をつなぐオタクの輪！

見出し「生身の女性を相手にするよりも、想像のセックスを選ぶおたくたち」。

御宅八郎はダサクて、暗い旧来のオタク。平成時代の望まれるオタク像ではない、という主旨だった。

ノ歩キ方」で御宅八郎なる人物が登場。

御宅八郎

90・10・31

木村和久事件が起きる！

90・10・25

大阪講演・朝日放送『ビッグ2ショット』で西川のりおと公開録音対談

全体に宅への悪意がみなぎる、この記事は木村事件につながった。

別に宅は批判されることは慣れている。こうした記事は大歓迎である。掲載したスピリッツは立派だ。

ところが「くだらないな」と思いながらも、イヤミの一つでもと、週刊ＯＴＡ！（おた天内コラム）に記述したところ、ＳＰＡ！編集部の判断とやらで宅に何の断りもなく、相談さえなく、無断削除されてしまったのだ。

無断削除箇所は以下のとおり。

《●『スピリッツ』10月22日号「平成ノ歩キ方」で木村和久がボクを、御宅八郎なる人物として〝論理の統一性に欠ける〟と御紹介なさっています。●出版業界では「小学館のコメツキバッタ」として有名な御木村和久様にそう言われる筋はありませんわ。●ボクはトレンドねずみ男・御木村様よりは論理の統一性はあると思うよ》

無断削除の結果、おた天には空白スペースができてしまった。

宅は学生時代にアルバイトで西川の本の編集を手伝ったことがある、と言うと彼は喜んでくれた。西川はとても几帳面な人、という

90・11月
同日、『ラジオパラダイス』にも出演
『GOODS PRESS』11月号にインタビュー掲載
『ドリブ』11月号で書評を執筆（表紙は花島優子）

90・11・1
中京TV『ラジオDEごめん』にダンカン、ラッシャー板前と出演

90・11・2
早稲田大学学園祭で講演「学生との対話」、おたく総決起集会

90・11・4
中京大学学園祭で公開討論会に出席
〈メンバー・塩田丸男、高信太郎、西川りゅうじん、青木クリス〉

90・11・20
『日経流通新聞』「発・流行人(しかけにん)欄」でインタビューが掲載される

印象だった。

「常人の理解を超越したおたくの物欲」という見出し。スパイス（香辛料）おたくの一面も、宅はのぞかせている。

『〈OH〉の肖像』『魔太郎がくる!』『光GENJIへ』の3冊を〈暗黒ポップ〉な本として、書評。

学園祭の講演は初めて（主催サークルS・E・C）。会場で『月刊PLAYBOY』数冊をカッターでズタズタに切り裂いて捨てた。

テーマは「'90年代どんな生き方をするヤツがエライか?」」。
おたく人生の素晴らしさを会場にアピール。宅は大拍手で学生たちにウケに受けた。終了後、塩田は「宅君は理解不能だ」高は「せっかく昨日からギャグを考えてきたのにオレはウケなかった」と不快感を表明（笑い）。両氏は打ち上げでも、ダジャレを言い合っていて、まいった（笑い）。

見出し「異端装い時代の流れを鋭く読む——おたく族のマーケティング論を展開」

90・11・28

永井豪、小野耕生らと歓談

90・12月

『熱烈投稿』12月号で北野誠が宅について発言

『03』12月号で大槻ケンヂが宅八郎について発言

パリ映画に招待された『バンカーパレスホテル』の試写会にて。

北野誠発言の引用——「宅八郎、読んでたら出てきて俺と喧嘩してみい!! 僕なんか、オタクというのはこれからオシャレにならんとあかんと思いますね。……宅八郎、あいつはキチガイですね、俺から言わせると。あんなのオタクにも絶対受け入れられませんよ。かっこいいオタクになるべきやと思うんですよ。……あんな奴にオタクの代表と言われるのは困る。宅八郎は死んでほしい！ 宅八郎には喧嘩を売りたい……」

（このインタビューは青心社刊『風の中の男たち』鈴木義明著に増強収録された）。

大槻ケンジ発言の引用——「ほら、宅八郎とかいるじゃないですか。あと宮崎勤とか。ああいうのを見るとね、偉いなーと思うんですよ。ぼくはオタクになれなかったんです。……オタクにすらなれない。……ぼくはいい意味で、窓口になってるんですよね。たとえば宮崎とか宅八郎みたいに深くどっぷり浸かれないっていう人がオタク的な気分を味わうための……」

『ロリタッチ』12月号で中山天子が宅を論評

90・12・14 池袋パルコで講演(特別ゲスト・プロレスラー獣神サンダーライガー)

90・12・20 『GORO』「情報の達人特集」にコメント

90・12・21 集英社『少年ジャンプ』パーティーに出席

90・12・25 中京テレビ・ドラマ『クリスマスにさよならを……』に出演

90・12・26 日本テレビ『EXテレビ』年末特集に出演(楽屋でコミネ事件発生)

90・12・28 中京テレビ年末特別番組『爆満スペシャル』放送

'91年度の怪進撃!［28歳］

91・1月 『ミス家庭画報』でコラム「アイドル細腕繁盛記」連載開始
『GORO』で人生相談「宅八郎の人生改造計

中山の引用――〝(コミケに)宅八郎御一行様もやって来たらしく、みんなは『見た見た』って言ってるのになぜかワタシは見れなくて残念。……ナマを見たかった。

池袋出張版「おたく天国」。ライガー氏は特撮おたくとしても名高い人。怪獣のこと、またおたくといじめ問題についても話し合う。

11月4日、中京大学で催された公開討論会を放送。

宅八郎の人気爆発(?)で、新連載2本が発進。また、新年そうそうに写真週刊誌をかざるという、好調なスタートをきって'91年は始まった(『FRIDAY』へ宅とともに登場し

画」連載開始

91・1・8　『FRIDAY』「91年のホープ特集」に登場

91・1・20　宅八郎、何と戸塚ヨットスクールに体験入学！

91・1・23　『EXテレビ』で週刊プレイボーイ破り捨て事件が起きる

91・1・24　『宝島』「有名になりたい！」特集でインタビュー

91・1・26　日本テレビ『鶴ちゃんのプッツン5』にビデオ出演

91・2・8　『ヤングサンデー』3号「Eye・麻衣・Me」(大島岳詩作)で宅八郎をモデルにした多苦たくろうが登場

91・2月　『投稿写真』にコメント発表「芳賀ゆいについて」

たのは鈴木京香、フリッパーズギター、久宝留理子、川本ゆかり、辰吉丈一郎、水尾嘉孝、荻野アンナ、江原由美子、岡崎宏美)。

『EXテレビ』のロケで、はるばる愛知県の戸塚ヨットスクールへ行った。

ウィンド・サーフィンの特訓を受けるが、宅は初心者にもかかわらず一時間足らずで、走ることができた。戸塚は驚嘆して「メチャメチャうまいねえ」と発言。なかなか楽しかった。

『宝島』の見出し「これからおたくの逆襲が始まる」。宅は「有名になって友達ができました……よく企業が個性的な人材を求めてます、とか言ってましたけど、本当に個性的な人って排除されてたと思うんですよ。ところが、ここにきてそのしっぺ返しが来てる……」と発言している。

「ボクは〈実在しないアイドル〉芳賀ゆいの本物の洋服を持っている。しかもニオイつき！」という内容。

91・2・14　『週刊実話』で、宅VSプレイボーイ戦争が報道された

91・2・17

91・2・17　『サンデー毎日』で、宅VSプレイボーイ戦争が報道された

91・2・21　アイドル・パンプキンの2人と、夜おそくまで遊ぶ

91・3月　『クロコダイル』3月号で宍戸留美の巻頭グラビアを企画構成

91・3・4　テレビ朝日『どーする!!TVタックル』にビデオ出演

91・3・5　文化放送『夜マゲドンの奇跡』出演、松尾キッチュ貴史と対談

91・3・9　荒木飛呂彦の、お宅におジャマ、手料理をごちそうになる

91・3・14　『GORO』「SAWARANA族症候群」という記事に登場

文・宅八郎

見出し「ワイド特集・騒動のてんまつ——おまえ一人つぶすのなんか簡単だ、評論家を脅した週刊プレイボーイ編集者のスゴ味」

見出し「宅八郎VS週刊プレイボーイおたくで喧嘩」

おたく逆襲元年を宣言。六本木ギャルとの対決もあった。たけしは宅に肯定的態度。

スタジオに到着してビックリ。週プレが山積みになったいた。せっかく用意してくれたので、宅はマイクの前で週プレを破り捨てた。

番組では月プレ宮崎事件から週プレ小峯事件までを報告。松尾キッチュは何年か前にコミネに約束をスッポカされたことがある、と告白。コミネはなんて失礼な男なんだ、と盛り上がった。

「こんなにいたのかアブナイ男たち——あるSAWARANA族の告白」という記事。関谷神経クリニックの院長・関谷透は「この男性には、本人ばかりではなく、両親を含

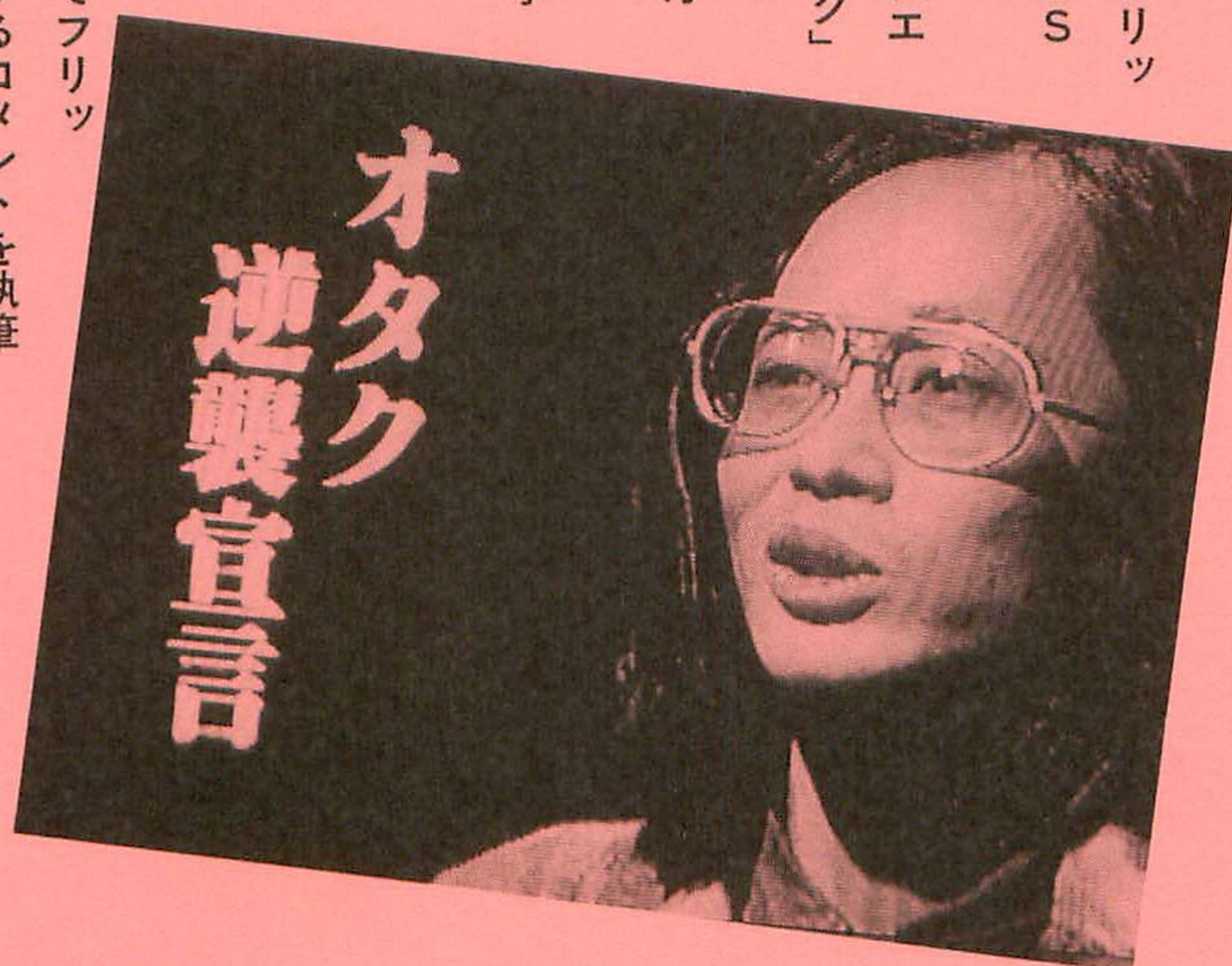
91・3・某日　『GORO』連載打ち切り事件が起きる

91・3・16　フジテレビ『北野ファンクラブ』で宅が取り上げられた

91・3・20　『POPEYE』でフリッパーズギターが宅VS小峯について記述

91・4月　『小説現代』4月号にエッセイ「私のぜいタク」執筆
『デラべっぴん』4月号で『EXテレビ』週刊PB破り捨て事件を報道

91・4・4　『パチパチ』4月号でフリッパーズギターに関するコメントを執筆
SPA！渡辺編集長から、おた天連載の打ち切りを宣告される！

オタク逆襲宣言

めてカウンセリングする必要があります。時間をかけて人生観を変えねばなりません」と宅を診断している。

1月23日に起きた「EXテレビ・PB破り捨て事件」について。無礼なコミネが大嫌い、というフリッパーズギターの2人が〝あの小峯って奴、気持ち悪いぞ〟〝あいつ、本当ヤダ〟とガンガン記述してくれた。

『デラべっぴん』の引用――〝……(宅が)週刊プレイボーイを破り捨てたのであった。小峯はしきりに何とか反論しようとしたが、逆に宅八郎に「あとで会社に帰って上司に怒られるのがコワイんでしょ?!」などと言い返されるていたらく。いやあアッパレアッパレ。天下の大集英社の一社員を向こうに回しての立ち回りは完全に宅八郎に軍配が上がったのでした。やっぱりどんな会社にいても看板を傷つけるようなことになるなら、最初からしょわないことネ〟

最新シングル『グルーブ・チューブ』を聴いて、「フリッパーズおたく論」を展開した。

91・4・6
『ビートたけしのお笑いウルトラクイズ』放送

91・4・9
『宝島』4月24日号、小林よしのりのマンガ『おこっちゃまくん』発売

91・4・12
『朝日ジャーナル』に宅の小峯攻撃を応援する小記事が掲載された

91・4・17
オバタカズユキを殺す！

91・4・18
『週刊ヤングジャンプ』NO・17プロ野球特集にコメント

92・4・18
『週刊文春』4月25日号「デーブ・スペクターのTOKYO裁判」発売

91・4・18
同日。宅八郎と名乗るニセモノの男がデーブ・スペクターの奥

ビートたけしは宅の連載を読んでいた。「宅さん怒らすと、おた天に書かれちゃうからな」。初対面で彼に「プレイボーイ糾弾キャンペーン」のことを言われて面食らう。3月2、3日の熱海ロケ移動中のバスの中で色々な話をした。

その後、3月21日のスタジオ収録でも、しつこくたけしが「プレイボーイ事件」について突っ込んできたのは、おかしかった。

「そういえば、この人も写真週刊誌編集部に殴り込んで、後戻りできなくなった人だったな」と宅は思った。

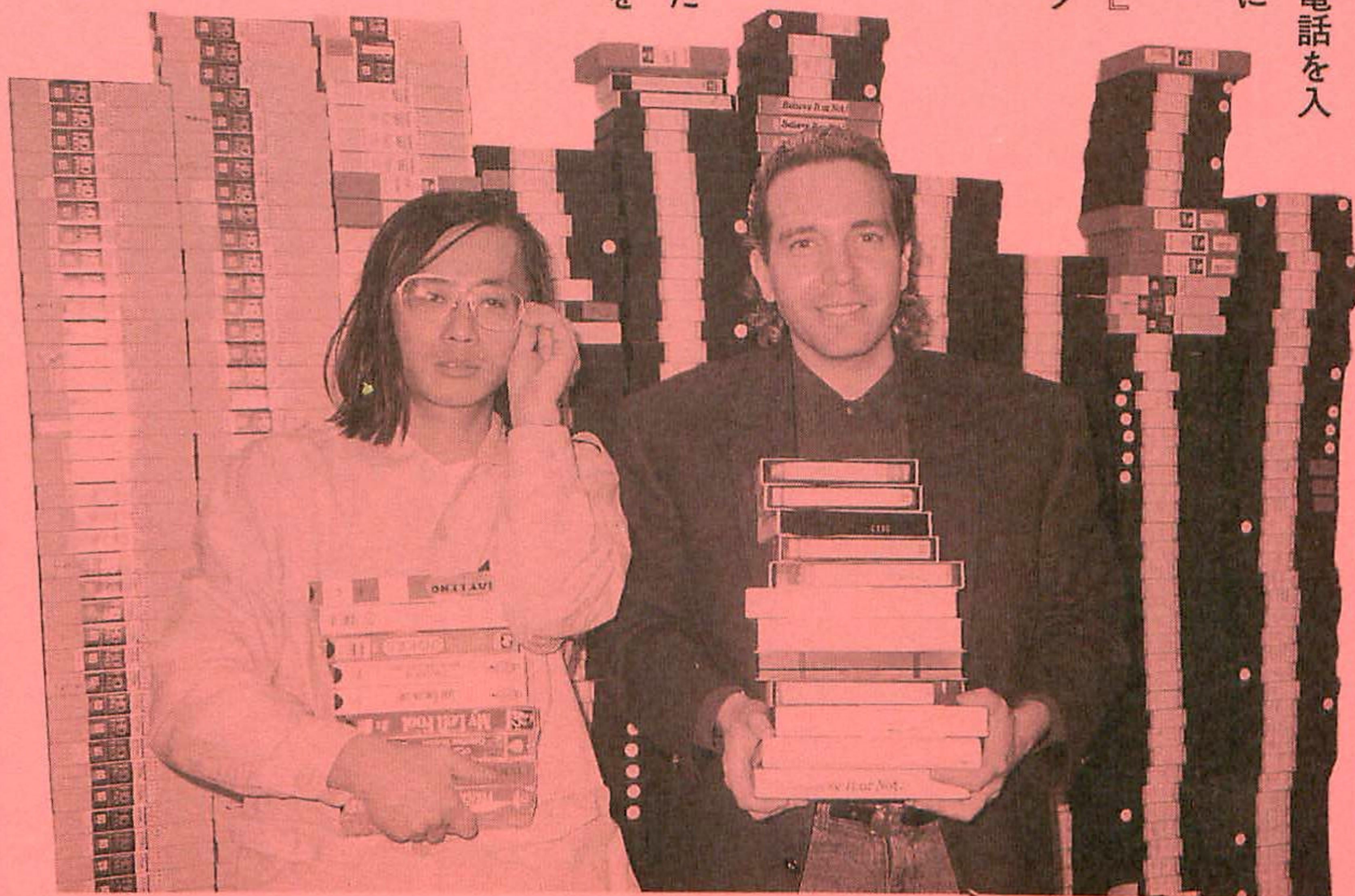
またスタジオ収録の帰りに、共演した戸塚宏が「宅君、メシ食って行こうや」と誘われ、いっしょにカレーを食べた。

デーブ・スペクターは「宅さんの復讐執筆活動はアメリカじゃ当たり前。沈黙してるコミネが、より陰湿だ。昔、僕も週プレで仕事したことあるけど、態度がひどかったんでやめた。コミネを知っているが本当に宅さんの書いたとおりの男だ」と語った。

91・4・22

さんへ抗議の電話を入れ、トラブルに発展しかける。『日刊ゲンダイ』日曜版でインタビュー掲載

91・4・24

『週刊テーミス』でビートたけしが宅八郎を論評

この日、文春編集部から電話があり「デーブの奥さんに抗議の電話を入れましたか?」と聞かれる。デーブの対談判決は〝宅さんのコラムはよくできていて、オリジナリティがあり、文章がシャレている。連載物として百点満点あげたい〟というものだった。デーブに不満のありようもない。何とか誤解をといてもらったが、不思議な事件だった。それにしても、この判決を読んだ時、連載物として百点満点、というくだりは皮肉だなと感じた。連載打ち切りの宣告を受けた後だったからだ。

引用――「……(宅八郎の説明をした後で、お笑いウルトラクイズの話)誰も近づきたがらなかったな、宅さんには。で、番組のオープニングの砂浜のシーンで、……すると、宅さん、……途端に自分の足がからんで顔面から砂に倒れ込んじゃってんの。……顔も眼鏡も砂だらけ。あれには笑ったな。大笑いだった。宅さんは宅さんで、話を始めると猛烈な知識量を機関銃のように言う人で、アニメとか怪獣については学者みたいなもんだ。でもさ、……教養もクソも吹っ飛んでしまうんだよ、結局のところは。スタジオ撮りの時に、よせばいいのに宅さんが加賀まりこさんにちょっかいを出したんだ、……そしたら加賀さ

91・5月

ビデオ情報誌『ワンダープレス』にPB抗争関連のインタビューが掲載

91・5・1

『クロスビート』5月号でも松沢が宅を取り上げていた

最後のおたく天国発売（5／1・12号）

91・5・1

大阪電通「キンチョー」60秒CM撮影のため、大阪へ行く

「キンチョー」CM

『C.ジャック』

ん、手を振って『シーッ、これ以上近寄るんじゃない』だって。それでもメゲない宅さんにオタクの意地を見た」

「今後は小峯氏に対して、もっとのどかないやがらせをやろうと思っています。陰湿な相手にはもっと陰湿なやり方で。小峯氏の人生そのものを否定しようと(笑い)。どうして彼があんな人間になっちゃったのかを、のどかに追求します」と宅は発言している。

引用――「SPA!の何が面白いって、戦うおたく評論家宅八郎……私の回りでも愛読者急増中。SPA!編集部は宅八郎の原稿料を3倍にすべきだ。……宅八郎は偉い!」。

この最終回はかなりの波紋を呼んだ。宅の自宅やSPA!編集部に相当数の電話があり、「おた天」が突然姿を消すとその数はさらに増えた。

業界内、そして一般読者からの問い合わせや抗議、激励などにSPA!編集部の電話は朝8時半から鳴り響いた、という。

この、1分間CMはえんえん、宅八郎が怪獣人形を前にひとりごとをつぶやく、という

91・5・7　91年秋公開の映画『C・ジャック』出演のためロケ撮影に行く

91・5・8　『週刊テーミス』5月8・15日号で森高千里についてコメント

91・5・12　『元気が出るテレビ』に初登場

91・5・15　『ダカーポ』(NO・229)で怒りのコラム執筆

91・5・16　『週刊文春』連載マンガ「いわゆるひとつのチョーさん主義」(高橋春男)に宅八郎登場

91・5・23　『アサヒ芸能』「異色評論家特集」に登場

91・5・24　名古屋CBCテレビ『BAD　TUNING』に出演

91・5・26　この本の執筆をサボって、ビデオ『ピンピンピン』の撮影見学に行く

91・5・26　『元気が出るテレビ』第2回放送

91・6・5　『ダカーポ』連載漫画「パラノ天国」(小槻さとし)に宅が登場

91・6月　『噂の真相』6月号にインタビュー掲載

スゴイ内容。

『元気――』初登場の、この放送も大反響を呼んだ。日本テレビあてに届いた手紙は1週間で1000通に及んだ。準レギュラーで、しばらく出演することが決定された。

この本「イカす!おたく天国」執筆中に抜け出して、桜樹ルイと藤本聖名子のハダカを見に行った。このことが翌週発売された『FRIDAY』で報じられ、編集者にバレて怒られる、ごめんなさい、6時間待ったYさん、鈴木さん、許して♡

91・6月

「ガロ」6月号で松沢呉一が、宅VSプレイボーイ問題について触れた

『クロスビート』6月号で亀和田武が、宅八郎情報を記述していた

小峯氏が楽屋で宅氏を脅したことよりも、週プレおよび小峯氏が宅氏に対して無視を決め込んでいること気に食わん。
嵐が過ぎるのを待っているんだろうが、そうすることで、読者の信用を確実に失うことになろう。少なくとも私は、それなりに好きであった週プレに失望したひとりだ。それと、業界じゃ、宅ガンバレの声も高いのに、関わろうとはしない人が多いことも気に食わん。
……（中略）老母心ながら小峯氏に言っておくが、宅八郎は、そう簡単には後に引かない男だ。SPA!を下ろされるようなことがあっても他でやる。どこも書かせてくれなければ、ミニコミで「週刊コミネ」くらい出す。オレは買う。

「いま、ロビーを通りかかったら、宅八郎がいたのよ」
ミキちゃんが席に戻ると、脅えた表情で我々にこう告げた。昨年の7月以来、久々に訪れた後楽園ホールのジャパン女子プロレスの会場で出来事である……。
後半の試合の始まる直前に戻ってきたミキちゃんが、恐怖に歪んだ表情で、冒頭の言葉――「宅八郎がいたのよ」を発したのだ。
……そのミキちゃんは、テレビで何度か見

91・6・13

「週刊文春」清野徹の「ドッキリTV語録」に宅が記述された

91・6・17

『プレ★ステージ』「フェイク特集」に出演した

たことのある宅八郎が嫌いである。……彼女は宅八郎を異常なまでに嫌悪している。その宅八郎をロビーで目撃したのだから、これは当然パニックに陥ることになる。

……試合が終わって会場の外でいつもの観戦仲間を待っていると、再びミキちゃんが「あっ、宅八郎が、こっちに来る。どうして……どうして?」と脅えた声になっている。

彼女の視線を辿ると——なんと……日本文化シーンのカルトヒーロー、あの過激な装丁家にして、いまは亡き『音楽全書』編集長の府川充男が、我々の方に近づいてくるではないか。やはり思想的というか存在そのものがアブナイ人間というのは顔まで似てくるのだろうか? 顔の形もそうだが、あの髪のかんじなんか瓜ふたつである……。

※現在、最大の国民的ヒーローは誰かと百人に聞けば、恐らく九十九人が貴花田を推すことでありましょう。残りの一人はたいていヒネクレ者でありまして、まあ宅八郎か勝新太郎を推すでしょうが……。

共演者は、秋元康、戸川京子、みうらじゅん、司会は、千田正穂、かとうれいこ、TARAKOだった。

91・6・12　集英社『少年ジャンプ』手塚賞・赤塚賞受賞式パーティーに出席

91・6・30　『元気が出るテレビ』でジェットコースターに挑戦

91・6・30　美術専門学校Bゼミで講演

91・7・1　『投稿写真』で新連載開始

91・7月　『シティロード』7月号で、松沢呉一が宅について記述した

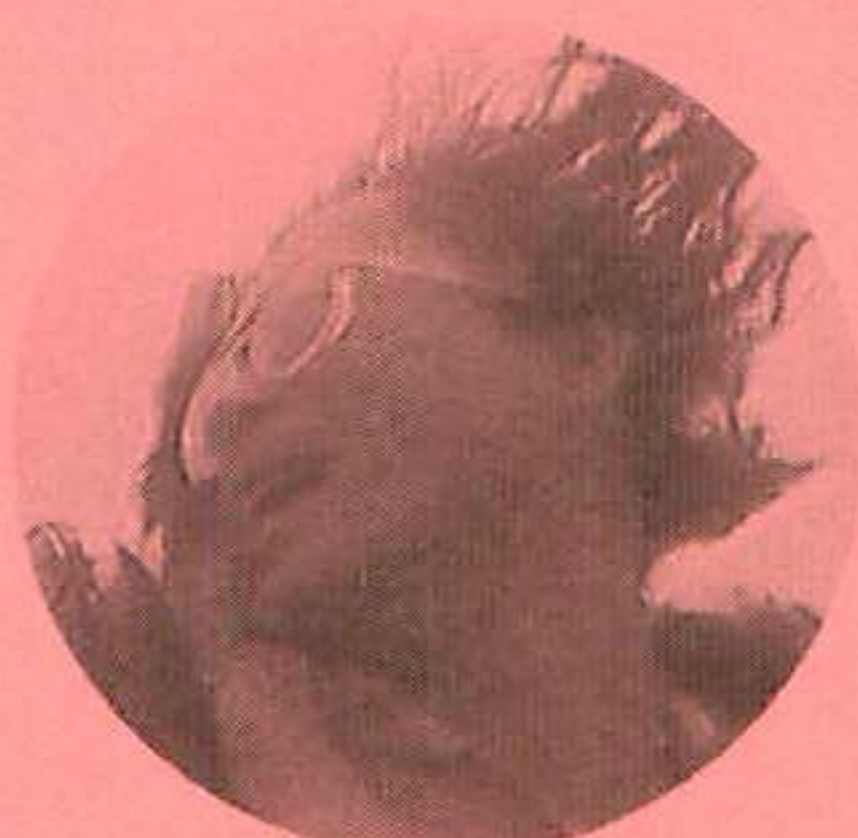
91・7・3　『日経イメージ気象』（No.17）にコメント

91・7・4　中京テレビ『爆満・今日的学生事情』におたくナイトのDJとして出演

91・7・4　『自由時間』（第16号）で高橋春男が宅八郎について記述

7月上旬　『アサヒ芸能』にインタビュー掲載

『CREA』インタビュー突然中止事件が発生した

ジェットコースター連続写真

松沢の引用――「毎週楽しみにしていたSPA!の連載が突然中止になった宅八郎と電話で話す。中止になった経緯に関しては今ひとつ歯切れが悪い。タックンはあの連載を含めた単行本の制作中で、これはSPA!の発行先である扶桑社から出るということもあって、まだ語れないことがあるようだ」

高橋春男は自分の漫画をネタにするために、常にその動向が気になる人、個性が強くて、「どうにも信用ならないぞ」と思わせる面構えと行動を持つ人として、筆頭に「宅八郎」をあげ、ビートたけし、舛添要一、田中康夫、栗本慎一郎、小田晋らをあげている。宅に関しては「いやあ、若手では貴重な存在だよ」とコメント。

『CLEA』から、この本に関するインタビューの申込みがあった。ボクはプロモーショ

91・7・15

越智静香と東京ディズニーランドでデート

91・7・15

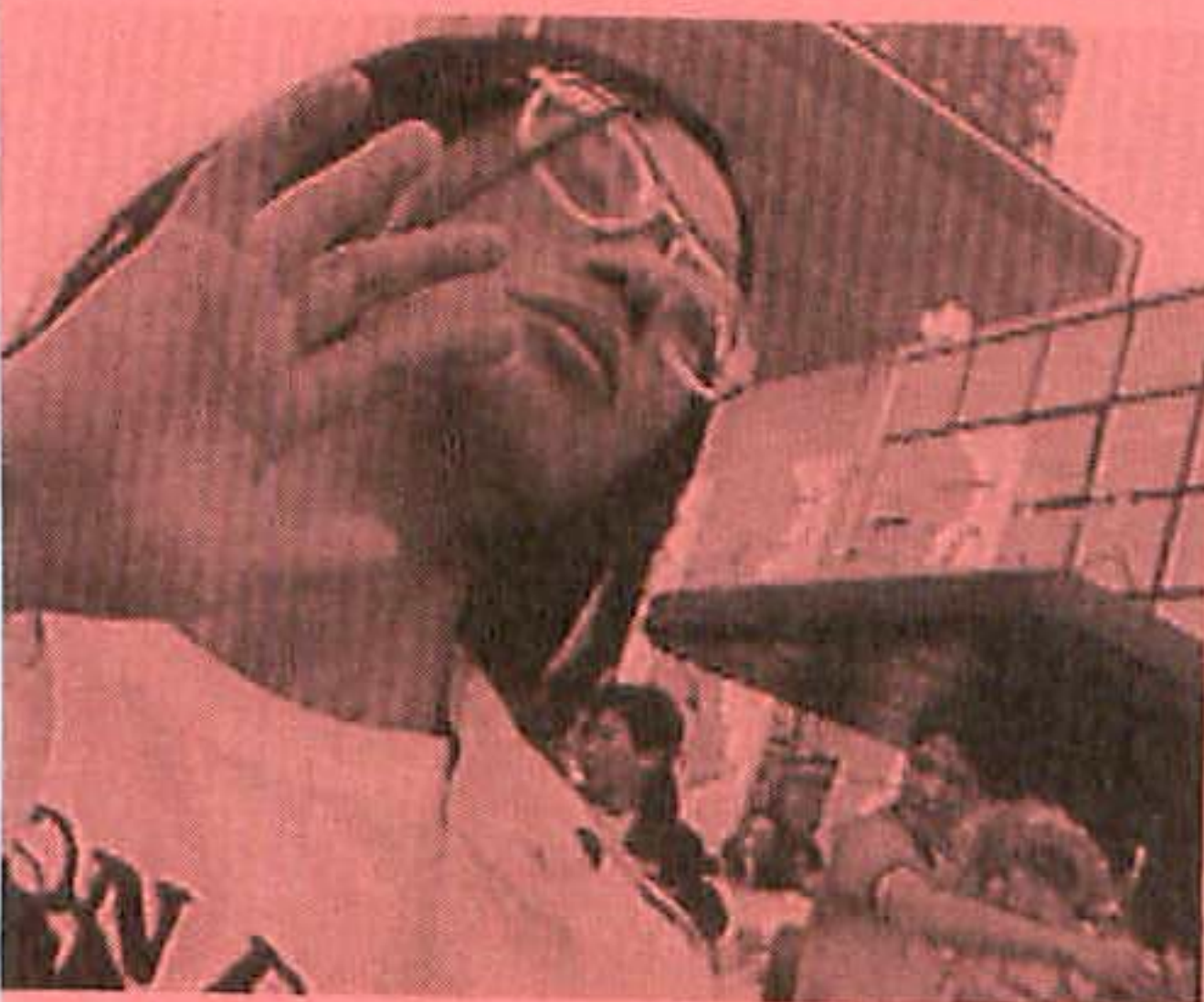
『POPEYE』でフリッパーズギターが宅について記述

ンのために、無理にスケジュールを調整。
　ところが、突然インタビュアーが「宅八郎だけはインタビューしたくない」とのコトで、中止になる。編集者のいいなりではないインタビュアー・黒沢克史は立派だと思う。ボクとしては本当に困ってしまったが。

　静香ちゃんは、デビュー後にも何回もディズニーランドに来ている。というディズニーランドおたく、だった。始めて来たボクをいろいろ案内してくれた。いっしょに踊っちゃったし、ね。本当に楽しい一日だった。さて、この日の出来事はスキャンダルかどうか？

小沢　このままいくと宅八郎『SPA!』の連載の二の舞になっちゃうよね。
小山田　ああアレね。終わっちゃたよね、何の予告もナシにね。やっぱ集英社コワイんだね。
小沢　コワイなあ。『メンズノンノ』の取材とかふざけまくって編集の人ムッとかさせちゃったけど、止めときゃよかったかなぁ。
小山田　ほらあんまり書くとさ、集英社の雑誌、載せてもらえなくなっちゃうし、ひょっとしたら、ビバデスだって打ち切られちゃうかも……。

91・7・20

『よいこの歌謡曲』No.47で、突然、宅八郎情報が流された

最近、おたく評論家と称する宅八郎という人をTVで見たんですが、あれはどうも、ぼくの高校時代の同級生に似てると思う（とくに大阪市にお住まいのカナザワさんへ。あれは、高校三年のとき、アニメの集会に通ってたヤマナカにウリふたつではないか?）。と思って高校の卒業アルバムというものを開けてみると（中略）卒業アルバムに写ってるかつての18才たちは、男女問わず、ほとんどみんな、今の基準でいうところのオタッキーなカッコをしてたのでした。（紫龍☆淳）

91・7・20

『鶴ちゃんのプッツン5』生放送に登場

15歳の美少女・水着コンテストの審査員。生放送でスタジオには若い観客が入っていた。あまりにも「宅コール」がすさまじかったために、生放送の迫力を実感した。

宍戸留美が「宅さんはいい人ですよ」と発言したために、片岡鶴太郎は〝宅さんとつきあってるんじゃないか〟とひやかす。

91・7・21

フジテレビ『夢列島91』に登場

「夜明けの決闘」というサイテー対決コーナーの審査員。ほかの審査員は桂三枝、かとうれいこ、おさむ、サンコンだった。徹夜で疲れていたし、眠いしでキツかった。

占い対決、では、宅の結婚について占われた。「ヒャー!」という占い師の叫び声に、宅

91・7・28　『元気が出るテレビ』「第3回アイドルになりたい集会」放送

91・8月　『日経ウーマン』8月号にインタビュー掲載
少女雑誌『エルティーン』にインタビュー掲載

は腰を抜かしてしまい、会場の笑いをかった。だってビックリするよ、あの声じゃ。

　レポーター司会は高田純次だった。そういえば彼のインタビューをボクは記憶していたので、彼の前歴についても話す。

　「マイナス要素をプラスに転換するゲリラ発想術・マイナー思考こそパワーの源」という企画だった。

　インタビュー内容は、この本に関することがメイン。そして同ページの別コラムで、「あなたは宅八郎さんをどう思いますか?」という街頭取材が掲載された。85%は〝嫌い〟という統計結果。その内容を一部紹介する。

　「生理的にダメ」(マミ・高3)「好きな所がひとつもないと思う。ルックスだめ、オタクだめ……」(カズミ・高1)「富士山の頂上ぐらいダメ」(ユミコ・OL)「宅さんを選ぶかレズを選ぶか、と言ったら、エイズ持ちの女とレズる方を選ぶくらいです」(カオリ・大2)「生理が止まっちゃうぐらいダメ」(マサヨ・OL)

　また男子は「自分のなかの〝まずいかも知れない〟という部分のかたまりのような人だ

91・8・1
『ヤングジャンプ』(No.32)に、宮崎勤に関するコメントを執筆

91・8・1
『ブルータス』「映画特集」で、インタビュー掲載

91・8・7
『ダカーポ』(No.234)「恋愛特集」で、初恋に関するエッセイを執筆

91・8・16
『ザ・テレビジョン』(No.32)巻頭に、越智静香とともに登場

91・8月
『パチパチ』+『パチパチ読本』にフリッパーズギターに関する論評を発表

91・8・19
宅八郎、29歳の誕生日をむかえる

91・8・21
宮崎勤、東京拘置所で29歳をむかえる

から」(トミユキ・大3)「キライだけど少し解る」(マサキ・大1)という意見だった。

集英社の仕事は、どんな忙しくとも引き受ける。まして、テーマがテーマだった。限られた字数のなかで大変だった。

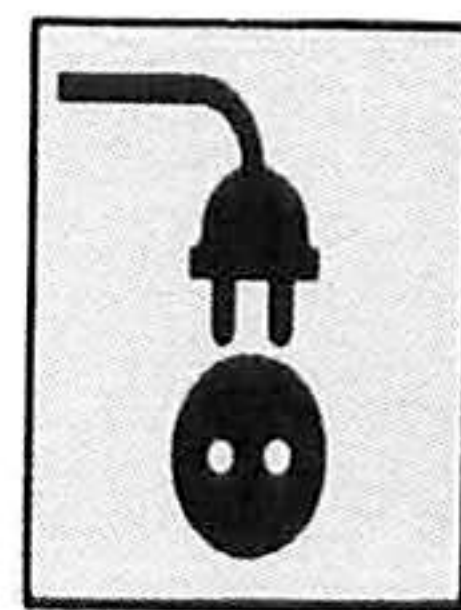
映画特集の中の「まったく自分流映画鑑賞法」コーナーで、オタク的怪獣映画評論家として登場。宅は「怪獣っていうか、巨大なものに対する信仰があるんです……」と応えている。写真は『キングコング対ゴジラ』に宅がコラージュされた。

おたく恋愛エッセイ「長く、切ない、初恋の話を聞いて下さい」という原稿だった。小学校1年から、86年8月の惨事までを告白。

チャンチャン! 7月25日、東京ディズニーランドでの越智静香とのデートは、この巻頭特集の取材だったのでした。

この「血のつながらない兄弟」は2日ちがいで、20代最後の夏をむかえた……。

私は今、生きている……。
私は今、生きている……。
私は今、生きている……！
私は今、生きている……!!

あとがき

こうして、偉大なる処女作（童貞作）を発表できたのは感無量である。
これも、ボクの天才のなせる技であろう。この才能は神様から、もらった！
しかし、この本を作るのには半年以上の時間がかかっている。なまけていたわけではない。ボクは、まったく休みなしに近い状態でこの本にかかりっきりだった。
「本を書いていて忙しいんです」と言い続けていたボクは、人からイヤミさえ言われてしまった。「いったい何冊書いてるんです？」「今、何冊めですか？」だって。
一冊です。
このたった一冊のために、いったいどれだけの犠牲をはらったことだろう。ボク自身の精神と肉体を完全に痛めつけた。もはやボロボロである。最後には入院だ。
しかし、ついに出版されたこの本を読んで、その苦労もわかっていただけるハズだ。こんな前代未聞の大傑作を出版できたのだから。
この本はいったいどんな本と、言ったらいいのだろう。
怪獣やアニメ、マンガ、アイドルといった、おたく評論コラム。そしてボクが愛する人々との対談。さらに憎っくきプレイボーイ総攻撃。そのうえ最後にはボク自身の年譜。
「現代の奇書」とでも呼んでほしい（もちろんどう悪く批評されても、どう感想を持たれてもかまわないから、安心してね♡　約束よ♡）。２８０ページの大作だ。
調査に要した時間は気が遠くなるほどだった。加筆訂正をくり返さなかったページはま

ったくない。しかしほぼ全ページ、口うるさくデザインを指示して異(こと)なったレイアウトにした。不可能なまでの資料を調査発掘し、ボクにとって必要な写真、図版をそろえた。もはや、この本にかかわりあったスタッフ全員は「わが妄想(もうそう)」につきあってくれた犠牲者である。しかし、ボクはもう誰にも感謝はしない。

栄光ある天才の前に犠牲は必要だからである。おかげで、この偉大なる大傑作ができた。本書を超える出版物は以後100年は現れないであろう。

最後まで読んでくれた読者のみなさん、ボクの才能を称賛するがいい。ありがとー♡とボクは草原の中で手をふってあげよう！

……………。

この本はボクにとって、90％は合格だ。しかし10％は、まだガマンできないのだから、自分自身の性格が恐ろしい。だけど、もう限界だ。2度とこんな本は書けないだろう。しかし、こうして最高傑作を書き上げた現在、ボクは自分に酔(よ)いしれている。

いま、ボクは目覚めた。最後の最後に倒れ、ゆるやかな眠りについていたボクは、悪夢によって目覚めた。

それは、いつの間にかボクの自宅がなくなっている夢だ。怖かった。

「ボクの、お宅を返してください」。

まだ、醒(さ)めない夢のなかで、このあとがきをボクは書いている。

1991年夏　宅八郎

しりあがり寿
小林よしのり
坂本あさみ
二階堂茂
ジャパンホームビデオ
日本テレビ
中京テレビ
テレビ朝日
ＴＢＳ
フジテレビ
日本スポーツ出版社

●撮影
扶桑社
伊島薫
今村敏彦
植野淳
田島昭彦
松原卓二
加藤直之
中島秋則
寺川真嗣
宿久俊也

曽根陽一
山口大輔
長尾進
東京フォト工芸

●CGイラスト
加藤みゆき

●写真・イラスト提供
パック・イン・ビデオ
ポリドール
ジャパンホームビデオ
東宝ビデオ
東和ビデオ
ＲＣＡコロンビアビデオ
ワーナー・ホーム・ビデオ
九鬼
森事務所
JVD
JICC出版「宝島」
マガジンハウス「ファッション・
イヤーブック90年春夏編」
マガジンハウス「ブルータス」
マガジンハウス「ダカーポ」

秋田書店「プレイコミック」
講談社「ヤングマガジン」
集英社「週刊少年ジャンプ」
小学館「ビッグコミック・スピリッツ」
小学館「ビッグコミック・スペリオール」
小学館「ヤングサンデー」
飛鳥新社「ポップティーン」
文藝春秋「週刊文春」
日本スポーツ出版社『週刊ゴング』
矢野格朗
矢野咲子
川喜多記念映画文化財団
菊池京子（元早稲田大S・E・C）
フリッパーズギター
竹内博
中京テレビ
日本テレビ
フジテレビ

*このリストには不備があるかもしれません。ここに表記した方以外に版権を所持している方、または御存知の方は太田出版まで、御連絡下さい。

[協力者一覧]

●**協力**（五十音順）

朝日ソノラマ
伊藤嘉
稲増龍夫
オウム真理教
大泉和子
加藤秀棋
北野武
月刊アニメージュ編集部
月刊ＯＵＴ編集部
五味洋子
島田修
鈴木祥之
スタジオハード
富岡雄一（チャンネルゼロ）
土屋新太郎
大河内浩子
伴野孝司（しあにむ）
中森明夫
中山天子
並木孝（アニドウ）
能勢伸之
野々村仁
白元
初村良明
パッションプレイ
広瀬桂子
双葉社
マガジンハウス
宮崎勤（ウソ）
宮崎満教
矢追孝男（日本テレビ）
渡瀬悦章（花子さん）

●**著作権所有者（順不同）**Ⓒ

扶桑社
東映
石森プロ
円谷プロ
東宝
円谷映像
松竹
セガ・エンタープライゼス
大映
虫プロ
タツノコプロ
東京ムービー新社
講談社
小学館
集英社
双葉社
秋田書店
中央公論社
リム出版
藤子不二雄Ⓐ
モンキーパンチ
平井和正
桑田二郎
能條純一
ダイナミックプロ
荒木飛呂彦
横山光輝
ジョージ秋山
楳図かずお
高橋春男
小槻さとし
井田辰彦
藤川桂介
すずき真弓

［スタッフ］
●編集●
宅八郎（おたく評論家）
●編集協力●
鈴木富雄
青木クリス
平野裕二（ARC）
長谷川晶一
●装丁●
鈴木富雄（おた天プロジェクト）
●カバー人形製作●
林弘己（おた天プロジェクト）
●カバー撮影●
増田岳二（扶桑社）
●イラスト●
荒木飛呂彦
上海公司
●ロゴデザイン●
柏原宗績（ウィシュボーン）

イカす！おたく天国

1991年9月29日第1刷印刷
1991年10月5日第1刷発行
1992年3月13日第4刷発行

著者――宅 八郎
発行者――高瀬幸途
発行所――株式会社太田出版

〒160 東京都新宿区新宿2-15-24
TEL：03-3359-6262／振替：東京2-162166

印刷・製本――株式会社光邦
定価――カバーに表記あり

ISBN4-87233-037-4 C0095

宅八郎

イカす！おたく天国